

目次

1.	巻頭言	1
2.	一般社団法人日本防護服協議会 2023年度事業報告	2
3.	一般社団法人日本防護服協議会 2023年度定時総会 議事録	17
4.	一般社団法人日本防護服協議会 理事会	
4.1	第1回 理事会 議事録	20
4.2	第2回 理事会 議事録	24
4.3	第3回 理事会 議事録	27
4.4	第1回 臨時理事会 議事録	30
4.5	第4回 理事会 議事録	32
4.6	第5回 理事会 議事録	36
4.7	第6回 理事会 議事録	41
5.	一般社団法人日本防護服協議会 第98回研究会 報告書	45
6.	一般社団法人日本防護服協議会 2023年度研修会 報告書	46
7.	一般社団法人日本防護服協議会 第21回学術総会 報告書	50
8.	防護服に関連するISO規格及びJIS規格一覧	53
8.1	防護服に関連するISO規格及び対応するJIS規格一覧、並びにJIS化促進計画	55
8.2	防護服に関連するJIS規格及び対応するISO規格一覧	63
9.	ISO/TC 94(個人安全-個人用保護具)/SC 13(防護服) 国内審議分科委員会 兼 ISO/TC 94/SC 13 国内審議分科委員会作業部会 主査幹事会議 活動報告	67
9.1	第1回 ISO/TC 94/SC 13 国内審議分科委員会作業部会 主査・幹事会議 議事録	69
9.2	第2回 ISO/TC 94/SC 13 国内審議分科委員会作業部会 主査・幹事会議 議事録	75
10.	2023年度 ISO/TC 94/SC 13 国際規格回答原案一覧表	83
11.	ISO/TC 94(個人安全-個人用保護具)/SC 13(防護服)/WG(作業部会) 活動報告	87
11.1	WG 1 防護服の一般特性	89
	調査表 ISO/TC 94/SC 13/WG 1	89
	ISO活動報告② DIS: ISO/DIS 24231	92
	ISO活動報告② DIS: ISO/DIS 24232	93
	ISO活動報告② CIB: ISO/TC94/SC13 N2092:Draft Res 732/2023 - ISO 24231&ISO 24232 9-month exte extension	94
	ISO活動報告② CIB: ISO/TC94/SC13 N2090:Draft Res 731/2023 - ISO/DIS 24232 new projet leader	95
	ISO活動報告② WG: ISO TR 19382	96
	ISO活動報告② SR: ISO 20471:2013 (vers 2)	97
	ISO活動報告② FDIS: ISO/FDIS 24231	98
	ISO活動報告① ISO 11610:2023	99
	2023年度第1回 ISO/TC 94/SC 13/WG 1 作業部会 議事録	100
11.2	WG 2 熱及び火炎に対する防護服	103
	調査表 ISO/TC 94/SC 13/WG 2	105
	ISO活動報告② DIS: ISO/DIS 13506-2 (Ed 2)	108
	ISO活動報告② DIS: ISO/DIS 14460 (Ed 2)	109
	ISO活動報告② DIS: ISO/DIS 13506-1 (Ed 2)	110
	ISO活動報告② CIB: ISO/TC94/SC13 N2104:Draft Res 734/2023 - 9-month extension for ISO 13506-1 + -2	111
	ISO活動報告② WDRL: ISO 12127-2:2007	112
	ISO活動報告② その他: ISO/AWI 9185	113
	ISO活動報告② DIS: ISO/DIS 11612 (Ed 4)	114
	ISO活動報告② DIS: ISO/DIS 14116 (Ed 3)	115
	ISO活動報告② CD: ISO/CD 9185	116
11.3	WG 3 化学物質に対する防護服	117
	調査表 ISO/TC 94/SC 13/WG 3	119
	ISO活動報告② CD: ISO/CD 17491-5	122
	ISO活動報告② CIB: ISO/TC94/SC13 N2093:Draft Res 733/2023 - decision SR ISO 27065:2017	123

ISO活動報告②	DIS: ISO/DIS 17491-4 (Ed 2).....	124
ISO活動報告②	SR: ISO 13982-1:2004 (vers 3).....	125
ISO活動報告②	SR: ISO 13982-2:2004 (vers 3).....	126
ISO活動報告②	SR: ISO 17491-1:2012 (vers 2).....	127
ISO活動報告②	SR: ISO 17491-2:2012 (vers 2).....	128
ISO活動報告②	DIS: ISO/DIS 17491-5 (Ed 2)	129
ISO活動報告②	CIB: Appoint project leader for ISO/AWI 13994.....	130
ISO活動報告②	CIB: DRAFT Res 744/2024 Approval 9-month extension ISO/AWI 13994.....	131
11.4	WG 5 機械的作用に対する防護服	133
	調査表 ISO/TC 94/SC 13/WG 5.....	135
	ISO活動報告② SR: ISO 11393-1:2018 (Ed 2)	138
	ISO活動報告② SR: ISO 11393-3:2018 (Ed 2).....	139
	ISO活動報告② CIB: ISO/TC94/SC13 N2179.....	140
	ISO活動報告② SR: ISO 11393-2:2018 (Ed 2).....	141
	ISO活動報告② SR: ISO 11393-4:2018 (Ed 2).....	142
	ISO活動報告② SR: ISO 11393-5:2018 (Ed 2).....	143
	ISO活動報告② SR: ISO 11393-6:2018 (Ed 2).....	144
11.5	WG 6 生物学的危険物質に対する防護服	145
	調査表 ISO/TC 94/SC 13/WG 6.....	147
	ISO活動報告② CIB: Draft Res 730/2023 - ISO 22615 9-month extension.....	149
	ISO活動報告② CD: ISO/CD 22615.....	150
	ISO活動報告② NP: ISO/NP 20384.....	151
	ISO活動報告② SR: ISO 22610:2018 (Ed 2).....	152
	2023年度第1回 ISO/TC 94/SC 13/WG 6 作業部会 議事録.....	153
11.6	WG 8 防護手袋	155
	調査表 ISO/TC 94/SC 13/WG 8.....	157
	ISO活動報告② FDIS: ISO/FDIS 13997 (Ed 2).....	161
	ISO活動報告② CIB: ISO/TC94/SC13 N2108 Draft Res 735/2023 - ISO 374-5 proceed to direct publication.....	163
	ISO活動報告② DIS: ISO/DIS 374-6.....	164
	ISO活動報告② CIB: Appointment WG 8 Convenor.....	165
	ISO活動報告① ISO 13997:2023.....	166
12.	国際会議報告書	169
	ISO/TC 94/SC 13 上田会議報告書.....	171
13	JIS原案作成への協力	183
13.1	JIS T 8125-5及びJIS T 8125-6改正原案作成委員会	
	第2回 本委員会 議事録.....	185
	第3回 本委員会 議事録.....	187
	第4回 分科会 議事録.....	189
	第5回 分科会 議事録.....	191
	第6回 分科会 議事録.....	193
	第7回 分科会 議事録.....	195
	第8回 分科会 議事録.....	197
	第9回 分科会 議事録.....	199
13.2	JIS T 8052改正原案作成委員会	
	第1回 本委員会 議事録.....	201
	第2回 本委員会 議事録.....	203
	第1回 分科会 議事録.....	205
	第2回 分科会 議事録.....	208
	第3回 分科会 議事録.....	210
	第4回 分科会 議事録.....	213
	第5回 分科会 議事録.....	216
13.3	JIS T 8119制定原案作成委員会	
	第2回 本委員会 議事録.....	217
	第3回 本委員会 議事録.....	219

	第4回 分科会 議事録	221
	第5回 分科会 議事録	223
	第6回 分科会 議事録	225
	第7回 分科会 議事録	227
	第8回 分科会 議事録	229
	第9回 分科会 議事録	231
	第10回 分科会 議事録	233
	JIS T 8119 分科会 第1～10回検討事項対比表	235
14.	保護具展示への協力	245
14.1	第72回セメント安全衛生大会展示出展報告書	247
14.2	2023危機管理展出展報告書	248
14.3	産業保健フォーラム IN TOKYO 2023 展示出展報告書	249
14.4	公益社団法人神奈川県産業資源循環協会 第13回安全衛生大会 展示出展報告書	250
15.	一般社団法人日本防護服協議会 2024年度 事業計画	253
16.	一般社団法人日本防護服協議会 規程類一覧	259

1. 巻頭言

労働安全衛生法の新たな化学物質規制により、令和6年4月より「化学物質管理者」、「保護具着用管理責任者」選任が義務化されました。「化学物質管理責任者」は、SDS等をもとに化学物質のリスクアセスメントの結果を踏まえ、ばく露防止処置の実施、各種記録の作成、労働者への教育等が職務となります。また、ばく露防止処置を行った後、労働者に保護具を使用させる必要が生じた場合は「保護具着用管理責任者」が有効な保護具の選択、保守管理、適正な使用状況の確認等、保護具に関する業務を担うこととなります。

厚生労働省は、令和5年度事業として「皮膚障害防止用保護具の選定マニュアル」を作成、公開し、化学防護手袋(保護手袋)、化学防護服(保護衣)、保護めがねに関する情報提供を行いました。その大半が化学防護手袋に関するものでした。令和6年度は、化学防護服、保護めがねに重点を置いたマニュアルが作成される予定です。防護服の重要性が再認識される良い機会なると思います。

一般社団法人日本防護服協議会は1987年設立(日本防護服研究会)以来、個人用防護服に関する国際規格(ISO)の審議及び日本産業規格(JIS)の整備を行ってまいりました。

当協議会では国際標準機構(ISO)の専門委員会(ISO/TC94/SC13)に設置された以下のWG(ワーキンググループ)に参加しISOの審議、回答を行っています。

WG 1: 防護服の一般特性

WG 2: 熱及び火炎に対する防護服

WG 3: 化学物質に対する防護服

WG 5: 機械的作用に対する防護服

WG 6: 生物学的危険物質に対する防護服

WG 8: 防護手袋

2023年度 ISO 審議件数: 41件

各WGにおいて審議、成立したISOは原則としてJIS(日本産業規格)に反映され原案の作成、審議が行われます。

2023年度 JIS 審議件数: 4件

今後も、防護服の普及、啓発、研究・開発に努めてまいります。引き続きご指導、御鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。

一般社団法人日本防護服協議会 理事長
朝比奈 智

2.一般社団法人日本防護服協議会 2023 年度事業報告

(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

本年度も前年度と同様に、防護服に関する国際規格(ISO)原案に係る回答、防護服に関する規格素案の作成及び各種防護服の普及啓発活動等に重点を置き活動を行った。

JISについては、WG 5(機械的作用に対する防護服)1本、WG 8(防護手袋)1本のJIS改正原案作成及びWG 8(防護手袋)1本のJIS制定原案作成に対する協力を行った。新規事業として、JIS改正説明会の開催について検討したが、見込聴講者数により収支が見込めなかったため、実施しなかった。

ISO 23762国際提案については、CEN(欧州標準化機構)とのハーモナイズを進め国際規格成立に向けての作業を行った。

ISO国際会議については、2023年9月に長野県上田市の信州大学上田キャンパスに於いてISO/TC 94/SC 13総会及びCAG会議、作業部会会議、プロジェクトグループ会議が開催され、現地にて又はリモートで参加した。この会議をはじめとして、アドホックなWG/PG等の国際会議へ積極的に参加した。年度内に投票すべきISO案件は41件あり、そのすべてに必要な投票を行った。

定時総会、研究会、研修会、臨時総会、及び学術総会の開催、関連する学会等への協力等の各種活動を行い、その成果を年会報等に掲載し記録するとともに、外部への発信を行った。なお、本年度刊行した図書は、2022年度年会報告書であった。また、防護服に関する各省庁からの各種問い合わせに適宜対応した。

主な活動は、次のとおりである。

1 第 34 回 一般社団法人日本防護服協議会 2023 年度定時総会

日 時: 2023 年 6 月 27 日 13:30～14:15

場 所: 台東区民会館

出席者: 61 名(うち、委任状による出席 10 名、事前議決権行使による出席 23 名)

議 題: 決議事項

- ◆ 第1号議案 2022 年度決算の承認に関する件
- ◆ 第2号議案 新任役員(理事)の選任に関する件

報告事項

- ◆ 2022 年度事業報告
- ◆ 2023 年度事業計画及び予算
- ◆ 入退会の報告
- ◆ ISO/TC 94/SC 13/WG 主査及び幹事の紹介
- ◆ 2022 年度及び 2023 年度 ISO 投票報告

幹 事: 鈴木 一裕 氏

2 理事会

第 1 回

日 時: 2023年4月18日(火) 13:00~14:40 *SC 13 国内審議分科委員会当日

場 所: アゼアス(株)/Web(Microsoft Teams)

出席者: 14名(Web含む)

議 題:

(1) 決議事項

- a) 入退会の承認について
- b) 2022年度事業報告(案)について
- c) 2022年度会計報告(案)及び監査報告について
- d) 2023年度事業計画(案)について
- e) 2023年度予算(案)について
- f) 期中における新任理事の選出方法及び候補者について
- g) 2023年度定時総会(開催案内及び議題)について

(2) 審議及び報告事項

- a) 2023年度研究会(講演テーマ及び演者)について
- b) 2023年度見学会について
- c) 防護服関連規格のJIS 制定/改正 公募予定について
- d) 理事長(代表理事)、業務執行理事 職務執行報告
 - ① 入退会の報告
 - ② セイフティダイジェストに関する依頼について
(Q&A 執筆、暑中見舞い広告)
 - ③ 年会報目次について

第2回

日 時: 2023年6月27日(火) 10:30~11:50 *総会当日

場 所: 台東区民会館及び Web(Microsoft Teams)

出席者: 12名(Web含む)

議 題:

(1) 審議及び報告事項

- a) 2023年度会計報告(案)
- b) 2023年度定時総会、研究会、懇親会について
- c) ISO/TC 94/SC 13 上田会議について
- d) 2023年度見学会について
- e) 理事長(代表理事)、業務執行理事 職務執行報告
 - ① 入退会の報告
 - ② 一般社団法人日本セメント協会 第72回セメント安全衛生大会における
展示報告
 - ③ セイフティダイジェスト暑中見舞い掲載依頼について
 - ④ セイフティダイジェスト「管理者のための保護具類の基礎知識」

執筆依頼について

第3回

日 時: 2023年8月29日(火) 14:00~15:56

場 所: アゼアス株/Web(Microsoft Teams)

出席者: 13名(Web含む)

議 題:

- (1) 決議事項
 - a) 入退会の承認について
 - b) 「テクニカルアドバイザー」の肩書の定義について
- (2) 審議及び報告事項
 - a) 2023年度会計報告(案)
 - b) ISO/TC 94/SC 13 上田会議について
 - c) 見学会について
 - d) 第21回学術総会の開催場所、テーマ、演者について
 - e) 理事長(代表理事)、業務執行理事 職務執行報告
 - ① 令和6年度標準化テーマ調査について
 - ② RISCNTOKYO 危機管理産業展 2023 展示協力依頼について

臨時理事会

日 時: 2023年11月14日(火) 15:00~16:40

場 所: アゼアス株/Web(Microsoft Teams)

出席者: 12名(Web含む)

議 題:

- (1) 審議及び報告事項
 - a) 代表理事による辞任願いの件

第4回

日 時: 2023年11月28日(火) 13:00~14:45 *SC 13 国内審議分科委員会当日

場 所: アゼアス株/Web(Microsoft Teams)

出席者: 14名(Web含む)

議 題:

- (1) 決議事項
 - a) 入退会の承認について
 - b) 「テクニカルアドバイザー」の肩書の定義、運用規定改正について
 - c) 様式改正について(様式1-入会申込書、様式2-退会届、様式4-登録申込書)
 - d) 主査・幹事の選任について
 - e) 学術総会について

- f) 通訳費(ISO 20471)の補助について
- (2) 審議及び報告事項
 - a) 2023 年度会計報告(案)について
 - b) ISO/TC 94/SC 13 上田会議報告
 - c) 研修会報告
 - d) 事業計画(案)について
 - e) 中央労働災害防止協会 月刊誌「安全と健康」原稿 執筆依頼について
 - f) 理事長(代表理事)、業務執行理事 職務執行報告
 - ① 入退会報告
 - ② ISO/TC 94/SC 13 活動報告
 - ③ 展示会 参加報告(RISCON TOKYO 危機管理産業展 2023、産業保健フォーラム IN TOKYO2023、公益社団法人神奈川県産業資源循環協会 第 13 回安全衛生大会)
 - ④ 公益社団法人日本保安用品協会 「保護具ポケットブック」の改訂について
 - ⑤ 令和 5 年度マスク等国内生産・輸入実態把握調査について

第 5 回

日 時: 2024 年 1 月 23 日(火) 15:00~17:00

場 所: アゼアス(株)/Web(Microsoft Teams)

出席者: 11 名(Web 含む)

議 題:

- (1) 決議事項
 - a) 入退会について
 - b) 主査の選任について
 - c) 主査、幹事の立候補について(2024 年 4 月~)
 - d) 運用規定改訂(案)について
 - e) 様式改正について(様式 1-入会申込書、様式 2-退会届)
 - f) 第 21 回学術総会に関する最終確認(講師への謝金、交通費、役割分担等)
 - g) 通訳費の補助について
- (2) 審議及び報告事項
 - a) 理事・監事ミーティング報告について
 - b) 2023 年度会計報告(案)について
 - c) 2023 年度事業報告(案)について
 - d) 2024 年度事業計画(案) について
 - e) 2024 年度予算(案) について
 - f) 2024 年度研究会(講演テーマ、講師等)について
 - g) 2024 年度見学会の実施可否及び見学先候補について

h) 理事長(代表理事)、業務執行理事 職務執行報告

第6回

日 時: 2024年3月26日(火)15:00~17:00

場 所: アゼアス(株)/Web(Microsoft Teams)

出席者: 12名(Web含む)

議 題:

(1) 決議事項

- a) 2024年度定時総会について
- b) 役付理事会体制について
- c) 役員改選期の役員の選出方法及び候補者について
- d) 2024年度主査・幹事の選任について
- e) 入退会の承認について
- f) 様式改正について(様式5-入会承諾書)

(2) 審議及び報告事項

- a) 第21回 学術総会報告について 2023年度会計報告(案)について
- b) 2023年度事業報告(案)について
- c) 2024年度事業計画(案)について
- d) 2024年度予算(案)について
- e) 2024年度研究会について
- f) 2024年度見学会について
- g) 理事長(代表理事)、業務執行理事 職務執行報告
 - ① 協議会 HP 会員専用ページのパスワード変更について
 - ② 保護具着用管理者テキスト謝金について

3 第98回研究会

日 時: 2023年6月27日(火) 14:30~16:50 *総会当日

場 所: 台東区民会館

演題及び演者:

- 1) 「新たな化学物質管理」(保護具着用管理責任者について)

厚生労働省 労働基準局 安全衛生部

化学物質対策課 環境改善・ばく露対策室長 平川 秀樹 氏

- 2) 「消防における除染について」 株式会社重松製作所 濱田 昌彦 氏

幹 事: 池田 靖 氏、三橋 卓也 氏

4 研修会

日 時: 2023年11月9日(木)~10日(金)

場 所: Spring-8、旭化成株式会社 水島製造所

参加者: 15名

幹 事： 深須 憲哉 氏、山本 剛士 氏

5 第 21 回学術総会

日 時： 2024 年 2 月 27 日(火) 10:00～17:00

場 所： 浅草橋ヒューリックホール&カンファレンス

参加者： 93 名(現地：71 名、WEB22 名)

内 容： 外部の方にも公開する研究発表会

幹 事： 傳田 章 氏、篠原 克明 氏

プログラム：

演 題	演 者
開会挨拶	理事長 朝比奈 智 厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 化学物質対策課 環境改善・ばく露対策 室長 平川 秀樹
第 1 部 防護服に関する国際規格と国内の動向 ISO/TC 94(個人安全-個人用保護具)/SC 13(防護服) 関連	
WG 1 防護服の一般特性	WG 1 幹事 アゼアス株式会社 野原 由樹子
WG 2 熱及び火炎に対する防護服	WG 2 幹事、WG 5 幹事
WG 5 機械的作用に対する防護服	一般財団法人カケンテストセンター 辻 創
WG 3 化学物質に対する防護服	WG 3 幹事、WG 6 幹事
WG 6 生物学的危険物質に対する防護服	アゼアス株式会社 磯田 実
WG 8 防護手袋	WG 8 幹事 アトム株式会社 森下 哲樹
特別講演 1	
経皮ばく露が問題となる化学物質の 特性や皮膚吸収性有害物質について	独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 化学物質情報管理研究センター 有害性評価研究部 上席研究員 豊岡 達士
特別講演 2	
化学防護手袋について	株式会社重松製作所 営業本部 マーケティング部 企画部長 渡邊 雅之
特別講演 3	
LCA の概要とその活用方法について	一般財団法人カケンテストセンター 総務部 サステナブル推進室 室長 藤田 一馬
特別講演 4	
防護服やフェロモントラップを 指向した拡散システムの構築	信州大学繊維学部 化学・材料学科 応用分子化学コース 教授 西井 良典
閉会挨拶	業務執行理事 鈴木 一裕

6 規格説明会

JIS規格は発行されたが、参加者見込みが少なく実施しなかった。

7 ISO/TC 94/SC 13 国内審議分科委員会作業部会主査・幹事会議

第 1 回

日 時: 2023年4月18日(火) 15:00~17:00 ※第一回理事会当日

場 所: アゼアス株/Web(Microsoft Teams)

出席者: 17名(Web含む)

議 題:

- ◆ ISO/TC 94/SC 13 国内審議分科委員 委員長及び委員の紹介
- ◆ 2022年度及び2023年度国際規格原案回答状況報告
- ◆ 2022年度報告 及び 2023年度計画 WG 1
- ◆ 2022年度報告 及び 2023年度計画 WG 2
- ◆ 2022年度報告 及び 2023年度計画 WG 3
- ◆ 2022年度報告 及び 2023年度計画 WG 5
- ◆ 2022年度報告 及び 2023年度計画 WG 6
- ◆ 2022年度報告 及び 2023年度計画 WG 8
- ◆ SC 13 国際会議(上田会議)について

第2回

日 時: 2023年11月28日(火) 15:00~17:00 ※第4回理事会当日

場 所: アゼアス株/Web(Microsoft Teams)

出席者: 14名(Web含む)

議 題:

- ◆ 2023年度第1回国内審議分科委員会議事録(案)の承認
- ◆ 2023年度国際規格原案回答状況報告
- ◆ 2023年度報告 WG 1
- ◆ 2023年度報告 WG 2
- ◆ 2023年度報告 WG 3
- ◆ 2023年度報告 WG 5
- ◆ 2023年度報告 WG 6
- ◆ 2023年度報告 WG 8
- ◆ SC 13 国際会議について

8 ISO/TC 94/SC 13/WGs作業部会活動

WG 1 作業部会

第1回

日 時: 2023年7月25日(火) 14:00~17:00

場 所: アゼアス株/Web(Microsoft Teams)

出席者: 16名(Web参加含む)

議 題:

- 1) 主査挨拶
- 2) 出席者自己紹介

- 3) SC 13/WG 1上田会議について
- 4) ISO/DIS 24231(降雨に対する防護服の完成品試験)及び
ISO/DIS 24232(降雨に対する防護服)について
- 5) ISO/CD 23762(視認性衣服)について
- 6) SR ISO 20471(高視認性安全服)について
- 7) ISO/TR 19382(防護服の快適性評価)について

WG 6 作業部会

第1回

日 時: 2023年8月24日(木) 14:30~16:30

場 所: アゼアス(株)/Web (Microsoft Teams)

出席者: 12 名(Web 参加含む)

議 題:

上田会議に向けて、SC 13/WG 6の審議案件・活動状況の共有

—ISO/CD 22615(6/30投票終了)

—ISO/NP 20384(9/12投票×切)

—SR ISO 22610(12/2投票×切)

9 ISO国際会議への参加

ISO/TC 94/SC 13/WG 8/EN388 国際会議

日 程: 2023年4月4日~5日

場 所: ベルギー/Web

日本からSC13として参加した人数: 4名

ISO/TC 94/SC 13/CAG

日 程: 2023年9月10日

場 所: 信州大学繊維学部(長野県上田市)

日本からSC13として参加した人数: 2名

ISO/TC 94/SC 13/WG 1/PG 19382/ PG 24231,24232

日 程: 2023年9月11日

場 所: 信州大学繊維学部(長野県上田市)/Web

日本からSC13として参加した人数: 現地 6名、Web 1名

ISO/TC 94/SC 13/WG 8/ISO 23388

日 程: 2023年9月11日

場 所: 信州大学繊維学部(長野県上田市)/Web

日本からSC13として参加した人数: 2名

ISO/TC 94/SC 13/WG3/PG 6529,17491-3,-4,6530,13994,27065

日 程:2023年9月12日

場 所:信州大学繊維学部(長野県上田市)/Web

日本からSC13として参加した人数:7名

ISO/TC 94/SC 13/JWG 1/PG 16602

日 程:2023年9月13日

場 所:信州大学繊維学部(長野県上田市)/Web

日本からSC13として参加した人数:6名

ISO/TC 94/SC 13/WG 6/ISO 22615,20384,22610

日 程:2023年9月14日

場 所:信州大学繊維学部(長野県上田市)/Web

日本からSC13として参加した人数:5名

ISO/TC 94/SC 13/WG 3

日 程:2023年9月14日

場 所:信州大学繊維学部(長野県上田市)/Web

日本からSC13として参加した人数:6名

ISO/TC 94/SC 13/WG 1

日 程:2023年9月15日

場 所:信州大学繊維学部(長野県上田市)/Web

日本からSC13として参加した人数:6名

ISO/TC 94/SC 13/WG 5

日 程:2023年9月15日

場 所:信州大学繊維学部(長野県上田市)/Web

日本からSC13として参加した人数:6名

ISO/TC 94/SC 13/WG 6

日 程:2023年9月15日

場 所:信州大学繊維学部(長野県上田市)/Web

日本からSC13として参加した人数:8名

ISO/TC 94/SC 13/WG 8

日 程:2023年9月15日

場 所:信州大学繊維学部(長野県上田市)/Web
日本からSC13として参加した人数:8名

ISO/TC 94/SC 13/SC13

日 程:2023年9月15日
場 所:信州大学繊維学部(長野県上田市)/Web
日本からSC13として参加した人数:11名

ISO/TC 94/SC 13/WG8

日 程:2023年10月17日
場 所:ベルギー/Web
日本からSC13として参加した人数:Web 3名

ISO/TC 94/SC 13/WG8

日 程:2023年10月20日
場 所:オンライン会議
日本からSC13として参加した人数:2名

ISO/TC 94/SC 13/WG2

日 程:2023年12月12日
場 所:オンライン会議
日本からSC13として参加した人数:4名

ISO/TC 94/SC 13/ WG 1

日 程:2024年2月15日
場 所:オンライン会議
日本からSC13として参加した人数:4名

ISO/TC 94/SC 13/ WG 2

日 程:2024年3月12日
場 所:オンライン会議
参加予定:Web 3名

10 ISO/TC 94国内審議委員会への参加

第74回

日 時: 2023年7月6日(木) 15:00~17:00
場 所: 公益社団法人日本保安用品協会

第75回

日 時: 2023年10月6日(金) 15:00~17:00

場 所: 公益社団法人日本保安用品協会

第76回

日 時: 2024年1月26日(金) 15:00~17:00

場 所: 公益社団法人日本保安用品協会

第77回

日 時: 2024年3月25日(月) 15:00~17:00

場 所: 公益社団法人日本保安用品協会

11 JIS原案作成への協力

WG 5、WG 8のJIS制定・改正原案作成に協力を行った。

- ◆ JIS T 8125-5 手持ちチェーンソー使用者のための防護服:脚半 及び
-6 手持ちチェーンソー使用者のための防護服:上半身防護服 改正原案作成委員会

第2回本委員会

日 時: 2023年4月14日(金)

場 所: 公益社団法人日本保安用品協会/Web (Microsoft Teams)

出席者: 21名(Web参加者含む)

第3回本委員会

日 時: 2023年9月29日(金)

場 所: 公益社団法人日本保安用品協会/Web (Microsoft Teams)

出席者: 16名(Web参加者含む)

第4回分科会

日 時: 2023年4月14日(金)

場 所: 公益社団法人日本保安用品協会/Web (Microsoft Teams)

出席者: 10名(Web参加者含む)

第5回分科会

日 時: 2023年5月19日(金)

場 所: 公益社団法人日本保安用品協会/Web (Microsoft Teams)

出席者: 13名(Web参加者含む)

第6回分科会

日 時: 2023年6月16日(金)

場 所: 公益社団法人日本保安用品協会/Web (Microsoft Teams)

出席者: 11 名(Web 参加者含む)

第 7 回分科会

日 時: 2023 年 7 月 14 日(金)

場 所: アゼアス(株)/Web (Microsoft Teams)

出席者: 10 名(Web 参加者含む)

第 8 回分科会

日 時: 2023 年 8 月 4 日(金)

場 所: 公益社団法人日本保安用品協会/Web (Microsoft Teams)

出席者: 9 名(Web 参加者含む)

第 9 回分科会

日 時: 2023 年 8 月 25 日(金)

場 所: 公益社団法人日本保安用品協会/Web (Microsoft Teams)

出席者: 10 名(Web 参加者含む)

- ◆ JIS T 8052 防護服-機械的特性-鋭利物に対する切創抵抗試験方法 改正原案作成委員会

第 1 回本委員会

日 時: 2023 年 5 月 11 日(木)

場 所: 日本医療機器協会 医科器械会館/Web (Microsoft Teams)

出席者: 17 名(Web 参加者含む)

第 2 回本委員会

日 時: 2023 年 10 月 4 日(水)

場 所: 公益社団法人日本保安用品協会/Web (Microsoft Teams)

出席者: 14 名(Web 参加者含む)

第 1 回分科会

日 時: 2023 年 5 月 11 日(木)

場 所: 日本医療機器協会 医科器械会館/Web (Microsoft Teams)

出席者: 11 名(Web 参加者含む)

第 2 回分科会

日 時: 2023 年 6 月 14 日(水)

場 所: 日本医療機器協会 医科器械会館/Web (Microsoft Teams)

出席者: 10名(Web参加者含む)

第3回分科会

日時: 2023年7月6日(木)

場所: アゼアス(株)/Web(Microsoft Teams)

出席者: 11名(Web参加者含む)

第4回分科会

日時: 2023年8月7日(月)

場所: 公益社団法人日本保安用品協会/Web(Microsoft Teams)

出席者: 13名(Web参加者含む)

第5回分科会

日時: 2023年10月4日(水)

場所: 公益社団法人日本保安用品協会/Web(Microsoft Teams)

出席者: 9名(Web参加者含む)

◆ JIS T 8119 機械的リスクに対する防護手袋 制定原案作成委員会

第2回本委員会

日時: 2023年5月10日(火)

場所: 公益社団法人日本保安用品協会/Web(Microsoft Teams)

出席者: 17名(Web参加者含む)

第3回本委員会

日時: 2023年10月31日(火)

場所: 公益社団法人日本保安用品協会/Web(Microsoft Teams)

出席者: 19名(Web参加者含む)

第4回分科会

日時: 2023年4月13日(木)

場所: 公益社団法人日本保安用品協会/Web(Microsoft Teams)

出席者: 13名(Web参加者含む)

第5回分科会

日時: 2023年5月10日(水)

場所: 公益社団法人日本保安用品協会/Web(Microsoft Teams)

出席者: 12名(Web参加者含む)

第6回分科会

日 時: 2023年6月12日(月)

場 所: 公益社団法人日本保安用品協会/Web(Microsoft Teams)

出席者: 14名(Web参加者含む)

第7回分科会

日 時: 2023年7月11日(火)

場 所: 公益社団法人日本保安用品協会/Web(Microsoft Teams)

出席者: 12名(Web参加者含む)

第8回分科会

日 時: 2023年8月22日(火)

場 所: 公益社団法人日本保安用品協会/Web(Microsoft Teams)

出席者: 15名(Web参加者含む)

第9回分科会

日 時: 2023年9月21日(木)

場 所: 公益社団法人日本保安用品協会/Web(Microsoft Teams)

出席者: 11名(Web参加者含む)

第10回分科会

日 時: 2023年10月31日(火)

場 所: 公益社団法人日本保安用品協会/Web(Microsoft Teams)

出席者: 15名(Web参加者含む)

12 保護具展示・体験デモへの協力

一般社団法人日本セメント協会第72回セメント安全衛生大会

日 時: 2023年6月8日(木)～9日(金)

場 所: 東京証券会館ホール(東京証券会館8階)

内 容: 化学防護服の展示協力

出展法人会員: 川本産業株式会社、原田産業株式会社、東レ株式会社、
アゼアス株式会社

RISCON TOKYO危機管理産業展2023

日 時: 2023年10月11日(水)～13日(金)

場 所: 東京ビッグサイト西1・2ホール

内 容: 化学防護服の展示協力

出展法人会員: アゼアス株式会社、原田産業株式会社

産業保健フォーラムIN TOKYO2023

日 時: 2023年10月11日(水)

場 所: ティアラこうとう

内 容: 化学防護服の展示協力

出展法人会員:アゼアス株式会社、ダイヤゴム株式会社、東レ株式会社

公益社団法人神奈川県産業資源循環協会 第13回安全衛生大会

日 時: 2023年11月13日(月)

場 所: 横浜情報文化センター6階 情文ホール

内 容: 化学防護服の展示協力

出展法人会員:アゼアス株式会社、東レ株式会社、原田産業株式会社

2013年3月、産業医科大学産業生態科学研究所多目的模擬工場内に、保護具等の展示場が開設され、当協議会から防護服を提供し、展示に協力している。本展示場は、産業医科大学内において行う産業医の研修、産業医科大学が主催する外部(大学関係者以外)の講習会他に活用されている。展示物については定期的にメンテナンスを行っており、2021年11月9日(火)に次の防護服に入れ替えたため、今年度は入れ替えを行わなかった。

内容: 石綿粉じんばく露防止対策(暑熱対策機能付き化学防護服)

炉前における熱や炎からの身体防護用難燃服

化学防護服(JIS T 8115適合品)

チェーンソー防護ズボン(JIS T 8125-2適合品)

3. 2023 年度 一般社団法人日本防護服協議会 定時総会 議事録

1. 開催日時：2023 年 6 月 27 日(火) 13:30~14:07
2. 開催場所：台東区民会館 9 階 特別会議室 (大)
3. 出席した社員の数及びその行使することができる議決権の数

(1) 議決権のある当法人の 社員の総数	65 名 (法人会員 56 社、個人会員 9 名)
(2) 総社員の議決権の数	65 個
(3) 出席社員数	61 名 (うち、委任状による出席 10 名、 事前議決権行使による出席 23 名)
(4) 出席した社員の議決権の数	61 個

4. 出席役員

代表理事 山内 正剛

業務執行理事 鈴木 一裕

理事 深須 憲哉、三橋 卓也、篠原 克明、鉄村 秀哉、加藤 正弘、上田 勝彦

監事 関口 勝美、利岡 健人

5. 議事録作成者

統括事務局 山田 彩

6. 開会宣言及び定足数の確認

13 時 30 分、司会進行役の三橋理事が開会を宣し、本日の定時総会は、定款 17 条に規定された定款所定数（総社員の議決権の過半数）を満たしているため、有効に成立した旨を告げた。

7. 議長の選任

司会進行役より、定款 第 15 条の規定により山内理事長が議長を務めることの説明があり、賛否を議場に諮ったところ、異議はなく、山内理事長が議長に選任された。

8. 議長挨拶

山内議長より開会の挨拶があった。

9. 報告事項

山内議長より、鈴木業務執行理事が指名され、鈴木業務執行理事より報告事項の説明が行われた。

1) 2022 年度事業報告

「資料 2023 総 報-1：一般社団法人日本防護服協議会 2022 年度 事業報告」に基づき総会、理事会、研究会、学術総会、TC 94/SC 13 国内審議分科委員会作業部会主査・幹事会議、各作業部会活動、ISO 会議への参加、JIS 作成への協力等について説明があった。

「資料 2023 総 報-2：事業報告の附属明細書」に基づき 2022 年度事業報告には「事業報告の内容を補足する重要な事項」は存在しないとの説明があった。

JISについては、WG 3（化学防護服）3本のJIS制定・改正原案作成、WG 5（機械的作用に対する防護服）2本のJIS改正原案作成及びWG 8（防護手袋）2本のJIS制定原案作成に対する協力を行ったことの説明があった。

ISO 国際会議については、2022年9月にスイス（ヴィンタートゥール）に於いてISO/TC 94/SC 13 総会及びCAG会議、作業部会会議、プロジェクトグループ会議が開催され、現地にて又はリモートで参加し、同会議をはじめとして、アドホックなWG/PG等の国際会議へ積極的に参加した旨の説明があった。

公益社団法人日本保安用品協会（JSAA）、公益財団法人日本ユニフォームセンター（NUC）、一般社団法人日本高視認性安全服研究所（JAVISA）及び当協議会（JPGA）で構成する「高視認性安全服普及委員会」活動については、これに積極的に関与し、JIS T 8127 高視認性安全服啓発パンフレットの配布等の普及・啓発活動を行ったことの説明があった。

保護具展示への協力として、産業医科大学産業生態科学研究所多目的模擬工場内に、保護具等の展示場が開設されて以降、当協議会から防護服を提供し展示協力をしているが、昨年入れ替えを行った為、2022年度は入れ替えを行わなかったと説明があった。

2) 2023年度事業計画及び予算

「資料 2023 総 報-3: 一般社団法人日本防護服協議会 2023 年度 事業計画」が提示され、2023年度事業計画についての説明があった。

新規事業として、JISが制定・改正された際における説明会（有料）開催についても検討しているとの説明があった。

ISO 23762 について、国際規格成立に向けての作業を行い、これを補強する基礎研究についても、METI 委託事業の成果を基礎に研究を進めるとの説明があった。

本年度のISO/TC 94/SC 13 国際会議が、2023年9月10日から15日かけて長野県上田市で開催されることや、研究会、見学会、学術総会の開催、関連する学会等への協力等の各種活動予定について説明があった。

「資料 2023 総 報-4: 2023 年度収支予算書」及び「資料 2023 総 報-5: 2023 年度 収支予算書 内訳表」が提示され、説明があった。2022年度と2023年度予算の違いについて、2023年度は国際会議が信州大学で開催されるため、会議費について増額し、海外派遣費について減額した旨の説明があった。

3) 入退会の報告

「資料 2023 総 報-6: 一般社団法人日本防護服協議会 会員一覧」が提示され、入退会についての説明があった。2022年度の入会は特別会員1名、退会は法人会員2社、個人会員1名、特別会員1名であった。2023年度の入会は現時点で法人会員1社、退会は法人会員1社である。2023年度に入会した原田産業株式会社 小林 恵介様が紹介され、ご挨拶いただいた。

4) ISO/TC 94/SC 13/WG 主査及び幹事の紹介

「資料 2023 総 報-7: 2023 年度 ISO/TC 94/SC 13/WG 主査・幹事一覧」が提示され、主査及び幹事の紹介があった。WG 5 幹事が不在の為、立候補者を募集しているとの案内があった。

5) 2022 年度及び 2023 年度 ISO 投票報告

「資料 2023 総 報-8: 2022 年度国際規格回答原案一覧表」及び「資料 2023 総 報-9: 2023 年度国際規格回答原案一覧表」が提示され、2022 年度及び 2023 年度の国際規格回答原案回答実績の報告が行われた。2022 年度は 41 件の回答を行った。内訳は WG1 が 5 件、WG2 が 11 件、WG3 が 15 件、WG5 が 4 件、WG6 が 1 件、WG8 が 5 件であった。2023 年度は現時点で 22 件の回答を予定しており、内 15 件は回答済である。

10. 決議事項

【第 1 号議案 2022 年度決算の承認に関する件】

山内議長より、鈴木業務執行理事が指名され、鈴木業務執行理事より「資料 2023 総 決-1: 2022 年度貸借対照表(案)」、「資料 2023 総 決-2: 2022 年度正味財産増減計算書(案)」、「資料 2023 総 決-3: 2022 年度正味財産増減計算書(案)内訳表(案)」及び「資料 2023 総 決-4: 財務諸表に対する注記」に基づき説明があった。

資産合計は 11,691,269 円、負債合計は 70,000 円、負債及び正味財産合計は 11,691,269 円だった。経常収益計は 3,440,068 円、経常費用計は 1,531,056 円、当期経常増減額は 1,909,012 円、法人税、住民税及び事業税は 70,000 円、正味財産期末残高は 11,621,269 円だった。

次に、山内議長より、関口監事が指名され、関口監事より「資料 2023 総 決-5: 監査報告書」に基づき、監査報告が行われ、監事 2 名で計算書類の正確性及び理事の職務の執行の妥当性を監査した結果、問題がなかったこと、不正は一切認められなかったとの説明があった。

山内議長が、賛否を議場に諮ったところ、第 1 号議案は異議なく可決承認された。

【第 2 号議案 新任役員（理事）の選任に関する件】

山内議長より、2022 年 6 月に役員の変更が行われたため、次回の役員の変更は 2024 年度の定時総会となるが、期中に理事 1 名が退任を表明しているため、理事 1 名を補充する旨の説明があった。

「資料 2023 総 決-6 一般社団法人日本防護服協議会現行役員及び新任理事候補者一覧」に基づき、退任を表明している山本光学株式会社の上田 勝彦 氏に代わり、後任として、山本光学株式会社の山本 剛士 氏が推薦された。

議長が、賛否を議場に諮ったところ、第 2 号議案は満場一致で異議なく可決承認された。新任理事の山本 剛士 氏よりご挨拶があった。

以上をもって議案全部の審議及び報告が終了したので、議長は 14 時 07 分に閉会を宣した。上記の議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、出席した理事及び監事は次に記名押印する。

2023 年 6 月 28 日
一般社団法人日本防護服協議会

4.1 一般社団法人日本防護服協議会 2023 年度 第 1 回理事会 議事録

1. 日 時： 2023 年 4 月 18 日(火) 13:00～14:40
2. 場 所： アゼアス株式会社 中会議室(台東区蔵前 4-13-7)又はオンライン(Microsoft Teams)
3. 出席者：(敬称略、順不同) 14 名 ※下線を引かれている方は Microsoft Teams にて参加
理 事(10 名)・・・山内 正剛((国)量子科学技術研究開発機構)、深須 憲哉(旭・デュポン フラツ
※定足数 6 名 シュspan プロダクツ(株)、鈴木 一裕(アゼアス(株))、朝比奈 智(アトム(株))、
池田 靖(株重松製作所)、傳田 章(帝国繊維(株))、篠原 克明(信州大学)、鉄
村 秀哉(帝人株式会社)、加藤 正弘(ミドリ安全株式会社)、上田 勝彦(山本
光学株式会社)
監 事(2 名)・・・関口 勝美(株式会社アルバーネット)、利岡 健人(株シモン)
オブザーバー(1 名)・・・山本 剛士(山本光学株式会社)
事 務 局(1 名)・・・野原 由樹子(アゼアス(株))
4. 定足数の確認等：
山内理事長が、定足数の充足を確認し、本理事会が有効に成立する旨を宣し、議事進行役に鈴木
業務執行理事を指名した。議題に入る前にリモート出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、適
宜的確な意思表示が互いにできる仕組みとなっていることが確認されたため、議題の審議に入った。
5. 議事概要：
 - (1) 決議事項
 - a) 入退会の承認について
資料 2023①-1 及び 2 が提示され、鈴木業務執行理事より一般社団法人日本高視認性安
全服研究所より、一般社団法人の解散に伴い、退会希望年月を 2023 年 4 月付とする退会
届の提出があった旨の報告があり、退会が承認された。
引き続き、2023①-3 及び 4 が提示され、2022 年度及び 2023 年度の入退会状況について
の報告があり、内容を確認した。
 - b) 2022 年度事業報告(案) について
資料 2023 理①-6 が提示され、鈴木業務執行理事より前回からの追加、変更点について
報告があり、内容を確認し承認した。資料 2023 年理①-6 及び-7 を定時総会の報告用資
料とすることとした。
 - c) 2022 年度会計報告(案) 及び監査報告について
資料 2023 理①-9～13 が提示され、鈴木業務執行理事より 2022 年 4 月 1 日から 2023 年
3 月 31 日までの収支について説明があり、承認された。2022 年度の収入(経常収益)は
3,440,068 円、支出(経常費用)は 1,531,056 円だった。

資料 2023 理①-14 が提示され、関口監事より監査報告があった。4 月 12 日に関口監事と 2022 年度計算書類の正確性及び理事の職務の執行の妥当性を監査した結果、問題が無かったこと、不正は一切認められなかったこと、特記事項として次年度には事業活動の啓発を進め、さらなる向上を目指し効率的な事業を促進されることを望むとの説明があった。定時総会における 2022 年度決算の承認に関する資料として資料 2023 理①-9～14 を議総会に提示することとした。

調査研究費については、今後の使い道を検討していくこととした。

d) 2023 年度事業計画(案) について

資料 2022 理①-8 が提示され、鈴木業務執行理事より 2023 年度の事業計画の説明があり、内容を確認し、承認された。

第 21 回学術総会の日程及び場所については、2024 年 2 月 27 日、浅草橋ヒューリックホールで確定とした。インターネット配信については検討することとした。

e) 2023 年度予算(案) について

資料 2023 理①-15 が提示され、鈴木業務執行理事より 2023 年度の予算案の説明があり、審議の結果、承認された。

f) 期中における新任理事の選出方法及び候補者について

資料 2023 ①-5 が提示され、鈴木業務執行理事より、例年通り、期中の理事の補充に関しては、理事会から理事候補者を総会に推薦し、会員から役員への立候補を募るのは改選時のみとする旨の提案があり、承認された。

山本光学株式会社の上田勝彦氏より、2023 年度定時総会をもって退任する意向が表明され、承認された。上田氏から、後任として同社山本剛士氏が推薦された。理事会から山本剛士氏を、期中における新任理事候補として推薦し、議案として総会に提示することとした。

g) 2023 年度定時総会(開催案内及び議題)について

資料 2023 理①-18,19,20 が提示され、鈴木業務執行理事より 2023 年度定時総会の開催案内及び議題、配布資料についての説明があった。審議の結果、原則現地参加とし、リモート参加者には事前に議決権行使書と委任状を出してもらうこととした。回答期日を 2023 年 6 月 15 日とした。

総会・研究会における役割分担について確認した。

(2) 審議及び報告事項

a) 2023 年度研究会(講演テーマ及び演者)について

資料 2023 理①-18 が提示され、鈴木業務執行理事より研究会の講演テーマについて説明があった。1 題は、「消防隊員の除染について」のテーマで榊重松試作所の濱田昌彦氏へ質疑応答含め 60 分の講演を依頼し引き受けて頂いている。もう 1 題については、40 分間とし、保護具着用管理責任者についての講演を企画することとした。

b) 2023 年度見学会について

本年度幹事の深須憲哉氏及び山本剛士氏を中心に、見学先について企画検討して頂くこととした。

- c) 防護服関連規格の JIS 制定/改正 公募予定について
資料 2023 理①-24 が提示され、事務局より WG2 から、2023 年区分 D で 2 件(JIS T 8020 を ISO 6942 改正に基づき改正、同様に、JIS T 8128 を ISO11611 改正版に基づき改正)公募したいとの要望が寄せられている旨の報告があり、承認された。
- d) セイフティダイジェストに関する依頼について(Q&A 執筆、暑中見舞い広告)
事務局より、セイフティダイジェストに関する依頼及び暑中見舞い広告について説明があった。例年通り、6 月の定時総会後の内容で暑中見舞いを出すこととした。
- e) 年会報目次について
事務局より 2022 年度年会報作成の目次について報告があり、例年通り作成を進めることとした。配布についても昨年同様、冊子配布を募って、必要数のみ印刷することとした。
- f) 中災防経皮ばく露等に関する検討会及び橋梁等における剥離剤ばく露等に関するワーキンググループ参加について
中災防からの依頼内容についての説明があった。昨年同様磯田氏を派遣することとした。

6. 配布資料:

2023理①-1	退会願い(日本高視認性安全服研究所)	
2023理①-2	退会届(日本高視認性安全服研究所)	
2023理①-3	2022 年度入退会報告書(案)	
2023理①-4	2023 年度入退会報告書(案)	
2023理①-5	2023 年度 現行役員及び新任理事候補者	*定時総会決議事項用
2023理①-6	2022 年度事業報告(案)	*定時総会報告事項用
2023理①-7	事業報告の附属明細書	*定時総会報告事項用
2023理①-8	2023 年度事業計画(案)	*定時総会報告事項用
2023理①-9	2022 年度会計報告書(案)	
2023理①-10	2022 年度貸借対照表(案)	*定時総会決議事項用
2023理①-11	2022 年度正味財産増減計算書(案)	*定時総会決議事項用
2023理①-12	2022 年度正味財産増減計算書 内訳表(案)	*定時総会決議事項用
2023理①-13	財務諸表に対する注記	*定時総会決議事項用
2023理①-14	2022 年度監査報告書	*定時総会決議事項用
2023理①-15	2023 年度予算(案)	
2023理①-16	2023 年度収支予算書	*定時総会報告事項用
2023理①-17	2023 年度収支予算書 内訳表	*定時総会報告事項用
2023理①-18	2023 年度定時総会開催案内(法人会員用)	
2023理①-19	2023 年度定時総会議案集目次	
2023理①-20	2023 年度定時総会役割分担	
2023理①-21	2022 年度国際規格原案回答状況表	*定時総会報告事項用
2023理①-22	2023 年度国際規格原案回答状況表	*定時総会報告事項用
2023理①-23	一般社団法人日本防護服協議会 会員一覧	*定時総会報告事項用
2023理①-24	防護服関連規格の JIS 制定/改正 公募予定表	

以上をもって議案のすべてが終了したので、議長は 14 時 40 分、閉会を宣した。

上記の議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、出席した理事及び監事が記名押印する。

2023 年 4 月 25 日

一般社団法人日本防護服協議会

4.2 一般社団法人日本防護服協議会 2023 年度 第 2 回理事会 議事録

1. 日 時： 2023 年 6 月 27 日(火) 10:30~11:50
2. 開催場所： 台東区民会館 9 階 特別会議室（大）（〒111-0033 東京都台東区花川戸 2-6-5）
又は Web 参加 (Microsoft Teams)
3. 出席者：（敬称略、順不同） ※下線を引かれている方は Microsoft Teams にて参加
理事現在数：11 名（定足数：6 名）
出席者理事（7 名）・・・山内 正剛（(国研)量子科学技術研究開発機構）、深須 憲哉(旭・デュ
ポン フラッシュ スパンプロダクツ)、篠原 克明（信州大学）、鉄村 秀哉（帝人(株)）、加藤 正弘(ミドリ安全(株))、上田 勝彦（山本光
学(株)）、鈴木 一裕（アゼアス(株)）

監事現在数：2 名
出席監事（1 名）・・・利岡 健人(株シモン)
オブザーバー(1 名)・・・山本 剛士（山本光学(株)）
統括事務局（3 名）・・・野原 由樹子、川口 さゆり、山田 彩（アゼアス(株)）
4. 定足数の確認等：
山内理事長が、定足数の充足を確認し、本理事会が有効に成立する旨を宣し、議事進行役に鈴木業務執行理事を指名した。議題に入る前にリモート出席者の音声^が即時に他の出席者に伝わり、適宜的確な意思表示が互いにできる仕組みとなっていることが確認されたため、議題の審議に入った。
5. 議事概要：
 - (1) 審議及び報告事項
 - a) 2023 年度会計報告(案)
資料 2023 理② - 2 が提示され、鈴木業務執行理事より 2023 年 5 月末までの予算・実績対比表について報告があった。5 月末時点の経常収益は 2,740,000 円、経常費用計は 233,204 円だった。
 - b) 2023 年度定時総会、研究会、懇親会について
・資料 2023 理② - 3~5 が提示され、鈴木業務執行理事より定時総会及び研究会の役割分担及びシナリオ、定時総会資料についての説明があり、内容を確認した。
・懇親会の乾杯は、山本光学(株)上田理事に依頼し、快諾頂いた。
 - c) SC13 上田会議について
資料 2023 理② - 6 が提示され、鈴木業務執行理事より会議日程について意見交換し、次の通り決定した。
・バンケットについて、プレナリーの準備を加味して 9 月 13 日（水）とするか、参加者増加を見込めそうな 9 月 14 日（木）に変更するかを審議した。SC13 議長である池田氏に確認してから日程を決定することとした。
・バンケット参加費について、海外参加者（ご家族分も含む）は基本無料とする

が、日本の参加者からは会費を徴収することとした。原則、法人会員 8,000 円、個人・特別会員は 6,000 円とするが、海外からの参加者が多数となった場合は、徴収金額について再度検討することとした。

- ・バンケット参加対象者について、グローバルディレクトリ（GD）登録者以外も参加できるようにするのか、バンケット開催の方針を検討することとした。

- ・費用について、経済産業省からは会議会場借料について補助金が出る予定、付帯設備の支援対象は確認中である。

- ・山内先生、篠原先生、若月先生の 3 名について、旅費規程に基づき、交通費及び宿泊費を支給することとした。詳細については、各人と相談することとした。

d) 2023 年度見学会について

今年度見学会幹事の深須理事より資料が提示され、日程及び見学先、費用について説明があり、詳細について意見交換し、次の通り決定した。

- ・日程 : 11 月 9 日 13 時～10 日 12 時

- ・見学先 : SPring-8 (9 日)、旭化成水島製造所 (10 日)

- ・内容 : 初日は午後集合（昼食は無し）。兵庫県の播磨科学公園都市にある大型放射光施設、SPring-8 の見学ツアーを約 90 分、その後バスで倉敷へ移動し、会食・宿泊。翌日、旭化成水島製造所にて一般向けの見学ツアーに参加し、同事業所の安全担当との、災害が発生した際の対応や防護服にニーズについての情報交換会と、協議会の活動についての概要紹介を予定。昼前に倉敷にて解散。

- ・人数 : 募集人数 20 名を想定。

- ・参加費 : チャーターバス代で約 250,000 円掛かってしまう等があり、協議会からの補助がないと 30,000 円/人を超える。30,000 円/人を超えると、稟議が必要になる企業も多いので、30,000 円/人を超えない金額で設定したいとの提案があった。協議会から 100,000 円の補助が出れば、24,000 円/人を切る為、事業計画では 60,000 円で予算を設定していたが、100,000 円の補助をすることが提案され、承認された。

e) 理事長（代表理事）、業務執行理事 職務執行報告

① 入退会の報告

資料 2023 理② - 7 が提示され、鈴木業務執行理事より説明があった。前回理事会後の法人会員企業内の新規登録委員は 5 名、登録抹消委員は 4 名であった。

② 日本セメント協会セメント安全衛生大会における展示報告

資料 2023 理② - 8 が提示され、鈴木業務執行理事より、法人会員 4 社より防護服の出展希望があり、展示に協力いただいた旨の報告があった。

③ セイフティダイジェスト暑中見舞い掲載依頼について

資料 2023 理② - 9 が提示され、鈴木業務執行理事より説明があった。総会後の新任理事にリストを更新し、掲載することとした。

④ セイフティダイジェスト誌「管理者のための保護具類の基礎知識」執筆依頼について

資料 2023 理② - 10 が提示され、鈴木業務執行理事より説明があった。

セイフティダイジェスト誌へバイオハザード用の防護服の寄稿依頼があり、篠原先生に依頼をしたが日程的に厳しいとの回答であったため、タイトル変更を含め、再度検討することとした。

6. 配布資料：

2023理②-1	2023 年度 第1回 理事会 議事録
2023理②-2	2023 年度 会計報告書(案)
2023理②-3	2023 年度 定時総会・研究会 役割分担及びシナリオ (案)
2023理②-4	2023 年度 定時総会 議案集 (審議事項用資料)
2023理②-5	2023 年度 定時総会 報告事項用資料
2023理②-6	SC13 上田会議開催概要
2023理②-7	2023 年度 入退会報告書(案)
2023理②-8	日本セメント協会セメント安全衛生大会における展示報告書
2023理②-9	セイフティダイジェスト暑中見舞い掲載依頼
2023理②-10	セイフティダイジェスト管理者のための保護具類の基礎知識 執筆依頼
2023理②-11	2022 年度年会報告書 (※冊子配布希望者のみ)

以上をもって議案のすべてが終了したので、議長は 11 時 50 分、閉会を宣した。

2023 年 8 月 21 日
一般社団法人日本防護服協議会

4.3 一般社団法人日本防護服協議会 2023 年度 第 3 回理事会 議事録

1. 日 時： 2023 年 8 月 29 日（火） 14：00～16：00
2. 開催場所： アゼアス株式会社（〒111-0051 東京都台東区蔵前 4-13-7）
又は Web 参加 (Microsoft Teams)
3. 出席者：（敬称略、順不同） 合計 13 名 ※下線を引かれている方は Web 参加者
理事（11 名）・・・山内 正剛（(国研)量子科学技術研究開発機構）、深須 憲哉（旭・デュボン フラッシュスパン プロダクツ）、傳田 章（帝国繊維株）、篠原 克明（信州大学）、鉄村 秀哉（帝人株）、山本 剛士（山本光学株）、鈴木 一裕（アゼアス株）、朝比奈 智（アトム株）、池田靖（株重松製作所）、加藤 正弘（ミドリ安全株）、三橋 卓也（一般財団法人カケンテストセンター）
監事（1 名）・・・利岡 健人(株シモン)
統括事務局（1 名）・・・野原 由樹子
4. 定足数の確認等：
山内理事長が、定足数の充足を確認し、本理事会が有効に成立する旨を宣し、議事進行役に鈴木業務執行理事を指名した。議題に入る前にリモート出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、適宜的確な意思表示が互いにできる仕組みとなっていることが確認されたため、議題の審議に入った。
5. 議事概要：
 - (1) 決議事項
 - a) 入退会の承認について
資料 2023 理③ - 2,3,4 が提示され、鈴木業務執行理事よりエースセーフティ株式会社の入会希望及び川本産業株式会社の退会意向（2024 年 3 月）について説明があり、異議なく承認された。前回理事会後の法人会員企業内の新規登録委員は 6 名、登録抹消委員は 6 名であった。
 - b) 「テクニカルアドバイザー」の肩書の定義について
テクニカルアドバイザーの定義について、意見交換を行い、テクニカルアドバイザーについては、「ISO の標準化活動を経験している方で、専門性、知見を持っている方に対して、日本防護服協議会の理事会が任命する。案件ごとに、テクニカルアドバイザーとしての参加を委嘱する。」こととした。
 - ・ テクニカルアドバイザーの定義を、運用規定に定めることとし、次回理事会までに内容についてのメール審議を行うこととした。
 - ・ 稲井巡氏を、テクニカルアドバイザーに任命することとし、上田会議で使えるよう、稲井氏にテクニカルアドバイザーの名刺を用意することとした。
 - c) SC13 上田会議について
資料 2023 理③ - 6 及び - 7 が提示され、鈴木業務執行理事より上田会議開催費用内訳、上田会議、キャンパスツアー及び懇親会開催内容について、説明があった。

- ・ 旅費交通費及び宿泊費の支給対象者を増やすこと、懇親会メニューを追加すること、懇親会招待者枠を設けること、懇親会招待価格を設定することなどについての提案及び説明があり、承認された。
 - ・ 旅費交通費及び宿泊費の支給対象者の増加、懇親会費用の増加、懇親会参加人数の増加等により、当初の予定よりも増額となる科目、補助金との兼ね合いにより、一部経費を公益社団法人日本保安用品協会経由で発注することになったため減額となる科目がある。トータル収支については、懇親会参加人数によって変動はするが、当初の予定より補填額が減少する予定である。との説明があった。
 - ・ 懇親会の式次第案が提示され、司会、開会挨拶、主催者挨拶、来賓挨拶、乾杯、中締め挨拶、閉会挨拶の依頼先についての提案があり、承認された。
 - ・ 上田会議開催についての意見がある方は、後日事務局まで連絡
- d) 2023 年度研修会について
- 資料 2023 理③ - 8,9 が提示され、鈴木業務執行理事より、開催概要及び現時点の参加予定者数が 9 名である旨の説明があった。参加者数を増やせるよう、申込期限を延長し再度会員向けに案内をすることとした。収入と支出の差額分については、協議会から補填することとした。

(2) 審議及び報告事項

a) 2023 年度会計報告(案)

資料 2023 理③ - 5 が提示され、鈴木業務執行理事より 2023 年 7 月末までの予算・実績対比表について報告があり、内容を確認した。7 月末時点の経常収益は 3,020,000 円、経常費用計は 427,583 円であった。

b) 学術総会の開催場所、テーマ、演者について

資料 2023 理③ - 10,11,12 が提示され、鈴木業務執行理事より、学術総会の開催概要について説明があり、特別講演の演者、参加費用、スケジュールについて検討した。

- ・ 演者候補として、信州大学の森川先生、消防庁 0B の方、労働安全衛生総合研究所の豊岡様、重松製作所の野口様等に講演を打診することとした。
- ・ 参加費用は、昨年の金額と同様の金額に設定することとした。
- ・ 前回開催時のアンケートで、休憩時間に名刺交換をする時間が欲しいとの意見があった為、休憩時間を長めに設定することとした。

c) 令和 6 年度標準化テーマ調査について

統括事務局より説明があった。昨年応募実績のあった企業や理事の方に応募の意向の有無を確認したが、要望が無かったため、応募しないこととした。

d) JAVISA 展示会用の暗室箱 譲渡の件

鈴木業務執行理事より、JAVISA から、展示会等で使用していた、高視認安全服デモンストレーション用の暗室箱を協議会に譲渡したいとの打診があった旨の説明があり、対応について協議した。保管場所、使用頻度、利便性、輸送費などの観点から、活用は困難との結論に達したため、譲渡はお断りすることとした。

e) 理事長（代表理事）、業務執行理事 職務執行報告

① RISCNTOKYO 危機管理産業展 2023 展示協力依頼について

資料 2023 理③ - 13 が提示され、鈴木業務執行理事より、公益社団法人日本保安用品協会から届いた、RISCNTOKYO 危機管理産業展 2023 への展示協力依頼についての報告があった。法人会員に案内し出展希望を募り、応募多数の場合は、統括事務局にて調整を行うこととした。出展費用の負担が必要か確認する。

6. 配布資料：

2023理③-1	2023 年度 第 2 回 理事会 議事録(案)
2023理③-2	2023 年度 入退会報告書(案)
2023理③-3	入会申込書(エースセーフティ株式会社)
2023理③-4	会社案内 (エースセーフティ株式会社)
2023理③-5	2023 年度 会計報告書(案)
2023理③-6	SC13 上田会議資料 (収支計画)
2023理③-7	SC13 上田会議参加者一覧、会議スケジュール
2023理③-8	2023 年度研修会開催のご案内
2023理③-9	研修会収支計画、参加者一覧
2023理③-10	2023 年度学術総会について
2023理③-11	学術総会資料 第 1~20 回 第 2 部 演題一覧
2023理③-12	学術総会資料 第 1~20 回 特別講演 演題一覧
2023理③-13	RISCNTOKYO 危機管理産業展 2023 展示協力依頼について

以上をもって議案のすべてが終了したので、議長は 15 時 56 分、閉会を宣した。

2023 年 10 月 16 日
一般社団法人日本防護服協議会

4.4 一般社団法人日本防護服協議会 2023 年度 第 1 回臨時理事会 議事録

1. 日時：2023 年 11 月 14 日(火) 15:00～16:40

2. 開催場所：アゼアス株式会社 2 階 中会議室(〒111-0051 東京都台東区蔵前 4-13-7)

3. 出席者：(敬称略、順不同) 出席予定者合計 12 名 ※下線を引かれている方は Web 参加者

理事(10 名)・・・山内 正剛(国研量子科学技術研究開発機構)、深須 憲哉(旭・デュポン フラッシュユスパン プロダクツ)、朝比奈 智(アトム株)、三橋 卓也(一般財団法人カケンテストセンター)、池田 靖(株重松製作所)、篠原 克明(信州大学)、鉄村 秀哉(帝人株)、加藤 正弘(ミドリ安全株)、山本 剛士(山本光学株)、鈴木 一裕(アゼアス株)

統括事務局(2 名)・・・野原 由樹子、山田 彩

4. 定足数の確認等：

鈴木業務執行理事が、定足数の充足を確認し、本理事会が有効に成立する旨を宣した。山内代表理事が議事進行役に鈴木業務執行理事を指名した。議題に入る前にリモート出席者の音声が入ったため、議題の審議に入った。

5. 議事概要：

(1) 決議事項

a) 代表理事の辞任について

山内代表理事より、2023 年内をもって代表理事の地位を辞任したい旨の説明と要望があった。審議の結果、山内代表理事の代表理事辞任願いを承諾し、2023 年内に辞任届を受理することとした。

b) 代表理事の選任について

山内代表理事の 2023 年内中の代表理事辞任を受け、後任の代表理事の選任方法について議論した結果、現職理事より選定することとなった。鈴木業務理事が、出席した理事に対し、代表理事の後任について希望を募ったが、立候補者はいなかった。

山内代表理事より、後任者として、朝比奈理事を代表理事に選任したい旨が述べられ、この可否につき諮ったところ、出席理事の満場一致によって可決確定した。

被選任者である朝比奈理事は、山内代表理事の退任日と同日に代表理事に就任することを承諾した。

代表理事交代に伴う登記手続きを 2023 年内に済ませることについて、異議無く承認された。後任として選任された朝比奈新代表理事の任期が、2024 年度定時総会の閉会の時までとなることを確認した。

(2) 審議及び報告事項

a) 代表理事交代に伴う手続きについて

代表理事交代に伴い、当協議会のホームページ修正を行う他、当協議会名で発行する書類等については、朝比奈智理事長名で発行することを確認した。

b) WG1、WG3、WG8 主査について

山内代表理事より、WG1、WG3、及び WG8 の主査の職を、2023 年内をもって辞任したい旨が述べられたため、後任について、別途関係 WG にて検討することとした。

6.配布資料：なし

以上をもって議案のすべてが終了したので、鈴木業務執行理事は 16 時 40 分 閉会を宣した。

2023 年 11 月 14 日
一般社団法人日本防護服協議会

4.5 一般社団法人日本防護服協議会 2023 年度 第 4 回理事会 議事録

1. 日 時： 2023 年 11 月 28 日（火） 13：00～14：45 *SC 13 国内審議分科委員会当日

2. 開催場所： アゼアス株式会社（〒111-0051 東京都台東区蔵前 4-13-7）

又は Web 参加 (Microsoft Teams)

3. 出欠：（敬称略、順不同） 合計 14 名 ※下線を引かれている方は Web 参加者

出席理事(10名)・・・山内 正剛((国研)量子科学技術研究開発機構)、深須 憲哉(旭・デュポン フラッシュシユspan>パン プロダクツ)、鈴木 一裕(アゼアス株)、朝比奈 智(アトム株)、三橋 卓也(一般財団法人カケンテストセンター)、池田 靖(株重松製作所)、傳田 章(帝国繊維株)、鉄村 秀哉(帝人株)、加藤 正弘(ミドリ安全株)、山本 剛士(山本光学株)

出席監事(1名)・・・利岡 健人(株シモン)

統括事務局(2名)・・・野原 由樹子、山田 彩

オブザーバー(1名)・・・稲井 巡

4. 定足数の確認等：

山内理事長が、定足数の充足を確認し、本理事会が有効に成立する旨を宣し、議事進行役に鈴木業務執行理事を指名した。議題に入る前にリモート出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、適宜的確な意思表示が互いにできる仕組みとなっていることが確認されたため、議題の審議に入った。

5. 議事概要：

(1) 決議事項

a) 主査・幹事の選任について

鈴木業務執行理事及び稲井氏より、山内理事長が WG1、WG3、WG8 主査を 12 月に辞任する意向を示していること、また WG5 幹事の不在が続いていることから、後任の主査及び幹事候補者について各 WG 主査・幹事及び関係者で検討した内容として、2023 年 12 月から 2024 年 3 月までの暫定処置として、下記の体制にしたいとの提案があった。審議の結果、下記の通り変更とすることが決議され、理事長が主査及び幹事を指名した。(変更箇所は網掛け部分)

	現行（2023 年 11 月時点）		変更後（2023 年 12 月～2024 年 3 月）	
WG	主査	幹事	主査	幹事
WG 1	<u>山内氏</u>	野原氏	<u>篠原氏</u>	野原氏
WG 2	若月氏	辻 氏	若月氏	辻 氏
WG 3	<u>山内氏</u>	磯田氏	<u>稲井氏</u>	磯田氏
WG 5	山田氏	(不在)	山田氏	<u>辻 氏</u>
WG 6	篠原氏	<u>辻 氏</u>	篠原氏	磯田氏
WG 8	<u>山内氏</u>	森下氏	<u>稲井氏</u>	森下氏

a) 様式改正について（様式 1-入会申込書、様式 2-退会届、様式 4-登録申込書）

資料 2023 理④ - 10, 11, 12 が提示され、鈴木業務執行理事より、各様式の変更点について説明があった。様式-1, 2 については、入会目的やきっかけ、退会理由等を記載する欄がなかったため、追記する提案があった。上記提案に伴い、当会規約を確認したことを明記する欄があった方が良いという意見等がでたため、様式 1-入会申込書及び、様式 3-退会届については、再度修正し、メール審議を行うこととなった。

様式 4-登録申込書については、氏名フリガナを記入する欄の追記及び PDF 形式ではなく Excel 形式とすることについて、異議なく承認された。

また併せて、運用規定についても改訂を検討することとした。

b) 入退会の承認について

資料 2023 理④ - 3~8 が提示され、鈴木業務執行理事より大阪樟蔭女子大学 谷様、株式会社カネカの入会報告（事前にメール審議を行い、承認済）及び、セーフラン安全用品株式会社の入会希望及び川本産業株式会社、高階救命器具株式会社の退会意向（2024 年 3 月）について説明があった。

セーフラン安全用品株式会社については、前項の様式改定に伴い、新規入会については一旦保留とし、新しい様式で再提出いただくか再度検討することとした。

前回理事会後の法人会員企業内の新規登録委員は 8 名、登録抹消委員は 2 名であった。

c) 「テクニカルアドバイザー」の肩書の定義、運用規定改正について

資料 2023 理④ - 17 が提示され、鈴木業務執行理事より、運用規定改正案について説明があり、異議なく承認された。

d) 学術総会について

資料 2023 理④ - 13, 14, 15 が提示され、鈴木業務執行理事より説明があった。

開催案内については、講演内容及び講師をわかりやすく記載し、修正することとした。また、懇親会についても案内を行い、広く周知することとした。申込人数によってはケータリングの利用も検討することとした。

収支予想については、配信パックは使用しないこととした。お弁当については、昼食時は周辺飲食店の混雑が予想されるため、現地参加者分を用意することを確認した。

e) 通訳費（ISO 20471）の補助について

資料 2023 理④ - 16 が提示され、統括事務局より説明があった。今回の資料は見積りのみであったので、改めて WG1 幹事から正式な依頼書を作成することとした。

(2) 審議及び報告事項

a) 2023 年度会計報告(案)について

資料 2023 理④ - 17 が提示され、鈴木業務執行理事より 2023 年 10 月末までの予算・実績対比表について報告があり、内容を確認した。7 月末時点の経常収益は 3,658,825 円、経常費用計は 2,578,398 円であった。

b) SC 13 上田会議報告

資料 2023 理④ - 18 及び - 19 が提示され、鈴木業務執行理事より上田会議及び上田会議の収支について報告があった。上田会議における総収入額は 319,000 円、総支出額

は 1,783,386 円であった。

c) 研修会報告

資料 2023 理④ - 20 が提示され、鈴木業務執行理事より研修会の収支について報告があった。研修会における総収入額は 390,000 円、総支出額は 504,582 円であった。研修会報告書については次回理事会で確認することとなった。

d) 事業計画(案)について

資料 2023 理④ - 21 が提示され、鈴木業務執行理事より事業計画(案)について説明があった。理事会等の候補日については、別途メール審議を行うことになった。

e) 中央労働災害防止協会 月刊誌「安全と健康」原稿 執筆依頼について

資料 2023 理④ - 22 が提示され、鈴木業務執行理事より、中災防からの執筆依頼について説明があった。来年 11 月に掲載予定で、防護服をテーマとして執筆依頼を行う予定である。

f) 理事長(代表理事)、業務執行理事 職務執行報告

1) ISO/TC 94/SC 13 活動報告

資料 2023 理④ - 23 が提示され、統括事務局より、ISO/TC 94/SC 13 活動報告について説明があった。

2) 展示会 参加報告

統括事務局より、RISCON TOKYO 危機管理産業展 2023、産業保健フォーラム IN TOKYO2023、神奈川県産業資源循環協会 第 13 回安全衛生大会への展示協力について報告があった。

3) 日本保安用品協会 「保護具ポケットブック」の改訂について

統括事務局より日本保安用品協会より「保護具ポケットブック」の改訂依頼について説明があった。統括事務局でアップデートがないかを確認し、回答することとした。

4) 令和 5 年度マスク等国内生産・輸入実態把握調査について

統括事務局より、令和 5 年度マスク等国内生産・輸入実態把握調査について説明があった。本年も昨年同様、会員へ案内し、調査へ協力することとした。

6. 配布資料：

2023理④-1	2023 年度 第 3 回 理事会 議事録(案)
2023理④-2	2023 年度 第 1 回 臨時理事会 議事録(案)
2023理④-3	2023 年度 入退会報告書(案)
2023理④-4	大阪樟蔭女子大学 谷様 入会申込書、WG 登録申込書等
2023理④-5	株式会社カネカ 入会申込書、登録申込書、パンフレット
2023理④-6	セーフラン安全用品株式会社 入会関連資料、登録申込書、パンフレット
2023理④-7	川本産業株式会社 退会届
2023理④-8	高階救命器具株式会社 退会届
2023理④-9	運用規程 改正案(テクニカルアドバイザー追記)
2023理④-10	様式 1 入会申込書 改正案
2023理④-11	様式 3 退会届 改正案
2023理④-12	様式 4 登録申込書 改正案
2023理④-13	第 21 回学術総会 開催案内(案)

- 2023理④-14 第 21 回学術総会 収支予想
- 2023理④-15 第 21 回学術総会 プログラム(案)
- 2023理④-16 ISO 国際会議通訳費 見積書
- 2023理④-17 2023 年度 会計報告(案) 10 月末時点
- 2023理④-18 SC13 上田会議 報告書
- 2023理④-19 SC13 上田会議 収支報告書
- 2023理④-20 2023 年度 研修会 収支報告書
- 2023理④-21 2024 年度 事業計画(案)
- 2023理④-22 月刊誌「安全と健康」原稿 執筆依頼について
- 2023理④-23 第 75 回 ISO/TC94 国内審議委員会 SC13 活動報告書

以上をもって議案のすべてが終了したので、議長は 14 時 45 分、閉会を宣した。

2023 年 12 月 11 日
一般社団法人日本防護服協議会

4.6 一般社団法人日本防護服協議会 2023年度 第5回理事会 議事録

1. 日 時： 2024年1月23日（火） 15:00~17:00
2. 開催場所： アゼアス株式会社（〒111-0051 東京都台東区蔵前 4-13-7）
又はWeb参加(Microsoft Teams)
3. 出欠：（敬称略、順不同） 合計 11名 ※下線を引かれている方はWeb参加者
出席理事(8名)・・・朝比奈 智(アトム株)、深須 憲哉(旭・デュポン フラッシュスパン プロダクツ)、
鈴木 一裕(アゼアス株)、傳田 章(帝国繊維株)、鉄村 秀哉(帝人株)、加藤 正弘(ミドリ安全株)、山本 剛士(山本光学株)、篠原 克明(信州大学)
出席監事(1名)・・・利岡 健人(株シモン)
統括事務局(2名)・・・野原 由樹子、山田 彩
4. 定足数の確認等：
朝比奈理事長が、定足数の充足を確認し、本理事会が有効に成立する旨を宣し、議事進行役に鈴木業務執行理事を指名した。議題に入る前にリモート出席者の音声が即時に他の出席者に伝わり、適宜的確な意思表示が互いにできる仕組みとなっていることが確認されたため、議題の審議に入った。
5. 議事概要：
 - (1) 決議事項
 - a) 入退会について
資料 2023 理⑤ - 2~4 が提示され、鈴木業務執行理事より、メディテックジャパン株式会社及びセーフラン安全用品株式会社の入会希望について、個人会員の山田晃也氏の退会について、個人会員の山内正剛氏の会員種別変更（個人→特別）について、説明があり、異議なく承認された。
また、個人会員の松村芳美氏のご逝去について報告があった。前回理事会後の法人会員企業内の新規登録委員は5名、登録抹消委員は6名であった。
 - b) 主査の選任について
資料 2023 理⑤ - 5 が提示され、鈴木業務執行理事より、WG 5 主査の山田晃也氏の退会により、主査が不在となる為、後任として若月薫氏が就任することが主査幹事ミーティングにて提案があった旨の説明があり、異議なく承認された。
 - c) 主査、幹事の立候補について（2024年4月～）
資料 2023 理⑤ - 6 が提示され、鈴木業務執行理事より、2024年4月以降の主査幹事への立候補について説明があった。立候補者が複数名いたWG 2については、幹事は辻氏に、WG 2の主査は若月氏に依頼することとした。他に、WG 5の主査についても若月氏に依頼することとした。立候補が無かったWGの主査幹事については、現行の主査幹事へ依頼する。
なお、WG 5主査、幹事については、主査に森林総合研究所鹿島先生、幹事にミドリ安全株式会社山田氏を推薦することを前WG 5主査山田晃也氏より提案があり、事務局

で引き受けて頂けるかの確認をしている。派遣費等の兼ね合いがあり、金銭支払いが発生することについて、他の主査と差が出てしまうため、慎重に検討すべきとの意見があった。

審議の結果、各 WG で検討のうえ、主査幹事が不在となる場合は、投票案件により他の WG が引き受ける可能な案件については他の WG で代行し、他 WG でできないものについては、事務局預かりとし審議に参加せず棄権投票することとした。

d) 運用規定改訂（案）について

資料 2023 理⑤ - 7 が提示され、鈴木業務執行理事より、「会員の厳守事項」の項目が追加された運用規定改正案について説明があり、異議なく承認された。

e) 様式改正について（様式 1-入会申込書、様式 2-退会届）

資料 2023 理⑤ - 8,9 が提示され、鈴木業務執行理事より、各様式の変更点について説明があった。前回理事会で提案があった、入会目的やきっかけ、退会理由等を記載する欄を追記し、異議なく承認された。

また、併せて入会申込書に対して、入会承諾書があった方が良いとの意見があった為、次回理事会の決議事項とし、その間までに新たな入会希望があった場合、書面審議することとした。

f) 学術総会に関する最終確認（講師への謝金、交通費、役割分担等）

2024 年 2 月 27 日開催予定の 2023 年の学術総会についての計画、予算についての説明があった。

鈴木業務執行理事より次年度以降の参加費について、費用が高いため、参加者数を増やすことの検討が必要ではないかの意見があり、今後の理事会で審議することとした。また、学術総会の内規についての改定について、事務局より WEB のみ開催の場合の記載があったが、同内容の文言削除する内容で改訂したい旨の説明があり、承認された。

g) 通訳費の補助について

2024 年 1 月度理事会にて WG1 にて通訳費の拠出願いが口頭であったことについて、書面にて提出された。通訳する方の専門知識を鑑みて、委員に対し正確な翻訳が担保できることが、通訳利用の最低条件であるため、通訳者の人選も決裁に係る重要な要点である、他の WG でも通訳依頼があった場合に同様に通訳費拠出を求められるため、費用対効果で大きな利点の提示が必要であると意見があった。

通訳については事前に資料を渡しておき、事前確認をしてもらえる者であること、会議参加歴の確認をすることが好ましいと意見があった。

審議の結果、本理事会で提出された依頼文については、WG で再度審議したうえで再提出する場合は書面審議することとした。

(2) 審議及び報告事項

a) 理事・監事ミーティング報告について

第 1 回、第 2 回の理事監事ミーティングの議事録について説明があった。

- ・ 現課題の優先事項は理事長候補を定め、内諾いただくこと
- ・ 理事長職の他に副理事長の職を新たに設ける案

- ・ 理事長、副理事長、業務執行理事での役付理事の体制案
- ・ 理事会の活性化のための新理事への勧誘

また、ミーティングにて確認することとした、各社理事長候補となることの可否について、本日参加理事、監事に確認したが、確認中または引き受け不可の回答のみであった。

審議の結果、各社で理事長候補、副理事長となることの可否、役付理事の体制案について、期日を定め各理事に書面で確認することとし、立候補なき場合は、理事会等を追加開催し互選、抽選し理事長候補、副理事長候補を定めることとした。

b) 2023 年度会計報告(案)について

資料 2023 理⑤ - 18 が提示され、鈴木業務執行理事より 2023 年 12 月末までの予算・実績対比表について報告があり、内容を確認した。12 月末時点の経常収益は 3,899,825 円、経常費用計は 3,483,192 円であった。

c) 2023 年度事業報告(案) について

資料 2023 理⑤ - 19 が提示され、鈴木業務執行理事より 2023 年度活動報告(案) について説明があった。

d) 2024 年度事業計画(案) について

資料 2023 理⑤ - 20 が提示され、鈴木業務執行理事より 2024 度の事業計画、定時総会、理事会等の日程について説明があった。

・ 定時総会 : 2024/6/25

・ 理事会 : 2024/4/25、6/25、9/25、11/28、2025/1/24、3/26

・ ISO 国際会議 : 9/8-13

e) 2024 年度予算(案) について

資料 2023 理⑤ - 21 が提示され、統括事務局より 2024 年度予算(案) について説明があった。例年と同様の予算案ではあるが、懇親会費用等の科目変更の他、機械翻訳サービス追加、見学会(研修会)での貸し切りバス費用追加、国際会議の通訳費用、委員長派遣費用の追加、防護服協議会の事務に係る交通費の追加等である。

内容精査し次回理事会にて最終の予算案を提示することとなった。

f) 2024 年度研究会(講演テーマ、講師等)について

2024/6/25 定時総会同日の開催予定の候補について審議があった。

朝比奈理事より、厚生労働省化学物質対策課実長代理平川氏へ「化学物質の自主的管理」について 90 分講演にて依頼を行う。依頼承諾後、事務局にて調整を行う。

g) 2024 年度見学会(研修会)の実施可否及び見学先候補について

鈴木業務執行理事より、見学会(研修会)について、例年は日帰りと宿泊を交互に研修会を行っており、コロナによる中止もあったが、例年参加者が減少しており、参加費も高く会員のメリットとなるような見学先の選定ができるかどうか、できないのであれば、開催自体の見送りの検討が必要があるかと思い、実施可否と記載したとの説明があった。次回の理事会で時間を取り、2024 年度以降の研修会の企画について審議することとした。

h) 理事長（代表理事）、業務執行理事 職務執行報告

① セイフティダイジェスト誌への原稿執筆依頼について

（2024年5月号「Q&A 防護服」）

事務局よりセイフティダイジェスト5月号に防護服に関するQ&Aの執筆依頼があり、例年過去のQ&Aの修正を執筆しており、昨年のセイフティダイジェストに化学防護服の透過と浸透を掲載したばかりであることの説明があった。

審議の結果WG3幹事磯田氏が「経皮障害等防止用保護具の選定マニュアル」を補完する内容で化学防護服のQ&Aを執筆することとした。

その他

協議会の魅力度向上について、理事会、作業部会共にリソース不足をしている中、どの様に魅力度を高めるかの検討が必要でないかと課題提議があった。

当会の活動は会員外に認知されていないため、本年の法改正に合わせた「リスクアセスメント」「保護具着用管理責任者」「化学物質の自主的管理」の一貫した教育をユーザーは課題認識しており、同内容であれば厚生労働省化学物質対策課の方が講師をすることもあり得る、企画組立ができるのであれば有効的ではないかと意見があった。ユーザーが求めているのは実務に関連する教育ではないかとの意見があった。

また、事務局よりJIS T8008（防護手袋の一般要求事項）、T8125-3, 4（チェーンソー防護）についてJIS発行の見込みがある説明会を行うべきか確認があり、JIS T8008よりJIS T8119が興味をひきやすいのではないかと、説明会については手袋にスポットが当たっており企画することは良いのではないかと意見があった。

6. 配布資料：

2023理⑤-1	2023年度 第4回 理事会 議事録(案)
2023理⑤-2	2023年度 入退会報告書(案)
2023理⑤-3	株式会社メディテックジャパン 入会申込書、登録申込書、HP資料
2023理⑤-4	山田晃也 氏 退会届
2023理⑤-5	主査幹事ミーティング議事録
2023理⑤-6	主査幹事 立候補者一覧
2023理⑤-7	運用規程 改正案
2023理⑤-8	様式1 入会申込書 改正案
2023理⑤-9	様式3 退会届 改正案
2023理⑤-10	第21回学術総会 開催案内、プログラム
2023理⑤-11	第21回学術総会 参加者一覧
2023理⑤-12	第21回学術総会 収支予想
2023理⑤-13	第21回学術総会 役割分担
2023理⑤-14	第21回学術総会 シナリオ
2023理⑤-15	学術総会 内規(案)
2023理⑤-16	12/21 理事監事ミーティング議事録(案)
2023理⑤-17	1/15 理事監事ミーティング議事録(案)
2023理⑤-18	2023年度 会計報告(案) 12月末時点
2023理⑤-19	2023年度事業報告案
2023理⑤-20	2024年度事業計画案

- 2023理⑤-21 2024 年度予算案
- 2023理⑤-22 セイフティダイジェスト誌への原稿執筆(防護服 Q&A/2024 年 5 月号)
- 2023理⑤-23 Q&A 題材履歴
- 2023理⑤-24 防護服の ISO 国際会議への通訳サービスの依頼について

以上をもって議案のすべてが終了したので、議長は 17 時 00 分、閉会を宣した。

2024 年 1 月 26 日
一般社団法人日本防護服協議会

4.7 一般社団法人日本防護服協議会 2023 年度 第 6 回理事会 議事録

1. 日 時： 2024 年 3 月 26 日（火） 14：00～17：00
2. 開催場所： アゼアス株式会社（〒111-0051 東京都台東区蔵前 4-13-7）
又は Web 参加 (Microsoft Teams)
3. 出欠：（敬称略、順不同） 合計 12 名 ※下線を引かれている方は Web 参加者
出席理事(9 名)・・・朝比奈 智(アトム株)、深須 憲哉(旭・デュポン フラッシュスパン プロダクツ)、
鈴木 一裕(アゼアス株)、三橋 卓也((一財)カケンテストセンター)、池田 靖
(株)重松製作所)、傳田 章(帝国繊維株)、鉄村 秀哉(帝人株)、加藤 正弘(ミドリ安全株)、篠原 克明(信州大学)
出席監事(1 名)・・・関口 勝美(株)アルバーネット)
統括事務局(2 名)・・・磯田 実、山田 彩
4. 定足数の確認等：
朝比奈理事長が、定足数の充足を確認し、本理事会が有効に成立する旨を宣し、議事進行役に鈴木業務執行理事を指名した。議題に入る前にリモート出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、適宜的確な意思表示が互いにできる仕組みとなっていることが確認されたため、議題の審議に入った。
5. 議事概要：
 - (1) 決議事項
 - a) 2024 年度定時総会について
資料 2023 理⑥-2 が提示され、鈴木業務執行理事より、来年度の定時総会の開催日時、開催場所及び開催方法が次のとおり提案され、異議なく承認された。
 - ・ 開催日時：2023 年 6 月 27 日(火) 13:30～14:15
 - ・ 開催場所：台東区民会館 第 5 会議室
 - ・ 開催方法：対面式（※台東区民会館のWifiを借りて Web 視聴もできるようにするが、回線が不安定になったり途中で途切れたりして審議が成立しなくなる可能性があることから、Web 参加者からは事前に委任状又は議決権行使書を提出いただくこととした。）
 - ・ 議 題：【決議事項】
 - 第一号議案 2023 年度決算の承認
 - 第二号議案 理事の改選【報告事項】
 - 2023 年度事業報告及び附属明細書
 - 2024 年度事業計画及び予算について
 - 入退会報告
 - ISO/TC94/SC13/WG 主査・幹事の紹介
 - 2023 年度及び 2024 年度 ISO 投票報告

招集通知は法人個人会員宛にメールにて送付することとし、当日欠席予定の会員の議決権行使についても、昨年同様、書面による議決権行使又は代理人による議決権行使とする。

b) 役員改選期の役員の選出方法及び候補者について

資料 2023 理⑥-3 が提示され、鈴木業務執行理事より、当協議会の従来の役員（理事及び監事）候補者の選出方法について説明があった。審議の結果、2024 年度も、従来通り、協議会会員に役員の候補を募り、選任投票を行うこととした。

役員候補は、事前の受付とし、あらかじめ立候補した方のみ受け付け、原則、定時総会当日の受付はしない旨を明記して立候補者を募集することとした。

4 月に入ったら立候補者を募り、2 週間程で立候補を締め切り、次回理事会にて、理事会として推薦する役員候補者を明確にすることとした。定時総会には、理事会で作成した役員候補者一覧を議案として提示することとした。

c) 役付理事会体制について

鈴木業務執行理事より、役付理事会体制について説明があった。事前に行ったアンケートの結果は下記のとおりであった。

(A) 理事長 1 名 + 業務執行理事 1 名 < 2 票 >

(B) 理事長 1 名 + 副理事長 2 名 + 業務執行理事 1 名 < 1 票 >

(C) 理事長 1 名 + 副理事長 1 名 + 業務執行理事 1 名 < 5 票 >

他(B または C として理事長がいずれかを選択する) < 1 票 >

なお、副理事を設置する場合には定款の変更が必要となる。

また、鈴木業務執行理事より、現状は ISO 及び JIS 規格の審議に係る事業に重点を置いているが、今後の事業案として、ユーザーやメーカーへの防護服の普及活動、説明会やセミナー等のユーザーへの啓発活動に活動の重点をシフトしてはどうかとの提案があった。篠原理事より、当会の事業をどのように発展させるかを検討する委員会の立ち上げ、及びその委員会参加者を会員から募集してはどうか、との提案があり、審議の結果、鈴木業務執行理事が委員募集案作成を検討することとした。

また、来年度の総会時の役員改選に向け、現理事の再任について確認を行った。現理事長の朝比奈氏が 6 月で任期満了であり、次期理事長候補及び副理事長職の追加について審議を行ったが、結論がでなかった為、次回に持ち越しとなった。

d) 2024 年度主査・幹事の選任について

資料 2023 理⑥-4 が提示され、鈴木業務執行理事より、2024 年度の主査・幹事について主査幹事会議での審議結果について、説明があった。

WG 1 主査 篠原氏 / WG 1 幹事 野原氏(事務局預かり:磯田氏)

WG 2 主査 若月氏 / WG 2 幹事 辻氏

WG 3 主査 稲井氏 / WG 3 幹事 磯田氏

WG 5 事務局預かり

WG 6 主査 篠原氏 / WG 6 幹事 磯田氏

WG 8 主査 稲井氏 / WG 8 幹事 森下氏

WG 5 については、候補者が不在の為、事務局預かりとなった。事務局預かりの場合は、投票

案件等がきた際には、他の WG の主査幹事が引き受け可能な案件については代行し、他 WG 主査幹事で引き受け不可の案件については、該当 WG 登録会員向けに通知、意見照会しを行い、意見が無ければ棄権投票することとなる。

また、ISO TC 94/SC 13 国内審議分科委員会の委員長が不在であった件について、篠原氏に引き受けていただくこととなった。

e) 入退会の承認について

資料 2023 理⑥-5~7 が提示され、鈴木業務執行理事より、IA ミント株式会社/多々清爾氏の個人会員入会希望について、一般財団法人ニッセンケン品質評価センターの退会について、説明があり、異議なく承認された。また、一般財団法人カケンテストセンターの三橋卓也氏について、3 月末で退社する為、4 月以降は個人会員として改めて入会いただき、理事を継続していただくこととなった。

前回理事会後の法人会員企業内の新規登録委員は 6 名、登録抹消委員は 4 名であった。

f) 様式改正について(様式 5-入会承諾書) ⇒資料:理⑥-8

資料 2023 理⑥-8 が提示され、鈴木業務執行理事より、新様式である様式-5 入会承諾書について説明があり、異議なく承認された。

(2) 審議及び報告事項

a) 第 21 回 学術総会報告について ⇒資料:理⑥-9~12

資料 2023 理⑥-9~12 が提示され、鈴木業務執行理事より、第 21 回学術総会について報告があった。参加者数は総計(講師等含む)93 名(現地 71 名、WEB 22 名)、その内有料参加者は 75 名であった。総収入額は 779,300 円、総支出額は 538,164 円であった。

アンケート結果を参考にし、利便性及び参加者からの感想も良かったので、来年度の開催場所についても、本年度と同じ、浅草橋ヒューリックカンファレンスで行うこととした。

b) 2024 年度研究会について ⇒資料:理⑥-2

資料 2023 理⑥-2 が提示され、鈴木業務執行理事より、来年度第 99 回研究会について説明があった。厚生労働省の平川氏へ「皮膚障害等防止用保護具の選定マニュアルの活用」について、90 分講演にて講演依頼書を送付済である。講演時間には質疑応答時間も含めることとした。

c) 2024 年度研修会について

来年度の研修会実施案について審議を行った。

候補案: グンゼ博物苑、富岡製糸場、農業生物資源研究所、京都工芸繊維大学、日本大学生物資源科学部博物館 等

次回まで候補地について精査し、理事会にて再度審議を行う。

d) 2023 年度会計報告(案)について

資料 2023 理⑥-13 が提示され、鈴木業務執行理事より 2024 年 2 月末までの予算・実績対比表について報告があり、内容を確認した。2 月末時点の経常収益は 4,749,079 円、経常費用計は 4,031,660 円であった。

e) 2023 年度事業報告(案)について

資料 2023 理⑥-14 が提示され、鈴木業務執行理事より、前回理事会以降に修正した箇所に

について説明があり、内容を確認した。次回の理事会で最終版を確認し確定とする。

f) 2024 年度事業計画(案) について

資料 2023 理⑥-15 が提示され、鈴木業務執行理事より、前回理事会以降に修正した箇所について説明があり、内容を確認した。次回の理事会で最終版を確認し確定とする。

g) 2024 年度予算(案) について ⇒資料:理⑥-16

資料 2023 理⑥-16 が提示され、鈴木業務執行理事より、前回理事会以降に修正した箇所について説明があり、内容を確認した。昨今の状況を鑑み、海外派遣費及び通訳費について、再度精査し、次回の理事会で最終版を確認し確定とする。

h) 理事長(代表理事)、業務執行理事 職務執行報告

① 協議会 HP 会員専用ページのパスワード変更について

鈴木業務執行理事より、協議会 HP 会員専用ページのパスワード変更について、来年度も更新することの報告があった。

② 保護具着用管理者テキスト謝金(防護服)について

資料 2023 理⑥-15 が提示され、鈴木業務執行理事より、「保護具着用管理責任者教育テキスト」原稿作成に対する協力謝金として、1,318 千円が公益社団法人日本保安用品協会より入金予定であることの報告があった。

6. 配布資料 :

- 2023理⑤-1 2023 年度 第 4 回 理事会 議事録(案)
- 2023理⑤-2 2023 年度 入退会報告書(案)
- 2023理⑤-3 株式会社メディテックジャパン 入会申込書、登録申込書、HP 資料
- 2023理⑤-4 山田晃也 氏 退会届
- 2023理⑤-5 主査幹事ミーティング議事録
- 2023理⑤-6 主査幹事 立候補者一覧
- 2023理⑤-7 運用規程 改正案
- 2023理⑤-8 様式 1 入会申込書 改正案
- 2023理⑤-9 様式 3 退会届 改正案
- 2023理⑤-10 第 21 回学術総会 開催案内、プログラム
- 2023理⑤-11 第 21 回学術総会 参加者一覧
- 2023理⑤-12 第 21 回学術総会 収支予想
- 2023理⑤-13 第 21 回学術総会 役割分担
- 2023理⑤-14 第 21 回学術総会 シナリオ
- 2023理⑤-15 学術総会 内規(案)
- 2023理⑤-16 12/21 理事監事ミーティング議事録(案)
- 2023理⑤-17 1/15 理事監事ミーティング議事録(案)
- 2023理⑤-18 2023 年度 会計報告(案) 12 月末時点
- 2023理⑤-19 2023 年度事業報告案
- 2023理⑤-20 2024 年度事業計画案
- 2023理⑤-21 2024 年度予算案
- 2023理⑤-22 セイフティダイジェスト誌への原稿執筆(防護服 Q&A/2024 年 5 月号)
- 2023理⑤-23 Q&A 題材履歴
- 2023理⑤-24 防護服の ISO 国際会議への通訳サービスの依頼について

以上をもって議案のすべてが終了したので、議長は 17 時 00 分、閉会を宣した。

2024 年 4 月 3 日

一般社団法人日本防護服協議会

5. 一般社団法人日本防護服協議会 第98回研究会 報告書

日 時: 2023年6月27日(火) 14:30~16:50

場 所: 台東区民会館 9階 特別会議室(大)及び Web にて開催(Microsoft Teams を使用)

参加者: 69名

演目1: 「新たな化学物質管理」(保護具着用管理責任者について)

演者: 厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 化学物質対策課 環境改善・ばく露対策室長

平川 秀樹 氏

講演内容概略

1. 改正の概要
2. 化学物質管理体制の見直しについて
3. 化学物質の自律的な管理体制の確立
4. 化学物質管理者、保護具着用管理責任者の選任
5. SDS等による化学物質の危険・有害性に関する情報伝達の強化

演目2: 「消防における除染について」

演者: 株式会社重松製作所 濱田 昌彦 氏

講演内容概略

1. テレビ出演を通じた情報の発信。
2. 米国でのレベル A 防護服の再定義「RETHINK LEVEL A」。
3. 消防庁マニュアル改定。
4. 現場での除染、実際の現場で使用される装備、運用。
5. 実際の運用(地下鉄サリン事件等)。

以上

文責(磯田 実)

6. 2023 年度 一般社団法人日本防護服協議会 研修会報告

一般社団法人日本防護服協議会では下記のとおり研修会を実施しました。

日 時 2023 年 11 月 9 日(木)、10 日(金)

見学先 1)理化学研究所 放射光科学研究センター
SPring-8、SACLA(兵庫県佐用郡)
2)旭化成株式会社 水島製造所(岡山県倉敷市)

参加者 会社名・氏名(順不同、敬称略)

所属名	氏名
旭化成アドバンス株式会社	福田 幹人
旭・デュポン フラッシュスパン プロダクツ株式会社	深須 憲哉
旭・デュポン フラッシュスパン プロダクツ株式会社	中島 和幸
アゼアス株式会社	鈴木 一裕
アゼアス株式会社	磯田 実
アゼアス株式会社	岩崎 亮太郎
アゼアス株式会社	大畠 卓真
株式会社重松製作所	鈴木 貴昌
国立大学法人信州大学繊維学部	篠原 克明
帝人株式会社	岡村 脩平
ミドリ安全株式会社	石井 良和
山本光学株式会社	山本 剛士
山本光学株式会社	澤野 倫宣
	稲井 巡

以上 8 社 14 名

見学スケジュール

1 日目 2023 年 11 月 9 日(木)

- 12:30 姫路駅南口観光バス乗降場 集合
- 13:30 理化学研究所放射光科学研究センター到着
 - | SPring-8、SACLA の見学
 - | ・ SPring-8 及び SACLA の施設ガイダンス
 - | ・ 同上施設の見学
- 15:00 見学終了 倉敷までバス移動

17:00 宿泊先到着後懇親会

2日目 2023年11月10日(金)

09:00 宿泊地出発

10:00 旭化成株式会社 水島製造所 到着

| ・ 会社概要、事業所取組ガイダンス

| ・ 構内の見学

11:00 旭化成株式会社 水島製造所 見学終了 倉敷に向け出発

11:40 倉敷駅着 解散

見学内容

1) 理化学研究所 放射光科学研究センター

Spring-8、SACLA

兵庫県佐用郡 播磨科学公園都市に立地。

理化学研究所 放射光科学研究センターは、世界最高性能の放射光を生み出すことができる大型放射光施設 SPring-8 と X 線自由電子レーザー施設 SACLA の研究、開発、運営をしております。同施設は国内外の産学官の研究者等に開かれた共同利用施設で、放射光を大学、公的研究機関や企業等のユーザーに提供し、課題申請などの手続きを行い、採択されれば、誰でも利用することができ、施設運営については施設者である国立研究開発法人理化学研究所(理研)、利用者選定業務及び利用者支援業務は公益財団法人高輝度光科学研究センターが行っています。

・放射光とは、電子を光とほぼ等しい速度まで加速し、磁石によって進行方向を曲げた時に発生する、細く強力な電磁波のことで、SPring-8 では、この放射光を用いてナノテクノロジー、バイオテクノロジーや産業利用まで幅広い研究がおこなわれている。

・SACLA は SPring-8 レベルの X 線では原子や分子の瞬間的な動きや変化を観測することが不向きであり、その点を解消するため電波強度を高めるためレーザーにして、瞬間的な原子や分子の動きが捉えることを可能とした X 線自由電子レーザー(XFEL)施設。

・施設名称の由来は、SPring-8 は Super Photon ring-8 GeV(80 億電子ボルト)、SACLA は SPring-8 Angstrom Compact Free Electron Laser。

今回の見学はセンター内放射光普及棟にて施設概要、放射光及び活用事例について説明を受けたのち、実際の試験施設の見学で SACLA 実験研究棟の見学者通路からの試験室、SPring-8 については蓄積リング棟内部の研究室エリアでの見学をおこなった。

2) 旭化成株式会社 水島製造所

岡山県倉敷市の水島コンビナートの B 地区と C 地区に合計敷地面積 140 万平米で立地

同社到着後、講堂にて水島総務部 総務グループ津崎様より、会社及び事業所概要、同事業所がスチレンモノマー、アクリロニトリル、シクロヘキサノールなどの基礎化学原料の製造をしている工場である事などについての説明を受け、続けて製造所における防災体制についてご担当者様より説明があった。

・環境安全部 安全グループ長 小野様

水島製造所における保安防災について、高圧ガス特定認定(スーパー認定)取得に向けた防護階層解析、プロセスハザードベース型訓練、第三者の知見活用等の具体的取り組み事例や、化学物資の取り扱いにおけるリスクアセスメントとして実施している爆発火災対応、防護服等の保護具の活用、水島コンビナート地区保安防災協議会等々の取り組みについて説明があった。

・企画管理部 企画管理グループ主査 緒方様

水島製造所におけるデジタル技術を活用した配管の保温材下の外面腐食の予想モデルの高度化、有毒ガス漏洩時の避難支援システムについての説明があった。

・環境安全部 防災グループ長 柏木様

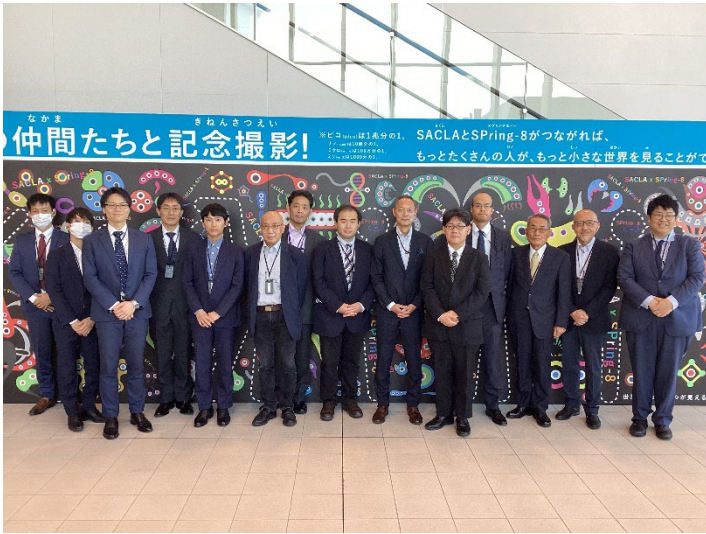
水島製造所の防災体制について説明があった。具体的には、事業所内の防災体制の構築の他、水島コンビナート地区の近隣企業27企業が加盟する「水島コンビナート地区保安防災協議会」に加盟し、災害発生時に共同防災隊として防災活動を行う事や、水島コンビナート地区の近隣企業60企業が加盟する「水島港湾災害対策協議会」に加盟し海上災害の対応を行う事の説明があった。

事業所や各種取組についてのご講演の後、バス乗車のうえ B 地区と C 地区にある同社事業所のうち B 地区構内の見学を実施した。

旭化成(株)水島製造所は一般への見学を受け付けており、通常の見学では事業所説明のみ実施しているが、今回ご講演いただいた防災に関する取り組み内容については通常の見学では実施しておらず、会員会社の旭・デュポン フラッシュスパン プロダクツ(株)のご厚意により講演傍聴が実現できたことを改めて深く感謝する。

今回の見学会はこの数年間の新型コロナウイルス感染症蔓延により開催中止としていたが、同感染症の脅威が少なくなり、久しぶりの遠方での研修会開催が無事開催でき、有意義な見学会が実施することができた。

以上
(文責 鈴木 一裕)



理化学研究所 放射光科学研究センター SAKULAにて



旭化成株式会社 水島製造所にて

7. 一般社団法人日本防護服協議会 第21回学術総会 報告書

1. 日 時：2024年2月27日(火)10:00~16:30
2. 場 所：浅草橋ヒューリックホール&カンファレンス 3階 ROOM1
3. 参加者数：93名(現地71名/WEB22名) ※講師その他含む
4. 議事概要：

はじめに、朝比奈 智理事長及び厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 化学物質対策課 環境改善・ばく露対策 室長の平川 秀樹氏から開会の挨拶があり、司会は三橋卓也理事が務めた。

第1部は、当協議会 WG 1~WG 8 の各幹事から、防護服関連の国際規格及び JIS 規格の動向について報告があった。

特別講演は 4 名からご講演いただいた。独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 化学物質情報管理研究センター 豊岡 達士氏からは、経皮ばく露が問題となる化学物質の特性や皮膚吸収性有害物質の特性について、労働安全衛生規則において規定された「皮膚等障害化学物質」の一部を構成する「皮膚吸収性有害物質」について、ご講演いただいた。

株式会社重松製作所 営業本部 マーケティング部 企画部長 渡邊 雅之氏からは、令和6年4月1日から、皮膚等障害化学物質の製造・取扱い時に、不浸透性の保護具の使用が義務化されるにあたり、化学防護手袋の選択上のポイント及び化学防護手袋の使用上のポイントについてご講演いただいた。

一般財団法人カケンテストセンター 総務部 サステナブル推進室 室長 藤田 一馬氏からは、LCA の概要とその活用方法について、環境負荷削減に向けた取り組みや品質・安全性能と環境負荷削減のバランスについてご講演いただいた。

信州大学繊維学部 化学・材料学科 応用分子化学コース 教授 西井 良典氏からは、フェロモントラップを指向した拡散システムの構築についてご講演及び、抗ウイルス活性化化合物ニランシンの不斉環境と構造活性相関についてご紹介いただいた。

最後に、鈴木 一裕業務執行理事から閉会の挨拶があった。



5. プログラム

演 題	演 者
開会挨拶	理事長 朝比奈 智
	厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 化学物質対策課 環境改善・ばく露対策 室長 平川 秀樹
第1部 防護服に関する国際規格と国内の動向 ISO/TC 94(個人安全-個人用保護具)/SC 13(防護服)関連	
WG 1 防護服の一般特性	WG 1 幹事 アゼアス株式会社 野原 由樹子
WG 2 熱及び火炎に対する防護服 WG 5 機械的作用に対する防護服	WG 2 幹事、WG 5 幹事 一般財団法人カケンテストセンター 辻 創
WG 3 化学物質に対する防護服 WG 6 生物学的危険物質に対する防護服	WG 3 幹事、WG 6 幹事 アゼアス株式会社 磯田 実
WG 8 防護手袋	WG 8 幹事 アトム株式会社 森下 哲樹
特別講演 1	
経皮ばく露が問題となる化学物質の 特性や皮膚吸収性有害物質について	独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 化学物質情報管理研究センター 有害性評価研究部 上席研究員 豊岡 達士
特別講演 2	
化学防護手袋について	株式会社重松製作所 営業本部 マーケティング部 企画 部長 渡邊 雅之
特別講演 3	
LCA の概要とその活用方法について	一般財団法人カケンテストセンター 総務部 サステナブル推進室 室長 藤田 一馬
特別講演 4	
防護服やフェロモントラップを 指向した拡散システムの構築	信州大学繊維学部 化学・材料学科 応用分子化学コース 教授 西井 良典
閉会挨拶	業務執行理事 鈴木 一裕

以上

8. 防護服に関連する ISO 規格及び JIS 規格一覧

8.1. 防護服に関連する ISO 規格及び

対応する JIS 規格一覧、

並びに JIS 化促進計画

8.2. 防護服に関連する JIS 規格及び

対応する ISO 規格一覧

8.1. 防護服に関連するISO規格及び対応するJIS規格一覧、並びにJIS化促進計画

2024/5/30時点

WG	ISO規格番号	ISO規格タイトル (ISO規格タイトルの日本語訳)	対応JIS規格番号	JIS公募区分 制定/改正 (原案作成作業 開始時期)
1	ISO 11610:2023	Protective clothing – Vocabulary (防護服－用語)		
1	ISO 13688:2013 ISO 13688:2013 /Amd 1:2021	Protective clothing – General requirements (防護服の一般要求事項) Amendment 1 (追補 1)	JIS T 8005:2023 (MOD)	
1	ISO/TR 19382 (審議中)	Protective clothing – Guidelines of human validation for comfort evaluation during practical performance tests (防護服 – 実用性能試験における快適性評価のための人による検証のガイドライン(仮訳))		
1	ISO 20471:2013 ISO 20471:2013 /Amd 1:2016	High visibility clothing – Test methods and requirements (高視認性衣服 – 試験方法及び要求事項) Amendment 1 (追補 1)	JIS T 8127:2020 (MOD)	
1	ISO/CD 23762(ペン ディング)	Protective clothing – Enhanced visibility clothing for medium risk situations – Test methods and requirements (中リスクレベル用視認性衣服の性能要求事項及び試験方法(仮訳))		
1	ISO/FDIS 24231 (審議中)	Protective clothing – Protection against rain – Test method for ready-made garments against high-energy droplets from above (防護服 – 降雨に対する防護 – 上方からの大量の液滴に対する完成品試験方法(人工降雨試験)(仮訳))		
1	ISO/DIS 24232 (審議中)	Protective clothing – Protection against rain (防護服 – 降雨に対する防護(仮訳))		
2	ISO/TR 2801:2007	Clothing for protection against heat and flame – General recommendations for selection, care and use of protective clothing (熱と火炎に対する防護服-防護服の選択、管理及び使用上の一般要求事項)	JIS T 8006:2020 (MOD)	
2	ISO 6942:2002 (旧版)	Protective clothing – Protection against heat and fire – Method of test: Evaluation of materials and material assemblies when exposed to a source of radiant heat (熱と火炎に対する防護服 – 放射熱暴露時の防護服材料の性能評価試験方法)	JIS T 8020:2020 (MOD)	2023区分D 改正予定 (2024/1～)
2	ISO 6942:2022	Protective clothing – Protection against heat and fire – Method of test: Evaluation of materials and material assemblies when exposed to a source of radiant heat (熱と火炎に対する防護服 – 放射熱暴露時の防護服材料の性能評価試験方法)	JIS T 8020:xxxx (審議予定)	
2	ISO 9150:1988	Protective clothing – Determination of behaviour of materials on impact of small splashes of molten metal (防護服 – 熔融金属の飛まつ(沫)に対する 防護服材料の測定方法)	JIS T 8025:2018 (MOD)	
2	ISO 9151:2016	Protective clothing against heat and flame – Determination of heat transmission on exposure to flame (熱と火炎に対する防護服 – 火炎暴露時の熱伝達測定方法)	JIS T 8021:2020 (MOD)	
2	ISO/CD 9185:2007	Protective clothing – Assessment of resistance of materials to molten metal splash (防護服 – 熔融金属に対する評価方法)	JIS T 8026:2018 (MOD)	
2	ISO 11611:2015	Protective clothing for use in welding and allied processes (溶接及び関連作業用防護服)	JIS T 8128:2018 (MOD)	2023区分D 改正予定 (2024/1～)
2	ISO /FDIS 11611 (審議中)	Protective clothing for use in welding and allied processes (溶接及び関連作業用防護服)	JIS T 8128:xxxx (審議予定)	

WG	ISO規格番号	ISO規格タイトル (ISO規格タイトルの日本語訳)	対応JIS規格番号	JIS公募区分 制定/改正 (原案作成作業 開始時期)
2	ISO 11612:2015	Protective clothing – Clothing to protect against heat and flame – Minimum performance requirements (熱及び火炎に対する防護服—性能要求事項)	JIS T 8129:2018 (MOD)	
2	ISO/DIS 11612 (審議中)	Protective clothing – Clothing to protect against heat and flame – Minimum performance requirements (熱及び火炎に対する防護服—性能要求事項)		
2	ISO 12127-1:2015	Clothing for protection against heat and flame – Determination of contact heat transmission through protective clothing or constituent materials – Part 1: Contact heat produced by heating cylinder (熱及び火炎に対する防護服—押圧熱伝達の測定—第1部:加熱シリンダーによる押圧熱伝達試験方法)	JIS T 8027-1:2018 (MOD)	
2	ISO 12127-2:2007	Clothing for protection against heat and flame – Determination of contact heat transmission through protective clothing or constituent materials – Part 2: Test method using contact heat produced by dropping small cylinders (熱と火炎に対する防護服—防護服及び構成材料の接触熱伝達性測定方法—パート2:小シリンダー落下の接触熱による試験方法)		
2	ISO 13506-1:2017	Protective clothing against heat and flame – Part 1: Test method for complete garments – Measurement of transferred energy using an instrumented manikin (熱及び火炎に対する防護服—第1部 完成品の試験方法—計装マネキンを使用したエネルギー伝達の測定)		
2	ISO/FDIS 13506-1 (審議中)	Protective clothing against heat and flame – Part 1: Test method for complete garments – Measurement of transferred energy using an instrumented manikin (耐熱及び耐火保護衣服—第1部:完全衣服の試験方法—計器を装備した人体模型を使用する伝達エネルギーの測定(仮訳))		
2	ISO 13506-2:2017	Protective clothing against heat and flame – Part 2: Skin burn injury prediction – Calculation requirements and test cases (熱及び火炎に対する防護服—第2部 皮膚火傷予測—計装マネキンを使用したエネルギー伝達の測定)		
2	ISO/FDIS 13506-2 (審議中)	Protective clothing against heat and flame – Part 2: Skin burn injury prediction – Calculation requirements and test cases (熱及び火炎に対する防護服—第2部 皮膚火傷予測—計装マネキンを使用したエネルギー伝達の測定(仮訳))		
2	ISO 14116:2015	Protective clothing – Protection against flame – Limited flame spread materials, material assemblies and clothing (熱と火炎に対する防護服 – 防護服及び材料の火炎伝ば性能要求基準)	JIS T 8130:2018 (MOD)	
2	ISO/DIS 14116 (審議中)	Protective clothing – Protection against flame – Limited flame spread materials, material assemblies and clothing (熱と火炎に対する防護服 – 防護服及び材料の火炎伝ば性能要求基準)		
2	ISO 14460:1999 ISO 14460:1999 /Amd 1:2002	Protective clothing for automobile racing drivers – Protection against heat and flame – Performance requirements and test methods (オートレーサー用耐熱耐炎用防護服-要求性能と試験方法) Modified flexion test (屈曲試験改正)		
2	ISO/DIS 14460 (審議中)	Protective clothing for automobile racing drivers – Protection against heat and flame – Performance requirements and test methods (オートレーサー用耐熱耐炎用防護服-要求性能と試験方法)		
2	ISO 15025:2016	Protective clothing – Protection against flame – Method of test for limited flame spread (熱と火炎に対する防護服-火炎伝ば性試験方法)	JIS T 8022:2020 (MOD)	
2	ISO 17492:2019	Clothing for protection against heat and flame – Determination of heat transmission on exposure to both flame and radiant heat (熱と火炎に対する防護服-火炎と放射熱の熱透過性試験方法)	JIS T 8024:2020 (MOD)	
2	ISO 17493:2016	Clothing and equipment for protection against heat – Test method for convective heat resistance using a hot air circulating oven (熱と火炎に対する防護服と装備-熱風循環炉を使用する対流耐熱性試験方法)	JIS T 8023:2020 (MOD)	

WG	ISO 規格番号	ISO規格タイトル (ISO規格タイトルの日本語訳)	対応JIS 規格番号	JIS公募区分 制定/改正 (原案作成作業 開始時期)
3	ISO 6529:2013	Protective clothing – Protection against chemicals – Determination of resistance of protective clothing materials to permeation by liquids and gases (防護服-化学物質に対する防護服-液体及びガス状化学物質に対する防護服材料の耐透過性試験方法)	JIS T 8030:2015 (MOD)	
3	ISO/CD 6529 (審議中)	Protective clothing – Protection against chemicals – Determination of resistance of protective clothing materials to permeation by liquids and gases (防護服-化学物質に対する防護服-液体及びガス状化学物質に対する防護服材料の耐透過性試験方法)		
3	ISO 6530:2005	Protective clothing – Protection against liquid chemicals – Test method for resistance of materials to penetration by liquids (防護服-液体化学物質に対する防護服-液体化学物質に対する防護服材料の耐浸透性試験方法)	JIS T 8033:2008 (MOD)	
3	ISO 13982-1:2004 ISO 13982-1:2004 /Amd 1:2010	Protective clothing for use against solid particulates – Part 1: Performance requirements for chemical protective clothing providing protection to the full body against airborne solid particulates (type 5 clothing) (固体粉じんに対する防護服-第1部:浮遊固体粉じんに対する微粒子防護用密閉服(タイプ5化学防護服)の性能要求事項) Amendment 1:2010 (追補1:2010)	JIS T 8124-1:2010 (MOD)	
3	ISO 13982-2:2004	Protective clothing for use against solid particulates – Part 2: Test method of determination of inward leakage of aerosols of fine particles into suits (固体粉じんに対する防護服-第2部:微粒子エアロゾルに対する全身化学防護服内部への漏れ率試験方法)	JIS T 8124-2:2008 (MOD)	
3	ISO 13994:2005 ISO 13994:2005 /Cor1:2006	Clothing for protection against liquid chemicals – Determination of the resistance of protective clothing materials to penetration by liquids under pressure (液体化学薬品に対する防護服-加圧下における防護服材料の耐液体浸透性試験) Technical corrigendum 1:2006 (正誤票1:2006)	JIS T 8031:2010 (MOD)	
3	ISO 16602:2007 ISO 16602:2007 /Amd 1:2012	Protective clothing for protection against chemicals – Classification, labelling and performance requirements (化学物質に対する防護服-分類、表示及び性能要求事項) Amendment 1:2012 (追補1:2012)	JIS T 8115:2015 (MOD)	
3	ISO/CD 16602-1 (審議中)	Protective clothing for protection against chemicals – Classification, labelling and performance requirements – Part 1: General (化学防護服 – 分類、表示及び性能要求事項 – 第1部 一般)		
3	ISO/CD 16602-2 (審議中)	Protective clothing for protection against chemicals – Classification, labelling and performance requirements – Part 2: Physical test methods, classification and requirements (化学防護服 – 分類、表示及び性能要求事項 – 第2部 物理強度試験方法、クラス分類及び性能要求事項)		
3	ISO/CD 16602-3 (審議中)	Protective clothing for protection against chemicals – Classification, labelling and performance requirements – Part 3: Chemical test methods, classification and requirements (化学防護服 – 分類、表示及び性能要求事項 – 第3部 耐化学物質試験方法、クラス分類及び性能要求事項)		
3	ISO/CD 16602-4 (審議中)	Protective clothing for protection against chemicals – Classification, labelling and performance requirements – Part 4: Design (化学防護服 – 分類、表示及び性能要求事項 – 第4部 デザイン)		

WG	ISO規格番号	ISO規格タイトル (ISO規格タイトルの日本語訳)	対応JIS規格番号	JIS公募区分 制定/改正 (原案作成作業 開始時期)
3	ISO/CD 16602-5 (審議中)	Protective clothing for protection against chemicals – Classification, labelling and performance requirements – Part 5: Whole suit test methods, classification and requirements (化学防護服 – 分類、表示及び性能要求事項 – 第5部 防護服完成品の試験方法、クラス分類及び性能要求事項)		
3	ISO/CD 16602-6 (審議中)	Protective clothing for protection against chemicals – Classification, labelling and performance requirements – Part 6: Guidance for selection, use, care and maintenance (化学防護服 – 分類、表示及び性能要求事項 – 第6部 選び方、使い方、手入れの仕方及びメンテナンスの仕方)		
3	ISO 17491-1: 2012	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 1: Determination of resistance to outward leakage of gases (internal pressure test) (防護服-化学防護服の試験方法-第1部:ガス気密性試験方法(内部圧力試験))	JIS T 8032-1:2015 (MOD)	
3	ISO 17491-2: 2012	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 2: Determination of resistance to inward leakage of aerosols and gases (inward leakage test) (防護服-化学防護服の試験方法-第2部:エアロゾル及び気体の内部漏れ率の試験方法(内部への漏れ率試験))	JIS T 8032-2:2015 (MOD)	
3	ISO 17491-3:2008	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 3: Determination of resistance to penetration by a jet of liquid (jet test) (防護服-化学防護服の試験方法-第3部:液体ジェットに対する耐浸透性試験方法(ジェットテスト))	JIS T 8032-3:2015 (MOD)	
3	ISO 17491-4:2008 ISO 17491-4 /Amd1:2016	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 4: Determination of resistance to penetration by a spray of liquid (spray test) (防護服-化学防護服の試験方法-第4部:液体スプレーに対する耐浸透性試験方法(スプレーテスト)) Amendment 1:2016 (追補1:2016)	JIS T 8032-4:2015 (MOD)	
3	ISO/FDIS 17491-4 (審議中)	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 4: Determination of resistance to penetration by a spray of liquid (spray test) (防護服-化学防護服の試験方法-第4部:液体スプレーに対する耐浸透性試験方法(スプレーテスト))		
3	ISO 17491-5:2013	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 5: Determination of resistance to penetration by a spray of liquid (manikin spray test) (防護服-化学防護服の試験方法-液体スプレーに対する耐浸透性試験方法(マネキン試験))	JIS T 8032-5:2015 (MOD)	
3	ISO/FDIS 17491-5 (審議中)	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 5: Determination of resistance to penetration by a spray of liquid (manikin spray test) (防護服-化学防護服の試験方法-液体スプレーに対する耐浸透性試験方法(マネキン試験))		
3	ISO 19918:2017 ISO 19918:2017 /Amd 1:2021	Protective clothing – Protection against chemicals – Measurement of cumulative permeation of chemicals with low vapour pressure through materials (防護服—化学物質に対する防護—低蒸気圧化学物質に対する防護服材料の累積透過量の試験方法) Amendment 1:2021 – Extraction and chemical analysis (追補1 – 抽出と化学分析)	JIS T 8035:xxxx (審議中)	2022区分A 制定 (2022/4~)

WG	ISO規格番号	ISO規格タイトル (ISO規格タイトルの日本語訳)	対応JIS規格番号	JIS公募区分 制定/改正 (原案作成作業 開始時期)
3	ISO 22608:2004 (旧版)	Protective clothing – Protection against liquid chemicals – Measurement of repellency, retention, and penetration of liquid pesticide formulations through protective clothing materials (防護服－液体化学物質に対する防護－液体農薬に対する防護服材料の反発性、吸収性及び透過性の試験方法)	JIS T 8034:2008 (MOD)	2022区分A 改正 (2022/4～)
3	ISO 22608:2021	Protective clothing – Protection against liquid chemicals – Measurement of repellency, retention, and penetration of liquid pesticide formulations through protective clothing materials (防護服－液体化学物質に対する防護－液状農薬に対する防護服材料の反発性、吸収性及び透過性の試験方法)	JIS T 8034:xxxx (審議中)	
3	ISO 27065:2011 (旧版)	Protective clothing – Performance requirements for protective clothing worn by operators applying liquid pesticides (防護服－液状農薬散布者が使用する防護服の性能要求事項)	JIS T 8126:2014 (MOD)	2022区分A 改正 (2022/4～)
3	ISO 27065:2017 ISO 27065:2017 /Amd 1:2019	Protective clothing – Performance requirements for protective clothing worn by operators applying pesticides and for re-entry workers (防護服－液状農薬の散布者及び再入場者が使用する防護服の性能要求事項) Amendment 1:Surrogate test Chemical (追補1:2019)	JIS T 8126:xxxx (審議中)	
5	ISO 11393-1:2018	Protective clothing for users of hand-held chainsaws –Part 1:Test rig for testing resistance to cutting by a chainsaw (手持ちチェーンソー使用者のための防護服－第1部:チェーンソーでの切断抵抗性試験に用いる試験装置)	JIS T 8125-1:2022 (MOD)	
5	ISO 11393-2:2018	Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 2: Performance requirements and test methods for leg protectors (手持ちチェーンソー使用者のための防護服－第2部:脚部防護服の試験方法及び要求性能)	JIS T 8125-2:2022 (MOD)	
5	ISO 11393-3:1999 (旧版)	Protective clothing for users of hand-held chain-saws – Part 3: Test methods for footwear (手持ちチェーンソー使用者のための防護服－第3部:履物試験方法)	JIS T 8125-3:2009 (MOD)	
5	ISO 11393-3:2018	Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 3: Test methods for footwear (手持ちチェーンソー使用者のための防護服－第3部:履物試験方法)	JIS T 8125-3:2024	
5	ISO 11393-4:2003 (旧版)	Protective clothing for users of hand-held chain-saws – Part 4: Test methods and performance requirements for protective gloves (手持ちチェーンソー使用者のための防護服－第4部:防護手袋の試験方法及び要求性能)	JIS T 8125-4:2010 (MOD)	
5	ISO 11393-4:2018	Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 4: Performance requirements and test methods for protective gloves (手持ちチェーンソー使用者のための防護服－第4部:防護手袋の試験方法及び要求性能)	JIS T 8125-4:2024	
5	ISO 11393-5:2001 (旧版)	Protective clothing for users of hand-held chain-saws – Part 5: Test methods and performance requirements for protective gaiters (手持ちチェーンソー使用者のための防護服－第5部:防護脚半の試験方法及び要求性能)	JIS T 8125-5:2010 (MOD)	2022区分D 改正 (2023/1～)
5	ISO 11393-5:2018	Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 5: Performance requirements and test methods for protective gaiters (手持ちチェーンソー使用者のための防護服－第5部:防護脚半の試験方法及び要求性能)	JIS T 8125-5:xxxx (審議中)	
5	ISO 11393-6:2007 (旧版)	Protective clothing for users of hand-held chain-saws – Part 6: Test methods and performance requirements for upper body protectors (手持ちチェーンソー使用者用保護服－第6部:上半身保護具の試験方法及び要求性能)	JIS T 8125-6:2010 (MOD)	2022区分D 改正 (2023/1～)
5	ISO 11393-6:2018	Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 6: Performance requirements and test methods for upper body protectors (手持ちチェーンソー使用者用保護服－第6部:上半身保護具の試験方法及び要求性能)	JIS T 8125-6:xxxx (審議中)	

WG	ISO規格番号	ISO規格タイトル (ISO規格タイトルの日本語訳)	対応JIS規格番号	JIS公募区分 制定/改正 (原案作成作業 開始時期)
5	ISO 13995:2000	Protective clothing – Mechanical properties – Test method for the determination of the resistance to puncture and dynamic tearing of materials (防護服—機械的特性—材料の突刺及び動的引裂に対する抵抗性試験方法)	JIS T 8050:2005 (MOD)	
5	ISO 13996:1999	Protective clothing – Mechanical properties – Determination of resistance to puncture (防護服—機械的特性—突刺抵抗性試験方法)	JIS T 8051:2005 (IDT)	
5	ISO 13998:2003	Protective clothing – Aprons, trousers and vests protecting against cuts and stabs by hand knives (防護服—ハンドナイフによる切りきず及び刺しきずを防護するためのエプロン、ズボン及びベスト)	JIS T 8120:2006 (MOD)	
5	ISO 13999-1:1999	Protective clothing – Gloves and arm guards protecting against cuts and stabs by hand knives – Part 1: Chain-mail gloves and arm guards (防護衣—ナイフによる切傷及び突傷を防御するための手袋及びアームガード—第1部:鎖かたびら手袋及びアームガード)	JIS T 8121-1:2006 (IDT)	
5	ISO 13999-2:2003	Protective clothing – Gloves and arm guards protecting against cuts and stabs by hand knives – Part 2: Gloves and arm guards made of material other than chain mail (防護衣—ナイフによる切傷及び突傷を防御するための手袋及びアームガード—第2部:鎖かたびら以外の材料で製造された手袋及びアームガード)	JIS T 8121-2:2018 (MOD)	
5	ISO 13999-3:2002	Protective clothing – Gloves and arm guards protecting against cuts and stabs by hand knives – Part 3: Impact cut test for fabric, leather and other materials (防護衣—ナイフによる切傷及び突傷を防御するための手袋及びアームガード—第3部:布、皮革及びその他の材料の衝撃切断)	JIS T 8121-3:2006 (MOD)	
5	ISO 14877:2002	Protective clothing for abrasive blasting operations using granular abrasives (粒状研磨物質の吹き付け作業用防護服)	JIS T 8123:2018 (MOD)	
6	ISO 16603:2004	Clothing for protection against contact with blood and body fluids – Determination of the resistance of protective clothing materials to penetration by blood and body fluids – Test method using synthetic blood (血液及び体液の接触に対する防護服 – 防護服材料の血液及び体液に対する耐浸透性の測定 – 人工血液を用いる試験方法)	JIS T 8060:2015 (MOD)	
6	ISO 16604:2004	Clothing for protection against contact with blood and body fluids – Determination of the resistance of protective clothing materials to penetration by blood-borne pathogens – Test method using Phi-X174 bacteriophage (血液及び体液の接触に対する防護服 – 防護服材料の血液媒介病原体に対する耐浸透性の測定 – Phi-X174バクテリオファージを用いる試験方法)	JIS T 8061:2015 (MOD)	
6	ISO/NP 20384 (審議中)	Medical gowns, surgical drapes and protective apparel – Performance requirements, performance levels and test methods (医療従事者用ガウン、手術用ドレープ及びその他の医療用防護被服等の性能要求とその性能区分並びに試験方法(仮訳))		
6	ISO 22609:2004	Clothing for protection against infectious agents – Medical face masks – Test method for resistance against penetration by synthetic blood (fixed volume, horizontally projected) (感染性物質に対する防護服 – 医療用マスク – 人工血液に対する耐浸透性試験方法(一定量、水平噴出法))	JIS T 8062:2010 (MOD)	
6	ISO 22610:2018	Surgical drapes, gowns and clean air suits, used as medical devices, for patients, clinical staff and equipment – Test method to determine the resistance to wet bacterial penetration (患者、医療従事者等が使用する手術用ドレープ、ガウン及びクリーンエアスーツの湿潤バクテリアに対する耐浸透性試験方法)		
6	ISO 22612:2005	Clothing for protection against infectious agents – Test method for resistance to dry microbial penetration (感染性物質に対する防護服 – 生物学的に汚染されたダストに対する防護服材料の耐浸透性試験方法)		

WG	ISO規格番号	ISO規格タイトル (ISO規格タイトルの日本語訳)	対応JIS規格番号	JIS公募区分 制定/改正 (原案作成作業 開始時期)
6	ISO/CD 22615 (審議中)	Protective clothing – Performance requirements and test methods for protective clothing against infective agents (防護服－感染性病原体に対する防護服の性能要求及び試験方法)		
8	ISO 374-1:2016 ISO 374-1:2016 /Amd 1:2018	Protective gloves against dangerous chemicals and micro-organisms – Part 1: Terminology and performance requirements for chemical risks (危険薬品及び微生物に対する防護手袋－パート1: 薬品リスクの用語及び要求事項) Amendment 1:2018 (追補1:2018)		2024年度 区分A以降
8	ISO/DIS 374-1 (審議中)	Protective gloves against dangerous chemicals and micro-organisms – Part 1: Terminology and performance requirements for chemical risks (危険薬品及び微生物に対する防護手袋－パート1: 薬品リスクの用語及び要求事項)		
8	ISO 374-2:2019	Protective gloves against dangerous chemicals and micro-organisms – Part 2: Determination of resistance to penetration (危険薬品及び微生物に対する防護手袋 パート2: 浸透抵抗の測定)		2025年度
8	ISO 374-4:2019	Protective gloves against dangerous chemicals and micro-organisms – Part 4: Determination of resistance to degradation by chemicals (危険薬品及び微生物に対する防護手袋 パート4: 薬品劣化抵抗の測定)		2025年度
8	ISO 374-5:2016	Protective gloves against dangerous chemicals and micro-organisms – Part 5: Terminology and performance requirements for micro-organisms risks (危険薬品及び微生物に対する防護手袋 パート5: 微生物の用語及び要求事項)		2026年度
8	ISO/DIS 374-5 (審議中)	Protective gloves against dangerous chemicals and micro-organisms – Part 5: Terminology and performance requirements for micro-organisms risks (危険薬品及び微生物に対する防護手袋 パート5: 微生物の用語及び要求事項)		2026年度
8	ISO/DIS 374-6 (審議中)	Protective gloves against dangerous chemicals and micro-organisms – Part 6: Protective gloves for hairdressers (危険薬品及び微生物防護手袋 パート6: 美容師用防護手袋)		2027年度
8	TR 8546:2022	Hand protection – Guidance for selection and use (手の防護 – 防護手袋の選定・使用ガイド)		
8 (5)	ISO 13997:1999	Protective clothing – Mechanical properties – Determination of resistance to cutting by sharp objects (防護服－機械的特性－鋭利物に対する切創抵抗性試験方法)	JIS T 8052:2005 (MOD)	2023区分A 改正 (2023/4～)
8 (5)	ISO 13997:2023	Protective clothing – Mechanical properties – Determination of resistance to cutting by sharp objects (防護服－機械的特性－鋭利物に対する切創抵抗性試験方法)	JIS T 8052:xxxx (審議中)	
8	ISO 18889:2019	Protective gloves for pesticide operators and re-entry workers – Performance requirements (農業散布者及びリエントリー作業用防護手袋 – 性能要求)		
8	ISO 21420:2020 ISO 21420:2020 Amd 1:2022	Protective gloves – General requirements and test methods (防護手袋 – 一般要件及び試験方法) Amendment 1 (追補)	JIS T 8008:2024	
8	ISO 23388:2018	Protective gloves against mechanical risks (機械的リスクに対する防護手袋)	JIS T 8119:xxxx (審議中)	2022区分D 制定 (2023/1～)
8	ISO 23407:2021	Protective gloves against thermal risks (heat and/or fire) (熱リスク(熱及び/又は火災)に対する防護手袋)		
11	ISO 20320:2020	Protective clothing for use in snowboarding – Wrist protectors – Requirements and test methods (スノーボーダー用防護服 – リストプロテクター – 性能要求事項及び試験方法)		

WG	ISO 規格番号	ISO規格タイトル (ISO規格タイトルの日本語訳)	対応JIS 規格番号	JIS公募区分 制定/改正 (原案作成作業 開始時期)
その他	ISO 8194:1987	Radiation protection – Clothing for protection against radioactive contamination – Design, selection, testing and use (放射線防護－放射性汚染防護服－デザイン、選択、試験及び使用法)	JIS Z 4809:2012 (MOD)	
その他	ISO/DIS 24588 (審議中)	Protective clothing – Personal protective ensembles for use against chemical, biological, radiological and nuclear (CBRN) agents – Classification, performance requirements and test methods (防護服－化学、生物、放射線、核兵器(CBRN)に対する個人防護アンサンブル－クラス分類及び性能要求事項(仮訳)) ※ISO/TC 94/SC 14との共同審議案件		

8.2. 防護服に関連するJIS規格及び対応するISO規格一覧

2024/5/30時点

WG	対応JIS規格番号	対応JIS規格タイトル (JIS規格の英語タイトル)	ISO規格番号
1	JIS T 8005:2023 (MOD)	防護服の一般要求事項 (Protective clothing – General requirements)	ISO 13688:2013 ISO 13688:2013 /Amd 1:2021
1	JIS T 8127:2020 (MOD)	高視認性安全服 (High visibility safety clothing)	ISO 20471:2013 ISO 20471:2013 /Amd 1:2016
2	JIS T 8006:2020 (MOD)	熱及び火炎に対する防護服—防護服の選び方, 使い方, 手入れの仕方及びメンテナンスの仕方の一般的事項 (Protective clothing – Protection against heat and flame – General recommendations for selection, use, care and maintenance of protective clothing)	ISO/TR 2801:2007
2	JIS T 8020:2020 (MOD)	熱及び火炎に対する防護服—放射熱ばく露による防護服材料の性能評価 (Protective clothing – Protection against heat and fire – Method of test: Evaluation of materials and material assemblies when exposed to a source of radiant heat)	ISO 6942:2002 (旧版)
2	JIS T 8025:2018 (MOD)	防護服—溶融金属の飛まつ(沫)に対する防護服材料の測定方法 (Protective clothing – Determination of behaviour of materials on impact of small splashes of molten metal)	ISO 9150:1988
2	JIS T 8021:2020 (MOD)	熱及び火炎に対する防護服—火炎ばく露時の熱伝達指数測定方法 (Protective clothing against heat and flame – Determination of heat transmission on exposure to flame)	ISO 9151:2016
2	JIS T 8026:2018 (MOD)	防護服—溶融金属に対する評価方法 (Protective clothing – Assessment of resistance of materials to molten metal splash)	ISO/CD 9185:2007
2	JIS T 8128:2018 (MOD)	溶接及び関連作業用防護服 (Protective clothing for use in welding and allied processes)	ISO 11611:2015
2	JIS T 8129:2018 (MOD)	熱及び火炎に対する防護服—性能要求事項 (Protective clothing – Clothing to protect against heat and flame – Minimum performance requirements)	ISO 11612:2015
2	JIS T 8027-1:2018 (MOD)	熱及び火炎に対する防護服—押圧熱伝達の測定—第1部:加熱シリンダーによる押圧熱伝達試験方法 (Clothing for protection against heat and flame – Determination of contact heat transmission through protective clothing or constituent materials – Part 1: Contact heat produced by heating cylinder)	ISO 12127-1:2015
2	JIS T 8130:2018 (MOD)	防護服—火炎に対する防護服 (Protective clothing – Protection against flame – Limited flame spread materials, material assemblies and clothing)	ISO 14116:2015
2	JIS T 8022:2020 (MOD)	熱及び火炎に対する防護服—火炎伝ば性試験方法 (Protective clothing against heat and flame – Method of test for limited flame spread)	ISO 15025:2016
2	JIS T 8024:2020 (MOD)	熱及び火炎に対する防護服—火炎及び放射熱ばく露時の熱伝達性測定方法 (Clothing for protection against heat and flame – Determination of heat transmission on exposure to both flame and radiant heat)	ISO 17492:2019
2	JIS T 8023:2020 (MOD)	熱に対する防護服及び装備品—熱風循環炉を使用する対流耐熱性試験方法 (Protective clothing and equipment against heat – Test method for convective heat resistance using a hot air circulating oven)	ISO 17493:2016
3	JIS T 8030:2015 (MOD)	化学防護服—防護服材料の耐透過性試験 (Protective clothing – Protection against chemicals – Determination of resistance of protective clothing materials to permeation by liquids and gases)	ISO 6529:2013
3	JIS T 8033:2008 (MOD)	化学防護服—防護服材料の液体化学物質に対する耐浸透性試験方法 (Protective clothing – Protection against liquid chemicals – Test method for resistance of materials to penetration by liquids)	ISO 6530:2005

WG	対応JIS規格番号	対応JIS規格タイトル (JIS規格の英語タイトル)	ISO規格番号
3	JIS T 8124-1:2010 (MOD)	固体粉じんに対する防護服—第1部:浮遊固体粉じん防護用密閉服(タイプ5化学防護服)の性能要求事項 (Protective clothing for use against solid particulates – Part 1: Performance requirements for chemical protective clothing providing protection to the full body against airborne solid particulates (type 5 clothing))	ISO 13982-1:2004 ISO 13982-1:2004 /Amd 1:2010
3	JIS T 8124-2:2008 (MOD)	固体粉じんに対する防護服—第2部:微粒子エアロゾルに対する全身化学防護服内部への漏れ率試験方法 (Protective clothing for use against solid particulates – Part 2: Test method of determination of inward leakage of aerosols of fine particles into suits)	ISO 13982-2:2004
3	JIS T 8031:2010 (MOD)	化学防護服—防護服材料の加圧下における耐液体浸透性試験 (Clothing for protection against liquid chemicals – Determination of the resistance of protective clothing materials to penetration by liquids under pressure)	ISO 13994:2005 ISO 13994:2005 /Cor1:2006
3	JIS T 8115:2015 (MOD)	化学防護服 (Protective clothing for protection against chemicals)	ISO 16602:2007 ISO 16602:2007 /Amd 1:2012
3	JIS T 8032-1:2015 (MOD)	化学防護服完成品の試験方法—第1部:ガス気密性の求め方(内部圧力試験) (Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 1: Determination of resistance to outward leakage of gases (internal pressure test))	ISO 17491-1: 2012
3	JIS T 8032-2:2015 (MOD)	化学防護服完成品の試験方法—第2部:エアロゾル及び気体の漏れ率の求め方(内部への漏れ率試験) (Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 2: Determination of resistance to inward leakage of aerosols and gases (inward leakage test))	ISO 17491-2: 2012
3	JIS T 8032-3:2015 (MOD)	化学防護服完成品の試験方法—第3部:液体ジェットに対する耐浸透性の求め方(ジェット試験) (Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 3: Determination of resistance to penetration by a jet of liquid (jet test))	ISO 17491-3:2008
3	JIS T 8032-4:2015 (MOD)	化学防護服完成品の試験方法—第4部:液体スプレーに対する耐浸透性の求め方(スプレー試験) (Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 4: Determination of resistance to penetration by a spray of liquid (spray test))	ISO 17491-4:2008 ISO 17491-4 /Amd1:2016
3	JIS T 8032-5:2015 (MOD)	化学防護服完成品の試験方法—第5部:液体スプレーに対する耐浸透性の求め方(マネキン試験) (Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 5: Determination of resistance to penetration by a spray of liquid (manikin spray test))	ISO 17491-5:2013

WG	対応JIS規格番号	対応JIS規格タイトル (JIS規格の英語タイトル)	ISO規格番号
3	JIS T 8034:2008 (MOD)	化学防護服—防護服材料の液状農薬に対する耐浸透性(反発性、吸収性及び浸透性)の測定方法 (Protective clothing – Protection against liquid chemicals – Measurement of repellency, retention, and penetration of liquid pesticide formulations through protective clothing materials)	ISO 22608:2004 (旧版)
3	JIS T 8126:2014 (MOD)	液状農薬散布者が使用する防護服の性能要求事項 (Protective clothing – Performance requirements for protective clothing worn by operators applying liquid pesticides)	ISO 27065:2011 (旧版)
5	JIS T 8125-1:2022 (MOD)	手持ちチェーンソー使用者のための防護服—第1部:チェーンソーでの切断抵抗性試験に用いる試験装置 (Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 1: Test rig for testing resistance to cutting by a chainsaw)	ISO 11393-1:2018
5	JIS T 8125-2:2022 (MOD)	手持ちチェーンソー使用者のための防護服—第2部:脚部防護服 (Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 2: Leg protectors)	ISO 11393-2:2018
5	JIS T 8125-3:2009 (MOD)	手持ちチェーンソー使用者のための防護服—第3部:履物試験方法 (Protective clothing for users of hand-held chain-saws – Part 3: Test methods for footwear)	ISO 11393-3:1999 (旧版)
5	JIS T 8125-3:2024	手持ちチェーンソー使用者のための防護服—第3部:履物試験方法 (Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 3: Test methods for footwear)	ISO 11393-3:2018
5	JIS T 8125-4:2010 (MOD)	手持ちチェーンソー使用者のための防護服—第4部:手袋の試験方法及び要求性能 (Protective clothing for users of hand-held chain-saws – Part 4: Test methods and performance requirements for protective gloves)	ISO 11393-4:2003 (旧版)
5	JIS T 8125-4:2024	手持ちチェーンソー使用者のための防護服—第4部:防護手袋 (Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 4: Protective gloves)	ISO 11393-4:2018
5	JIS T 8125-5:2010 (MOD)	手持ちチェーンソー使用者のための防護服—第5部:脚半の試験方法及び要求性能 (Protective clothing for users of hand-held chain-saws – Part 5: Test methods and performance requirements for protective gaiters)	ISO 11393-5:2001 (旧版)
5	JIS T 8125-5:xxxx (審議中)	手持ちチェーンソー使用者用保護服—第5部:保護ゲートルの性能要求事項及び試験方法 (Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 5: Performance requirements and test methods for protective gaiters)	ISO 11393-5:2018
5	JIS T 8125-6:2010 (MOD)	手持ちチェーンソー使用者のための防護服—第6部:上半身防護服の試験方法及び要求性能 (Protective clothing for users of hand-held chain-saws – Part 6: Test methods and performance requirements for upper body protectors)	ISO 11393-6:2007 (旧版)
5	JIS T 8125-6:xxxx (審議中)	手持ちチェーンソー使用者用保護服—第6部:上半身保護具の性能要求事項及び試験方法 (Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 6: Performance requirements and test methods for upper body protectors)	ISO 11393-6:2018
5	JIS T 8050:2005 (MOD)	防護服—機械的特性—材料の突刺及び動的引裂に対する抵抗性試験方法 (Protective clothing – Mechanical properties – Test method for the determination of the resistance to puncture and dynamic tearing of materials)	ISO 13995:2000
5	JIS T 8051:2005 (IDT)	防護服—機械的特性—突刺抵抗性試験方法 (Protective clothing – Mechanical properties – Determination of resistance to puncture)	ISO 13996:1999
5	JIS T 8120:2006 (MOD)	防護服—ハンドナイフによる切りきず及び刺しきずを防護するためのエプロン、ズボン及びベスト (Protective clothing – Aprons, trousers and vests protecting against cuts and stabs by hand knives)	ISO 13998:2003
5	JIS T 8121-1:2006 (IDT)	防護服—ハンドナイフによる切創及び突刺しきずを防護するための手袋及びアームガード—第1部:鎖かたばら手袋及びアームガード (Protective clothing – Gloves and arm guards protecting against cuts and stabs by hand knives – Part 1: Chain-mail gloves and arm guards)	ISO 13999-1:1999
5	JIS T 8121-2:2018 (MOD)	防護服—ハンドナイフによる切創及び突刺しきずを防護するための手袋及びアームガード—第2部:鎖かたばら以外の材料からなる手袋及びアームガード (Protective clothing – Gloves and arm guards protecting against cuts and stabs by hand knives – Part 2: Gloves and arm guards made of material other than chain mail)	ISO 13999-2:2003

WG	対応JIS規格番号	対応JIS規格タイトル (JIS規格の英語タイトル)	ISO規格番号
5	JIS T 8121-3:2006 (MOD)	防護服—ハンドナイフによる切創及び突き刺しを防護するための手袋及びアームガード—第3部:布はく、皮革その他の材料の衝撃切創試験 (Protective clothing – Gloves and arm guards protecting against cuts and stabs by hand knives – Part 3: Impact cut test for fabric, leather and other materials)	ISO 13999-3:2002
5	JIS T 8123:2018 (MOD)	粒状研磨材を用いるブラスト処理作業用防護服 (Protective clothing for abrasive blasting operations using granular abrasives)	ISO 14877:2002
6	JIS T 8060:2015 (MOD)	血液及び体液の接触に対する防護服—防護服材料の血液及び体液に対する耐浸透性の求め方—人工血液を用いる試験方法 (Clothing for protection against contact with blood and body fluids – Determination of the resistance of protective clothing materials to penetration by blood and body fluids – Test method using synthetic blood)	ISO 16603:2004
6	JIS T 8061:2015 (MOD)	血液及び体液の接触に対する防護服—防護服材料の血液媒介性病原体に対する耐浸透性の求め方—Phi-X174バクテリオファージを用いる試験方法 (Clothing for protection against contact with blood and body fluids – Determination of resistance of protective clothing materials to penetration by blood-borne pathogens – Test method using Phi-X174 bacteriophage)	ISO 16604:2004
6	JIS T 8062:2010 (MOD)	感染性物質に対する防護服—フェースマスク—人工血液に対する耐浸透性試験方法(一定量, 水平噴出法) (Clothing for protection against infectious agents – Face masks – Test method for resistance against penetration by synthetic blood (fixed volume, horizontally projected))	ISO 22609:2004
6	JIS T 8122:2015	生物学的危険物質に対する防護服 (Protective clothing for protection against hazardous biological agents)	
8 (5)	JIS T 8052:2005 (MOD)	防護服—機械的特性—鋭利物に対する切創抵抗性試験方法 (Protective clothing – Mechanical properties – Determination of resistance to cutting by sharp objects)	ISO 13997:1999
8 (5)	JIS T 8052:xxxx (審議中)	防護服—機械的特性—鋭利物に対する切創抵抗性試験方法 (Protective clothing – Mechanical properties – Determination of resistance to cutting by sharp objects)	ISO 13997:2023
8	JIS T 8008:2024	防護手袋の一般要求事項及び試験方法 Protective gloves—General requirements and test methods	ISO 21420:2020 ISO 21420:2020 Amd 1:2022
その他	JIS Z 4809:2012 (MOD)	放射性物質による汚染に対する防護服 (Protective clothing for use against radioactive contamination)	ISO 8194:1987

**9. ISO/TC 94(個人安全-個人用保護具)/
SC 13(防護服) 国内審議分科委員会
兼 ISO/TC 94/SC 13 国内審議分科委員会
作業部会 主査・幹事会議 活動報告**

9.1 2023 年度 第 1 回 ISO/TC 94/SC 13 国内審議分科委員会 兼 ISO/TC 94/SC 13 国内審議分科委員会作業部会 主査・幹事会議 議事録

1. 日時: 2023 年 4 月 18 日(火) 15:00~17:00
2. 場所: アゼアス株式会社 2 階 中会議室(東京都台東区蔵前 4-13-7)
/Web 参加(Microsoft Teams)
3. 出席者: (順不同、敬称略) 会場参加予定者 7 名、Web 参加予定者 10 名、欠席者 1 名

SC 13	WG	ご所属	氏名	出欠
委員長	WG1・3・8 主査	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 (放射線医学研究所)	山内 正剛	We
委員		経済産業省 製造産業局 生活製品課	石川 高志	Web
委員		経済産業省 産業技術環境局 国際標準課	葛本 祥子	Web
委員		一般財団法人日本規格協会	古田 豊	Web
委員		公益社団法人日本保安用品協会	小松 克行	欠席
委員		一般社団法人日本防護服協議会	鈴木 一裕	会場
委員	WG1 幹事・ WG 統括事務局	アゼアス株式会社	野原 由樹子	会場
委員	WG2 主査	信州大学 繊維学部	若月 薫	Web
委員	WG2・6 幹事	一般財団法人カケンテストセンター	辻 創	会場
委員	WG3 幹事	アゼアス株式会社	磯田 実	会場
委員	WG5 主査	防衛装備庁 艦艇装備研究所	山田 晃也	会場
委員	WG6 主査	信州大学 繊維学部	篠原 克明	会場
委員	WG8 幹事	アトム株式会社	森下 哲樹	Web
オブザー バー		厚生労働省 労働基準局 安全衛生部安全課	三浦 玲	Web
オブザー バー		デュポン・スペシャルティ・プロダクツ株式会社	池田 信一郎	会場
事務局		公益社団法人日本保安用品協会	尾崎 克己	Web
事務局		公益社団法人日本保安用品協会	眞戸原 吉孝	Web
事務局		公益社団法人日本保安用品協会	政野 祐一	Web

4. 議事概要:

議事に入る前に、山内委員長から挨拶があり、鈴木委員が議事進行役に指名された。

- (1) ISO/TC94/SC13 国内審議分科委員会委員長及び委員の紹介
委員長及び参加者が自己紹介した。

(2) 2022 年度及び 2023 年度国際規格原案回答状況報告

統括事務局より報告があった。

資料 2023 国①-2:2022 年度の国際規格回答実績は 41 件(WG 2 件、CD 14 件、DIS 4 件、DTR 1 件、FDIS 1 件、SR 6 件、CIB 12 件、その他(電子メールでの回答を求められた案件)1 件)あり、回答期日に間に合うように該当 WG にて審議し回答している。

資料 2023 国①-3:2023 年度(4 月 1 日～)の回答は 7 件(CD 1 件、DIS 5 件、FDIS 1 件)あり、新たに審議案件が 5 件届いているため、実質 12 件届いている。次回の SC13 会議で報告する。

(3) 2022 年度報告 及び 2023 年度計画について WG 1

野原 WG1 幹事より報告があった。1 月の会議以降、大きな動きはなかった。

資料 2023 国①-0_45:P.8(1)国際規格案回答状況等②2023/2/24・2023/3/6 の国際規格回答空欄箇所について、全て賛成で回答した。国際会議 7 回全てに参加した。国内会議は開催せず、投票案件の必要に応じてメール審議を実施した。JIS は改正していないが、改正審議を行った。JIS T8005 2023 年版が 2023 年 1 月 25 日に改正公示された。

資料 2023 国①-5:日本が提案している国際標準化提案 ISO23762 中リスクレベル用視認性衣服の案件は賛成多数で可決、自主キャンセルという形でインターネット上削除となっているが、図記号の改正版が登録され次第、再開に向けて審議を進めていく。

資料 2021 国①-6:FDIS11610 エキスパート向けに意見募集があったため、日本からはコメントせず賛成投票した。賛成多数で可決された。今年度中には ISO として用語集が発行されると思われる。

資料 2023 国①-7:2023 年活動概要、国際会議 2023 年 9 月上田(日本)会議へ WG1 も参加予定。国内会議は投票案件等の必要に応じ、国内会議開催又はメール審議を実施予定。DIS 2 件回答済、SR 高視認性安全服の不定期見直しの案件が来ており、9 月回答期日に間に合うよう審議を進める。WG1 活動報告は日本からのコメントは特になく、中国が提案している、既にヨーロッパで運用中の EN 規格を基に内容修正している規格で、国際的に反対はなく賛成多数で可決されているので、今年度 FDIS が審議され、ISO として発行されると予想している。

(4) 2022 年度報告 及び 2023 年度計画について WG 2

辻 WG2 幹事より報告があった。

資料 2023 国①-10:2022 年度の活動報告 PG11612・14116、ISO12127-2 の投票案件があった。ISO11612・14116 はコメントあり(ファスナーの難燃化を日本から提案)、ISO12127-2 は世界的に規格を使う人がいないため、見直しの段階で確認があったが不要と判断、日本も賛成した。廃止することに反対する人がいなかったため、廃止となる。

資料 2023 国①-15:2023 年の活動について、9 月国際会議が予定されており、DIS 3 件 (ISO13506-2、14460、13506-1)案件が出ており、いずれも賛成している。そろそろ見直しの案件が出てくると予想されるので、内容を精査し、委員で意見照会しながら、出てきたコメントを検討し投票に臨む。

関連する対応 JIS として、計画段階の JIS T 81128(ISO11611 溶接の作業服の性能規格及び試験方法)既に ISO6942 が改正されているので、対応 JIST8020 の改正を 2023 年度後半からのスタートに向けて準備をしている。81128 は内容が不足している部分があるため技術的な変更を伴う改正になる。できるだけ ISO に合わせた改正予定。国内作業部会は今のところ予定なし、年 1 回開催し、メンバーと情報共有したい。

※追加:ランドロビン ISO17492 が 1 年程動いていなかったが動き出し、9 月上田会議には結果が出てくる予定。

(5) 2022 年度報告 及び 2023 年度計画について WG 3

磯田WG3 幹事より 2022 年度について 1 月以降の話に絞って報告があった。

資料 2023 国①-19:回答件数と内訳の空欄について、ISO16602-1・2・3・4・5・6 の CD 投票があった。ISO16602 シリーズの審議期間を 9 か月延長するという投票があった。それぞれコメントをつけて賛成投票した。9 か月の審議期間延長についても賛成投票した。

ISO19918・27065 の SR 投票があった、JIS 審議で出てきた問題点をつけて改定し法令化をすすめるという投票をした。SC14 の投票案件、ISO/DIS244588(CBRN 用防護アンサンブル規格)は SC14 で作られた規格で、SC13 と共同で審議していた。DIS になったため、1 国 1 投票とし SC14 で投票する形だったが、国によっては SC13 からのコメントが必要ということがあったため、SC13 でコメントがあるかという投票があったが、SC14 でコメントを統一したため、SC13 ではコメントはないという投票をした。SR 投票が 4 件出てきている。資料 2023 国①-31:2023 年度について上田会議に参加、その他にも案件あり。国内会議について、ISO16602 の案件が出てきた際には作業部会開催予定だが、案件に応じて作業部会開催 or メール審議を実施予定。既に投票が終わっている 2023 年投票案件は、ISO17490-5(防護服完成品試験の ASTN ベースのスプレー試験)についてコメントありで投票した。SR 4 件、ISO17491-1(気密試験)・2(陽圧服)について意見を頂き、9 月迄に回答する。ISO13982-1・2(タイプ 5 防護服、粉塵用防護服の製品規格、試験規格、粉塵の漏れ率規格)一度改正しようとヨーロッパ中心に動いたが、なくなっているので、今後どのように動くのか読めないが SR 投票がされるので、関係者に意見を頂く予定。ISO6530 ランドロビンが今年予定されている。3/末に ISTH キャロル氏が下打ち合わせ会議を開催し参加した。(サンプル何にするか、試験結果記入シート内容確認)生地は少なくとも 2 種+1 種出来ればとヨーロッパで調達中。ランドロビンはスタートしていない。揃い次第案内が来るはず。9 月には結果含め間に合わない可能性あり。

(6) 2022 年度報告 及び 2023 年度計画について WG 5

WG5 幹事に代わり、日本防護服協議会の統括事務局(野原)より報告があった。

資料 2023 国①-33:2022 年度については前回 1 月から動きがなかった。国際会議 9 月参加、国内会議はメール審議を実施した。ISO13997 審議が WG8 へ移管された。JIS T8125-1・2 が改正・公示された。JIS T8125-3・4 は委員会審議終了。JIS T8125-5・6 は審議中。資料 2023 国①-34:2023 年度について 国際コンビーナは部会の状況は不明、9 月上田会議で会議開催されると予想される。WG5 の会議があれば国際会議にエキスパ

ートが参加するだろう。投票案件 SR が来たらメール審議を実施する。JIS はチェーンソーシリーズの-5・6 審議継続中、改正作業に注力する。その他の JIS への応募は予定なし。
※山田 WG5 幹事より、WG5 の幹事を引き続き募集しているとのコメントがあった。

(7) 2022 年度報告 及び 2023 年度計画について WG 6

辻 WG6 幹事より報告があった。

資料 2023 国①-35:2022 年度、前回会議の後オンライン会議が1月に 1 回あった。ISO22615(感染性病原体に対する防護服の性能要求と試験方法に関して) CD 投票に向けての合意を得るための下打ち合わせをした。JIS T8122があるが、完全一致ではない規格のため、日本からも関係するエキスパートの方にオンライン会議に参加して頂いている。ISO22615 JIS と大きく乖離しない、オプションで追加事項があっても良いが、mandatory のところで要求事項が高くなる等は避けたいと陳情している。資料 2023 国①-36:2023 年度の活動はISO22615が続くと考えられる。次の CD 投票に向け準備しており、整い次第 CD 投票にかけられると見込んでいる。去年の段階で ISO20380(ドレープやガウンの規格)を再立ち上げのためキャンセルしたが、どのような形で提案されてくるかがポイント。EN との兼ね合いが上手くいかず、前回規格化ができなかったため、コロナ等を踏まえて、どのような ISO を作るかが審議のポイントとなる。具体的なアクションは出していない。9 月上田会議で何かしら提案が出てきたら、関係者へ声掛けをして規格のコンセプトづくりを参画していく。

(8) 2022 年度報告 及び 2023 年度計画について WG 8

森下 WG 8 幹事より報告があった。

資料 2023 国①-38:1月会議以降の報告、ISO/DIS374-1・5 1月24日会議の際には投票結果が出ていなかった。3月21日WG8 Web 会議の際に、DIS374-1 は FDIS に回って今年度の投票になり、DIS374-5 は FDIS スキップでそのまま発行となると決定した。P.57 ②国際会議内訳の最終行に2023年3月21日PG Web 会議5名参加を追記する。P.58 3-② 1-3 月にかけて ISO23388 の JIS 化作業が始まっている。1 月未報告分 P.59 ISO21420/Amd1 昨年7月発行、2023年に発行予定。資料 2023 国①-42:2023 年度の活動、審議に対しコメントしながら審議・投票をおこなっていく。FDIS13997(WG5→WG8 にアロケーション分)5月投票予定、ISO374-1 改正審議・投票、JIS T8119(ISO23388)素案作成協、上田会議出席。FDIS13997 回答期限 5月15日、FDIS374-1 は未定だが、夏までには審議投票となる。国際会議は主に上田会議について。WG8 meeting はベルギーで4月4・5日に開催済で、内容は上田会議に向けた ISO23388 改正について。9 月上田会議までに追加 Web 会議が行われる可能性あり。国内会議は WG1 回、作業部会を2023年11月頃で考えている。JIS 素案作成委員会は JIS8119 ISO23388 の JIS 化の作業。

JIS 素案作成委員会のところに JIS T8052 を追加→野原が対応する。

ISO13997 JIS T8052 が来月から改正に入る。

(9) 防護服関係規格の JIS 統合予定について

野原 WG1 幹事より報告があった。

資料 2023 国①-44:WG2 活動報告の通り、2023 年度は 2023 区分 B 改正区分への統合 2 件、2024 年 1 月始まりのため 8 月頃までの区分となる。ISO6942 の改正と JIS 化、審議中 ISO11611 の DIS 改正を統合する予定。それ以外に WG からの要望はなし。来年度は必要に応じて追加があるかもしれないが、現時点での予定は 2 件。

(10) 2022 年度及び 2023 年度国際規格原案回答状況報告

資料 2023 国①-45:N 文書が発行されている。信州大学にて 2023 年 9 月 10-15 日で行う・交通手段・上田キャンパスの場所・VISA 関係の案内が発行されている。会議の詳細についてはこれから詰めていく。タイムテーブル等は作成中。対面・Web 会議。開催国ベースの時間帯となる。

(11) 次回の日程について

2023 年度 第 2 回 SC13 国内審議分科委員会兼 SC13 国内審議分科委員会作業部会主査・幹事会議は次の日程で開催することとした。

2023 年 11 月 28 日(火)15 時～17 時

5. 配布資料:

2023国①-1	2023 年度 ISO/TC94/SC13 国内審議分科委員会 名簿
2023国①-2	2022 年度国際規格原案回答状況表
2023国①-3	2023 年度国際規格原案回答状況表
2023国①-4	2022 年度 WG 1 調査表
2023国①-5	ISO 活動報告②—CIB DRAFT Res 728/2023 Cancellation of ISO/CD 23762
2023国①-6	ISO 活動報告②—ISO/FDIS 11610
2023国①-7	2023 年度 WG 1 調査表
2023国①-8	ISO 活動報告②—ISO/DIS 24231
2023国①-9	ISO 活動報告②—ISO/DIS 24232
2023国①-10	2022 年度 WG 2 調査表
2023国①-11	ISO 活動報告①—ISO 6942
2023国①-12	ISO 活動報告②—ISO/CD 11612
2023国①-13	ISO 活動報告②—ISO/CD 14116
2023国①-14	ISO 活動報告②—DRAFT Res 727/2023 Withdrawal ISO 12127-2:2007
2023国①-15	2023 年度 WG 2 調査表
2023国①-16	ISO 活動報告②—ISO/DIS 13506-2 (Ed 2)
2023国①-17	ISO 活動報告②—ISO/DIS 14460 (Ed 2)
2023国①-18	ISO 活動報告②—ISO/DIS 13506-1 (Ed 2)
2023国①-19	2022 年度 WG 3 調査表
2023国①-20	ISO 活動報告②—Commenting on ISO/DIS 24588
2023国①-21	ISO 活動報告②—ISO/CD 16602-1.2
2023国①-22	ISO 活動報告②—ISO/CD 16602-2.2

2023国①-23	ISO 活動報告②—ISO/CD 16602-3.2
2023国①-24	ISO 活動報告②—ISO/CD 16602-4.2
2023国①-25	ISO 活動報告②—ISO/CD 16602-5.2
2023国①-26	ISO 活動報告②—ISO/CD 16602-6.2
2023国①-27	ISO 活動報告②—SR ISO 19918:2017
2023国①-28	ISO 活動報告②—SR ISO 27065:2017 (Ed 2)
2023国①-29	ISO 活動報告②—DRAFT Res 727/2023 9-month tolerance request ISO16602-series
2023国①-30	2022 年度 WG 3 作業部会議事録
2023国①-31	2023 年度 WG 3 調査表
2023国①-32	ISO 活動報告②—ISO/CD 17491-5
2023国①-33	2022 年度 WG 5 調査表
2023国①-34	2023 年度 WG 5 調査表
2023国①-35	2022 年度 WG 6 調査表
2023国①-36	ISO 活動報告②—WG 6 N 157(ISO/CD 22615)
2023国①-37	2023 年度 WG 6 調査表
2023国①-38	2022 年度 WG 8 調査表
2023国①-39	ISO 活動報告①—ISO 21420 Amd1
2023国①-40	ISO 活動報告②—ISO_DIS 374-1 (Ed 2)
2023国①-41	ISO 活動報告②—ISO_DIS 374-5 (Ed 2)
2023国①-42	2023 年度 WG 8 調査表
2023国①-43	ISO 活動報告②—ISO/FDIS 13997 (Ed 2)
2023国①-44	防護服関連 ISO 規格の JIS 化推進計画
2023国①-45	ISO-TC 94-SC 13_N2086_Meeting notification & logistical information 29th plenary, WG & PG meetings, Ueda Japan 2023-09-10 to 15

以上

**9.2 2023 年度 第 2 回 ISO/TC94/SC13 国内審議分科委員会 兼
ISO/TC94/SC13 国内審議分科委員会作業部会 主査・幹事会議 議事録**

1. 日時: 2023 年 11 月 28 日(火) 15:00~17:00
2. 場所: アゼアス株式会社 2 階 中会議室(東京都台東区蔵前 4-13-7)
又は Web 参加(Microsoft Teams)
3. 出欠: 会場参加者 11 名、Web 参加者 3 名

SC 13	WG	ご所属	氏名	出欠
委員長	WG1・3・8 主査	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 (放射線医学研究所)	山内 正剛	WEB
委員		経済産業省 製造産業局 生活製品課	石川 高志	WEB
委員		経済産業省 産業技術環境局 国際標準課	小川 佳子	会場
委員		一般財団法人日本規格協会	古田 豊	WEB
委員		一般社団法人日本防護服協議会	鈴木 一裕	会場
委員	WG1 幹事・WG 統括事務局	アゼアス株式会社	野原 由樹子	会場
委員	WG2・6 幹事	一般財団法人カケンテストセンター	辻 創	会場
委員	WG3 幹事	アゼアス株式会社	磯田 実	会場
委員	WG5 主査	防衛装備庁 艦艇装備研究所	山田 晃也	会場
委員	WG8 幹事	アトム株式会社	森下 哲樹	会場
オブザーバー		デュポン・スペシャルティ・プロダクツ株式会社	池田 信一郎	会場
オブザーバー			稲井 巡	会場
オブザーバー		一般社団法人日本防護服協議会	山田 彩	会場
事務局		公益社団法人日本保安用品協会	尾崎 克己	会場

4. 議事概要:

(1) 委員長挨拶及び参加者自己紹介

山内委員長からご挨拶を頂戴したあと、参加者が自己紹介した。

(2) 2023 年度国際規格原案回答状況報告

統括事務局より資料 2023 国②-2 が提示され、2022 年度の審議案件は 38 件(NP 1 件、WG 1 件、CD 3 件、DIS 10 件、FDIS 1 件、SR 12 件、CIB 8 件、WDRL 1 件、その他 1 件)あり、回答期日に間に合うように該当 WG にて審議し回答している旨の報告があった。また、発行された ISO は ISO 11610:2023 及び ISO 13997:2023 の 2 件であった。

(3) 2022 年度活動報告 WG 1

野原 WG1 幹事より資料 2023 国②-3~10 が提示され報告があった。国際会議は長野県上田にて 4 回(SC13 が 1 回、WG が 1 回、PG が 2 回)開催され参加した。国内会議は 1 回開催され、他にも投票案件の必要に応じてメール審議を実施した。

国際規格は WG1 件 (TR 19382)、DIS 2 件 (24231, 24232)、CIB 2 件 (N2092、N2090) に回答済みである。

(4) 2022 年度活動報告 WG 2

辻 WG2 幹事から資料 2023 国②-11~20 が提示され報告があった。国際会議は 12 月 12 日に Teams にて開催予定。他にも投票案件の必要に応じてメール審議を実施した。

国際規格は 8 件審議している。CD 1 件 (9185)、DIS5 件 (13506-2、14460、13506-1、11612、14116)、CIB 1 件 (N2104)、WDRL 1 件 (12127-2)、その他 1 件 (AWI 9185) には賛成投票を実施した。

DIS 14460 及び DIS 11612 について、ファスナーにも難燃性を要求すべきと提案をし、要求事項として採用されている。しかし、DIS 11612 については 12 月 12 日の会議で反対意見がでる可能性もあり、様子を見ている。

ISO 9185 で熔融金属を使った火傷を評価するために使う模擬皮膚の在庫が少なくなっていることが欧州で問題になっていたが、代替物の開発が出来た為、代替物に切り替えための提案があった。日本では試験実施例が少なく、影響も少ない為、賛成投票を行った。

(5) 2022 年度活動報告 WG 3

磯田 WG3 幹事より資料 2023 国②-21~29 が提示され報告があった。国際会議へは長野県上田にて 3 回 (SC13 が 1 回、WG が 1 回、PG が 1 回) 開催され参加した。国内会議は開催していないが、上田会議の前にエキスパート会議を 1 回開催した。

国際規格は 8 件審議している。CIB 1 件 (N2093) と DIS 1 件 (17491-4) に賛成投票を行った。CD 1 件 (17491-5) に対して、コメントをした。SR 3 件 (13982-1、13982-2、17491-2) は“改訂”を選択し、JIS 改正で出てきた点をコメントした。

(6) 2022 年度活動報告 WG 5

WG5 幹事不在のため、日本防護服協議会の統括事務局 (野原) より資料 2023 国②-30~32 が提示され報告があった。国際会議へは長野県上田にて 2 回 (SC13 が 1 回、WG が 1 回) 開催され参加した。国内ではメール審議を実施し、SR 6 件 (11393-1、11393-3、11393-2、11393-4、11393-5、11393-6)、CIB 1 件 (WG 5 コンビナー) に回答予定である。CIB 投票では、長らく不在であった WG 5 コンビナーの後任として、アメリカから立候補者が出たため、日本からは賛成で投票予定である。JIS については、JIS T 8125-5 及び-6 の改正原案作成委員会を 9 回開催した。ISO 11393-3:2018 に対応した JIS T 8125-3 は来年発行される予定。

(7) 2022 年度活動報告 WG 6

辻 WG6 幹事より資料 2023 国②-34~37 が提示され報告があった。国際会議へは長野県上田にて 3 回 (SC13 が 1 回、WG が 1 回、PG が 1 回) 開催され参加した。国内会議は 1 回開催した。

国際規格は 4 件審議している。投票件数は少ないが、活発に審議が進められている。CIB 1 件 (N2089) には賛成投票を行った。製品規格である CD 1 件 (22615) には賛成投票、NP 1 件 (20384) には、20384 と 22615 の住み分けの必要や、日本では AAMI/PB70 に基づい

た性能評価を行っている製品が多くありユーザーの混乱を招く可能性がある為、反対投票を行った。SR 1 件(22610)についても期日までに投票を行う。

(8) 2022 年度活動報告 WG 8

森下 WG 8 幹事より、資料 2023 国②-38~42 が提示され報告があった。国際会議へは長野県上田市にて 3 回(SC13 が 1 回、WG が 2 回)、ベルギーのアンデルレヒト及びベルギーのブリュッセルにて各 1 回(WEB 参加)、Teams 会議が 1 回開催され、参加した。国内会議は開催していないが、必要に応じてメール審議を実施した。

国際規格は 5 件(DIS 1 件、FDIS 1 件、CIB 2 件)を審議し、FDIS(13997)、CIB(N2108)、DIS(374-6)には賛成投票を行った。CIB(WG 8 コンビーナ)及び DIS(23388)については未定である。FDIS 投票については 6 月に ISO 13997:2023 として発行されている。なお、次回以降の SR 投票などは WG 5 で行うこととなる。こちらを基として、JIS T 8052 を改正予定。JIS については、JIS T8119 制定原案作成委員会を 10 回、JIS T8052 改正原案作成委員会を 7 回開催した。

(9) SC 13 国際会議について

鈴木委員より、資料 2023 国②-43 が提示され、2023 年 9 月 10 日(日)~9 月 15 日(金)に、長野県上田市にある信州大学繊維学部上田キャンパスにて開催された、SC13 上田国際会議について報告があった。9 月 13 日及び 14 日にキャンパスツアーを、9 月 13 日にソーシャルイベントを開催した。

(10) TC94 議長選任について

統括事務局より、TC94 議長選任の CIB 投票について、説明があった。SC 13/WG 2 のコンビーナも務めている、David Matthews 氏が推薦されている。SC 13 としては賛成の意見を、日本保安用品協会宛に連絡することとなった。また、SC 14 にも確認をすることとした。

(11) WG 主査・幹事について

山内理事長が WG1、WG3、WG8 主査を 12 月に辞任する意向を示していること、また WG5 幹事の不在が続いていることから、後任の主査及び幹事候補者について各 WG 主査・幹事及び関係者で検討した内容として、2024 年 3 月までの暫定処置として、下記の体制にしたいとの説明があった。(変更箇所は網掛け部分)

変更日は 12 月 1 日からとすることとした。

WG	主査	幹事	主査	幹事
WG 1	山内氏	野原氏	篠原氏	野原氏
WG 2	若月氏	辻 氏	若月氏	辻 氏
WG 3	山内氏	磯田氏	稲井氏	磯田氏
WG 5	山田氏	(不在)	山田氏	辻 氏
WG 6	篠原氏	辻 氏	篠原氏	磯田氏
WG 8	山内氏	森下氏	稲井氏	森下氏

また、今後の主査・幹事の体制について、主査の方の立場について(アカデミックな方のみなのか、民間企業の方でも良いのか、現役の方のみなのか、等)、新しい方にご参加いた

だけののか、主査幹事就任依頼をする際の規則や書面、等を議論する場として、主査・幹事ミーティングを別途開催することとした。

5. 配布資料:

2023国②-1	2023 年度 ISO/TC94/SC13 国内審議分科委員会 名簿
2023国②-2	2023 年度国際規格原案回答状況表
2023国②-3	2023 年度 WG 1 調査表
2023国②-4	ISO 活動報告② DIS: ISO/DIS 24231:Protective clothing – Protection against rain – Test method for ready-made garments against high-energy droplets from above
2023国②-5	ISO 活動報告② DIS: ISO/DIS 24232:Protective clothing – Protection against rain
2023国②-6	ISO 活動報告② CIB: ISO/TC94/SC13 N2092: Draft Res 732/2023 – ISO 24231&ISO 24232 9-month extension
2023国②-7	ISO 活動報告② CIB: ISO/TC94/SC13 N2090: Draft Res 731/2023 – ISO/DIS 24232 new project leader
2023国②-8	ISO 活動報告② WG: ISO TR 19382
2023国②-9	ISO 活動報告② SR: ISO 20471:2013 (vers 2)
2023国②-10	WG 1 第 1 回作業部会議事録
2023国②-11	2023 年度 WG 2 調査表
2023国②-12	ISO 活動報告② DIS: ISO/DIS 13506-2 (Ed 2):Protective clothing against heat and flame – Part 2: Skin burn injury prediction – Calculation requirements and test cases
2023国②-13	ISO 活動報告② DIS: ISO/DIS 14460 (Ed 2):Protective clothing for automobile racing drivers – Protection against heat and flame – Performance requirements and test methods
2023国②-14	ISO 活動報告② DIS: ISO/DIS 13506-1 (Ed 2):Protective clothing against heat and flame – Part 1: Test method for complete garments – Measurement of transferred energy using an instrumented manikin
2023国②-15	ISO 活動報告② CIB: ISO/TC94/SC13 N2104: Draft Res 734/2023 – 9-month extension for ISO 13506-1 + -2
2023国②-16	ISO 活動報告② WDRL: ISO 12127-2:2007
2023国②-17	ISO 活動報告② その他: ISO/AWI 9185
2023国②-18	ISO 活動報告② DIS: ISO/DIS 11612 (Ed 4)
2023国②-19	ISO 活動報告② DIS: ISO/DIS 14116 (Ed 3)
2023国②-20	ISO 活動報告② CD: ISO/CD 9185:Protective clothing – Assessment of resistance of materials to molten metal splash
2023国②-21	2023 年度 WG 3 調査表
2023国②-22	ISO 活動報告② CD: ISO/CD 17491-5:Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 5: Determination of resistance to penetration by a spray of liquid (manikin spray test)
2023国②-23	ISO 活動報告② CIB: ISO/TC94/SC13 N2093: Draft Res 733/2023 – decision SR ISO 27065:2017
2023国②-24	ISO 活動報告② DIS: ISO/DIS 17491-4 (Ed 2)
2023国②-25	ISO 活動報告② SR: ISO 13982-1:2004 (vers 3)
2023国②-26	ISO 活動報告② SR: ISO 13982-2:2004 (vers 3)
2023国②-27	ISO 活動報告② SR: ISO 17491-1:2012 (vers 2)
2023国②-28	ISO 活動報告② SR: ISO 17491-2:2012 (vers 2)
2023国②-29	ISO 活動報告② DIS: ISO/DIS 17491-5 (Ed 2)
2023国②-30	2023 年度 WG 5 調査表
2023国②-31	ISO 活動報告② SR: ISO 11393-1:2018 (Ed 2)

2023国②-32	ISO 活動報告② SR: ISO 11393-3:2018 (Ed 2)
2023国②-33	2023 年度 WG 6 調査表
2023国②-34	ISO 活動報告② CIB: ISO/TC94/SC13 N2089: Draft Res 730/2023 – ISO 22615 9-month extension
2023国②-35	ISO 活動報告② CD: ISO/CD 22615
2023国②-36	ISO 活動報告② NP: ISO/NP 20384
2023国②-37	WG 6 第 1 回作業部会議事録
2023国②-38	2023 年度 WG 8 調査表
2023国②-39	ISO 活動報告② FDIS: ISO/FDIS 13997 (Ed 2):Protective clothing – Mechanical properties – Determination of resistance to cutting by sharp objects
2023国②-40	ISO 活動報告② CIB: ISO/TC94/SC13 N2108: Draft Res 735/2023 – ISO 374-5 proceed to direct publication
2023国②-41	ISO 活動報告② DIS: ISO/DIS 374-6
2023国②-42	ISO 活動報告② CIB_Appointment WG 8 Convenor
2023国②-43	SC13 上田会議 報告書
2023国②-44	防護服関連 ISO 規格の JIS 化推進計画

以上

**10. 2023 年度 ISO/TC 94/SC 13
國際規格回答原案一覽表**

10. 2023年度ISO/TC 94/SC 13(防護服)国際規格回答原案一覧表

(回答期限: 2023年4月1日~2024年3月31日)

更新日 2024/4/1

1. 原案段階別、WG別 回答実績

	NP*1	WG*2	CD*3	DIS*4	DTR*5	FDIS*6	SR*7	CIB*8	WDRL*9	その他*10	合計
WG1	0	1	0	2	0	1	1	2	0	0	7
WG2	0	0	1	5	0	0	0	1	1	1	9
WG3	0	0	1	2	0	0	4	3	0	0	10
WG5	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	7
WG6	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	4
WG8	0	0	0	1	0	1	0	2	0	0	4
SC13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	1	3	10	0	2	12	10	1	1	41

*1: New Proposal Balloting, *2: Working Group Consultation, *3: Committee Draft Balloting, *4: Draft International Standard Balloting,
*5: Draft Technical Report, *6: Final Draft International Standard Balloting, *7: Systematic Review Balloting, *8: CIB (Committee Internal Balloting),
*9: Withdrawal consultation *10: その他(ISO投票サイト以外で回答が求められている案件、メールでの問い合わせなど)

2. WG別 回答実績 詳細

No.	WG	Type	文書番号	規格名称 (英文)	回答期日	回答内容
1	1	DIS	ISO/DIS 24231	Protective clothing – Protection against rain – Test method for ready-made garments against high-energy droplets from above	2023/4/6	Approval
2	1	DIS	ISO/DIS 24232	Protective clothing – Protection against rain	2023/4/6	Approval
3	1	CIB	ISO/TC94/SC13 N2092	Draft Res 732/2023 – ISO 24231&ISO 24232 9-month exte extension	2023/5/18	Approve
4	1	CIB	ISO/TC94/SC13 N2090	Draft Res 731/2023 – ISO/DIS 24232 new projet leader	2023/5/31	Yes
5	1	WG	ISO TR 19382	ISO TR 19382 Guidelines of human validation for comfort evaluation during practical performance tests	2023/8/25	エキスパートごとに投票
6	1	SR	ISO 20471:2013 (vers 2)	High visibility clothing – Test methods and requirements	2023/9/2	Revise/Amend
7	1	FDIS	ISO/FDIS 24231	Protective clothing – Protection against rain – Test method for ready-made garments against high-energy droplets from above	2024/3/25	Approval with corrections'
8	2	DIS	ISO/DIS 13506-2 (Ed 2)	Protective clothing against heat and flame – Part 2: Skin burn injury prediction – Calculation requirements and test cases	2023/4/19	Approval
9	2	DIS	ISO/DIS 14460 (Ed 2)	Protective clothing for automobile racing drivers – Protection against heat and flame – Performance requirements and test methods	2023/4/19	Approval with comments

No.	WG	Type	文書番号	規格名称 (英文)	回答期日	回答内容
10	2	DIS	ISO/DIS 13506-1 (Ed 2)	Protective clothing against heat and flame – Part 1: Test method for complete garments – Measurement of transferred energy using an instrumented manikin	2023/4/24	Approval
11	2	CIB	ISO/TC94/SC13 N2104	Draft Res 734/2023 – 9-month extension for ISO 13506-1 + -2	2023/6/6	Approve
12	2	WDRL	ISO 12127-2:2007	Clothing for protection against heat and flame – Determination of contact heat transmission through protective clothing or constituent materials – Part 2: Test method using contact heat produced by dropping small cylinders	2023/6/21	Approval
13	2	その他	ISO/AWI 9185	Protective clothing – Assessment of resistance of materials to molten metal splash	2023/6/23	コメントなし
14	2	DIS	ISO/DIS 11612 (Ed 4)	Protective clothing – Clothing to protect against heat and flame – Minimum performance requirements	2023/11/13	Approval with comments
15	2	DIS	ISO/DIS 14116 (Ed 3)	Protective clothing – Protection against flame – Limited flame spread materials, material assemblies and clothing	2023/11/14	Approve
16	2	CD	ISO/CD 9185	Protective clothing – Assessment of resistance of materials to molten metal splash	2023/11/28	No
17	3	CD	ISO/CD 17491-5	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 5: Determination of resistance to penetration by a spray of liquid (manikin spray test)	2023/4/20	Yes
18	3	CIB	ISO/TC94/SC13 N2093	Draft Res 733/2023 – decision SR ISO 27065:2017	2023/6/5	Approve
19	3	DIS	ISO/DIS 17491-4 (Ed 2)	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 4: Determination of resistance to penetration by a spray of liquid (spray test)	2023/8/24	Approval
20	3	SR	ISO 13982-1:2004 (vers 3)	Protective clothing for use against solid particulates – Part 1: Performance requirements for chemical protective clothing providing protection to the full body against airborne solid particulates (type 5 clothing)	2023/9/2	Revise/Amend
21	3	SR	ISO 13982-2:2004 (vers 3)	Protective clothing for use against solid particulates – Part 2: Test method of determination of inward leakage of aerosols of fine particles into suits	2023/9/2	Revise/Amend
22	3	SR	ISO 17491-1:2012 (vers 2)	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 1: Determination of resistance to outward leakage of gases (internal pressure test)	2023/9/2	Confirm
23	3	SR	ISO 17491-2:2012 (vers 2)	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 2: Determination of resistance to inward leakage of aerosols and gases (inward leakage test)	2023/9/2	Revise/Amend

No.	WG	Type	文書番号	規格名称 (英文)	回答期日	回答内容
24	3	DIS	ISO/DIS 17491-5 (Ed 2)	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 5: Determination of resistance to penetration by a spray of liquid (manikin spray test)	2023/11/21	Approval with comments
25	3	CIB	ISO/TC94/SC13 N2197	Appoint project leader for ISO/AWI 13994	2024/3/15	Yes
26	3	CIB	ISO/TC94/SC13 N2198	DRAFT Res 744/2024 Approval 9-month extension ISO/AWI 13994	2024/3/15	Approve
27	5	SR	ISO 11393-1:2018 (Ed 2)	Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 1: Test rig for testing resistance to cutting by a chainsaw	2023/12/2	Revise/Amend
28	5	SR	ISO 11393-3:2018 (Ed 2)	Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 3: Test methods for footwear	2023/12/2	Confirm
29	5	CIB	ISO/TC94/SC13 N2179	Appointment WG 5 Convenor	2023/12/18	Yes
30	5	SR	ISO 11393-2:2018 (Ed 2)	Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 2: Performance requirements and test methods for leg protectors	2024/3/3	Revise
31	5	SR	ISO 11393-4:2018 (Ed 2)	Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 4: Performance requirements and test methods for protective gloves	2024/3/3	Revise
32	5	SR	ISO 11393-5:2018 (Ed 2)	Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 5: Performance requirements and test methods for protective gaiters	2024/3/3	Revise
33	5	SR	ISO 11393-6:2018 (Ed 2)	Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 6: Performance requirements and test methods for upper body protectors	2024/3/3	Confirm
34	6	CIB	ISO/TC94/SC13 N2089	Draft Res 730/2023 – ISO 22615 9-month extension	2023/5/31	Approve
35	6	CD	ISO/CD 22615	Protective clothing – Performance requirements and test methods for protective clothing against infective agents	2023/6/30	Yes
36	6	NP	ISO/NP 20384	Surgical clothing and drapes – Requirements and test methods	2023/9/12	Disapprove
37	6	SR	ISO 22610:2018 (Ed 2)	Surgical drapes, gowns and clean air suits, used as medical devices, for patients, clinical staff and equipment – Test method to determine the resistance to wet bacterial penetration	2023/12/2	Confirm

No.	WG	Type	文書番号	規格名称 (英文)	回答期日	回答内容
38	8	FDIS	ISO/FDIS 13997 (Ed 2)	Protective clothing – Mechanical properties – Determination of resistance to cutting by sharp objects	2023/5/15	Approval with corrections
39	8	CIB	ISO/TC94/SC13 N2108	Draft Res 735/2023 – ISO 374-5 proceed to direct publication	2023/6/6	Yes
40	8	DIS	ISO/DIS 374-6	Protective gloves against dangerous chemicals and micro-organisms – Part 6: Protective gloves for hairdressers	2023/7/13	Approval with comments
41	8	CIB	ISO/TC94/SC13 N2180	Appointment WG 8 Convenor	2023/12/18	Yes

**11. ISO/TC 94(個人安全-個人用保護具)/
SC 13(防護服)/WG(作業部会) 活動報告**

11.1 WG 1 防護服の一般特性

調査表 ISO/TC 94/SC 13/WG 1

1. 2023年4月～2024年3月 活動概要

1. 国際会議

- ・ 2023/9/11 PG 19382 @信州大学繊維学部 長野県上田市(日本)又はWeb参加
- ・ 2023/9/11 PG 24231, 24232 @信州大学繊維学部 長野県上田市(日本) 又はWeb参加
- ・ 2023/9/15 WG 1 @信州大学繊維学部 長野県上田市(日本)
- ・ 2023/9/15 SC 13 総会 @信州大学繊維学部 長野県上田市(日本)
- ・ 2024/2/15 WG 1 @Zoom

2. 国内作業部会

- ・ 2023/7/25 WG1第一回作業部会
- ・ 投票案件等の必要に応じ、メール審議実施

2. 2023年4月～2024年3月 国際標準化活動

(1) 国際規格案回答状況等

① 国際規格案等回答件数

NP*1	WG*2	CD*3	DIS*4	DTR*5	FDIS*6	SR*7	CIB*8	WDRL*9	その他 *10
0	1	0	2	0	1	1	2	0	0

*1: New Proposal Balloting, *2: Working Group Consultation, *3: Committee Draft Balloting, *4: Draft International Standard Balloting,

*5: Draft Technical Report, *6: Final Draft International Standard Balloting, *7: Systematic Review Balloting, *8: CIB (Committee Internal Balloting),

*9: Withdrawal consultation *10: その他(ISO 投票サイト以外で回答が求められている案件、メールでの問い合わせなど)

② 上記回答件数の内訳

Type	文書番号	規格名称(英文)	回答期日	回答内容
DIS	ISO/DIS 24231	Protective clothing – Protection against rain – Test method for ready-made garments against high-energy droplets from above	2023/4/6	Approval
DIS	ISO/DIS 24232	Protective clothing – Protection against rain	2023/4/6	Approval
CIB	ISO/TC94/SC13 N2092	Draft Res 732/2023 – ISO 24231&ISO 24232 9-month extension	2023/5/18	Approve
CIB	ISO/TC94/SC13 N2090	Draft Res 731/2023 – ISO/DIS 24232 new project leader	2023/5/31	Yes
WG	ISO TR 19382	ISO TR 19382 Guidelines of human validation for comfort evaluation during practical performance tests	2023/8/25	エキスパートごとに投票

SR	ISO 20471:2013 (vers 2)	High visibility clothing — Test methods and requirements	2023/9/2	Revise/Amend
FDIS	ISO/FDIS 24231	Protective clothing — Protection against rain — Test method for ready-made garments against high-energy droplets from above	2024/3/25	Approval with corrections'

(2) 国際会議

① 国際会議開催回数(日本未参加会議、Web 会議を含む)

SC13	WG	PG
1回	1回	3回

② 上記国際会議開催回数の内訳

会議名	開催日	開催地(地名/国) 又は参加形式	出席者数*11
WG 1/TR 19382	2023/9/11	長野県上田市/日本	6名
		Zoom	1名
WG 1/PG Rain(24231, 24232)	2023/9/11	長野県上田市/日本	6名
		Zoom	1名
WG 1meeting	2023/9/15	長野県上田市/日本	6名
		Zoom	0名
SC 13 plenary meeting	2023/9/15	長野県上田市/日本	11名
		Zoom	0名
WG 1/TR 19382	2024/2/15	Zoom	4名

* 11: 日本から SC13 として参加した人数(SC 13 議長含む)

(3) 国内会議

① 国内会議開催回数

WG
1回

② 上記国内会議開催回数の内訳

会議名	開催日	開催場所又は参加形式	出席者数 *12
WG1 第一回作業部会	2023年7月25日	アゼアス株式会社 /Web(Microsoft Teams)	16名

* 12: 委員・関係者・事務局等を含む、会議参加者の総数

3. 2023 年度 JIS 素案作成委員会

① JIS 素案作成委員会等会議開催数

本委員会	分科会
0回	0回

② 上記①の内訳

会議名	開催日	開催場所又は参加形式	出席者数 *13

*13: 委員・関係者・事務局等を含む、会議参加者の総数

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	ISO/DIS 24231	発行年月日： 2023/01/12 投票期日： 2023/04/06
タイトル (英語)	Protective clothing – Protection against rain – Test method for ready-made garments against high-energy droplets from above	
タイトル (日本語)	防護服—降雨に対する防護—上方からの大量の液滴に対する完成品試験方法(人工降雨試験)	
規格内容	<p>中国からの新規国際標準化提案。ヨーロッパで既に運用されているEN 14360を基礎としている。マネキンにレインウェアを着用させ、5m上方から、大量の液滴を浴びせ、レインウェア内側への漏れの有無を確認する試験方法。</p> <p>規格の構成は次のとおりである。</p> <p>まえがき</p> <p>序文</p> <p>1 適用範囲</p> <p>2 引用規格</p> <p>3 用語及び定義</p> <p>4 原理</p> <p>5 テストデバイス</p> <p>6 マネキンの着衣と配置</p> <p>7 試験方法</p> <p>8 試験報告書</p> <p>附属書A(参考) レインシミュレーションの一般的なバックグラウンド</p> <p>附属書B(規定) 漂白されたテキスタイルの吸収性</p> <p>参考文献</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	無し	
投票内容	我が国は賛成投票を行った。 賛成多数で可決された。(賛成 20 か国、反対0か国、棄権 15 か国)	
対応する JIS 規格の有無	無し	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	ISO/DIS 24232	発行年月日： 2023/01/12 投票期日： 2023/04/06
タイトル (英語)	Protective clothing – Protection against rain	
タイトル (日本語)	防護服－降雨に対する防護	
規格内容	<p>中国からの新規国際標準化提案。ヨーロッパで既に運用されている EN 343 を基礎としている。降雨に対する防護服に関する材料、縫合部、表示などの性能要求事項を規定している。</p> <p>規格の構成は次のとおりである。</p> <p>まえがき 序文 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 性能評価及び性能要求事項 5 試験方法 6 サイズ 7 マーキング及び表示 8 製造業者が提供する情報</p> <p>附属書 A(参考) 着用時間に関する推奨事項 附属書 B(参考) 燃料及びオイルへの片側暴露試験装置 参考文献</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	無し	
投票内容	我が国は賛成投票を行った。 賛成多数で可決された。(賛成 21 か国、反対 0 か国、棄権 14 か国)	
対応する JIS 規格の有無	無し	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	CIB: Draft Res 732/2023 – ISO 24231&ISO 24232 9-month extension	発行年月日: 2022/04/19 投票期日: 2023/05/18
タイトル (英語)	Draft Res 732/2023 – ISO 24231&ISO 24232 9-month extension	
タイトル (日本語)	Draft Res 732/2023 – ISO 24231&ISO 24232 9 か月延長	
規格内容	ISO 24231(降雨に対する防護服の完成品試験方法)及び ISO 24232(降雨に対する防護服の性能要求事項)は、CD 投票が可決され、DIS 段階まで審議ステージが進んでいる。2023 年 4 月 6 日には DIS 投票が締め切られ、賛成多数で可決される見込みであるが、審議の過程で、①ウィーン協定のもとこれらの二つの規格を EN ISO として制定するための投票、②中国と欧州との共同プロジェクトリーダーの任命投票、③欧州の HAS コンサルタントからのコメント対応などに時間がかかったため、予定よりも審議が遅れている。予め設定された規格の成立期限までに規格を成立させないと、規格が自動的にキャンセル(廃案)されてしまうルールが ISO にはあるため、規格が自動キャンセルされないようにするため、今回の投票では、成立期限を 9 か月延長させることが提案され、その賛否が問われた。	
本規格に反映された我が国提案の内容	無し	
投票内容	我が国は賛成投票を行った。 投票の結果、賛成多数で可決された。	
対応する JIS 規格の有無	無し	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	CIB: Draft Res 731/2023 – ISO/DIS 24232 new project leader	発行年月日： 2022/04/19 投票期日： 2023/05/31
タイトル (英語)	Draft Res 731/2023 – ISO/DIS 24232 new project leader	
タイトル (日本語)	Draft Res 731/2023 – ISO/DIS 24232 新プロジェクトリーダー	
規格内容	<p>本案件では、中国から推薦された Cai Zhong 氏を、ISO 24232 のプロジェクトリーダーに指名することへの賛否が問われた。</p> <p>※ISO 24232 は、中国が新規国際標準化を提案し、推進している。ヨーロッパで運用されている EN 343 を基礎としており、降雨に対する防護服に関する材料、縫合部、表示などの性能要求事項を規定している。</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	無し	
投票内容	<p>我が国は賛成投票を行った。</p> <p>投票の結果、賛成多数で可決された。</p>	
対応する JIS 規格の有無	無し	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	ISO TR 19382	発行年月日： 2023/06/28 投票期日： 2023/08/25
タイトル (英語)	Guidelines of human validation for comfort evaluation during practical performance tests	
タイトル (日本語)	実用性能試験における快適性評価のための人による検証(妥当性確認)のガイドライン	
規格内容	<p>本案件は 2022 年 9 月 26 日開催の WG6 会議にて韓国が新規提案した、感染性病原体に対する防護服に焦点を当てた内容だったが、WG 1 に移管し、SC13 全体にかかわる TR(標準報告書)とすることになった。今回、2023 年 9 月の上田会議にて内容を審議するために、WG1 のエキスパートあてに意見照会が行われた。</p> <p>個人用保護具(PPE)を装着した作業者が実用性能試験を行った際に、どの位動けるか、不快ではないかを評価する方法が記載されている。異なる防護服や PPE の性能を比較するために用いることを意図している。</p> <p>※ISO 規格とは違って、TR には、推奨事項や要求事項を含めることができない。</p> <p>主な目次は次のとおり。 序文、1 適用範囲、2 引用規格、3 用語及び定義 4 テストアンサンプルの一般要求事項 5 試験のためのサンプリング、前処理、コンディショニング 5.1 防護装備のサンプリング及び量、5.2 前処理及びコンディショニング 6 姿勢の制限テスト 7 実用性能試験 7.1 一般 7.2 被験者(7.2.1 安全性と倫理性、7.2.2 被験者の数及びサイズ、7.2.3 ドキュメンテーション、7.2.4 水分補給の状態) 7.3 試験環境 7.4 試験手順 7.5 測定項目(7.5.1 環境モニタリング、7.5.2(名称未定)、7.5.3 生理的快適性測定(オプション)、7.5.4 コンプリート時間、7.5.5 エルゴノミック及びデザインの基本機能評価 7.5.6 目視評価) 8 評価及び試験報告書、附属書 A、附属書 B、参考文献</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	特に無し	
投票内容	<p>WG1 国内エキスパートがそれぞれ回答を行った。</p> <p>回答例: 今回の草案に記載されている実用性能試験を行って測定しても差は出ないため無意味になるとの懸念がある。実用性能試験の内容はその試験の目的によって決められるべきであり、本文には測定方法のみ記載すべきである。色々な防護服があり、行う動作が異なり被験者に与えられる負荷は異なるはずなので、実用性能試験については、その例を参考情報として附属書に列挙すべき。</p>	
対応する JIS 規格の有無		

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	SR/ ISO 20471:2013 (vers 2)	発行年月日： 2022/04/15 投票期日： 2023/09/02
タイトル (英語)	High visibility clothing – Test methods and requirements	
タイトル (日本語)	高視認性安全服	
規格内容	<p>この規格は 2013 年に成立した高視認性安全服の製品規格であり、2016 年に追補が発行されている。2017 年に定期見直し投票が行われ、日本から、JIS と ISO とで異なる箇所、例えばアンサンブルの重ね位置などについての修正提案を行ったが、国際会議における議論の結果、採用されず改正が見送られた経緯がある。その後一定期間(5 年)が経過したため、今回再度、定期見直し投票が行われることになり、プロジェクトリーダー及びエキスパートも募られた。</p> <p>本規格の構成は次のとおりである。</p> <p>まえがき 序文 1. 適用範囲 2. 引用規格:ISO 18 本、EN 1 本、CIE 2 本 3. 用語と定義 4. デザイン 5. バックグラウンド材料、非蛍光材料及び複合機能材料の要求事項 6. 前処理(負荷試験)後の再帰反射材料及び複合機能材料の測光性能要求事項 7. 試験方法 8. 表示 9. 取扱説明書 附属書 A(参考) リスク水準情報 附属書 B(規定) 工業用洗濯試験時の帯状再帰反射材のジャケットへの取り付け位置 附属書 C(規定) 湿潤時における再帰反射性能の測定方法 附属書 D(参考) 高視認性衣服のデザインガイドライン 参考文献</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	<p>4.1 意匠(デザイン)のタイプ及びクラスに於けるアイテム単体でのクラス換算について 4.1 意匠(デザイン)のタイプ及びクラスに於けるロゴで妨げられる面積について 8 図記号の ISO7000-2419 との整合性について</p>	
投票内容	<p>日本からは、改正すべきとして回答し、コメントを付し、エキスパートを指名した。</p> <p>主なコメント:6.2.2 の観測角や度分秒の誤りの訂正、7.2 CIE D65 光源の代替提案 エキスパート:山内 正剛、辻 創、吉井 秀雄、野原 由樹子(※敬称略)</p> <p>投票の結果、改正する方向で議論を開始することになった。</p>	
対応する JIS 規格の有無	JIS T 8127:2020(高視認性安全服) ※追補の内容も反映されている。	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	FDIS : ISO/FDIS 24231	発行年月日： 2024/01/29 投票期日： 2024/03/25
タイトル (英語)	Protective clothing – Protection against rain – Test method for ready-made garments against high-energy droplets from above	
タイトル (日本語)	防護服-降雨に対する防護-上方からの高エネルギー液滴に対する既製の試験方法	
規格内容	<p>中国からの新規国際標準化提案。ヨーロッパで既に運用されている EN 343 を基礎としている。降雨に対する防護服に関する材料、縫合部、表示などの性能要求事項を規定している。 規格の構成は次のとおりである。</p> <p>まえがき 序文 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 性能評価及び性能要求事項 5 試験方法 6 サイズ 7 マーキング及び表示 8 製造業者が提供する情報 附属書 A(参考) 着用時間に関する推奨事項 附属書 B(参考) 燃料及びオイルへの片側暴露試験装置 参考文献</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容		
投票内容	コメント付き賛成投票。賛成 25、反対 0、棄権 14 で成立した。	
対応する JIS 規格の有無	無し	

ISO 活動報告①—規格化された ISO について—

番号	ISO 11610:2023	発行年月日:2023/05/15
タイトル (英語)	Protective clothing -- Vocabulary	
タイトル仮訳 (日本語)	防護服—用語	
内容	<p>規格の構成は次のとおりである。</p> <p>まえがき 序文 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 Clothing に関する用語 5 防護服に関する用語 6 熱及び火炎ハザードに対する防護に関する用語 7 ケミカルハザードに対する防護に関する用語 8 悪天候、風及び寒さハザードに対する防護に関する用語 9 メカニカルハザードに対する防護に関する用語 10 病原体ハザードに対する防護に関する用語 11 ダイビングスーツに関する用語 12 視認性の欠如によるハザードに関する用語 13 静電気の (electrostatic) ハザードに関する用語 14 アークハザードに関する用語 15 選択、使用、ケア、メンテナンス SUCAM に関する用語 16 エレクトロニクスに関する用語 附属書 A (参考 フランス語及びドイツ語 の訳に対する 対応表 参考文献 インデックス</p>	
規格化までの経緯		
本規格に反映された我が国提案の内容	TR 11610 発行後に改訂又は新規制定された防護服分野の ISO 規格で規定された用語や SUCAM に関する用語を追加するよう提案した件など、各種用語の定義に対する提案の多くが採用されている。	
問題点	特になし	
対応 JIS 規格	無し。 * 日本防護服協議会では、TR 11610 の和訳版を作成し発行している。	

2023年度第1回 ISO/TC 94/SC 13/WG 1 作業部会 議事録

1. 日時：2023年7月25日(火) 14:00~17:00
2. 場所：アゼアス(株) 2F 中会議室 (〒111-0051 東京都台東区蔵前 4-13-7)
又は Web 会議 (Microsoft Teams を利用したリモート会議)
3. 参加者：16 名 ※順不同 (敬称略) ※下線の方は Web 参加者
山内 正剛 (国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構)、野原 由樹子 (アゼアス(株))、村山 孝之 (オラフォルジャパン)、辻 創・三橋 卓也 (カケンテストセンター)、池田 信一郎 (デュポン・スペシャルティ・プロダクツ(株))、安藤 健 (ニッセンケン品質評価センター)、久保 徹也・松浦 智 (日本ゴア合同会社)、吉井 秀雄 (ハイドサイン(株))、小林 恵介 (原田産業(株))、平野 信義 (Mipox(株))、山田 亨 (ミドリ安全(株))、稲井 巡、松村 芳美 ((公社) 産業安全技術協会)、篠原 克明 (信州大学)

4. 議事概要：

議題に入る前にリモート出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、適宜的確な意思表示が互いのできる仕組みとなっていることを確認した。

① 山内 WG1 主査挨拶及び委員自己紹介

山内 WG1 主査よりご挨拶頂いた後、WG1 委員及び関係者が自己紹介を行った。

山内主査より議事進行役に野原 WG1 幹事が指名され、議題の審議に入った。

② WG1 上田会議について

WG1 幹事より、WG1 の次回国際会議が、長野県上田市にある信州大学繊維学部のキャンパスをお借りして、次の日程で開催される予定との案内があった。

2023年9月11日(月) 8:30~12:00 TR 19382 の PG 会議

2023年9月11日(月) 13:00~17:30 DIS 24231、DIS 24232 の PG 会議

2023年9月15日(金) 8:30~9:30 WG1 会議

上記会議に参加するためには、事前に GD に登録し、参加登録を行う必要がある。9/13(水) 夕方には GD 登録が無くても参加可能な懇親会が開催される予定である。追って協議会事務局より開催案内が送付されるため、参加を検討頂きたい旨の説明があった。

③ ISO/DIS 24231 (降雨に対する防護服の完成品試験) 及び ISO/DIS 24232 (降雨に対する防護服) について

日本ゴアの久保氏から、規格概要説明及び進捗状況報告があり、その後意見交換等を行った。本案件は、2019年3月に中国から行われた新規提案である。現在、プロジェクトリーダーは中国とドイツが共同で担っている。GD は 2022 年に可決され、DIS は 2023 年 4 月に賛成多数で可決され、9 か月の審議延長を認める投票も 2023 年 5 月に可決されている。2023 年 9 月の上田会議にて DIS 投票で寄せられたコメントについて審議する予定である。

ISO/DIS 24232 は、基本的には EN 14360(2004) を踏襲している。マネキンのサイズについては ISO においてより明確化され限定される方向になっている。

ISO/DIS 24231 は、基本的には EN 343 (2019) を踏襲している。カナダからライナー素材に対する強度規程を追加すべきとのコメント、ロシアからは耐水度測定の際の素材膨脹時の評価上の課題についてのコメント、ドイツからは前処理の方法について他の ISO 20471

などの規格との整合を求めるコメントなどがあつたため、上田会議で審議される予定。
日本からは投票コメントを出していないが、必要に応じて適宜意見提案を行うこととした。

④ ISO/CD 23762（視認性衣服）について

2022年9月のWG1会議にて、DIS投票へ進むことが可決されたが、ISO 7000(3740, 3741, 3742)に登録されていた図記号が、DIS 23762に規定したいEN 17353の図記号とは異なっていたため、ISO/TC145/SC3に修正を要求している。ISOによる自動キャンセルを防ぐために、2023年3月27日に本案件は一旦中止することが決定した。図記号の修正が完了したら本案件を再開するためのNP投票が開始される予定である。

⑤ SR ISO 20471（高視認性安全服）について

前回の定期見直し（2017年）の際に日本が行ったコメント内容を確認した。当時ペンディングとなったエディトリアルな点については、再度コメントを提出することとした。

日本が前回「上下アンサンプルの重ね位置を規定すべき」とコメントした件については、ヨーロッパからの賛同を得られないと分かっているにもかかわらず引き続き提案すべきとの意見と同じ提案はすべきではないとの意見があつた。

前回の定期見直し投票後、「上下アンサンプルの重ね位置について規定すべき」かどうかを検討するためのプロジェクトグループが生まれ、重ね位置を規定しないことが本当に問題なのか調査が行われた結果、EUでは本件に関連する問題提起が行われたことが無かつたこと、認証で上下の重ね位置が問題になったことが無かつたことなどが欧米の試験機関より報告され、審議継続への賛同が得られず、プロジェクトが打ち切りとなった経緯がある。その後の日本国内WG1会議においても、面積計算の記載がない方がデザインの自由度があがるのでは、380 mmという数字は日本の成人女子をもとにしているため世界で受け入れられないのでは、などの意見が挙がり、提案を取り下げた経緯もあることから、同じ切り口からの再提案は行わないこととし、別の切り口での提案であれば検討することとした。

⑥ ISO/TR 19382（防護服の快適性評価）について

2022年9月のWG6国際会議にて、韓国から、防護服を着用して所定の作業を行い、動きやすさや快適性を評価するための指針が提案された。本件はWG1で審議することになり、2023年8月25日期日で、WG1エキスパート向け意見照会が行われている。TRとは、技術報告書のことで規定を含まない。また定期見直しが無く、最長有効期間の制限がない。ISO/TR 11610（防護服-用語）のように、多くの防護服のISO規格で引用される可能性があるため、スコープから慎重に議論した。参加者から出た主なコメントは次のとおり。

- ・ 特定の範囲を決めるのか全体を示して指針だけ与えるのか方向性を決めたほうが良い。
- ・ 当初の予定通りWG6で検討したほうがよい。医療従事者用に考えるべき。
- ・ タイトルに「comfort（快適性）」を使わないほうが良い。快適かどうかはユーザーが決める。タイトルからパフォーマンスを取るほうがよい。防護服を着用することによって生じる不快感を測る内容であるため、「生理学的負荷評価」にしたほうがコンフォートにふれなくてよいのではないかと。熱ストレスのはかり方のみを記述すべき。
- ・ スコープは熱負荷の話になっている。SC14マターには触らないほうがよい。
- ・ 防護服着用時に快適かどうかは、暑熱ストレスによるものだけではない。服自体がこすれる音がうるさくてコミュニケーションが取りづらいなど音による快不快もある。

- ・ WG6 のバイオハザード対策用の防護服を選別するときに考慮すべきものとしては熱負荷の優先順位が高かったと思われるが、負荷の度合は作業現場によって千差万別である。屋外か空調が効いているのかでも熱負荷は変わる。塩分の取り方、作業時間、水を飲むタイミングなどの規定がある労働環境と無い労働環境がある。
- ・ 防火などの超特殊環境はそれなりの使用者側の覚悟という条件がある。何用なのか、外部負荷に対するシナリオをスコープにいれておくと分かりやすいかもしれない。
- ・ この規格には評価方法だけを記載すべきである。動作はそれぞれ実施者が考えてやることなので、記述すべきではない。各 WG で標準の動きは決められるのかという疑問がある。WG1 だけでもレイン、高視認など、分野もシチュエーションも様々で作業環境が決められないのではないか。化学防護服のタイプ 1 とタイプ 6 で同じ動きしても全然負荷が違う。一回の負荷が違う。着ているものによって変わってくる。動作自体で規定ができない。差が出てくる負荷の与え方が必要。
- ・ 被験者の感じ方で評価しているところが多いが、同じ人でも答えがかわる。他の国の評価と比較できないのでは。人が行って評価するものでは、被験者がどう感じたか結果がばらつき過ぎる。

まだ回答期日まで日にちがあるため、他に何か意見があれば WG1 幹事まで連絡する。エキスパートは各々の意見を期日までに回答することとした。

⑦ ISO 11610（防護服の用語）について

ISO として 2023 年 5 月に発行された旨の報告があった。

5. 今後の予定

上田会議までに何か追加で審議検討が必要となった場合は、メール審議を行うか又は第 2 回作業部会を開催することとした。

6. 配布資料：

- ① ISO/DIS 24231
- ② ISO/DIS 24232
- ③ ISO/CD 23762
- ④ SR ISO 20471
- ⑤ ISO/TR 19382
- ⑥ ISO-TC 94-SC 13-WG 1_N426_20230711_WG1 Report to SC13_Sept2023
- ⑦ コメントシート：SR ISO 20471
- ⑧ 提案資料：SR ISO 20471
- ⑨ コメントシート：TR 19382

以上

(文責：WG1 幹事 野原)

11.2 WG 2 熱及び火炎に対する防護服

調査表 ISO/TC 94/SC 13/WG 2

1. 2023年4月～2024年3月 活動概要

<p>1. 国際会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2023/12/12 WG 2 meeting @Zoom ・ 2024/3/12、13 WG 2 meeting @Zoom <p>2. 国内作業部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 投票案件等の必要に応じ、メール審議実施
--

2. 2023年4月～2024年3月 国際標準化活動

(1) 国際規格案回答状況等

① 国際規格案等回答件数

NP*1	WG*2	CD*3	DIS*4	DTR*5	FDIS*6	SR*7	CIB*8	WDRL*9	その他*10
0	0	1	5	0	0	0	1	1	1

*1: New Proposal Balloting, *2: Working Group Consultation, *3: Committee Draft Balloting, *4: Draft International Standard Balloting, *5: Draft Technical Report, *6: Final Draft International Standard Balloting, *7: Systematic Review Balloting, *8: CIB (Committee Internal Balloting), *9: Withdrawal consultation *10: その他 (ISO 投票サイト以外で回答が求められている案件、メールでの問い合わせなど)

② 上記回答件数の内訳

Type	文書番号	規格名称 (英文)	回答期日	回答内容
DIS	ISO/DIS 13506-2 (Ed 2)	Protective clothing against heat and flame – Part 2: Skin burn injury prediction – Calculation requirements and test cases	2023/4/19	Approval
DIS	ISO/DIS 14460 (Ed 2)	Protective clothing for automobile racing drivers – Protection against heat and flame – Performance requirements and test methods	2023/4/19	Approval with comments
DIS	ISO/DIS 13506-1 (Ed 2)	Protective clothing against heat and flame – Part 1: Test method for complete garments – Measurement of transferred energy using an instrumented manikin	2023/4/24	Approval
CIB	ISO/TC94/SC13 N2104	Draft Res 734/2023 – 9-month extension for ISO 13506-1 + -2	2023/6/6	Approve
WDRL	ISO 12127-2:2007	Clothing for protection against heat and flame – Determination of contact heat transmission through protective clothing or constituent materials – Part 2: Test method using contact heat produced by dropping small cylinders	2023/6/21	Approval

その他	ISO/AWI 9185	Protective clothing – Assessment of resistance of materials to molten metal splash	2023/6/23	コメントなし
DIS	ISO/DIS 11612 (Ed 4)	Protective clothing – Clothing to protect against heat and flame – Minimum performance requirements	2023/11/13	Approval with comments
DIS	ISO/DIS 14116 (Ed 3)	Protective clothing – Protection against flame – Limited flame spread materials, material assemblies and clothing	2023/11/14	Approval with comments
CD	ISO/CD 9185	Protective clothing – Assessment of resistance of materials to molten metal splash	2023/11/28	Approval

(2) 国際会議

① 国際会議開催回数(日本未参加会議、Web 会議を含む)

SC13	WG	PG
0回	2回	0回

② 上記国際会議開催回数の内訳

会議名	開催日	開催地(地名/国) 又は参加形式	出席者数*11
WG 2 meeting	2023/12/12	Zoom	4名
WG 2 meeting	2024/3/12、13	Zoom	3名

* 11: 日本から SC13 として参加した人数(SC 13 議長含む)

(3) 国内会議

① 国内会議開催回数

WG
0回

② 上記国内会議開催回数の内訳

会議名	開催日	開催場所又は参加形式	出席者数 * 12

* 12: 委員・関係者・事務局等を含む、会議参加者の総数

3. 2023 年度 JIS 素案作成委員会

① JIS 素案作成委員会等会議開催数

本委員会	分科会
0回	0回

② 上記①の内訳

会議名	開催日	開催場所又は参加形式	出席者数 ^{*13}

*13: 委員・関係者・事務局等を含む、会議参加者の総数

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	ISO/DIS 13506-2 (Ed2)	発行年月日： 2023/01/25 投票期日： 2023/04/19
タイトル (英語)	Protective clothing against heat and flame – Part 2: Skin burn injury prediction – Calculation requirements and test cases	
タイトル (日本語)	熱及び火炎に対する防護服 – 第 2 部：皮膚熱傷予測 – 計算条件及びテスト事例	
規格内容	<p>この規格は、火炎にばく露された防護服を通過したエネルギーによって発生する熱傷の予測計算を規定する。熱傷の予測計算方法を検証するためのテスト事例を示す。</p> <p>規格は次のとおり構成されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 一般要求 5. 試験装置, 試験片の作成及び試験方法 6. 皮膚熱傷の予測計算 7. 皮膚熱傷計算事例及び実機校正 8. 試験報告書 <p>附属書 A 温度依存性熱伝導率を持つ皮膚モデル 附属書 B 試験所間試験データによる熱傷予測</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	特記事項無し	
投票内容	賛成	
対応する JIS 規格の有無	無し	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	ISO/DIS 14460 (Ed2)	発行年月日： 2023/01/25 投票期日： 2023/04/19
タイトル (英語)	Protective clothing for automobile racing drivers – Protection against heat and flame – Performance requirements and test methods	
タイトル (日本語)	自動車レースドライバー用防護服—熱及び火炎に対する防護—性能要求及び試験方法	
規格内容	<p>この規格は、自動車レースドライバー用で熱及び火炎に対する防護服の試験方法、性能要求及び設計デザイン要求を規定したものである。この規格は、外衣、下衣、靴下、手袋及びバラクラバ・フードに適用する。</p> <p>規格の構成は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. デザインの要求事項 5. サンプリング方法及び前処理 6. 試験方法 7. 性能要求事項 8. 表示 9. 製造業者が提供する情報 <p>附属書 A 使用者への情報</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	開閉具(ファスナー)についても生地材料同様、難燃性能を有することを提案した	
投票内容	コメント付き賛成	
対応する JIS 規格の有無	無し	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	ISO/DIS 13506-1 (Ed 2)	発行年月日: 2023/01/30 投票期日: 2023/04/24
タイトル (英語)	Protective clothing against heat and flame – Part 1: Test method for complete garments – Measurement of transferred energy using an instrumented manikin	
タイトル (日本語)	熱及び火炎に対する防護服 – 第 1 部: 防護服完成品の試験方法 – マネキンを用いた熱伝達エネルギーの測定	
規格内容	<p>この規格は、火炎に短時間ばく露した防護服完成品または防護服を含む各種防護装備のアンサブルの性能評価に使用するための試験条件、装置、計算方法を規定する。</p> <p>この試験方法は、熱流束、火炎ばく露時間、火炎分布を制御した専用実験室での火災シミュレーション下での、対流エネルギーと放射エネルギーによってばく露される実物大のマネキンへの熱伝達を測定する。熱伝達性のデータとして、総伝達エネルギーを算出する。</p> <p>規格は次のとおり構成されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 概要 5. 試験装置 6. 試料及び採取方法 7. 試験を実施する製品の前提条件 8. 試験手順 9. 試験報告書 <p>附属書 A 試験実施及び試験結果の使用にあたって考慮すべき事項 附属書 B 試験所間試験データ解析 附属書 C 校正及び妥当性検証の手順 附属書 D 火炎放射のためのバーナスタンドの位置調整 附属書 E ソフトウェアプログラムの概要</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	特記事項無し	
投票内容	賛成	
対応する JIS 規格の有無	無し	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	ISO/TC 94/SC 13 N2104 DRAFT Res 734/2023 ISO 13506-1 & ISO 13506-2 - 9-month extension	発行年月日: 2023/05/06 投票期日: 2023/06/06
タイトル (英語)	DRAFT Res 734/2023 ISO 13506-1 & ISO 13506-2 - 9-month extension	
タイトル (日本語)	ISO 13506-1 及び ISO 13506-2 の審議期間 9 か月延長	
規格内容	ISO 13506-1 及び ISO 13506-2 の審議期間を 9 か月延長することの可否を 投票	
本規格に反映され た我が国提案の 内容	特に無し	
投票内容	賛成	
対応する JIS 規格 の有無	無し	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	Withdrawal consultation (WDRL): ISO 12127-2:2007	発行年月日: 2023/04/26 投票期日: 2023/06/21
タイトル (英語)	Clothing for protection against heat and flame – Determination of contact heat transmission through protective clothing or constituent materials – Part 2: Test method using contact heat produced by dropping small cylinders	
タイトル (日本語)	熱及び火炎に対する防護服—防護服又は構成材料に対する接触熱伝達性の測定—第2部:落下型小型円筒による接触熱を用いた試験方法	
規格内容	<p>・本規格の廃止決議に対する投票</p> <p>この規格は、防護服材料に高温金属粒子が衝突したときの熱伝達及び材料の挙動を評価する試験方法である。 この試験は、試験片に熱したシリンダーを落下させ、穴の形成を確認する。その後、最大温度差及び外観変化を記録する。</p> <p><規格の構成></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 適用範囲 2. 用語及び定義 3. 原理 4. 試験装置及び材料 5. 試験片 6. 試験手順 7. 精度 8. 試験の報告事項 	
本規格に反映された我が国提案の内容	特に無し	
投票内容	廃止に賛成	
対応する JIS 規格の有無	無し	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	ISO/AWI 9185	発行年月日： 2023/05/26 投票期日： 2023/06/23
タイトル (英語)	Protective clothing – Assessment of resistance of materials to molten metal splash	
タイトル (日本語)	防護服－熔融金属に対する評価方法	
規格内容	<p>この規格は、熔融金属に対する防護服材料の熱伝達性の評価方法について規定する試験方法規格である。</p> <p>PVC センサーフィルムを試験片の裏面に重ねて固定し、熔融金属の流下後の PVC センサーフィルムの変化を記録し、損傷度合いを評価する。この操作を繰返し、PVC センサーフィルムに損傷が生じる最小質量を算出する。</p> <p>今回は、エキスパートに対して CD 投票に向けたドラフトの意見照会があった。</p> <p><規格の構成></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 原理 5. 試験装置及び材料 6. 試料調整 7. 試験片の準備 8. 試験者の安全管理 9. 試験手順 10. 繰返し試験 11. 無効な試験 12. 試験報告書 	
本規格に反映された我が国提案の内容	特に無し	
投票内容	<p>今回はエキスパートに対する意見照会であった。</p> <p>日本からコメントをした者はいない。</p>	
対応する JIS 規格の有無	JIS T 8026:2018(ISO 9185:2007)	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	DIS : ISO/DIS 11612 (Ed 4)	発行年月日： 2023/08/21 投票期日： 2023/11/13
タイトル (英語)	Protective clothing – Clothing to protect against heat and flame – Minimum performance requirements	
タイトル (日本語)	熱及び火炎に対する防護服－性能要求事項－	
規格内容	<p>防護服着用者の身体を熱及び火炎から防護するための防護服の性能要求事項について規定している。</p> <p>規格の構成は次のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 一般要求事項及び設計要求事項 5 試料採取・準備 6 一般性能要求事項 7 熱伝達性要求事項 8 火炎伝ば性試験及び熱伝達性試験の概要並びに対応するコード文字 9 表示 10 製造業者が提供する情報 	
本規格に反映された我が国提案の内容	開閉具(ファスナー)についても生地材料同様、難燃性能を有することを提案し、DISドラフトに要求事項として追加された	
投票内容	コメント付き賛成	
対応する JIS 規格の有無	JIS T 8129:2018 (ISO 11612:2015)	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	DIS : ISO/DIS 14116 (Ed 3)	発行年月日： 2023/08/22 投票期日： 2023/11/14
タイトル (英語)	Protective clothing – Protection against flame – Limited flame spread materials, material assemblies and clothing	
タイトル (日本語)	防護服—火炎に対する防護服	
規格内容	<p>防護服を構成する材料, 材料の組合せ及び防護服における火炎伝ぱ性, 設計要求事項, 物理的要求事項, 表示及び製造業者が提供する情報, 並びに追加要求事項について規定している。</p> <p>規格の構成は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 一般及び設計要求事項 5 準備 6 性能要求事項 7 分類 8 表示 9 製造業者が提供する情報 	
本規格に反映された我が国提案の内容	開閉具(ファスナー)についても生地材料同様、難燃性能を有することを提案し、DISドラフトに要求事項として追加された	
投票内容	賛成	
対応する JIS 規格の有無	JIS T 8130:2018 (ISO 14116:2015)	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	CD : ISO/CD 9185	発行年月日 : 2023/10/03 投票期日 : 2023/11/28
タイトル (英語)	Protective clothing – Assessment of resistance of materials to molten metal splash	
タイトル (日本語)	防護服－溶融金属に対する評価方法	
規格内容	<p>この規格は、溶融金属に対する防護服材料の熱伝達性の評価方法について規定する試験方法規格である。</p> <p>PVC センサーフィルムを試験片の裏面に重ねて固定し、溶融金属の流下後の PVC センサーフィルムの変化を記録し、損傷度合いを評価する。この操作を繰返し、PVC センサーフィルムに損傷が生じる最小質量を算出する。</p> <p><規格の構成></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 原理 5. 試験装置及び材料 6. 試料調整 7. 試験片の準備 8. 試験者の安全管理 9. 試験手順 10. 繰返し試験 11. 無効な試験 12. 試験報告書 	
本規格に反映された我が国提案の内容	特に無し	
投票内容	コメント無し	
対応する JIS 規格の有無	JIS T 8026:2018(ISO 9185:2007)	

11.3 WG 3 化学物質に対する防護服

調査表 ISO/TC 94/SC 13/WG 3

1. 2023年4月～2024年3月 活動概要

1. 国際会議

- ・ 2023/9/12 WG 3/PG 会議 長野県上田市(日本)/現地又はWeb参加
- ・ 2023/9/14 WG 3 meeting 長野県上田市(日本)/現地参加
- ・ 2023/9/15 SC 13 plenary meeting 長野県上田市(日本)/現地参加

2. 国内作業部会

- ・ 投票案件等の必要に応じ、メール審議実施

3. JIS作成への協力

2. 2023年4月～2024年3月 国際標準化活動

(1) 国際規格案回答状況等

① 国際規格案等回答件数

NP ^{*1}	WG ^{*2}	CD ^{*3}	DIS ^{*4}	DTR ^{*5}	FDIS ^{*6}	SR ^{*7}	CIB ^{*8}	WDRL ^{*9}	その他 ^{*10}
0	0	1	2	0	0	4	3	0	0

*1: New Proposal Balloting, *2: Working Group Consultation, *3: Committee Draft Balloting, *4: Draft International Standard Balloting,

*5: Draft Technical Report, *6: Final Draft International Standard Balloting, *7: Systematic Review Balloting, *8: CIB (Committee Internal Balloting),

*9: Withdrawal consultation *10: その他(ISO投票サイト以外で回答が求められている案件、メールでの問い合わせなど)

② 上記回答件数の内訳

Type	文書番号	規格名称(英文)	回答期日	回答内容
CD	ISO/CD 17491-5	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 5: Determination of resistance to penetration by a spray of liquid (manikin spray test)	2023/4/20	Yes
CIB	ISO/TC94/ SC13 N2093	Draft Res 733/2023 – decision SR ISO 27065:2017	2023/6/5	Approve
DIS	ISO/DIS 17491-4 (Ed 2)	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 4: Determination of resistance to penetration by a spray of liquid (spray test)	2023/8/24	Approval
SR	ISO 13982- 1:2004 (vers 3)	Protective clothing for use against solid particulates – Part 1: Performance requirements for chemical protective clothing providing	2023/9/2	Revise/Amend

		protection to the full body against airborne solid particulates (type 5 clothing)		
SR	ISO 13982-2:2004 (vers 3)	Protective clothing for use against solid particulates – Part 2: Test method of determination of inward leakage of aerosols of fine particles into suits	2023/9/2	Revise/Amend
SR	ISO 17491-1:2012 (vers 2)	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 1: Determination of resistance to outward leakage of gases (internal pressure test)	2023/9/2	Confirm
SR	ISO 17491-2:2012 (vers 2)	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 2: Determination of resistance to inward leakage of aerosols and gases (inward leakage test)	2023/9/2	Revise/Amend
DIS	ISO/DIS 17491-5 (Ed 2)	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 5: Determination of resistance to penetration by a spray of liquid (manikin spray test)	2023/11/21	Approval with comments
CIB	ISO/TC94/SC13 N2197	Appoint project leader for ISO/AWI 13994	2024/3/15	Yes
CIB	ISO/TC94/SC13 N2198	DRAFT Res 744/2024 Approval 9-month extension ISO/AWI 13994	2024/3/15	Approve

(2) 国際会議

① 国際会議開催回数(日本未参加会議、Web 会議を含む)

SC13	WG	PG
1回	1回	1回

② 上記国際会議開催回数の内訳

会議名	開催日	開催地(地名/国) 又は参加形式	出席者数*11
WG 3/PG	2023/9/12	長野県上田市/日本	7名
		Zoom	0名
WG 3meeting	2023/9/14	長野県上田市/日本	5名
		Zoom	0名

SC 13 plenary meeting	2022/9/15	長野県上田市/日本	12名
		Zoom	0名

* 11: 日本から SC13 として参加した人数(SC 13 議長含む)

(3) 国内会議

① 国内会議開催回数

WG
0回

② 上記国内会議開催回数の内訳

会議名	開催日	開催場所又は参加形式	出席者数 *12

* 12: 委員・関係者・事務局等を含む、会議参加者の総数

3. 2023 年度 JIS 素案作成委員会

① JIS 素案作成委員会等会議開催数

本委員会	分科会
0回	0回

② 上記①の内訳

会議名	開催日	開催場所又は参加形式	出席者数*13

* 13: 委員・関係者・事務局等を含む、会議参加者の総数

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	ISO/CD 17491-5	発行年月日：2023/02/23 投票期日：2023/04/20
タイトル (英語)	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 5: Determination of resistance to penetration by a spray of liquid (manikin spray test)	
タイトル (日本語)	化学防護服完成品の試験方法－第5部：液体スプレーに対する耐浸透性の求め方(マネキン試験)	
規格内容	序文 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語と定義 4 原理 5 試験液と被験者 6 試験装置 7 試験片準備 8 試験方法 9 試験報告書 附属書 A (参考) 非吸水性素材と吸水性繊維 附属書 B (参考) 本試験方法と国際的な各種規格との整合性	
本規格に反映された我が国提案の内容	ISO 17491-4 との整合性、マネキンの購入先追記、試験液のオプション扱いの修正	
投票内容	本件は CD 原案にコメントがありますか？という投票。コメントを提出した。コメント提出 3(日本、カナダ、ロシア)、コメント無し 18, 棄権 14	
対応する JIS 規格の有無	JIS T 8032-5:2015	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	ISO/TC94/SC13 N 2093 Draft Res 733/2023 – decision SR ISO 27065:2017	発行年月日： 2023/04/22 投票期日： 2023/06/05
タイトル (英語)	Draft Res 733/2023 – decision SR ISO 27065:2017	
タイトル (日本語)	SR ISO 27065:2017 投票についての決議案 733/2023	
規格内容	規格発行後に新たに得られた知見をもとに、規格の改定に向けて WI 登録するかの決議及びエキスパート募集	
本規格に反映された我が国提案の内容	特になし	
投票内容	賛成投票。上田会議にて改定を進めると発表有。	
対応する JIS 規格の有無	JIS T 8126:2014	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	ISO/DIS 17491-4 (Ed 2)	発行年月日：2023/06/01 投票期日：2023/08/24
タイトル (英語)	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 4: Determination of resistance to penetration by a spray of liquid (spray test)	
タイトル (日本語)	化学防護服完成品の試験方法－第4部：液体スプレーに対する耐浸透性の求め方(スプレー試験)	
規格内容	<p>序文</p> <p>1 スコープ</p> <p>2 引用規格</p> <p>3 用語と定義</p> <p>4 原理</p> <p>5 試験液</p> <p>6 試験装置及び被験者</p> <p>7 被験者準備</p> <p>8 試験準備</p> <p>9 試験方法</p> <p>10 試験報告書</p> <p>附属書 A (参考) 非吸水性素材及び吸水性衣服</p> <p>附属書 B (参考) 被験者の採寸と試験試料のサイズ選択</p> <p>附属書 C (規定) 着脱手順と汚染のマーキング</p> <p>附属書 D (参考) インターラボラトリ試験結果</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	試験装置/チャンバ/試験防護服サイズ決定方法/ノズル噴霧角他	
投票内容	賛成投票。賛成 24、棄権 10。	
対応する JIS 規格の有無	JIS T 8032-4:2015	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	SR ISO 13982-1:2004 (vers 3)	発行年月日： 2023/04/15 投票期日： 2023/09/02
タイトル (英語)	Protective clothing for use against solid particulates – Part 1: Performance requirements for chemical protective clothing providing protection to the full body against airborne solid particulates (type 5 clothing)	
タイトル (日本語)	固体粉じんに対する防護服—第1部:浮遊固体粉じん防護用密閉服(タイプ5 化学防護服)の性能要求事項	
規格内容	序文 1 スコープ 2 引用規格 3 用語と定義 4 性能要求事項 5 表示 6 供給業者の情報	
本規格に反映された我が国提案の内容	特になし	
投票内容	コメント付きで改定/追補で投票。廃止 0、改定/追補 3、確認 17、棄権 16。上田会議にて、新 ISO 16602 規格内で記載されるので改定は不要と判定。確認となった。	
対応する JIS 規格の有無	JIS T 8124-1:2010	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	SR ISO 13982-2:2004 (vers 3)	発行年月日： 2023/04/15 投票期日： 2023/09/02
タイトル (英語)	Protective clothing for use against solid particulates – Part 2: Test method of determination of inward leakage of aerosols of fine particles into suits	
タイトル (日本語)	固体粉じんに対する防護服—第 2 部:微粒子エアロゾルに対する全身化学防護服内部への漏れ率試験方法	
規格内容	序文 1 スコープ 2 引用規格 3 用語と定義 4 原理 5 試験装置 6 試験方法 7 試験結果の処理方法 8 試験報告書	
本規格に反映された我が国提案の内容	特になし	
投票内容	コメント付き改定/追補。廃止 0、改定/追補 2、確認 19、棄権 15。田会議にて、新 ISO 16602 規格内で記載されるので改定は不要と判定。確認となった。	
対応する JIS 規格の有無	JIS T 8124-2:2008	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	SR ISO 17491-1:2012 (vers 2)	発行年月日：2023/04/15 投票期日：2023/09/02
タイトル (英語)	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 1: Determination of resistance to outward leakage of gases (internal pressure test)	
タイトル (日本語)	化学防護服完成品の試験方法－第1部：ガス気密性の求め方(内部圧力試験)	
規格内容	序文 1 スコープ 2 用語と定義 3 原理 4 試験装置 5 試験方法 6 試験報告書	
本規格に反映された我が国提案の内容	特になし	
投票内容	確認で投票。廃止及び改定/追補共に 0、確認 21、棄権 15。上田会議にて、新 ISO 16602 規格内で記載されるので改定は不要と判定。確認となった。	
対応する JIS 規格の有無	JIS T 8032-1:2015	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	SR ISO 17491-2:2012 (vers 2)	発行年月日：2023/04/15 投票期日：2023/09/02
タイトル (英語)	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 2: Determination of resistance to inward leakage of aerosols and gases (inward leakage test)	
タイトル (日本語)	化学防護服完成品の試験方法－第 2 部：エアロゾル及び気体の漏れ率の求め方(内部への漏れ率試験)	
規格内容	序文 1 スコープ 2 用語と定義 3 原理 4 試験化学物及び被験者 5 試験装置 6 試験方法 7 計算 8 試験報告書 附属書 A (規定) サンプリングプローブと接続方法	
本規格に反映された我が国提案の内容	特になし	
投票内容	改定/追補で投票。廃止 1(英国)、改定/追補 2、確認 17、棄権 16。上田会議にて、新 ISO 16602 規格内で記載されるので改定は不要と判定。確認となった。	
対応する JIS 規格の有無	JIS T 8032-2:2015	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	DIS : ISO/DIS 17491-5 (Ed 2)	発行年月日： 2023/08/29 投票期日： 2023/11/21
タイトル (英語)	Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 5: Determination of resistance to penetration by a spray of liquid (manikin spray test)	
タイトル (日本語)	化学防護服完成品の試験方法－第5部：液体スプレーに対する耐浸透性の求め方(マネキン試験)	
規格内容	序文 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語と定義 4 原理 5 試験液と被験者 6 試験装置 7 試験片準備 8 試験方法 9 試験報告書 附属書 A (参考) 非吸水性素材と吸水性続服 附属書 B (参考) 本試験方法と国際的な各種規格との整合性	
本規格に反映された我が国提案の内容	ISO 17491-4 との整合性、マネキンの購入先追記、試験液のオプション扱いの修正	
投票内容	コメント付き賛成投票。賛成 20、反対 0、棄権 15	
対応する JIS 規格の有無	JIS T 8032-5:2015	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	CIB : Appoint project leader for ISO/AWI 13994	発行年月日： 2024/02/17 投票期日： 2024/03/15
タイトル (英語)	Appoint project leader for ISO/AWI 13994	
タイトル (日本語)	ISO/AWI 13994 の PG リーダー変更に関する投票	
規格内容	韓国 Hyeshin Yoon 氏から米国 Amanda H. Newsom 氏への PG リーダー変更の是非を問う投票。	
本規格に反映された我が国提案の内容	特になし	
投票内容	賛成投票。賛成 21、反対 0、棄権 12	
対応する JIS 規格の有無	JIS T 8031:2010	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	CIB : DRAFT Res 744/2024 Approval 9-month extension ISO/AWI 13994	発行年月日： 2024/02/17 投票期日： 2024/03/15
タイトル (英語)	DRAFT Res 744/2024 Approval 9-month extension ISO/AWI 13994	
タイトル (日本語)	ISO/AWI 13994 審議期間 9 か月延長	
規格内容	PG リーダー変更に伴う、審議期間延長についての是非を問う投票。	
本規格に反映された我が国提案の内容	特になし	
投票内容	賛成投票。賛成 20、反対 0、棄権 13 にて Approve	
対応する JIS 規格の有無	JIS T 8031:2010	

11.4 WG 5 機械的作用に対する防護服

調査表 ISO/TC 94/SC 13/WG 5

1. 2023年4月～2024年3月 活動概要

1. 国際会議

- ・ 2023/9/15 WG 5 meeting 長野県上田市(日本)/現地参加
- ・ 2023/9/15 SC 13 plenary meeting 長野県上田市(日本)/現地参加

2. 国内作業部会

- ・ 投票案件等の必要に応じ、メール審議実施

3. JIS作成への協力

- ・ 2023年6月16日 JIS T 8125-5 及び JIS T 8125-6改正原案作成委員会 第6回分科会
- ・ 2023年7月14日 JIS T 8125-5 及び JIS T 8125-6改正原案作成委員会 第7回分科会
- ・ 2023年8月4日 JIS T 8125-5 及び JIS T 8125-6改正原案作成委員会 第8回分科会
- ・ 2023年8月25日 JIS T 8125-5 及び JIS T 8125-6改正原案作成委員会 第9回分科会
- ・ 2023年9月29日 JIS T 8125-5 及び JIS T 8125-6改正原案作成委員会 第3回本委員会
- ・

2. 2023年4月～2024年3月 国際標準化活動

(1) 国際規格案回答状況等

① 国際規格案等回答件数

NP*1	WG*2	CD*3	DIS*4	DTR*5	FDIS*6	SR*7	CIB*8	WDRL*9	その他*10
0	0	0	0	0	0	6	1	0	0

*1: New Proposal Balloting, *2: Working Group Consultation, *3: Committee Draft Balloting, *4: Draft International Standard Balloting,

*5: Draft Technical Report, *6: Final Draft International Standard Balloting, *7: Systematic Review Balloting, *8: CIB (Committee Internal Balloting),

*9: Withdrawal consultation *10: その他 (ISO 投票サイト以外で回答が求められている案件、メールでの問い合わせなど)

② 上記回答件数の内訳

Type	文書番号	規格名称(英文)	回答期日	回答内容
SR	ISO 11393-1:2018 (Ed 2)	Protective clothing for users of hand-held chainsaws — Part 1: Test rig for testing resistance to cutting by a chainsaw	2023/12/2	Revise/Amend
SR	ISO 11393-3:2018 (Ed 2)	Protective clothing for users of hand-held chainsaws — Part 3: Test methods for footwear	2023/12/2	Confirm
CIB	ISO/TC94/SC13 N2179	Appointment WG 5 Convenor	2023/12/18	Yes
SR	ISO 11393-2:2018 (Ed 2)	Protective clothing for users of hand-held chainsaws — Part 2: Performance	2024/3/3	Revise

		requirements and test methods for leg protectors		
SR	ISO 11393-4:2018 (Ed 2)	Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 4: Performance requirements and test methods for protective gloves	2024/3/3	Revise
SR	ISO 11393-5:2018 (Ed 2)	Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 5: Performance requirements and test methods for protective gaiters	2024/3/3	Revise
SR	ISO 11393-6:2018 (Ed 2)	Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 6: Performance requirements and test methods for upper body protectors	2024/3/3	Confirm

(2) 国際会議

① 国際会議開催回数(日本未参加会議、Web 会議を含む)

SC13	WG	PG
1回	1回	0回

② 上記国際会議開催回数の内訳

会議名	開催日	開催地(地名/国) 又は参加形式	出席者数*11
WG 5meeting	2023/9/15	長野県上田市/日本	6名
		Zoom	0名
SC 13 plenary meeting	2022/9/15	長野県上田市/日本	12名
		Zoom	0名

* 11: 日本から SC13 として参加した人数(SC 13 議長含む)

(3) 国内会議

① 国内会議開催回数

WG
0回

② 上記国内会議開催回数の内訳

会議名	開催日	開催場所又は参加形式	出席者数*12

* 12: 委員・関係者・事務局等を含む、会議参加者の総数

3. 2023 年度 JIS 素案作成委員会

① JIS 素案作成委員会等会議開催数

本委員会	分科会
1回	5回

② 上記①の内訳

会議名	開催日	開催場所又は参加形式	出席者数 ^{*13}
JIS T 8125-5 及び JIS T 8125-6 改正原案作成委員会 第 6 回分科会	2023 年 6 月 16 日	公益社団法人日本保安用品協会/Web (Microsoft Teams)	11 名(Web 参加者含む)
JIS T 8125-5 及び JIS T 8125-6 改正原案作成委員会 第 7 回分科会	2023 年 7 月 14 日	アゼアス(株)/Web (Microsoft Teams)	10 名(Web 参加者含む)
JIS T 8125-5 及び JIS T 8125-6 改正原案作成委員会 第 8 回分科会	2023 年 8 月 4 日	公益社団法人日本保安用品協会/Web (Microsoft Teams)	9 名(Web 参加者含む)
JIS T 8125-5 及び JIS T 8125-6 改正原案作成委員会 第 9 回分科会	2023 年 8 月 25 日	公益社団法人日本保安用品協会/Web (Microsoft Teams)	10 名(Web 参加者含む)
JIS T 8125-5 及び JIS T 8125-6 改正原案作成委員会 第 3 回本委員会	2023 年 9 月 29 日	公益社団法人日本保安用品協会/Web (Microsoft Teams)	16 名(Web 参加者含む)

* 13: 委員・関係者・事務局等を含む、会議参加者の総数

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	SR : ISO 11393-1:2018 (Ed 2)	発行年月日 : 2023/07/15 投票期日 : 2023/12/02
タイトル (英語)	Protective clothing for users of hand-held chainsaws — Part 1: Test rig for testing resistance to cutting by a chainsaw	
タイトル (日本語)	手持ちチェーンソー使用者のための防護服—第1部:チェーンソーでの切断抵抗性試験に用いる試験装置	
規格内容	<p>本案件は、第1版 (ISO 11393-1:1998)の改正が2018年に行われその後5年経過したことに伴う定期見直し投票案件である。本規格 (ISO 11393-1:2018)では、このシリーズ第2部～第6部で規定する各防護服の性能を試験評価するために用いるチェーンソーの仕様、キャリブレーション用パッドの材料の仕様及びキャリブレーション方法を規定している。</p> <p>第1版からの主な改正内容は、数値に交差が規定され、引用規格のアップデート、用語と定義のアップデート、チェーンテンション測定法の追加、リリースシステムの定義更新、チェーンの定義の更新等であった。</p> <p>2018年版は、次の構成からなっている。</p> <p>序文 導入 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 原理 5 試験装置 6 キャリブレーション材料 7 試験装置の校正</p> <p>附属書 A(規定) キャリブレーション材料に関する補足情報 附属書 B(規定) 19m/s 及び 21m/s でのキャリブレーション材料試験 附属書 C(参考) 支点周りの慣性モーメントの確認方法</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	特に無し。	
投票内容	SR: 修正 (Revise/Amend) で投票し、支点 P と接触点の距離 $360 \pm 2\text{mm}$ の件についてコメントを付す予定。	
対応する JIS 規格の有無	JIS T 8125-1:2022	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	SR : ISO 11393-3:2018 (Ed 2)	発行年月日 : 2023/07/15 投票期日 : 2023/12/02
タイトル (英語)	Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 3: Test methods for footwear	
タイトル (日本語)	手持ちチェーンソー使用者のための防護服—第3部:履物試験方法	
規格内容	<p>本案件は、第1版 (ISO 11393-3:1999)の改正が2018年に行われその後5年経過したことに伴う定期見直し投票案件である。本規格 (ISO 11393-3:2018) では、この規格シリーズの第3部として、履物の試験方法について規定されている。</p> <p>第1版からの主な改正内容は、引用規格のアップデート、用語と定義の追加、内包物詰め方方法、試験機への履物固定の別法追加、つま先保護が非鉄の場合の試験追加等である。また、性能レベルの Class 0 が削除されると共に、この第3部だけが ISO 17429 に従い、性能レベルを表す呼称が“class ~”から“level ~”に変わった。</p> <p>2018年版は、次の構成からなっている。</p> <p>序文 導入 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 2 4 試料 5 防護範囲の確認 6 切断に対する抵抗性の試験 7 試験報告書</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	あり チェーン速度の交差の追加 (level 1: 20 m/s ± 0.2m/s などの表示)	
投票内容	確認(confirm)で投票予定	
対応する JIS 規格の有無	第一版に対応する JIS は、JIS T 8125-3:2009 として発行されている。改正版の ISO に対応する JIS 規格は、まだ改正審議中であり、発行日は未定である。	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	CIB : Appointment WG 5 Convenor	発行年月日： 2023/11/11 投票期日： 2023/12/18
タイトル (英語)	Appointment WG 5 Convenor	
タイトル (日本語)	WG 5 コンビナーの任命	
規格内容	2022 年より不在であった ISO/TC 94/SC 13/WG 5 のコンビナーについて、アンドリュ ー・ファンク氏の任命の賛否が問われた。	
本規格に反映され た我が国提案の 内容	無し	
投票内容	我が国は【Yes(賛成)】を選択し、回答した。	
対応する JIS 規格 の有無		

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	SR : ISO 11393-2:2018 (Ed 2)	発行年月日 : 2023/10/15 投票期日 : 2024/03/03
タイトル (英語)	Protective clothing for users of hand-held chainsaws — Part 2: Performance requirements and test methods for leg protectors	
タイトル (日本語)	手持ちチェーンソー使用者のための防護服—第2部:脚部防護服の要求性能及び試験方法	
規格内容	<p>規格第1版 (ISO 11393-2: 1999) の改正 ISO である。この規格シリーズの第2部として、脚部防護服の要求性能と試験方法が規定されている。</p> <p>主な改正内容は、引用規格のアップデート、用語と定義の追加、左利き用防護服の追加、チャップスの追加、人間工学的試験の追加、マーキングの要求事項更新、製造者によるインフォメーションの要求事項更新等である。</p> <p>次の構成からなる。</p> <p>序文 導入</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 要求事項 5 切断試験用の試料 6 試験方法 7 表示 8 図記号 9 製造者によるインフォメーション <p>附属書 A(参考) デザイン A, デザイン B 又はデザイン C の選択 参考文献</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	あり チェーン速度の交差の追加 (Class 1: 20 m/s ± 0.2m/s などの表示)	
投票内容	改正	
対応する JIS 規格の有無	JIS T 8125-2:2022	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	SR : ISO 11393-4:2018 (Ed 2)	発行年月日 : 2023/10/15 投票期日 : 2024/03/03
タイトル (英語)	Protective clothing for users of hand-held chainsaws — Part 4: Performance requirements and test methods for protective gloves	
タイトル (日本語)	手持ちチェーンソー使用者のための防護服—第4部:防護手袋の要求性能要及び試験方法	
規格内容	<p>規格第1版 (ISO 11393-4: 2003) の改正 ISO である。この規格シリーズの第4部として、チェーンソー用防護手袋について規定されている。</p> <p>主な改正内容は、引用規格のアップデート、用語と定義の追加、人間工学的試験の追加等である。項番のまとめ方がかなり変わった他、用語・要求事項・試験方法の規定に、より詳細な記述が加わった。性能レベルの分類では、この第4部では Class 0 が残された。</p> <p>次の構成からなる。</p> <p>序文 導入 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 デザインとタイプ 5 要求性能 6 試料 7 防護範囲の確認 8 切断抵抗性試験 9 人間工学的評価/手袋のつかみやすさ 10 試験報告書 11 表示 12 図記号 13 製造者によるインフォメーション</p> <p>附属書 A(参考) チェーンソーの使用及び適切な手袋の選択</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	なし	
投票内容	改正	
対応する JIS 規格の有無	なし	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	SR : ISO 11393-5:2018 (Ed 2)	発行年月日 : 2023/10/15 投票期日 : 2024/03/03
タイトル (英語)	Protective clothing for users of hand-held chainsaws – Part 5: Performance requirements and test methods for protective gaiters	
タイトル (日本語)	手持ちチェーンソー使用者のための防護服—第5部:防護脚半の要求性能及び試験方法	
規格内容	<p>規格第1版 (ISO 11393-5:2001) の改正 ISO である。この規格シリーズの第5部として、安全履物と同時に使用されるチェーンソー用防護脚絆について規定されている。主な改正内容は、引用規格のアップデート、用語と定義の追加、それ以外の項目では、箇条6以降の項番のまとめ方がかなり変わった他、要求事項・試験方法において、いくつかの技術的変更や追加事項が加えられている。すなわち、人間工学的事項及び履物への取り付けに関する要求事項の追加、防護領域の微細な変更、試料前処理条件の変更、性能レベルの Class 0 削除である。</p> <p>次の構成からなる。</p> <p>序文 導入</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 要求事項 5. 前処理 6. 試験方法 7. 試験報告書 8. 表示 9. 図記号 10. 製造者によるインフォメーション <p>参考文献</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	なし	
投票内容	改正	
対応する JIS 規格の有無	なし	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	SR : ISO 11393-6:2018 (Ed 2)	発行年月日 : 2023/10/15 投票期日 : 2024/03/03
タイトル (英語)	Protective clothing for users of hand-held chainsaws — Part 6: Performance requirements and test methods for upper body protectors	
タイトル (日本語)	手持ちチェーンソー使用者のための防護服—第6部:上半身保護服の要求性能及び試験方法	
規格内容	<p>規格第1版 (ISO 11393-6:2007) の改正 ISO である。この規格シリーズの第6部として、チェーンソー用防護上着について規定されている。</p> <p>主な改正内容は、引用規格のアップデート、用語と定義の追加、デザイン B の服が追加され、それ以外の項目では、箇条 6 以降の項番のまとめ方に相違が見られる。技術的な変更点としては、袖の切断試験におけるカット位置の変更などの修正がいくつか加えられている。性能レベルでは、第4部と同じく Class 0 が残された。</p> <p>次の構成からなる。</p> <p>序文 導入</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 適用範囲 2 引用規格 3 用語及び定義 4 要求事項 5 チェーン速度による分類 6 試験方法 7 寸法変化の試験 8 防護範囲の確認 9 切断に対する抵抗性の試験 10 防護材料の取付け強度試験 11 人間工学的試験 12 試験報告書 13 表示 14 図記号 15 製造者によるインフォメーション <p>附属書 A(参考) チェーンソーの使用及び適切な上半身防護服の選択について 参考文献</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	なし	
投票内容	確認	
対応する JIS 規格の有無	なし	

11.5 WG 6 生物学的危険物質に対する防護服

調査表 ISO/TC 94/SC 13/WG 6

1. 2023年4月～2024年3月 活動概要

1. 国際会議

- ・2023/9/14 WG 6/PG 会議 長野県上田市(日本)/現地参加
- ・2023/9/15 WG 6 meeting 長野県上田市(日本)/現地参加
- ・2023/9/15 SC 13 plenary meeting 長野県上田市(日本)/現地参加

2. 国内作業部会

- ・2023/8/24 2023年度第1回作業部会 ハイブリッド会議(アゼアス(株)/Teams)

2. 2023年4月～2024年3月 国際標準化活動

(1) 国際規格案回答状況等

① 国際規格案等回答件数

NP ^{*1}	WG ^{*2}	CD ^{*3}	DIS ^{*4}	DTR ^{*5}	FDIS ^{*6}	SR ^{*7}	CIB ^{*8}	WDRL ^{*9}	その他 ^{*10}
1	0	1	0	0	0	1	1	0	0

*1: New Proposal Balloting, *2: Working Group Consultation, *3: Committee Draft Balloting, *4: Draft International Standard Balloting,
*5: Draft Technical Report, *6: Final Draft International Standard Balloting, *7: Systematic Review Balloting, *8: CIB (Committee Internal Balloting),
*9: Withdrawal consultation *10: その他 (ISO 投票サイト以外で回答が求められている案件、メールでの問い合わせなど)

② 上記回答件数の内訳

Type	文書番号	規格名称(英文)	回答期日	回答内容
CIB	ISO/TC94/SC13 N2089	Draft Res 730/2023 – ISO 22615 9-month extension	2023/5/31	Approve
CD	ISO/CD 22615	Protective clothing – Performance requirements and test methods for protective clothing against infective agents	2023/6/30	Yes
NP	ISO/NP 20384	Surgical clothing and drapes – Requirements and test methods	2023/9/12	Disapprove
SR	ISO 22610:2018 (Ed 2)	Surgical drapes, gowns and clean air suits, used as medical devices, for patients, clinical staff and equipment – Test method to determine the resistance to wet bacterial penetration	2023/12/2	Confirm

(2) 国際会議

① 国際会議開催回数(日本未参加会議、Web 会議を含む)

SC13	WG	PG
1回	1回	1回

② 上記国際会議開催回数の内訳

会議名	開催日	開催地(地名/国) 又は参加形式	出席者数*11
WG 6/PG	2023/9/14	長野県上田市/日本	6名
		Zoom	0名
WG 6 meeting	2023/9/15	長野県上田市/日本	8名
		Zoom	0名
SC 13 plenary meeting	2022/9/15	長野県上田市/日本	12名
		Zoom	0名

* 11: 日本から SC13 として参加した人数(SC 13 議長含む)

(3) 国内会議

① 国内会議開催回数

WG
1回

② 上記国内会議開催回数の内訳

会議名	開催日	開催場所又は参加形式	出席者数*12
第1回 WG 6 作業部会	2023年8月24日	アゼアス株/Web (Microsoft Teams)	11名

* 12: 委員・関係者・事務局等を含む、会議参加者の総数

3. 2023年度 JIS 素案作成委員会

① JIS 素案作成委員会等会議開催数

本委員会	分科会
0回	0回

② 上記①の内訳

会議名	開催日	開催場所又は参加形式	出席者数*13

* 13: 委員・関係者・事務局等を含む、会議参加者の総数

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	CIB:Draft Res 730/2023 – ISO/AWI 22615 9-month extension	発行年月日: 2023/04/19 投票期日: 2023/05/31
タイトル (英語)	Draft Res 730/2023 – ISO/AWI 22615 9-month extension	
タイトル (日本語)	防護服—感染性病原体に対する防護服の性能要求及び試験方法	
規格内容	<p>審議期間を 9 ヶ月延長することに対する投票</p> <p>・この規格は、感染性病原体から着用者を防護するための、リユースタイプ及びシングルユースタイプの防護服の材料及び縫い目に関する要求事項及び試験方法を規定するものである。</p> <p>・規格の構成は次のとおりである</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 性能要求 <ol style="list-style-type: none"> 4.1 材料の性能要求 4.2 縫合部, 接合部, 組付け部の性能要求 4.3 防護服完成品に対する性能要求 5. 表示 6. 製造業者による提供情報 <p>附属書 A 生物学的汚染性エアロゾルの耐貫通性に関する試験方法 附属書 B 材料の清浄度の性能要求 附属書 C 快適性 附属書 ZA EU 規則の必須要件又はその他の条項を記載した EN 規格の箇条参考文献</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	特に無し	
回答内容	賛成	
対応する JIS 規格の有無	無し	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	ISO/CD 22615	発行年月日： 2023/05/05 投票期日： 2023/06/30
タイトル (英語)	Protective clothing – Performance requirements and test methods for protective clothing against infective agent	
タイトル (日本語)	防護服—感染性病原体に対する防護服の性能要求及び試験方法	
規格内容	<p>・この規格は、感染性病原体から着用者を防護するための、リユースタイプ及びシングルユースタイプの防護服の材料及び縫い目に関する要求事項及び試験方法を規定するものである。</p> <p>・規格の構成は次のとおりである</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 性能要求 <ol style="list-style-type: none"> 4.1 材料の性能要求 4.2 縫合部, 接合部, 組付け部の性能要求 4.3 防護服完成品に対する性能要求 5. 表示 6. 製造業者による提供情報 <p>附属書 A 生物学的汚染性エアロゾルの耐貫通性に関する試験方法 附属書 B 材料の清浄度の性能要求 附属書 C 快適性 附属書 ZA EU 規則の必須要件又はその他の条項を記載した EN 規格の箇条 参考文献</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	特に無し	
投票内容	コメント有り	
対応する JIS 規格の有無	無し	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	NP : ISO/NP 20384	発行年月日 : 2023/06/20 投票期日 : 2023/09/12
タイトル (英語)	Surgical clothing and drapes – Requirements and test methods	
タイトル (日本語)	手術用防護服及びドレープ—要求事項及び試験方法	
規格内容	<p>この規格は、手術室で使用し、バリア性能を有し、医療施設において患者とスタッフとの間で感染を最小化することを目的とした手術用ドレープ、手術用ガウン及び機器カバーの性能要件及び試験方法を規定している。</p> <p>規格の構成は次のとおりである</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 一般要求事項 <ol style="list-style-type: none"> 4.1 一般 4.2 製造工程・加工工程時の要求事項及び文書 4.3 バリア特性 4.4 生体適合性 5. 性能要求事項 6. 製造業者による提供情報 <ol style="list-style-type: none"> 6.1 一般 6.2 ラベル 6.3 教育 6.4 クリティカルエリア及びノンクリティカルエリアに関する情報 <p>附属書 A 試験方法及び適合性 附属書 B 医療用ガウン、ドレープ、防護服の分類 附属書 C 根拠 附属書 D 追加特性に関する情報 附属書 E 使用者に対する製品の選択に関するガイダンス 参考文献</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	特に無し	
投票内容	反対(コメント有り)	
対応する JIS 規格の有無	無し	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	SR : ISO 22610:2018 (Ed 2)	発行年月日： 2023/07/15 投票期日： 2023/12/02
タイトル (英語)	Surgical drapes, gowns and clean air suits, used as medical devices, for patients, clinical staff and equipment – Test method to determine the resistance to wet bacterial penetration	
タイトル (日本語)	患者、医療従事者等が使用する手術用ドレープ、ガウン及びクリーンエアスーツの湿潤細菌に対する耐浸透性試験方法	
規格内容	序文 1 スコープ 2 引用規格 3 用語と定義 4 試験方法 5 器具、試薬、材料 6 試験器具 7 アガープレートの調製 8 接種 9 試験方法 10 評価 11 結果の表し方 12 精度 13 試験報告書	
本規格に反映された我が国提案の内容		
投票内容	Q1:SR 対応→確認で投票(廃止 2、改定 2、確認 11、棄権 19) Q2:この国際規格は採用されているか、または将来的に国内規格やその他の出版物として採用される予定か→No で投票 (Yes17,No17) Q4:この国際規格が国内で基準採択されていない場合、あなたの国では国内で基準採択されずに適用または使用されていますか→No で投票 (Yes2,No15) Q5:この国際規格またはその国内採用規格は、あなたの国の規制で参照されていますか→No で投票 (Yes4,No30)	
対応する JIS 規格の有無	無し	

ISO TC94 SC13 / WG6
2023年度 第1回作業部会 議事録

1. 日時：2023年8月24日（木） 14:00~16:30

2. 開催方式： 対面会議及びオンライン会議の併用

対面会議： アゼアス株式会社 2F 会議室

オンライン会議： Microsoft Teams

3. 出席者：（順不同・敬称略） 出席 計 12 名

◇ 対面会議（7名）

篠原 克明（信州大学）

土井 勝己（ナガイレーベン）

稲井 巡

磯田 実（アゼアス）

辻 創（カケン）

池田 信一郎（デュポン・スペースルティ・フロンテック）

野原 由樹子（日本防護服協議会）

◇ オンライン会議（5名）

長谷川 幹一（前田工織）

久保 徹也（日本ゴア）

川口 順也（モレーンコーポレーション）

山瀬 耕司（千代田テクノル）

山田 亨（ミドリ安全）

4. 議 事：

1) SC13WG6 の審議案件・活動状況の共有

上田会議に向けて

－ISO/CD 22615（6/30 投票終了）

－ISO/NP 20384（9/12 投票×切）

－SR ISO 22610（12/2 投票×切）

5. 議事内容：

1) SC13 WG6 の活動状況の共有

幹事より 2023年9月14, 15日に開催される上田会議のWG6に関する会議（PG 会議, WG 会議）の審議内容の共有を行った。

主なトピックスは、次のとおり。

－ ISO/CD 22615（感染性病原体に対する防護服の性能要求及び試験方法）

CD 投票時に日本はコメント付き賛成をしたことを共有した。更に、コメントの内容の再確認を行った。

日本が提出しているコメントの主なポイントは、次のとおりである。

1) “non-critical area” と “less critical area” とが本文中に混在している。用語の使い方を明確にするべきである。

2) 感染性病原体に対する防護性能における必須試験にする項目について、JIS で規定している内容にも整合させながら規定する必要がある。日本としては、当該規格では必ずウイルスバリア性は確認すべき事項と考えることで、意見が一致した。

ドラフトで性能要求事項としてリストアップされている ISO 22610 による試験などは、ユーザーが情報を求める場合に実施するオプション試験とするべきという意見や ISO 22610 については試験精度に疑義があり、削除すべきとの意見も出た。上田会議では、上記意見を踏まえ審議に参加することになった。

NP 20384（手術用ガウン，手術用ドレープ及び防護服－性能要求，性能レベル，試験方法）

投票態度について審議を行った。日本は手術野における防護服やドレープについては AAMI/PB70 に基づいた性能評価を行っている製品が多く、新しく基準が異なる ISO が規格化されるとユーザーの混乱を招く恐れがあるという意見がでた。NP 投票であるため、日本としては上記内容をコメントし反対投票をすることで合意した。

なお、上田会議直前が投票×切であるため、会議当日には投票結果の共有は行われる可能性はあるが、十分な審議が行われるかは未定である。

SR ISO 22610（湿潤細菌の耐浸透性試験方法）

当作業部会では、前年度の作業部会と同じく、今後製品規格に当該試験方法を採用していく場合は、まずは安定した試験結果が出るようにこの試験方法を改訂してからにすべきというコメントが出た。日本としては、引き続き「安定的な試験結果が出ていないので、試験方法としては適切でないこと」を指摘し続けていく必要があることを確認した。

（文責：カケン・社）

以 上

11.6 WG 8 防護手袋

調査表 ISO/TC 94/SC 13/WG 8

1. 2023年4月～2024年3月 活動概要

1. 国際会議 2.(2)①と②参照
 2. 国内作業部会
 ・投票案件等の必要に応じ、メール審議実施
 3. JIS作成への協力 3.①と②参照

2. 2023年4月～2024年3月 国際標準化活動

(1) 国際規格案回答状況等

① 国際規格案等回答件数

NP*1	WG*2	CD*3	DIS*4	DTR*5	FDIS*6	SR*7	CIB*8	WDRL*9	その他*10
0	0	0	1	0	1	0	3	0	0

*1: New Proposal Balloting, *2: Working Group Consultation, *3: Committee Draft Balloting, *4: Draft International Standard Balloting, *5: Draft Technical Report, *6: Final Draft International Standard Balloting, *7: Systematic Review Balloting, *8: CIB (Committee Internal Balloting), *9: Withdrawal consultation *10: その他 (ISO 投票サイト以外で回答が求められている案件、メールでの問い合わせなど)

② 上記回答件数の内訳

Type	文書番号	規格名称(英文)	回答期日	回答内容
FDIS	ISO/FDIS 13997 (Ed 2)	Protective clothing – Mechanical properties – Determination of resistance to cutting by sharp objects	2023/5/15	Approval with corrections
CIB	ISO/TC94/SC13 N2108	Draft Res 735/2023 – ISO 374-5 proceed to direct publication	2023/6/6	Yes
DIS	ISO/DIS 374-6	Protective gloves against dangerous chemicals and micro-organisms – Part 6: Protective gloves for hairdressers	2023/7/13	Approval with comments
CIB	ISO/TC 94/SC 13 N 2180	Appointment WG 8 Convenor (2024-2023)	2023/12/18	Yes
CIB		Requirement for printed IFU/user instructions	2023/3/27	事務局にて回答提出

(2) 国際会議

① 国際会議開催回数(日本未参加会議、Web 会議を含む)

SC13	WG	PG
1回	5回	0回

② 上記国際会議開催回数の内訳

会議名	開催日	開催地(地名/国) 又は参加形式	出席者数*11
WG 8 meeting	2023/4/4	アンデルレヒト/ベルギー	0
		Microsoft Teams	4名
WG 8 meeting	2023/9/11	長野県上田市/日本	2名
		Zoom	0名
WG 8 meeting	2023/9/15	長野県上田市/日本	8名
		Zoom	0名
SC 13 plenary meeting	2022/9/15	長野県上田市/日本	12名
		Zoom	0名
WG 8 meeting	2023/10/17	ブリュッセル/ベルギー	0名
		Zoom	3名
WG 8 meeting	2023/10/20	Zoom	2名

* 11: 日本から SC13 として参加した人数(SC 13 議長含む)

(3) 国内会議

① 国内会議開催回数

WG
5 回

② 上記国内会議開催回数の内訳

会議名	開催日	開催場所又は参加形式	出席者数 *12
ISO/FDIS 13997 (Ed 2)	2023 年 3~4 月	メール審議のみ	
ISO/TC94/SC13 M2108	2023 年 5 月	メール審議のみ	
ISO/DIS 374-6	2023 年 5~6 月	メール審議のみ	
ISO/TC94/SC13 N2180	2023 年 11 月	メール審議のみ	
Requirement for printed IFU/user instructions	2024 年 3 月	メール審議のみ	

* 12: 委員・関係者・事務局等を含む、会議参加者の総数

3. 2023 年度 JIS 素案作成委員会

① JIS 素案作成委員会等会議開催数

本委員会	分科会
4回	13回

② 上記①の内訳

会議名	開催日	開催場所又は参加形式	出席者数 ^{*13}
JIS T 8119制定原案作成委員会 第4回分科会	2023年4月13日	公益社団法人日本保安用品協会 /Web (Microsoft Teams)	13名
JIS T 8119制定原案作成委員会 第5回分科会	2023年5月10日	公益社団法人日本保安用品協会 /Web (Microsoft Teams)	12名
JIS T 8119制定原案作成委員会 第2回本委員会	2023年5月10日	公益社団法人日本保安用品協会 /Web (Microsoft Teams)	17名
JIS T 8119制定原案作成委員会 第6回分科会	2023年6月12日	公益社団法人日本保安用品協会 /Web (Microsoft Teams)	14名
JIS T 8119制定原案作成委員会 第7回分科会	2023年7月11日	公益社団法人日本保安用品協会 /Web (Microsoft Teams)	12名
JIS T 8119制定原案作成委員会 第8回分科会	2023年8月22日	公益社団法人日本保安用品協会 /Web (Microsoft Teams)	15名
JIS T 8119制定原案作成委員会 第9回分科会	2023年9月21日	公益社団法人日本保安用品協会 /Web (Microsoft Teams)	11名
JIS T 8119制定原案作成委員会 第10回分科会	2023年10月31日	公益社団法人日本保安用品協会 /Web (Microsoft Teams)	15名
JIS T 8119制定原案作成委員会 第3回本委員会	2023年10月31日	公益社団法人日本保安用品協会 /Web (Microsoft Teams)	19名
JIS T 8052改正原案作成委員会 第1回本委員会	2023年5月11日	日本医療機器協会 医科器械会館 /Web (Microsoft Teams)	17名
JIS T 8052改正原案作成委員会 第1回分科会	2023年5月11日	日本医療機器協会 医科器械会館 /Web (Microsoft Teams)	11名
JIS T 8052改正原案作成委員会 第2回分科会	2023年6月14日	日本医療機器協会 医科器械会館 /Web (Microsoft Teams)	10名
JIS T 8052改正原案作成委員会 第3回分科会	2023年7月6日	アゼアス(株)/Web (Microsoft Teams)	11名
JIS T 8052改正原案作成委員会 第4回分科会	2023年8月7日	公益社団法人日本保安用品協会 /Web (Microsoft Teams)	13名

会議名	開催日	開催場所又は参加形式	出席者数 ^{*13}
JIS T 8052改正原案作成委員会 第5回分科会	2023年10月4日	公益社団法人日本保安用品協会 /Web (Microsoft Teams)	9名
JIS T 8052改正原案作成委員会 第2回本委員会	2023年10月4日	公益社団法人日本保安用品協会 /Web (Microsoft Teams)	14名

* 13: 委員・関係者・事務局等を含む、会議参加者の総数

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	ISO/FDIS 13997 (Ed 2)	発行年月日： 2023/03/20 投票期日： 2023/05/15
タイトル (英語)	Protective clothing – Mechanical properties – Determination of resistance to cutting by sharp objects	
タイトル (日本語)	防護服 –機械的特性– 鋭利物に対する切創抵抗性試験方法	
規格内容	<p>ナイフ、金属薄板部品、金属切りくず、ガラス、刃のある工具、鋳造物などの鋭利なものを扱う際、切創事故防止のため着用する防護服・防護手袋の切創抵抗性の計測方法を定義</p> <p>規格構成は以下の通り;</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 範囲 2. 引用規格 3. 用語と定義 4. サンプリング <ol style="list-style-type: none"> 4.1 一般要件 4.2 生地及びその他素材 4.3 手袋 4.4 条件 5. 試験方法 <ol style="list-style-type: none"> 5.1 原理 5.2 試験装置 <ol style="list-style-type: none"> 5.2.1 フレーム 5.2.2 加力システム 5.2.3 試験片ホルダー台 5.2.4 試験片ホルダー 5.2.5 固定クランプ 5.2.6 試験用刃物 5.2.7 試験用刃物ホルダー 5.2.8 切創作動装置 5.2.9 切創ストローク長の測定 5.3 校正 <ol style="list-style-type: none"> 5.3.1 さおバランス手順 5.3.2 切創速度調整 5.3.3 刃物校正 5.4 試験手順 <ol style="list-style-type: none"> 5.4.1 試験片の固定 5.4.2 切創ストローク長の計測手順 5.4.3 切創力決定手順 6. 試験レポート <p>Annex A (informative) インターラボラトリー試験データ分析</p> <p>Annex B (normative)</p> <p>Annex C (normative) 校正素材の試験(5.3.3.1 参照)</p> <p>参考文献</p> 	

本規格に反映された我が国提案の内容	過去 3 回の ILT でカケンブレード採用決定済
投票内容	修正コメント付き賛成投票。 図の文言と表示間違い、及び、綴り間違いを指摘。
対応する JIS 規格の有無	JIS T8052

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	ISO/TC 94/SC 13 N 2108 Draft Res 735/2023 – ISO 374-5 proceed to direct publication	発行年月日： 2023/05/06 投票期日： 2023/06/06
タイトル (英語)	Draft Res 735/2023 – ISO 374-5 proceed to direct publication	
タイトル (日本語)	決議 735/2023 – ISO 374-5 FDIS 投票スキップ	
規格内容	2023 年 4 月 4～5 日開催の WG8 ハイブリッド会議にて、コンビナーのジャンクロード氏より「DIS 投票結果及び各国の審議コメントから技術的な内容で検討する必要がないため、FDIS 投票をスキップしたい」との提案があった。	
本規格に反映された我が国提案の内容	DIS 投票時のコメントは概ね accepted となっている。	
投票内容	賛成	
対応する JIS 規格の有無	無し	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	ISO/DIS 374-6	発行年月日： 2023/04/20 投票期日： 2023/07/13
タイトル (英語)	Protective gloves against dangerous chemicals and micro-organisms – Part 6: Protective gloves for hairdressers	
タイトル (日本語)	危険薬品及び微生物防護手袋 パート 6: 美容師用防護手袋	
規格内容	<p>毛染め、洗髪をする際、毛染め剤・シャンプー等に利用されている薬品及び微生物被害のリスクから手・腕を保護する目的で発案された規格案(美容師向け)。対象となる手袋は、使い捨て手袋(Single use glove)である。</p> <p>規格内容;</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語定義 4. 性能要求事項 <ol style="list-style-type: none"> 4.1 一般要求 4.2 手袋長さ 4.3 物理耐性 4.4 微生物耐性 4.5 透過 5. 試験方法 <ol style="list-style-type: none"> 5.1 物理耐性 5.2 透過試験 6. マーキング 7. 製造者提供情報 <p>Annex ZA Relationship between this European Standard and Essential Requirements of Regulation 2016/425 aimed to be covered</p>	
本規格に反映された我が国提案の内容	薬品透過試験方法は、EN 16523-1:2015+A1:2018 のみが引用されていたが、地域規格であることを指摘し、ISO 6529:2013 を提案し、了承された。	
投票内容	コメント付き賛成投票	
対応する JIS 規格の有無	無し	

ISO 活動報告②—現在審議中の ISO について—

番号	CIB : Appointment WG 8 Convenor	発行年月日： 2023/11/11 投票期日： 2023/12/18
タイトル (英語)	Appointment WG 8 Convenor	
タイトル (日本語)	WG8 新コンビナー選任	
規格内容	現 WG8 コンビナー CTC Jean-Claude CANNOT 氏 定年退職による新コンビナーの選任投票。 同氏から後任として CTC Didier Guisado 氏を推薦。	
本規格に反映された我が国提案の内容	無	
投票内容	日本賛成投票 投票結果： 賛成 27、反対 0、棄権 8	
対応する JIS 規格の有無	無	

ISO 活動報告①—規格化された ISO について—

番号	ISO-13997:2023	発行年月日:2023/06/20
タイトル (英語)	Protective clothing – Mechanical properties – Determination of resistance to cutting by sharp objects	
タイトル仮訳 (日本語)	防護服 –機械的特性– 鋭利物に対する切創抵抗性試験方法	
内容	<p>ナイフ、金属薄板部品、金属切りくず、ガラス、刃のある工具、鋳造物などの鋭利なものを扱う際、切創事故防止のため着用する防護服・防護手袋の切創抵抗性の計測方法を定義</p> <p>規格構成は以下の通り;</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 範囲 2. 引用規格 3. 用語と定義 4. サンプリング <ol style="list-style-type: none"> 4.1 一般要件 4.2 生地及びその他素材 4.3 手袋 4.4 条件 5. 試験方法 <ol style="list-style-type: none"> 5.1 原理 5.2 試験装置 <ol style="list-style-type: none"> 5.2.1 フレーム 5.2.2 加力システム 5.2.3 試験片ホルダー台 5.2.4 試験片ホルダー 5.2.5 固定クランプ 5.2.6 試験用刃物 5.2.7 試験用刃物ホルダー 5.2.8 切創作動装置 5.2.9 切創ストローク長の測定 5.3 校正 <ol style="list-style-type: none"> 5.3.1 さおバランス手順 5.3.2 切創速度調整 5.3.3 刃物校正 5.4 試験手順 <ol style="list-style-type: none"> 5.4.1 試験片の固定 5.4.2 切創ストローク長の計測手順 5.4.3 切創力決定手順 6. 試験レポート <p>Annex A (informative) インターラボラトリー試験データ分析</p> <p>Annex B (normative)</p> <p>Annex C (normative) 校正素材の試験(5.3.3.1 参照)</p> <p>参考文献</p> 	

規格化までの経緯	<p>① 欧州規格 EN 388:2016 にて ISO 13997:1999 が採用され、新たな耐切創試験が追加された。この ISO 13997:1999 に記載されている推奨ブレード「American Safety Razor 社 GRUGRU」の品質に均質性がなく、各国試験ラボ、手袋メーカーにて耐切創性試験の評価が困難になっていた。</p> <p>② ①に加え、EN 388:2016 は、2018 年に ISO 化され、ISO 23388:2018 となったこともあり、ISO 13997:1999 で使用する切創刃の変更、切創刃の校正用クロロプレキシートの選定、積層タイプの手袋試験片では試験が困難な場合があるため保護クランプの必要性を3回の ILT で評価することとなった。日本から切創刃については、フェザー安全剃刀株式会社製を提案した。</p>
本規格に反映された我が国提案の内容	ILT でカケンブレード(フェザー安全剃刀株式会社製)採用決定済
問題点	過去 3 回の ILT でブレード校正用の推奨クロロプレキシートが米 Gindor 社製に決定されているが、2023 年現在同社から購入及び入手が困難になっている。また他社製で同等のクロロプレキシートも見つかっていない。
対応 JIS 規格	JIS T8052

12. 国際会議報告書

12. ISO/TC 94/SC 13 上田会議 報告書

2023年9月10日から9月15日まで、信州大学繊維学部上田キャンパス(長野県上田市)の総合研究棟7階講義室において、ISO/TC 94(個人安全-個人用保護具)/SC 13(防護服)の国際会議が、Hybrid形式(対面及びWEB両方)にて開催された。

1. SC 13のWG(Working Group 作業グループ)

WG 1: General properties(防護服の一般特性)

WG 1では、一般要求事項の他に、他WGに当てはまらない防護服も扱う。
(高視認性安全服や雨衣等)

WG 2: Protective clothing against heat and flame(熱及び火炎に対する防護服)

WG 3: Protective clothing against chemicals agents(化学物質に対する防護服)

WG 5: Protective clothing against mechanical action(機械的作用に対する防護服)

WG 6: Protective clothing against hazardous biological agents(生物学的危険物質に対する防護服)

WG 8: Standardization for protective gloves(防護手袋)

JWG1: WG 3の化学防護服の製品規格であるISO 16602と、ISO/TC 85/SC 2の管轄であるISO 8194:1987 Radiation protection—Clothing for protection against radioactive contamination—Design, selection, testing and useを統合し、改定することを目的としたJWG。なお、このISO 8194は、JIS Z 4809:2012「放射性物質による汚染に対する防護服」の対応国際規格(MOD)である。

2. 日程

会期中の会議は、表1の通り。

表1 会議日程表

	9月11日	9月12日	9月13日	9月14日	9月15日
WG1 会議					8:30~9:30
WG1 PG 会議	8:30~17:30				
WG3 会議				16:30~17:30	
JWG1 会議			8:30~17:00		
WG3 PG 会議		8:30~17:00			
WG5 会議					9:30~10:30
WG6 会議					10:30~11:30
WG6 PG 会議				8:30~16:30	
WG8 会議					11:30~12:30
WG8 PG 会議	9:00~17:30				
SC13 プレナリー (総会)					13:30~17:00

※CAG(Chairman Advisory Group)会議は9月10日16:00~18:00で開催。

3. 各会議審議内容

① WG1: General properties 一般特性

コンビーナ: Laurent HOUILLON 氏(仏国)

参加国: 仏国、中国、日本、韓国、スイス、英国、ベルギー、独国

1) ISO/PWI TR 19382 Guidelines of human validation for comfort evaluation during practical performance tests

実用性能試験での快適性評価のための人による検証のガイドライン

プロジェクトリーダー: Laurent HOUILLON 氏 (仏国)、Joo Young Lee 氏 (韓国)

- ・ この文書は 2022-09-26 に開催された WG6 会議にて提案され、感染病原体に対する防護服に焦点を当てた内容であったが、より一般的なものにすることとなり、WG1 での審議内容となった。
- ・ この文書の目的は技術報告書 TR(ISO 規格ではない)であるため、内容は事実に関するものでなければならず、推奨事項や要求事項は含まれてはならない。
- ・ すでに ISO 11610:2023(防護服の用語)が発行されており、用語と定義は ISO 11610 から入手する必要がある、さらに、用語と表現は ISO 13688 附属書 C (防護服のエルゴノミクスのチェック(実用性能試験))と一致させることが推奨された。
- ・ 「comfort」という概念を「comfortable」と混同されるべきではないことが指摘された。
- ・ 有用な情報を TR 草案に組み込むために、実用性能試験を見直す必要がある。例としては、CEN TR 14650:2018、熱と炎に対する防護服の選択、使用、ケア、メンテナンスに関するガイダンスがある。池田信一郎氏からは、ISO/TC94/SC14 の文書についても言及された。
- ・ 稲井巡氏から本文に記載されている実用性能試験を行って測定しても差が出てこないため、結果的にこの TR が無意味になるとの懸念事項が表明され、この TR を有効に使うためには、参考情報として附属書に実用性能試験を移動させ、一例として記載すべきである、色々な防護服があり、行う動作が異なり被験者に与えられる負荷は異なるはずであるため、実用性能試験の例を附属書に列挙すべきである、実用性能試験はその試験の目的によって決められるべきであり、本文には測定方法のみ記載すべきであると提案された。
- ・ 参加者は上記の原則に同意した。
- ・ コンビーナは、次回 PG の前に Joo Young Lee 氏 と共同で草案(N428に基づく)を更新することを提案し、参加者は上記に同意した。

2) ISO 11610 Protective clothing—Vocabulary 防護服—用語

- ・ ISO の多言語文書に関するポリシーにより、英語の用語のアルファベット順と、対応するフランス語及びドイツ語の用語に基づく索引を導入して最終草案を更新し、CH001 に関しても修正されることになった(N397)
- ・ FDIS 投票による承認の後、ISO 11610 は 2023 年 5 月 15 日に発行された。
- ・ ISO 11610 の発行に伴い、コンビーナは SC13 の WG および PL に対して ISO 11610 に基づいて用語と定義を確認し、適用するよう勧告し、参加者はこの勧告に同意した。

3) ISO/DIS 24231 Protective clothing—Protection against rain—Test method for ready-made garments against high-energy droplets from above 防護服—降雨に対する防護—上方からの高エネルギー 飛沫に対する既製衣類の試験方法

プロジェクトリーダー: Frank Sasse 氏 (独国)、Yang Wenfen 氏(中国)

- ・ ISO/WD 24231 は、2023-05-19 より 9 か月の延長が受理されている。(N423)。
- ・ DIS 投票のコメントを検討し、Muxia Luo 氏から修正案が説明され、最終案を作成した。(N440)
- ・ 三橋卓也氏から、“high energy ”という表現についての質問があり、Laurent Houillon 氏から EN 14360「Protective clothing against rain—Test method for ready made garments – Impact from above with high energy droplets (参考文献に追加) 」に由来していることが回答された。ISO 9865 「Textiles—Determination of water repellency of fabrics by the Bundesmann rainshower test」と比較するために、この表現が選ばれた。(EN

14360:約 5m の「レインタワー」対 ISO 9865:約 2m の「レインシャワー」。

- ・ さらに、三橋卓也氏から水質について質問され、Laurent Houillon 氏は分析のための水質に関連する ISO 3696 について説明し、Frank Sasse 氏は分析には大量の水を使用するためカルシウムに基づく選択が妥当であるとの説明を行った。
- ・ 本規格は、次の段階である FDIS 投票に進められることとなった。

4) ISO/DIS 24232 Protective clothing—Protection against rain

防護服—降雨に対する防護

プロジェクトリーダー: Frank Sasse 氏 (独国) 及び Cai Zhong 氏 (中国)

- ・ ISO/DIS 24232 は、2023-05-19 より 9 か月の延長が受理されている(N423)。
- ・ PG 会議の結果、草案は N442 として変更された。
- ・ ISO 11610:2023 に沿った用語と定義を確認する必要がある、確認後、本規格は、次の段階である FDIS 投票に進められることとなった。

5) Future WI “ISO 23762” Protective clothing—Visibility safety clothing for medium and low risk situations—Test methods and requirements

将来の作業項目「ISO 23762」防護服 —中・低リスクレベル用の視認性安全服 — 試験方法及び性能要求事項

プロジェクトリーダー: 辻 創氏 (日本)

- ・ WG1は、この規格は視認性を高める材料を考慮して中リスクレベルのみを扱い、低リスクを除外することを受け入れた。
- ・ さらに、EN 17353 に記載されている防護服 (付属品ではない) の要件が考慮された。
- ・ 日本の最初の提案と EN 17353 を比較した文献レビューが行われ、辻 創氏が規格を完全に書き直した(N299)。
- ・ 規格開発には 9 か月の延長期間が認められた。
- ・ N299 に関する WG 協議が行われ、2022 年 9 月 27 日にすべてのコメントが対処され (N411)、参加者は DIS 登録を推奨し、N412 のクリーンバージョンに基づいて DIS 投票を開始することに同意した。
- ・ ピクトグラムに関しては、EN 17353 のピクトグラムと ISO 7000 に登録されているもの (それぞれ 3741、3740、および 3742) が異なり、DIS 投票が遅延した。
- ・ DIS 草案を DIS 投票にかけるためには、ISO 7000 に登録されたピクトグラムを参照する必要があるため、ISO TC94 SC13 は ISO TC145 SC3 (ISO 7000 を担当) に修正を要求した。
- ・ それにより、ISO TC94 SC13 は、2023 年 3 月 9 日に ISO/CD 23762「防護服 - 中リスクレベル用の視認性衣類 - 試験方法及び性能要求事項」プロジェクトを中止することを決定した。
- ・ 使用されている図記号が ISO 7000、ISO TC145 SC3 に登録された時点で、プロジェクトを再開するための NP 投票が開始される。

6) その他事業 ISO 20471:2013

ISO 20471:2013 に関して、Laurent Houillon 氏は定期見直し投票結果(N445)を提示し、改正に 4 か国が賛成したことを示した。同氏はドイツからの「luminescence の測定に使用される測定方法は正確ではない。これらは現在の最先端技術に対応していない。」とのコメントを指摘し、ISO 20471:2013 の改正と、Wolfgang Quednau 氏 をプロジェクトリーダーとすることを推奨し、参加者は同意した。

② **WG2 Protective clothing against heat and flame 熱及び火炎に対する防護服**
会期中の WG 会議が開催されなかった。

③ **WG3 Protective clothing against chemical agents 化学物質に対する防護服**

コンビーナ: Anugrah Shaw 氏

参加国: ベルギー、ブラジル、カナダ、仏国、ドイツ、日本、韓国、スウェーデン、スイス、英国、
米国

1) ISO 6529 Protective clothing—Protection against chemicals—Determination of resistance of protective clothing materials to permeation by liquids and gases

防護服—化学物質に対する防護—液体およびガスの透過に対する防護服素材の耐性の測定

プロジェクトリーダー: Julien Hollingshurst 氏

- ・ 編集および技術的なコメントは、2023年9月の会議で解決済である。
- ・ 進行中のILT(ラウンドロビンテスト、9研究室)の結果がMike Draper氏によって発表された。

2) ISO 6530 Protective clothing— Protection against liquid chemicals—Test method for resistance of materials to penetration by liquids

防護服—液体化学物質に対する防護—液体の浸透に対する材料の耐性の試験方法

プロジェクトリーダー: Carole Garbowsk 氏

- ・ プロジェクトは進行中のILT(8研究室)の結果待ちであり、CD投票の草案を最終決定するためにPG会議が予定されている。

3) ISO 13994:2005 Clothing for protection against liquid chemicals—Determination of the resistance of protective clothing materials to penetration by liquids under pressure

液体化学薬品から防護するための衣類—加圧下の液体の浸透に対する防護服素材の耐性の測定

プロジェクトリーダー: Hyeshin Yoon 氏

- ・ Hyeshin Yoon氏から提示された課題と議論に基づいて、Scopeと方法論を修正する必要がある。Amanda Newsom氏とHyeshin Yoon氏が協力して原案を修正し、今年後半のPG会議のためにPGメンバーに送信することに同意した。既存の規格が大幅に改訂されるため、ILTが必要である。

4) 17491-3 Protective clothing—Test methods for clothing providing protection against chemicals—Part 3: Determination of resistance to penetration by a jet of liquid (jet test)

防護服—化学物質に対する防護服の試験方法—パート3: 液体のジェット噴流による浸透に対する耐性の測定 (ジェット試験)

プロジェクトリーダー: Julia Nibbeling 氏

- ・ 委員会週間中にPG会議は開催されなかった。

5) ISO 17491-4 Protective clothing—Test methods for clothing providing protection against chemicals—Part 4: Determination of resistance to penetration by a spray of liquid (spray test)

防護服—化学物質に対する耐性—パート4: 液体のスプレー噴霧による浸透に対する耐性の測定 (スプレー試験)

プロジェクトリーダー: Stephane Nowak 氏

- ・ DIS 投票のコメントは PG 会議で議論され、原案を修正した。修正された原案は出席メンバーに電子メールで送信され、フィードバックがリクエストされている。9 月 30 日に、FDIS 投票のために書類が提出される。

6) ISO 17491-5 Protective clothing—Test methods for clothing providing protection against chemicals—Part 5: Determination of resistance to penetration by a spray of liquid (manikin spray test)

防護服—化学物質に対する耐性—パート 5：液体のスプレーによる浸透に対する耐性の測定（マネキンスプレーテスト）

プロジェクトリーダー：Amanda Newsom 氏

- ・ このプロジェクトは現在投票中であるため、9 月の会議では議論されなかった。投票が終了したら、プロジェクトリーダーはコメント対応の会議を予定する。
- ・ 規格が ISO 17491-4 に準拠していることを確認するために、このプロジェクトにも変更が加えられる。

7) ISO 27065 : Protective clothing – Performance requirements for protective clothing worn by operators applying liquid pesticides

防護服—液体殺虫剤を散布する作業者が着用する防護服の性能要求事項

プロジェクトリーダー：Anugrah Shaw 氏

- ・ 系統的レビューが、9 月 12 日の PG 会議で議論され、改訂案とコメント文書は出席した PG メンバーと専門家に電子メールで送信された。
- ・ 仏国は、コメントに基づいて修正を提案するよう要請し、仏国で実施された研究報告は入手でき次第 PG に提供されることとなった。
- ・ レベル C3 の改訂案および同等性について農業関係者から意見を得ることとした。
- ・ PG 会議が 11 月か 12 月に予定されており、修正案について議論される。

8) 新規提案

以下の 4 規格(a から d)の改定に関する系統的レビューの結果が 9 月に提出され、WG3 会議で検討された結果、軽微な修正のみが提案されており、これらの規格が ISO 16602 シリーズ (ISO 17491-1 を除く) に置き換えられる予定であることを考慮し、これら規格の改定を実施せず、確認とすることが同意された。

a) ISO 13982-1:2004 Protective clothing for use against solid particulates—Part 1 : Performance requirements for chemical protective clothing providing protection to the full body against airborne solid particulates (type 5 clothing)

固体微粒子に対する使用のための防護服—パート 1：浮遊固体粉じん用全身化学防護服(タイプ 5 防護服)の性能要求事項

b) ISO 13982-2:2004 Protective clothing for use against solid particulates—Part 2 : Test method of determination of inward leakage of aerosols of fine particles into suits

化学物質に対する防護服—パート 2：スーツ内への微粒子エアロゾルの内部漏洩を測定する試験方法

c) ISO 17491-1:2004 Protective clothing—Test methods for clothing providing protection against chemicals—Part 1: Determination of resistance to outward leakage of gases (internal pressure test).

防護服—化学物質から防護する衣類の試験方法—パート 1：ガスに対する気密性の試験方法(内圧試験)

d) ISO 17491-2:2004 Protective clothing – Test methods for clothing providing protection against chemicals – Part 2: Determination of resistance to inward leakage of aerosols and gases (inward leakage test).

防護服－化学物質から防護する衣類の試験方法－パート 2:エアロゾルおよびガスの内部漏洩に対する試験方法(内部漏洩試験)。

e) ISO 6530 における縫製部の試験

・ 縫製部テストの結果に基づいて、Mike Draper 氏から ISO 6530 に縫製部のテストを含めることが提案された。

・ WG3 会議での発表を踏まえ、会員への情報提供が推奨された。

④ ISO TC94 SC 13 WG 3 / JWG 1 会議

コンビーナ: Eric van Wely 氏

ISO 16602-1 Protective clothing for protection against chemicals – Classification, labelling and performance requirements – Part 1: General

ISO 16602-2 Protective clothing for protection against chemicals – Classification, labelling and performance requirements – Part 2: Physical test methods, classification and requirements

ISO 16602-3 Protective clothing for protection against chemicals – classification, labelling and performance requirements – Part 3: Chemical test methods, classification and requirements

ISO 16602-4 Protective clothing for protection against chemicals – Classification, labelling and performance requirements – Part 4: Test methods, classification and requirements for specific designs and ensemble components including gloves, footwear, and respirators

ISO 16602-5 Protective clothing for protection against chemicals – Classification, labelling and performance requirements – Part 5: Garment test methods, classification and requirements

ISO 16602-6 Protective clothing for protection against chemicals – Classification, labelling and performance requirements – Part 6: Guidance for Selection, Use, Care and Maintenance

- ・ TC94/SC13/WG 3 と ISO/ TC85/SC2 の JWG 1 PG において ISO 8194 を ISO 16602 シリーズに抱合する検討が行われた。
- ・ ISO/CD2 16602 シリーズの改訂に関するコメントが、TC94/SC13、ISO/TC85/SC2、および HAS コンサルタントから寄せられている(ISO 16602-4 に対するコメントはまだ受けていない)。
- ・ これらのコメントに対する解決案は、ISO 16602 シリーズの草案テキストを含み、会議の前に提供された。これには、受け入れられなかったコメント、またはレビューの前に議論が必要だったコメントをカバーするプレゼンテーションが含まれている。
- ・ 代表団(Ulf Nystrom、Julia Nibbeling、Eric van Wely)が、11 月の F2F 会議で HAS コンサルタントに会い、これらのコメントの解決について合意に達するように努めることとなった。
- ・ 今回開催された PG 会議(9 月 13 日)では、すべてのコメントと全シリーズの提案された試験がレビューされた。

ISO 16602-1 のコメントと提案されたテキストが詳細に改訂された(例:部分的な本文、極端な保管条件、マーキング)。

ISO 16602-2 には物議を醸す問題はほとんどなく、これらは簡単にレビューされた。

ISO 16602-3 には、低レベルスプレー試験(旧タイプ 6)用の衣服の縫い目試験に関連した 1 つの主要なコメントがあり、その他の問題も議論され、ISO 17723-1 透過試験化学物質リストへのリンク、ET 透過レベルが修正される。

ISO 16602-4 では、以下のような微粒子クラス要件においても同様に「検出限界と最良クラスの間のファクター10 を取得することは非常に難しいと思われる」ことに関連して議論がなされた(まだ最終決定およびチェックはされていない)。

クラス	要件 ティルとティルプ (%)	要件 MR および MB (%)	公称防護係数 (NPF)	化学的課題
11	0,004	0,002	50 000	SF6 または NaCl
10	0,01	0,005	20 000	SF6 または NaCl
9	0,02	0,01	10 000	SF6 または NaCl
8	0,04	0,02	5 000	SF6 または NaCl
7	0,1	0,05	2 000	SF6 または NaCl
6	0,2	0,1	1000	SF6 または NaCl
5	2	1	100	SF6 または NaCl
4	4	2	50	SF6 または NaCl
3	10	5	20	SF6 または NaCl
2	20	10	10	SF6 または NaCl
1	50	25	4	SF6 または NaCl

ISO 16602-5 では、以下の様な項目(実用的なパフォーマンスの必須テストのより良い仕様、サンプルの数とテキストの人の数、「ワークベンチの 10 ストローク」を削除)が最も物議を醸した問題であった。

ISO 16602-6 では、ISO 16602-1 から ISO 16602-5 で受け入れられた変更を行う(たとえば、切創防護リスク評価をより具体的に追加し、より基本的なケアシンボルの例を追加する)。

- ・ 改訂された照合コメントファイル(HAS コンサルタントからのものを含む)文書は、この会議の議事録と併せて共有される。
- ・ PG は SC 13 に対し、会議中に行われたまたは合意された変更に基づき、原案を DIS に移行するよう勧告することで合意した。
- ・ ISO DIS 16602 シリーズのドラフト文書の準備が整うと(11 月 / 12 月)、Web リンクで公開されてから 1 か月以内に編集コメントのために JWG と共有される。

⑤ WG5 Protective clothing against mechanical action 機械的作用に対する防護服

コンビーナ: コンビーナ不在 代理 Eric van Wely 氏

参加国: オーストラリア W、カナダ、仏国、日本、ケニア W、韓国、スイス、英国 W、米国 W、ドイツ、ベルギー、中国

現在、WG 5 独自の審議案件が無いことから、PG 会議は未開催。

- ・ WG 8 との共同審議案件である、ISO 13997 の進捗に関する報告。
- ・ WG 5 コンビーナの不在が続いていることから、改めて立候補、推薦の募集と不在継続時は、WG 1 に吸収合併される可能性があるという通知があった。

⑥ WG6 Protective clothing against hazardous biological agent

生物学的危険物質に対する防護服

コンビーナ: Sven Schöppe 氏

参加国: ベルギー、カナダ、仏国、ドイツ、日本、韓国、スウェーデン W、スイス、英国 W、米国、W:Web 参加

審議内容及び結果

1) ISO CD 22615 Protective clothing – Performance requirements and test methods for

protective clothing against infective agents

防護服－生物学的危険物質に対する防護服の性能要求及び試験方法（参照 EN 14126:2003rev）

プロジェクトリーダー: Eric van Wely 氏

CD 投票のコメントについてのディスカッションが行われ、主な審議は以下のとおりである。

- ・ Non-critical と Less-critical の用語の相違について検討し、とりあえずは Less-critical に統合することが有力となった。
- ・ 試験項目 ISO 16604 (加圧バクテリオファージ試験) と ISO 16603 (加圧人工血液試験) の関連について議論され、多くの機関や国では、バイオハザードに対する防護性能評価には ISO 16604 が正確であり、ISO 16603 は予備的試験との位置づけであることが紹介された。しかしながら、今後バイオハザードに対する防護性能評価には ISO 16604 を必須とするかについては、まだ検討の必要があることとなった。
- ・ シーム部の試験は重要であり、ISO 16604 (加圧バクテリオファージ試験) が最適かどうかについて議論があった。さらに、シームと布は同じ性能レベルが必要であるが、テストセルの向きが異なると評価が異なるなど多くの検討すべき要件が紹介された。
- ・ ISO 22610 は 2006 年版の試験方法を使用することとなった。
- ・ 着脱手順を明記するのかどうかについて検討課題となった。一応 ISO 16602 には記載がある。
- ・ クリーニングに関しては、滅菌処理後などの性能保証なのか、また Cleaning と Decontamination は異なることなどが議論された。とりあえずは、品質管理プロセスを回すことが重要であり、要求性能はサプライヤーとユーザーが決めることであることなどが提案された。
- ・ Table 7 の Classification or Resistance to penetration の Class 2 が 10mm 以上になっている件について議論があった。この値は AAMI PB70 のクラス 2 の定義 (20mm 以上) と異なっており、今回は 10mm 以上となったが、日本としては PB70 を運用基本としているため、今後 PB70 との整合性について再度検討要望を出すべきかもしれない。
- ・ ISO 22615 は ISO 16602 及び ISO 20384 と整合性をとる必要があることが確認された。
- ・ HAS コンサルと EU 規格との調整を行う。2023 年 11 月ごろを予定。
- ・ 規格内容の検討項目としては、Partial Body も含める、Scope・用法の整理、リスクエリアの調整、クリーニングの用語定義、ISO 16603 と ISO 16604 の関連性などである。
- ・ 本年 11 月に PG Meeting、来年 1 月 CD draft、3 月 CD result and comment res、6 月頃を DIS の目途とする。

さらに、ISO/CD 22615 は、ISO/TC 94/SC 13 では初めて OSD (オンライン標準開発プラットフォーム) を使用して審議をした プロジェクトであるが、現状ではいくつかの問題があると考えられている。試験段階の OSD を使用して規格開発をすることは可能であるが、現時点ではまだ推奨できるレベルには達していない。プロジェクトが開始されたばかりであるため、ISO 20384 への参照を維持できるかどうかの未解決の問題がある。どちらのプロジェクトも、最終的には 2024 年 6 月 1 日に提出される予定である。

2) ISO/WD 20384 Medical gowns, surgical drapes and protective apparel – Performance requirements, performance levels and test methods

医療用ガウン、手術用ドレープ、防護服の着用－性能要求及び試験方法

プロジェクトリーダー: Sven Schöppe 氏

- ・ 本規格は医療分野(手術現場)といわゆる防護服との併合規格である。
- ・ この規格においても、各製品(完成品)の防護性能の在り方について議論がなされ、今後さらなる整理が必要であることが確認された。
- ・ 各国における関連規格としては、米国 ANSI/AAMI PB70:2022、AAMI ST65(R)2018、中国 GB 19082:2009、ヨーロッパ、EN 13795:2019 PB 70:2022 (preEN 13795:2023 (10/23))、インド IS 17334 2019 などがある。これらの取り込み及び ISO 22615 との関連(相違の明確化など)について、更に検討することとなった。
- ・ すべての規格において、潜在的な弱点のある部分(素材の重なり部分、Critical Area の範囲など)は製品全体のパフォーマンスに影響する可能性があるため、メーカーによる製品設計段階において考慮され、製品と同様のパフォーマンスを発揮する必要があることが確認された。

3)ISO 22610:2018 Surgical drapes, gowns and clean air suits, used as medical devices, for patients, clinical staff and equipment—Test method to determine the resistance to wet bacterial penetration

患者、臨床スタッフ、機器用の医療機器として使用される手術用ドレープ、ガウン、クリーンエアスーツ - 湿った細菌の侵入に対する耐性を判定する試験方法

プロジェクトリーダー: Mark Croes 氏

- ・ ISO 22610 は 2006 年版の試験方法を使用することとなった。
- ・ 本規格は 2023 年 7 月 15 日から 2023 年 12 月 2 日まで定期的に見直し中である。
- ・ 次回の PG 会議は 2023 年 11 月に予定されており、必要に応じてさらなる PG 会議が計画される。
- ・ CD 協議は 2024 年初めに計画されており、2024 年 6 月 1 日までに DIS 投票に提出される予定。

⑦ WG 8 Standardization for protective gloves 防護手袋

コンビーナ: Jean-Claude Cannot 氏

参加国: 仏国、カナダ、日本、スイス、米国、ベルギーW、ドイツW

1)ISO/AWI 23388: Protective gloves against mechanical risks

機械的リスクに対する防護手袋

プロジェクトリーダー: Guido Van Duren 氏

- ・ ISO 13997:2023 が本年 6 月に発行された。ISO 23388:2018 や EN388:2016+A1:2018 には、ISO 13997:1999 が引用されていることもあり、TDM 試験機を使用した場合、新旧どちらの規格を利用するのがよいのかという問い合わせが増えてきている。ISO 23888:2018 の改正を早急にして、早ければ 2024 年 12 月までには発行したいため、2023 年内に DIS 投票から始めたい。また EN 388:2016+A1:2018 も同時並行で改正していく。
→ 特に反対意見無。
- ・ 市場には防護手袋の性能レベルが 1 や A と記載されている手袋が存在しているが、レベル 1 または A について耐切創性能はない(例 綿製の手袋、ナイロン製の手袋等)。耐切創手袋と謳うならレベル 3 若しくは B 以上に変更する必要があるのではないかという提案があった。また TDM 試験機を使用して算出された結果として耐切創性能レベル F が現在最高レベルとして設定してあるが、実際、レベル F 以上の数値の結果がでる耐切創手袋もあるので、レベル G を新たに性能レベルに加えてもいいのではないか。
→我が国としては、将来の新素材開発品が出てきた場合のことを考慮し、反対はしな

かった。

- ・ 事前回覧された CD 原案を検討したものの、衝撃保護要件の途中で会議終了となり、10/20 に WEB 会議開催が決まった。

⑧ SC13 プレナリー(総会)

会議冒頭で、経済産業省産業技術環境局 国際標準課課長 西川奈緒様 (WEB 参加)、公益社団法人日本保安用品協会 代表理事・会長 藤井信孝様(WEB 参加)、信州大学副学長・繊維学部長 森川英明様からご挨拶があり、続いて、SC13 池田信一郎議長から CAG 会議内容含め会議全体へのコメント、前回国議議事録確認、各 WG コンビナーからの会議報告があった。また、WG 8 コンビナーの Jean-Claude Cannot 氏が 2023 年 12 月末で退任するとの発表があり、同氏より後任に Didier Guisado 氏を推薦した。

その他、他 TC 等とのリエゾン報告と、新規のリエゾン先として、IEC/TC 124(Wearable electronic devices and technologies)が提案され、IEC/TC 124 議長の平川秀治氏と WG 2 コンビナーの前田郷司氏から活動内容の説明があり、提案は承認された。

次回以降の会議開催国については、中国とカナダが立候補し、検討した結果、下記開催国が決定した。

2024 年 開催国:オランダ 開催地:デルフト

開催期間:CAG 会議9月8日 WG/PG 会議9月9日～13日

2025 年 開催国:中国

2026 年 開催国:カナダ又はドイツ

【決議事項】

1) 決議 736/2023 WG 1

ISO 20471:2013 の改正

文書 N2162:SR(定期見直し投票)の結果を考慮し、ISO 20471:2013 を改正するためのアクティブワークアイテム(AWI)を登録することを決定する。

プロジェクトリーダー:Wolfgang Quednau 氏(独国)

2) 決議 737/2023 WG 5

ISO 13997:2023 の誤り

WG 5 は、ISO 13997:2023 (第 2 版-id.71111)の図 7-ブレード設計例の誤りを指摘された。

訂正版を発行することによりこの誤りを訂正することに合意する。ISO/CS に連絡し、ISO 13997:2023 の修正版を発行するために必要な措置を講じるよう、委員会マネージャーに要請する。

ISO/CS が修正版の発行を拒否した場合、出席代表者は、図 7 を修正した図に置き換えることで ISO 13997:2023 を修正する AWI を登録することに合意する。

プロジェクトリーダー:Eric van Wely 氏 (スイス)

3) 決議 738/2023 WG 5

WG 5 機械的作用に対する防護服 解散について

ISO/TC 94/SC 13/WG 5 の議長を務める候補者がいないことを考慮し、ISO 13997:2023 (Res 742/2023)の修正/改正が公表された後、WG 5 を解散するかどうかを決定する。

4) 決議 739/2023 WG 6

CEN/TC 205 非活性医療機器へのリエゾン

ISO 20384 の適用範囲と Sven Schoppe 氏の情報を考慮し、CEN/TC 205 へのリエゾンの設置

を決定する。

委員会マネージャーに対し、このリエゾン GEN/TC 205 に提案するよう要請する。

Sven Schoppe 氏がリエゾンオフィサーに任命された。

5) 決議 740/2023 WG 8

ISO/AWI 23388 のための CD コンサルテーションをスキップする。

Jean-Claude Cannot 氏から提供された情報を考慮し、ISO/AWI 23388 (第 2 版-id.86051) の CD コンサルテーションをスキップし、直接 DIS ステージ(40:00)に進むことに合意する。

6) 決議 741/2023 WG 8

CEN/TC162 との VA/ISO 主導による ISO 23388 の改訂

CEN/TC162 が行った EN 388 の改定として NWIEN ISO 23388 を採択する決定 C 597/23 に留意する。また、Res 725/2022 (N2025)及びウィーン協定(VA)の下、ISO が CEN/TC162 を主導してプロジェクトを開発する決定を確認する。

7) 決議 742/2023

コンビーナの確認

以下の作業部会コンビナー(任期:3年)を承認する。

ISO/TC 94/SC 13/WG 1 Mr. Laurent Houillon

ISO/TC 94/SC 13/WG 2 Mr. David Matthews

ISO/TC 94/SC 13/WG 3 Ms. Anugrah Shaw

ISO/TC 94/SC 13/WG 6 Mr. Sven Schöppe

ISO/TC 94/SC 13/JWG 1 Mr. Eric van Wely

ISO/TC 94/SC 13/CAG Mr. Eric van Wely

WG 5 - 現在のところ新しい候補者はいない。

WG 8 - Jean-Claude Cannot 氏が 2023 年 12 月 31 日までに辞任するため、委員会マネージャーは提案通り Didier Guisado 氏(仏国)を任命する CIB を立ち上げる。

8) 決議 743/2023

・IEC/TC124 ウェアラブル電子機器技術へのリエゾン

IEC/TC124 の報告書(N2165)に記載された情報及び IEC/TC124 議長 Shuji Hirakawa 氏、WG2 E-textiles コンビナー Satoshi Maeda 氏による追加情報を考慮し、IEC/TC124 とのリエゾンを設置することを決定した。

・Laurent Houillon 氏(仏国)と Karin Eufinger 氏(ベルギー)がリエゾンオフィサーに任命された。

以上、すべての決議は全会一致で採択された。



写真 SC13 プレナリー終了時に

4. キャンパスツアー

会期中の9月13日及び9月14日に、時間帯別に3班に分かれて、信州大学のご厚意にてキャンパスツアーを行った。日本人参加者16名、海外参加者13名と多数の方々にご参加いただいた。

5. ソーシャルイベント(懇親会)

9月13日のキャンパスツアー後に、上田東急 REI ホテル大宴会場にて、ソーシャルイベントを開催した。国際会議参加者に加え、日頃より協議会の活動にご協力いただいている方々も多数参加され、関係者間での親睦を深めるよい機会となった。

公益社団法人日本保安用品協会専務理事 小松克行様、信州大学副学長・繊維学部長 森川英明様からご挨拶を頂いた後、SC 13 議長の池田信一郎氏が乾杯を行った。日本人参加者41名、海外参加者14名と多数の方々にご参加いただき、大変に盛況となった。最後に一般社団法人日本防護服協議会 業務執行理事 鈴木一裕から閉会の挨拶があり、散会した。

文責(鈴木一裕)

13. JIS 原案作成への協力

- 13.1 JIS T 8125-5 及び JIS T 8125-6
改正原案作成委員会**
- 13.2 JIS T 8052 改正原案作成委員会**
- 13.3 JIS T 8119 制定原案作成委員会**

2023年4月14日

「JIS T 8125-5 手持ちチェンソー使用者のための防護服：脚半及び-6 手持ちチェンソー使用者のための防護服：上半身防護服」改正原案作成委員会

JIS T 8125-5 及び-6 第2回本委員会 議事録

1. 日時 : 2023年4月14日(金) 15:00~16:00
2. 場所 : 公益社団法人 日本保安用品協会 4F 会議室
3. 出席者 (順不同、敬称略)

区分	氏名	勤務先等	Web	会場
委員長	山田 晃也	防衛省 防衛装備庁		○
幹事	渡邊 学	株式会社 トーヨ		○
委員	石川 高志	経済産業省 製造産業局 生活製品課		欠席
委員	福井 令以	厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 安全課	○	
委員	西山 靖之	農林水産省 林野庁 林政部 経営課	○	
委員	古田 豊	一般財団法人 日本規格協会	○	
委員	黒川 裕介	一般財団法人 日本品質保証機構	○	
委員	金井 博幸	信州大学	○	
委員	松村 哲也	東京大学 大学院		○
委員	辻 創	一般財団法人 カケンテストセンター		○
委員	鹿島 潤	国立研究開発法人 森林研究・整備機構		○
委員	持丸 知宏	ハスクバーナ・ゼノア 株式会社	○	
委員	小松 一成	マックス 株式会社		欠席
委員	和佐 英仁	一般社団法人 林業機械化協会	○	
委員	庭山 佳宏	林業・木材製造業労働災害防止協会	○	
委員	武藤 洋	建設業労働災害防止協会		○
委員	藤井 尚測	中央労働災害防止協会		欠席
委員	山田 亨	ミドリ安全 株式会社		○
委員	鈴木 一裕	アゼアス 株式会社		○
関係者	葛本 祥子	経済産業省 産業技術環境局 国際標準課	○	
関係者	溝口 晃平	一般財団法人 カケンテストセンター	○	
関係者	野原由樹子	一般社団法人 日本防護服協議会		○
事務局	政野 祐一	公益社団法人 日本保安用品協会		○
事務局	尾崎 克己	公益社団法人 日本保安用品協会		○

計 21 名

4. 議 題

- 1) 交代した委員の紹介
- 2) JIS T 8125-5 本文「本委員会後：JIS_T_8125-5 (脚半)_本文_R5.4.17」の承認

同日の（13：30~14：50）第4回分科会決定事項について山田委員長と渡辺幹事が「本委員会事前説明：JIS_T_8125-5 (脚半)_本文_R5.4.14.本委員会用」をもとに説明を行った。なお、最終の原案は本委員会終了後に配布する。

本委員会の委員より下記の質問があった。

本委員会の委員より防護範囲の測定の手順、締結部の線の引き方と手順及び切断試験の方法と手順、エルゴノミクス試験のレンジの姿勢の説明を求められた。いずれも ISO 原文を崩さない範囲の原案としているとの説明をした。

ほかに意見はなく、本委員会で「本委員会後：JIS_T_8125-5 (脚半)_本文_R5.4.17」は承認された。

- 3) JIS T8125-6:xxxx の審議開始の承認

以上

文責：株式会社トーヨ 渡邊学

※配布資料

- ① JIS T 8125-5・本委員会事前説明資料（ワード）
「本委員会事前説明：JIS_T_8125-5 (脚半)_本文_R5.4.14.本委員会用」
- ② 締結部の試験の例（パワーポイント）
- ③ 切断箇所の比較（パワーポイント）
- ④ JIS T 8125-3 本体 R4.10.19（ワード）

2023年9月29日

「JIS T 8125-5 手持ちチェンソー使用者のための防護服：脚半及び-6 手持ちチェンソー使用者のための防護服：上半身防護服」改正原案作成委員会

JIS T 8125-5 及び-6 第3回本委員会 議事録

1. 日時 : 2023年9月29日(金) 13:30~15:30
2. 場所 : 公益社団法人 日本保安用品協会 4F 会議室
3. 出席者 (順不同、敬称略):

区分	氏名	勤務先等	Web	会場
委員長	山田 晃也	防衛省 防衛装備庁		○
幹事	渡邊 学	株式会社 トーヨ		○
委員	石川 高志	経済産業省 製造産業局 生活製品課	○	
委員	福井 令以	厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 安全課		欠席
委員	西山 靖之	農林水産省 林野庁 林政部 経営課		欠席
委員	古田 豊	一般財団法人 日本規格協会	○	
委員	黒川 裕介	一般財団法人 日本品質保証機構	○	
委員	金井 博幸	信州大学	○	
委員	松村 哲也	東京大学 大学院		欠席
委員	辻 創	一般財団法人 カケンテストセンター	○	
委員	鹿島 潤	国立研究開発法人 森林研究・整備機構		欠席
委員	持丸 知宏	ハスクバーナ・ゼノア 株式会社	○	
委員	小松 一成	マックス 株式会社		欠席
委員	和佐 英仁	一般社団法人 林業機械化協会	○	
委員	庭山 佳宏	林業・木材製造業労働災害防止協会		欠席
委員	武藤 洋	建設業労働災害防止協会		○
委員	藤井 尚測	中央労働災害防止協会		欠席
委員	山田 亨	ミドリ安全 株式会社	○	
委員	鈴木 一裕	アゼアス 株式会社		○
関係者	小川 佳子	経済産業省 産業技術環境局 国際標準課	○	
関係者	溝口 晃平	一般財団法人 カケンテストセンター	○	
関係者	野原由樹子	一般社団法人 日本防護服協議会		○
事務局	政野 祐一	公益社団法人 日本保安用品協会		欠席
事務局	尾崎 克己	公益社団法人 日本保安用品協会		○

計 16 名

4. 議事概要


JIS T 8125-6 改正原案の本文の分科会決定事項の説明および承認


- 1) JIS T 8125-6 名称 「上半身防護服」とした。製品規格であることを明示するため、他の規格群に合わせた。
- 2) 箇条 1 適用範囲
2 段落目は、分科会での決定をもとに、本委員会において削除することとした。
- 3) 箇条 9.3.2 袖の切断位置
「以下、この線を“袖山線”とする。」を分科会後に追加した。用語の定義が必要との指摘が今後出てきた場合に追加する。


JIS T 8125-6 改正原案作成委員会は本日の本委員会における承認をもって終わりとする。

以上

配布資料

 JIS_T_8125-6 (上衣)_本文_R5.09.26.docx

 改正原案(JIS T8125-6)主な改正点_R5.9.26修正版.pptx

 説明：箇条9.3.3 縫合部の試験位置など_R5.9.26.pptx

文責 渡邊学 株式会社トーヨ

2023年4月14日

「JIS T 8125-5 手持ちチェンソー使用者のための防護服：脚半及び6手持ちチェンソー使用者のための防護服：上半身防護服」改正原案作成委員会

JIS T 8125-5 第4回分科会 議事録

1. 日時 : 2023年4月14日(金) 13:30~14:50
2. 場所 : 公益社団法人 日本保安用品協会 4F 会議室
3. 出席者 (順不同、敬称略):

区分	氏名	勤務先等	Web	会場
委員長	山田 晃也	防衛省 防衛装備庁		○
幹事	渡邊 学	株式会社 トーヨ		○
委員	金井 博幸	信州大学	○	
委員	松村 哲也	東京大学 大学院		○
委員	辻 創	一般財団法人 カケンテストセンター		○
委員	持丸 知宏	ハスクバーナ・ゼノア 株式会社	○	
委員	小松 一成	マックス 株式会社		欠席
委員	武藤 洋	建設業労働災害防止協会		○
委員	藤井 尚測	中央労働災害防止協会		欠席
委員	山田 亨	ミドリ安全 株式会社		○
委員	鈴木 一裕	アゼアス 株式会社		○
関係者	溝口 晃平	一般財団法人 カケンテストセンター	○	
関係者	野原由樹子	一般社団法人 日本防護服協議会		○
事務局	政野 祐一	公益社団法人 日本保安用品協会		○
事務局	尾崎 克己	公益社団法人 日本保安用品協会		○

計 10 名

4. 議 題

1) JIS T 8125-5 本文原案継続審議

- ① 箇条 10 製造業者が提供する情報は検討案で承認された。
- ② 箇条 6.4.4 (防護範囲の測定) 手順は装着性試験の後に行ってもよいで承認された。
- ③ 箇条 6.3.2 試験片 分科会では3片とするか3組とするか意見が分かれたが、ISO原文のとおり3片とした。
- ④ 箇条 6.3.4 手順 ISO原文を崩さない範囲の原案とし承認された。
- ⑤ 箇条 6.2.3.2 取付具 山田委員長より5組の切断試験について検討案の説明があった。分科会で検討した結果、JIS T8125-3:xxxxの取付台とした。

- 2) その他の意味を崩さない範囲の修正を加えることの承認と本原案「本委員会後：JIS_T_8125-5(脚半)_本文_R5.4.17」を本委員会承認案として分科会で承認された。

以上

※配布資料

- ① JIS T 8125-5 本文原案ドラフト
「分科会検討：JIS_T_8125-5(脚半)_本文_R5.4.3」ワード
「JIS T8125-3(履物)_本体_R4.10.19_提出済」ワード
- ② ISO 11393-5：2001 及び 2018
- ③ 「説明：切断箇所と比較_R5.4.5b」PP
- ④ 「説明：締結部の試験の例_R5.4.5」PP

文責 渡邊学 株式会社トーヨ

2023年5月24日

「JIS T 8125-5 手持ちチェンソー使用者のための防護服：脚半及び-6 手持ちチェンソー使用者のための防護服：上半身防護服」改正原案作成委員会

JIS T 8125-6 第5回分科会 議事録

1. 日時 : 2023年5月19日(金) 13:30~17:00
2. 場所 : 公益社団法人 日本保安用品協会 4F 会議室
3. 出席予定者 (順不同、敬称略) :

区分	氏名	勤務先等	Web	会場
委員長	山田 晃也	防衛省 防衛装備庁		○
幹事	渡邊 学	株式会社 トーヨ		○
委員	金井 博幸	信州大学	○	
委員	松村 哲也	東京大学 大学院		○
委員	辻 創	一般財団法人 カケンテストセンター		○
委員	持丸 知宏	ハスクバーナ・ゼノア 株式会社	○	
委員	小松 一成	マックス 株式会社		欠席
委員	武藤 洋	建設業労働災害防止協会		○
委員	藤井 尚測	中央労働災害防止協会	○	
委員	山田 亨	ミドリ安全 株式会社	○	
委員	鈴木 一裕	アゼアス 株式会社		○
関係者	溝口 晃平	一般財団法人 カケンテストセンター	○	
関係者	野原由樹子	一般社団法人 日本防護服協議会		○
事務局	政野 祐一	公益社団法人 日本保安用品協会		欠席
事務局	尾崎 克己	公益社団法人 日本保安用品協会		○

計 13 名

4) 議 題

JIS T 8125-6 本文原案継続審議・読み合わせ

※資料 : JIS T 8125-6 本文原案ドラフト 3.17

: ISO 11393-6 : 2007 及び 2018

: JIS T 8125-6:2010 本文・解説

議事概要

- 1) 山田委員長より冒頭「改正 JIS T8125-5:xxxx 原案」と「解説」を日本規格協会に提出することの報告があり、分科会にて承認した。
- 2) 引き続き「改正 JIS T8125-6:xxxx」本文原案の審議を開始した。
 - ①箇条 3.9 注釈 1 は肩の頂部をショルダーラインとした。
 - ②箇条 4.5.3 及び箇条 4.5.4 はデザイン A とデザイン B の規定防護領域の記述が、委員より、「ISO 原文の 80%以上としたほうが良い。」などの意見があった。別の委員は規定防護領域の説明文に防護範囲の説明の記述が混在し、どちらの説明なのかわかりにくいとの指摘があった。このため、箇条 4.5.3 及び図 1、箇条 4.5.4 及び図 2、箇条 4.5.5 及び図 3 の記述について調整した。
図 1、図 2、の「えり」の記述は箇条 4.5.6 との整合性のため「(えりがある場合)」を追記した。
 - ③箇条 4.5.5 及び図 3 の l_1 の記述については次回、分科会までに幹事にコメント頂くこととし、次回の分科会で検討することとした。

以上

※配布資料

- ・ JIS T 8125-6 本文ドラフト 3.17
- ・ ISO 11393-6 : 2007 及び 2018
- ・ JIS T 8125-6 :2010 本文・解説

文責 渡邊学 株式会社トーヨ

2023年6月16日

「JIS T 8125-5 手持ちチェンソー使用者のための防護服：脚半及び-6 手持ちチェンソー使用者のための防護服：上半身防護服」改正原案作成委員会

JIS T 8125-6 第6回分科会 議事録

1. 日時 : 2023年6月16日(金) 13:30~17:00
2. 場所 : 公益社団法人 日本保安用品協会 4F 会議室
3. 出席者 (順不同、敬称略):

区分	氏名	勤務先等	Web	会場
委員長	山田 晃也	防衛省 防衛装備庁		○
幹事	渡邊 学	株式会社 トーヨー		○
委員	金井 博幸	信州大学	○	
委員	松村 哲也	東京大学 大学院		○
委員	辻 創	一般財団法人 カケンテストセンター	○	
委員	持丸 知宏	ハスクバーナ・ゼノア 株式会社	○	
委員	小松 一成	マックス 株式会社		欠席
委員	武藤 洋	建設業労働災害防止協会		欠席
委員	藤井 尚測	中央労働災害防止協会		欠席
委員	山田 亨	ミドリ安全 株式会社	○	
委員	鈴木 一裕	アゼアス 株式会社		○
関係者	溝口 晃平	一般財団法人 カケンテストセンター	○	
関係者	野原由樹子	一般社団法人 日本防護服協議会		○
事務局	政野 祐一	公益社団法人 日本保安用品協会		欠席
事務局	尾崎 克己	公益社団法人 日本保安用品協会		○

計 11 名

4. 議事概要

JIS T 8125-6 本文原案継続審議・読み合わせ

- 1) 箇条 4.5.5 の図 3 及び記号説明を含めて文章の表記について山田委員長の説明があった。
以下抜粋
 - ① 図 3 に補助線として 4 及び 5 を追加することで l_1 を説明しやすくした。
 - ② l_1 の記述は委員のコメントを募集する。
- 2) 箇条 7 防護材料の寸法変化の試験
 - ①防護材料について 2 か所のどこを測るのかで議論になった。防護服のデザインによっては平置きできないような立体的な造形も想定されるため、断定的な測定箇所の表現

にならないようにした。

3) 箇条 9.2 試料

- ① 「試料は、上半身防護服 1 着全体とする。」としたがこれは完成品を試験する意味での記述。

4) 箇条 9.3.2 袖の切断位置


- ① 「そで山」ではなく「袖の頂部」の表現とする。


5) 箇条 9.3.3 防護材料に縫合部がある場合の試験位置


- ① 図 5 と図 6 には基準線がない。これはデザインによって切断位置は変化すると考えられる。できるだけ ISO 原文に沿った記述とした。
- ② 図の記号 2 の「切断位置」は縫い目であるが、図の記号 3 の「切断位置」は最初の接触箇所と考える。したがって両側 20mm±5mm の切断位置は、結果的に縫い目にかかってもよい。
- ③ 試験片取付台上の試料を動かすのは大変なので、試験片取付台自体を動かしソーチェーンの接触点を調整できるような記述にした。

以上

配布資料

 さしかえ：JIS_T_8125-6 (上衣)_本文_R5.06.15.docx

 意見照会参考用：JIS T8125-6箇条4.5.5図3.pptx

 参考：解剖学的正位.jpg

文責 渡邊学 株式会社トーヨ

2023年7月14日

「JIS T 8125-5 手持ちチェンソー使用者のための防護服：脚半及び-6 手持ちチェンソー使用者のための防護服：上半身防護服」改正原案作成委員会

JIS T 8125-6 第7回分科会 議事録

1. 日時 : 2023年7月14日(金) 13:30~17:00
2. 場所 : アゼアス株式会社 2F 会議室
3. 出席者 (順不同、敬称略)

区分	氏名	勤務先等	Web	会場
委員長	山田 晃也	防衛省 防衛装備庁		○
幹事	渡邊 学	株式会社 トーヨ		○
委員	金井 博幸	信州大学		欠席
委員	松村 哲也	東京大学 大学院		○
委員	辻 創	一般財団法人 カケンテストセンター	○	
委員	持丸 知宏	ハスクバーナ・ゼノア 株式会社	○	
委員	小松 一成	マックス 株式会社		欠席
委員	武藤 洋	建設業労働災害防止協会		欠席
委員	藤井 尚測	中央労働災害防止協会	○	
委員	山田 亨	ミドリ安全 株式会社		欠席
委員	鈴木 一裕	アゼアス 株式会社		○
関係者	溝口 晃平	一般財団法人 カケンテストセンター	○	
関係者	野原由樹子	一般社団法人 日本防護服協議会		○
事務局	政野 祐一	公益社団法人 日本保安用品協会		欠席
事務局	尾崎 克己	公益社団法人 日本保安用品協会		○

計 10 名

4. 議事概要

JIS T8125-6 前回第6回審議の議事録承認と本文原案継続審議及び読み合わせ (箇条9.4 から)

1) 箇条9.4.2 袖用試験片取付台

袖用試験片取付台の図を入れたほうが理解しやすいため、JIS T8125-3 の試験片取付台の図を引用した。(追加した図が生じた場合は以降の図の番号は繰り下げる)

2) 箇条9.6.2 袖の試験

袖の試験は図を入れたほうが理解しやすいため現行 JIS T8125-6 の図を引用した。

(ただし改正 JIS T8125-6 ではそで山を切断するために切断位置が 50mm 違う。正し

い切断位置を表す図に修正が必要。今回、図 10 は仮の図とする。)

3) 箇条 9.7.1.1 防護材料ユニット

理解しやすくするために、図 11 の記号説明「4 肩の試験用の線」を追加。


4) 箇条 10.4 試験手順

試験片の引張試験の取り付け方法は図を入れたほうが理解しやすいため JIS T8125-2 から引用した。(図 12 防護用挿入材取付方法の例)

※箇条 12 まで分科会で審議した。

以上

配布資料

 JIS_T_8125-6 (上衣)_本文_R5.07.04.docx

文責 渡邊学 株式会社トーヨ

2023年8月4日

「JIS T 8125-5 手持ちチェンソー使用者のための防護服：脚半及び-6 手持ちチェンソー使用者のための防護服：上半身防護服」改正原案作成委員会

JIS T 8125-6 第8回分科会 議事録

1. 日時 : 2023年8月4日(金) 13:30~17:00
2. 場所 : 公益社団法人 日本保安用品協会 4F 会議室
3. 出席者 (順不同、敬称略)

区分	氏名	勤務先等	Web	会場
委員長	山田 晃也	防衛省 防衛装備庁		○
幹事	渡邊 学	株式会社 トーヨ		○
委員	金井 博幸	信州大学	○	
委員	松村 哲也	東京大学 大学院		○
委員	辻 創	一般財団法人 カケンテストセンター		欠席
委員	持丸 知宏	ハスクバーナ・ゼノア 株式会社	○	
委員	小松 一成	マックス 株式会社		欠席
委員	武藤 洋	建設業労働災害防止協会		欠席
委員	藤井 尚測	中央労働災害防止協会		欠席
委員	山田 亨	ミドリ安全 株式会社		欠席
委員	鈴木 一裕	アゼアス 株式会社		○
関係者	溝口 晃平	一般財団法人 カケンテストセンター	○	
関係者	野原由樹子	一般社団法人 日本防護服協議会		○
事務局	政野 祐一	公益社団法人 日本保安用品協会		欠席
事務局	尾崎 克己	公益社団法人 日本保安用品協会		○

計9名

4. 議事概要

JIS T8125-6 前回第7回審議の本文原案の継続審議及び読み合わせ (箇条 13 から)

1) 箇条 13 表示

k)とl)は利用者の安全のため追加した。

2) 箇条 14 図記号

ピクトグラムとその図記号は JIS T8125-2 に合わせることにした。

3) 箇条 15 製造業者が提供すべき情報

冒頭の文は他の JIS T8125 の表現に合わせた。

h)の消毒の意味が議論になった。どんな消毒を推奨するのか想定できないので本委員会で議論する。

o)は完全な着用の定義が議論になった。ファスナーやボタンなどの締結部を閉じた状態のとき最大の防護を得ることなので、ここでは正しい着用とした。

s)は袖と手袋の間に防護の隙間が生じることがないように確認する旨の文言とした。

4) 付属書 A


A.2.2.1 -作業完成のための緊急性のストレスとは、納期に合わせるためのストレスという意味

A.3 使用者の視認性は ISO 原文にないため削除した。

- 5) 今回の分科会で、JIS T8125-6 の改正原案について審議が終了した。次回 8 月 25 日(金)の第 9 回分科会では「-5」及び「-6」の文言確認と「-6」9.3.3 防護材料に整合部がある場合の試験位置について具体的な図を示し切断方法の確認を行うこととした。

以上

配布資料

 JIS_T_8125-6 (上衣)_本文_R5.07.21.docx

文責 渡邊学 株式会社トーヨ

2023年8月25日

「JIS T 8125-5 手持ちチェンソー使用者のための防護服：脚半及び-6 手持ちチェンソー使用者のための防護服：上半身防護服」改正原案作成委員会

JIS T 8125-6 第9回分科会 議事録

1. 日時 : 2023年8月25日(金) 13:30~17:00
2. 場所 : 公益社団法人 日本保安用品協会 4F 会議室
3. 出席者 (順不同、敬称略):

区分	氏名	勤務先等	Web	会場
委員長	山田 晃也	防衛省 防衛装備庁		○
幹事	渡邊 学	株式会社 トーヨ		○
委員	金井 博幸	信州大学	○	
委員	松村 哲也	東京大学 大学院		○
委員	辻 創	一般財団法人 カケンテストセンター	○	
委員	持丸 知宏	ハスクバーナ・ゼノア 株式会社		欠席
委員	小松 一成	マックス 株式会社		欠席
委員	武藤 洋	建設業労働災害防止協会		欠席
委員	藤井 尚測	中央労働災害防止協会		欠席
委員	山田 亨	ミドリ安全 株式会社	○	
委員	鈴木 一裕	アゼアス 株式会社		○
関係者	溝口 晃平	一般財団法人 カケンテストセンター	○	
関係者	野原由樹子	一般社団法人 日本防護服協議会		○
事務局	政野 祐一	公益社団法人 日本保安用品協会		欠席
事務局	尾崎 克己	公益社団法人 日本保安用品協会		○

計 10 名

4. 議事概要

JIS T 8125-6 前回第8回審議の本文原案の継続審議及び確認 (全体)

- 1) 箇条 4.5.5 デザイン A 及びデザイン B の後面 図3
記号説明について理解しやすくするため、15 と 17 を修正した。
- 2) 箇条 9.3.3 防護材料に縫合部がある場合の試験位置 図6 の縫合部の切断位置の印の付け方について議論になった。
袖の中心線とは、ロングアクシスオブスリーブなので袖の中心線の方が基準。袖幅

の中心線に直角との意味であるが、文章は長手方向の中心と書いてあり厳密には定義できない。試験者がその場の間隔でつけて±10度の誤差がある。おおよそ直角ということ。赤い線は何かをあえてかかないこととする。文章の言葉で考えれば腕軸の中心ということ。「ロングアクシスオブザスリーブ」はどのような風に定義するかはあえていわない。試験実施者が判断する。

図6に新設する線の記号説明は、「腕の長い軸方向（長手方向）」と明記。ただ「腕の長い軸方向（長手方向）」にいて本文では文書によって説明しない。

3) 箇条 9.4.2 袖用試験片取付台

試験片取付台の表面を覆うエチレンビニルアセテートの文章は、整合性をとるため修正した。

4) 箇条 11.3 試験手順

「枝払い」と「枝打ち」とどちらが適切か議論になった。胸の高さよりも上の位置のものを切る作業を想定しており上半身防護服だから枝打ち。枝の剪定というイメージもあるが枝打ちとする。

5) 箇条 15 製造業者が提供すべき情報

h) 利用者の理解のため「消毒」を「感染防止」に変更した。

n) 上半身防護服がどれくらい重たいのか、他のメーカーのものと比べたいのではとの意見があった。原文に加えて「中間サイズ」を追加した。

分科会は今日をもって終わりとする。

次回分科会予定だった9月29日を、本会議にしてもよいか伺いたい。


分科会では異議なし。


思いついたことあれば後日連絡。


今日、図を含めて修正する方向で決まった箇所などは、本会議の前にドラフトを配信してもらったら総合的に確認できるのでお願いしたい。分科会全員に本委員会前に送信してご確認をお願いします。

以上

配布資料

 JIS_T_8125-6 (上衣)_本文_R5.08.24.docx

 説明：箇条9.3.3 縫合部の試験位置など_R5.8.24.pptx

 ISO 11393-6;2018 ed.2 - 発行版 英語.docx

文責 渡邊学 株式会社トーヨ

JIS T 8052 改正原案作成委員会 第1回本委員会 議事録

2023年5月22日

1. 会議開催情報

開催日時：2023年5月11日 13:30～14:20

開催場所：日本医療機器協会 医科器械会館 3F 特別会議室

出席者：次に示す17名（順不同、敬称略）

委員：金井 博幸（信州大学）、辻 創（カケンテストセンター）、石川 高志（経済産業省）、藤江 卓也／代理 佐々木 亮（総務省消防庁）、古田 豊（日本規格協会）、山内 正剛（量子科学技術開発研究機構）、朝比奈 智（アトム）、古庭 祐樹（東レ・デュボン）、宮西 卓（フェザー安全剃刀）、木口 昌子（陸上貨物運送事業労働災害防止協会）、青木 泰（中央労働災害防止協会）、鈴木 一裕（アゼアス）

関係者：葛本 祥子（経済産業省）、森下 哲樹（アトム）、種田 哲智（カケンテストセンター）、野原 由樹子（日本防護服協議会）、尾崎 克己（日本保安用品協会）

2. 議題

1) 委員長・幹事・分科会主査の選任

事務局の推薦により委員長に信州大学の金井氏、幹事に辻、分科会主査に山内氏を選任し、一同より承認を得た。

2) 委員の自己紹介

参加各委員の自己紹介を行った。

3) 規格改正の概要説明

ー 幹事より次に示す説明を行った。

- ・ JIS T 8052 「防護服ー機械的特性ー鋭利物に対する切創抵抗性試験方法」の改正審議に至った経緯を説明した。

主に、対応国際規格の ISO 13997 が 2023 年に改正される見込みのため、JIS についても改正審議を行うこととした。

- ・ 改正する主なポイントを説明した。

- ① 試験刃の仕様変更
- ② 試験刃の切れ味校正用標準材料の仕様変更
- ③ 試験片固定クランプの導入
- ④ 試験方向の違いによる結果の取扱いの変更

- ・ 委員会の進め方に関して

原案の詳細の審議は分科会にて実施し、分科会で作成した素案に対して本委員会を適宜開催し審議を行うスタイルで実施することになった。

3. 今後のスケジュール

原案作成期間の説明をすると共に、次回本委員会は分科会の進捗を考慮し、改めて開催日を検討し連絡をすることになった。

以上

(文責：カケン/辻)

JIS T 8052改正原案作成委員会 第2回本委員会 議事録

2023年10月13日

1. 会議開催情報

開催日時：2023年10月4日 15:30～16:40

開催場所：公益社団法人日本保安用品協会 4F会議室

出席者：次に示す16名（順不同、敬称略）

委員：金井 博幸（信州大学）、辻 創（カケンテストセンター）、石川 高志（経済産業省）、藤江 卓也（総務省 消防庁）、古田 豊（日本規格協会）、古庭 祐樹（東レ・デュボン）、宮西 卓（フェザー安全剃刀）、木口 昌子（陸上貨物運送事業労働災害防止協会）、青木 泰（中央労働災害防止協会）、鈴木一裕（アゼアス）

関係者：小川 佳子（経済産業省）、亀井 良太（ミドリ安全）、山田 亨（ミドリ安全）、森下 哲樹（アトム） 種田 哲智（カケンテストセンター）、尾崎 克己（日本保安用品協会）

2. 議題

1) JIS T 8052改正素案の審議

第5回分科会までに審議を行ってきた素案をベースに改正素案の審議を行った。幹事から対応国際規格（ISO 13997:2023）との相違点を中心に説明を行った。審議中に委員から出された主なコメントは次のとおりである。

・ 4.3 手袋

図2において、手袋からサンプリングした試料の切断方向が示されているが、本文には切断方向に関して詳細に記載されていない。試験実施者が切断方向を間違えることがあるかもしれないという懸念があるというコメントが出た。

→ このJISはISO 13997のIDTで作成することを前提としているため、手袋製品から試験片をサンプリングし試験する場合の切断方向に関する注意喚起は、解説に記載することにした。

・ 5.2.6 試験用刃物

図7の（a）試験用刃物の形状の図は、対応国際規格のISO 13997:2023の使用図に誤記があることが判明したため、正しいものに変更することにした。

注記として、「刃物中の左右の孔間の距離が誤記である」ことを本文中に付記することにした。表現については、素案を作成し日本規格協会と協議し作成する。

図7で使用している寸法表示（小数点）は、ISOで使用する「,」のままであるため、「,」を「.」に変更してもらう旨を付記し、改正案を提出することにした。

2) 現行JIS T 8052:2005と改正案との相違点

現行JIS T 8052:2005からの変更点について、幹事から説明を行った。

・上記の審議をもって改正案に対して委員からの承認を得ることができたため、最終調整を行った上で日本規格協会へ改正案を提出することになった。

以上

(文責：カケン/辻)

JIS T 8052 改正原案作成委員会 第1回分科会 議事録

2023年5月22日

1. 会議開催情報

開催日時：2023年5月11日 14:30～16:40

開催場所：日本医療機器協会 医科器械会館 3F 特別会議室

出席者：次に示す11名（順不同、敬称略）

委員：金井 博幸（信州大学）、辻 創（カケンテストセンター）山内 正剛（量子科学技術開発研究機構）、古庭 祐樹（東レ・デュポン）、宮西 卓（フェザー安全剃刀）、亀井 良太（ミドリ安全）

関係者：森下 哲樹（アトム）、種田 哲智（カケンテストセンター）、山田 亨（ミドリ安全）、野原 由樹子（日本防護服協議会）、尾崎 克己（日本保安用品協会）

2. 議題

1) JIS T 8052 改正素案と ISO 13997:202X の関係性について

現行の JIS は、ISO 13997:1999 を変更（MOD）したものであるが、今回の改正において JIS は、ISO 13997:202X に対して一致（IDT）になるように改正を行っていく。

2) JIS T 8052 改正素案の読み合わせ

幹事が作成した素案を基に審議を行った。主な審議事項は次のとおりである。

・タイトルについて

「防護服－機械的防護性能－鋭利物に対する切創抵抗性試験方法」とする。

→ 現行 JIS では、「機械的特性」となっている。また、ISO FDIS 13997 では「Mechanical properties」となっている。防護服材料を評価するという観点では「機械的防護性能」とすると、理解しやすくなる。

・1. 適用範囲 －1 段落目

この規格は、手袋を含む防護服用に設計された材料及び組立て部品に使用する TDM 型切創試験方法及びその計算方法について規定する。

→ 対応する ISO FDIS 13997 の記載内容を反映し、下線部を追加することにした。

・1. 適用範囲 －2 段落目

この規格を材料又は製品の要求事項の試験方法として引用する場合、その引用している規格にはこの規格を適用可能にする必要な情報を含むようにする。

→ 審議を行い検討を行ったが、結論を得ることが出来なかった。ISO TC94 SC13 WG8 のプロジェクトリーダーに ISO ではこの部分について、どのようなことを記載することを規定しているのか等を確認し、次回の分科会以降に再度検討することにした。

・ 1. 適用範囲－3 段落目

・・・また、この規格には試験のオペレーターの安全確保に関する規定は含まない。
→ 規格利用者の理解を考慮し、「実施者」を「試験のオペレーター」とした。

・ 2. 引用規格

本文の検討を行った上で、最終的に内容を反映することにした。

・ 4.1 一般－1 段落目

・・・十分な試験片の寸法を取ることができない場合は、1 回だけの切創を行う試験片であっても寸法は少なくとも 25 mm×25 mm なければならない。

注記 この試験は、最低でも 15 回の切創を行う必要があるため、少なくとも二つの試験片が必要になってくる。

→ 規格利用者の理解を考慮し表現を変更し、上記下線部のようにした。この変更による技術的変更はない。

・ 4.2 繊維材料及びその他の材料－1 段落目

試験片は、身体防護部位又は製品規格で規定する範囲から採取する。

→ 規格利用者の理解を考慮し表現を変更し、上記下線部のようにした。この変更による技術的変更はない。

・ 4.2 繊維材料及びその他の材料－4 段落目

材料が均質であることが分かっている場合は、一方向の切創力の結果（5.4.4.2 参照）だけを報告する。

→ 規格利用者の理解を考慮し表現を変更し、素案の一部を削除した。この変更による技術的変更はない。

・ 4.3 手袋－1 段落目

手袋の場合、図 2 に示すように試験は掌部から可能な限り 45°で、バイアス方向に掌部をカットして採取する。

→ 規格利用者の理解を考慮し表現を変更し、素案の一部を削除した。この変更による技術的変更はない。

・ 4.3 手袋－4 段落目

甲部又は袖口部に対して切創防護が必要な場合、その材料が掌部と異なるときは、甲部又は袖口部も試験し、結果を報告する。

→ 規格利用者の理解を考慮し素案の一部を削除、変更し上記のようにした。この変更による技術的変更はない。

・ 4.3 手袋－注記

手袋から試験片を採取する際の角度に許容差がないことに関して記述しているが、手袋のサイズと許容差がないこととの関係性が明確でないため、ISO TC94 SC13 WG8 のプロジェクトリーダーに当該記述が意味することについて質問をし、次回の分科会以降に再度検討することにした。

3) 第2回分科会について
日時：6/14（水）13:30～17:00

以上
(文責：カケン/辻)

JIS T 8052 改正原案作成委員会 第 2 回分科会 議事録

2023 年 6 月 27 日

1. 会議開催情報

開催日時：2023 年 6 月 14 日 13:30～16:50

開催場所：日本医療機器協会 医科器械会館 3F 特別会議室

出席者：次に示す 10 名（順不同、敬称略）

委員：金井 博幸（信州大学）、辻 創（カケンテストセンター）、朝比奈 智（アトム）、鈴木一裕（アゼアス）、宮西 卓（フェザー安全剃刀）、亀井 良太（ミドリ安全）

関係者：種田 哲智（カケンテストセンター）、山田 亨（ミドリ安全）、野原 由樹子（日本防護服協議会）、尾崎 克己（日本保安用品協会）

2. 議題

1) JIS T 8052 階税原案作成委員会 第 1 回分科会の議事録の確認

議事録の確認を行った。更に、ISO SC13/WG8 議長の Jean-Claude Cannot 氏に対して送った質問の回答を共有した。特に変更せずに承認された。

2) JIS T 8052 改正素案の読み合わせ

幹事が作成した素案を基に審議を行った。主な審議事項は次のとおりである。

・ 4.4 試験片の調整

ISO 原案に含まれている下記文言が含まれていなかったため、追加した。

→ 試験片は、少なくとも 24 時間調整する。試験は、調整環境条件下又は調整環境から試験片を出してから 30 分以内に行う。

・ 5.1 原理 -1 段落目

「切創」及び「切断」の 2 つの用語の使い分けについて審議をした。試験片を切ることは「切断」とし、切れにくさの性能は「切創抵抗性」として、審議を続けていくことにした。この用語の使い分けについては、解説に付記する。

・ 5.1 原理 -2 段落目

切創試験装置の主要パーツの構成を説明している箇所であるが、ISO 規格の内容は盛り込まれているが、日本語として難解である。分科会の審議では直ぐに、適切な表現に修正することができなかったため、幹事が検討し次回以降に検討することにした。

・ 5.1 原理 -図 3

図 3 の記号説明の内容を変更した。

a：「切創方向」を「切断方向」とした。

F：「加える力」を「力」とした。

・ 5.1 原理－3 段落目

語順を入れ替える等をして、読み易い文章に修正した。→この変更による技術的変更はない。

・ 5.2 試験装置

5.2.1～5.2.7 の間で、読み易くなるように文言を微修正した。→この変更による技術的変更はない。

・ 5.2 試験装置－図 4

図 4 の記号説明の内容を変更した。

10：「加重・除重ハンドル」を「加重・加重開放ハンドル」とした。

・ 5.2.5 試験片固定用クランプ－図 6

図 6 中の記号がわかりづらいというコメントがあった。IDT で修正可能な範囲でわかりやすくなるように変更をすることにした。

・ 5.2.6 試験用刃物－1 段落目

*使用用語の審議を行い、次に示すように変更した。

「試験用刃物は、60 HRC 以上の硬度のステンレス鋼製で、厚さ $0.60\text{ mm}\pm 0.05\text{ mm}$ とし、刃先先端部に沿って切削幅 $1.5\text{ mm}\pm 0.5\text{ mm}$ の 2 段の刃角度をもつ。刃角度は第 1 角度が約 (19 ± 3) 度、第 2 角度が約 (35 ± 3) 度とする。試験用刃物の刃先の長さは 65 mm 以上とし、試験用刃物の幅は 18 mm 以上でなければならない²⁾。」

*更に、本文全体を通して、角度の許容の表示が (19 ± 3) 度であったり、 $90^\circ\pm 2^\circ$ であったりと整合していないので、修正する。

→ この変更による技術的変更はない。

3) 第 3 回分科会について

日時：7/6 (木) 13:30～17:00

場所：アゼアス会議室

5.2.8 から審議を継続する

以上
(文責：カケン/辻)

JIS T 8052 改正原案作成委員会 第3回分科会 議事録

2023年7月10日

1. 会議開催情報

開催日時：2023年7月6日 13:30～16:50

開催場所：アゼアス株式会社 2F 会議室

出席者：次に示す11名（順不同、敬称略）

委員：金井 博幸（信州大学）、辻 創（カケンテストセンター）、朝比奈 智（アトム）、山内正剛（※）、宮西 卓（フェザー安全剃刀）、亀井 良太（ミドリ安全）

関係者：森下 哲樹（アトム）、種田 哲智（カケンテストセンター）、山田 亨（ミドリ安全）、野原 由樹子（日本防護服協議会）、尾崎 克己（日本保安用品協会）

2. 議題

1) JIS T 8052 改正原案作成委員会 第2回分科会の議事録の確認

議事録（案）の確認を行った。特に変更コメントはなかったため、一部誤字を修正し議事録とした。

2) JIS T 8052 改正素案の読み合わせ

幹事が作成した素案を基に審議を行った。主な審議事項は次のとおりである。

・5.2.8 切断駆動装置

ISO 原文、機械翻訳を基に本文全体の検討を行い、次のようにした。

→ 刃先は試験片ホルダーの長軸に対して $90^\circ \pm 2^\circ$ の角度を保ち試験片上を移動する。移動速度は、 $2.5 \text{ mm/s} \pm 0.5 \text{ mm/s}$ とする。この装置の動作は、ねじ式駆動方式を用いることが有効である。装置に組み込まれるベアリングは、動作方向に対する滑らかな移動を可能にし、動作方向と直行する方向の移動を抑制（制限）しなければならない。刃先が試験片に接触していない状態で静止し、試験用刃物の長軸に対して $90^\circ \pm 5^\circ$ の角度で $5.0 \text{ N} \pm 0.5 \text{ N}$ の力が加わったときの最大許容移動量は 0.5 mm とする。

・5.2.9 切創ストローク長の測定方法

この箇条のタイトルを次のとおり、変更した。

→ 「切創ストローク長の測定システム」から「切創ストローク長の測定方法」

語順を入れ替え、読み易い文章に修正した。

→ 切創ストローク長の測定（完全にカットスルーが起こるまで試験片上の刃先の移動距離の測定）は 0.1 mm 単位で正確に行う。

※ IDT にするため、括弧を使用しているが、括弧内の文章を削除した場合は IDT になるのかを日本規格協会に確認をする。

・ 5.3.1 さお（棹）のバランス調整の手順

- b) 語順を入れ替え、読み易い文章に修正した。→この変更による技術的変更はない。
- c) 語順を入れ替え、読み易い文章に修正した。→この変更による技術的変更はない。
- d) 使用用語を整え、読み易い文章に修正した。→この変更による技術的変更はない。
- e) 使用用語を整え、読み易い文章に修正した。→この変更による技術的変更はない。
※ 素案の本文や図では、「（バランス）機構」に関する記述が明確にされていないために、規格の読み手にとっては「機構」を理解するのが難しい。ISO 原文のとおり
に JIS 素案を作成しているが、解説で詳細を記述することで対応することにした。
- f) 使用用語を整え、読み易い文章に修正した。→この変更による技術的変更はない。
また、「レバーアーム」は図 4 の記号説明 6 となっている部分を「加重／加重解放
ハンドル」と訳した。記号説明については、図 4 の記号説明 10 の誤植と思われる。
→ 9 月の上田会議で確認をする。
- g) 使用用語を整え、読み易い文章に修正した。→この変更による技術的変更はない。

5.3.2 切断速度の調整

前回の議論の内容を反映し、タイトルを「切創速度の調整」から「切断速度の調整」に変更した。

5.3.3.1 校正材料

引張強度の性能要求値の許容の表記が「 $10.7 \text{ N/mm}^2 \pm 2 \text{ N/mm}^2$ 」となっているが、「 $\pm 2.0 \text{ N/mm}^2$ 」にするべきではないのかというコメントがあった。
→ 9 月の上田会議で ISO 原文で意図的に使用しているのかを確認することにし、最終的に判断をすることにした。現時点では「 $\pm 2.0 \text{ N/mm}^2$ 」とした。

・ 5.4.1 試験片の固定－5 段落目

前回の議論の内容を反映し、本文の「カールしたり」を「端部が著しく一方向に湾曲したり」に変更した。

・ 5.4.1 試験片の固定－6 段落目

5.2.5（試験片固定用クランプ）の記載内容と対応する部分であり、ISO 原文のとおり JIS 素案を作成をしているが、試験片を圧縮しないようにする理由を解説に記述すべきという意見が出た。→ 解説に 5.2.5 の内容を付記する。

・ 5.4.1 試験片の固定－2 つ目の注記

使用用語を整え、読み易い文章に修正した。→この変更による技術的変更はない。

・ 5.4.2 切創ストローク長を測定するための試験手順

c) 使用用語を整え、読み易い文章に修正した。→用語を明確にするために対応する図の記号説明番号を付記した。この追加は IDT になるのかを日本規格協会に確認する。

d) 素案で注記にしていた部分を ISO の原文に合わせて、「注記」を削除し本文にすることにした。

e~g) 使用用語を整え、読み易い文章に修正した。→この変更による技術的変更はない。

3) 第 4 回分科会について

日時：8/7（月）13:30~17:00

場所：日本保安用品協会 会議室

5.4.2 の h) から審議を継続する

以上

(文責：カケン/辻)

JIS T 8052 改正原案作成委員会 第4回分科会 議事録

2023年8月18日

1. 会議開催情報

開催日時：2023年8月7日 13:30～16:30

開催場所：公益社団法人日本保安用品協会 4F 会議室

出席者：次に示す13名（順不同、敬称略）

委員：金井 博幸（信州大学）、辻 創（カケンテストセンター）、朝比奈 智（アトム）、山内 正剛（量子科学技術研究開発機構）、宮西 卓（フェザー安全剃刀）、古庭 祐樹（東レ・デュポン） 亀井 良太（ミドリ安全）、鈴木一裕（アゼアス）

関係者：森下 哲樹（アトム）、種田 哲智（カケンテストセンター）、山田 亨（ミドリ安全）、野原 由樹子（日本防護服協議会）、尾崎 克己（日本保安用品協会）

2. 議題

1) JIS T 8052 改正原案作成委員会 第3回分科会の議事録の確認

議事録（案）の確認を行った。特に変更コメントはなかったため、一部誤記を修正し議事録とした。

2) JIS T 8052 改正素案の読み合わせ

幹事が作成した素案を基に審議を行った。主な審議事項は次のとおりである。

・5.4.2 切創ストローク長を測定するための試験手順

i) 用語の変更を行い、読み易い文章に修正した。→この変更による技術的変更はない。また、本文中に「カットスルー距離」、「切創ストローク長」、「切断ストローク長」という用語が使用されている。これらの用語を統一できる部分については統一する。

j) 用語の変更を行い、読み易い文章に修正した。→この変更による技術的変更はない。

・5.4.3 切創力を計算するための試験手順

a) 用語の変更を行い、読み易い文章に修正した。→この変更による技術的変更はない。また、本文中に「AからB」、「C～D」という表現が混在している。いずれかの表記に統一する。

b) 用語の変更、入れ替えを行い、読みやすい文章に修正した。→この変更による技術的変更はない。

・表1のタイトルを「試験荷重の抽出及び選択の例」に変更した。また、「加える力」を「力」とした。

・ 5.4.4.1 刃先の切れ味の補正

「刃物の鋭利さ」→「刃物の切れ味」に変更した。
「補正因子」→「補正值」に変更した。

・ 5.4.4.2 補正した切創ストローク長の算出及び

使用用語の統一・変更を行い、読みやすい文章に修正した。→この変更による技術的変更はない。

・ 6 試験報告書

使用用語の統一・変更を行い、読みやすい文章に修正した。→この変更による技術的変更はない。

・ 附属書 A の A.2 試験材料

試料 4 の HPPE 材に対して補足文言を追加
HPPE 材 (超高分子量ポリエチレン材) とした。

・ 附属書 B 切創力の計算方法

タイトルを「計算された切創力の決定」から「切創力の計算方法」に変更した

・ 附属書 B の B.1 一般

当該箇所は、ISO 原文では **Note** として記載されている部分である。JIS の作成作法上、文章がいきなり注記で始まるのは適切でないと判断し、B.1 一般としているが、表現方法として正しいのか、様式調整時に確認が必要である。

・ 附属書 B の計算式 (B.2) ~ (B.12)

ISO 原文の式を JIS 原案に反映できていない。ISO 原文のとおり、JIS 改正原案を修正することになった。

・ 附属書 B の表 B.2 について

表 2 の右側の箇所に和訳されていない箇所があった。JIS 原案では和訳をする。

Number of measurement → データ数

Overall mean load, N → 試験荷重の総平均 (N)

Mean square error → 平均二乗誤差

Reference distance, mm → 基準距離 (mm)

Calculated reference load, N → 計算した切創力 (N)

Standard deviation, N → 標準偏差 (N)

95 % Confidence limit, N → 95%信頼区間 (N)

「Ssreg=回帰二乗和」と訳しているが、適切な用語の結論が出ずに、保留とした。再度調査をした上で JIS 改正原案に反映させることにした。

・ 附属書 C

ISO 原文で引用規格の年号を付記していないため、JIS 改正原案も整合させ、引用規格の年号を削除した。

また、「引張強さ、引裂強さ」を「引張性能、引裂性能」に変更した。

・ 今後の審議について

第 4 回分科会までに一通り審議をし、JIS 改正原案の骨格を作ることができた。

審議を通して 9 月の ISO 会議で ISO 13997 のプロジェクトリーダーに確認するために保留にしていた内容が複数あるので、会議前までに確認事項のリストアップを行う。

次回の分科会では、上記確認事項及び様式調整での指摘事項に対する対応を審議し、その審議内容をもって第 2 回本委員会で規格案の承認を得るようにする。

3) 第 5 回分科会及び第 2 回本委員会について

< 第 5 回分科会 >

日時：10/4（水）13:30～15：20

場所：日本保安用品協会 会議室

分科会検討時に保留にしていた点の再審議

< 第 2 回本委員会 >

日時：10/4（水）15:30～16:30

場所：日本保安用品協会 会議室

以上

(文責：カケン/辻)

JIS T 8052改正原案作成委員会 第5回分科会 議事録

2023年10月13日

1. 会議開催情報

開催日時：2023年10月4日 13:30～15:15

開催場所：公益社団法人日本保安用品協会 4F会議室

出席者：次に示す9名（順不同、敬称略）

委員：金井 博幸（信州大学）、辻 創（カケンテストセンター）、古庭 祐樹（東レ・デュポン）、宮西 卓（フェザー安全剃刀）、鈴木一裕（アゼアス）、亀井 良太（ミドリ安全）

関係者：種田 哲智（カケンテストセンター）、山田 亨（ミドリ安全）、尾崎 克己（日本保安用品協会）

2. 議題

1) JIS T 8052改正素案の審議

第4回分科会までに審議を行ってきた素案に対し、委員及び日本規格協会から出されたコメントについて審議を行った。主な審議事項は次のとおりである。

・ 5.2.6 試験用刃物

図7の (a) 試験用刃物の形状の図は、対応国際規格のISO 13997:2023の使用図に誤記があることが判明したため、正しいものに変更することにした。

刃物中の左右の孔間の距離が誤記である。

(a)と (b) の図は側面図及び断面図の関係であるため、可能な限り上下位置を合わせるようにすることで理解の促進を図ることにした。

・ 5.2の図4 試験装置の例

9のパーツを「校正用調整おもり」としていたが、このパーツは校正時だけでなく、試験時にも使用することから「バランス調整おもり」に変更することにした。

・ 5.4.3 切創力を計算するための試験手順

前回までの素案では「荷重」という用語を使用していたが様式調整の際の変更推奨のコメントに基づいて「力」又は「力の大きさ」に変更することにした。

・ 上記の審議をもって分科会は終了し、本委員会で承認を得ることになった。

以上
(文責：カケン/辻)

2023年5月18日

「JIS T 8119 機械的リスクに対する防護手袋」原案及び解説作成委員会

JIS T 8119 第2回本委員会 議事録

1. 日時 : 2023年5月10日(水) 13:30~15:00
2. 場所 : 公益社団法人 日本保安用品協会 4F 会議室
3. 出席予定者 (順不同、敬称略) :

区分	氏名	勤務先等	Web	会場
委員長	鮑 力民	信州大学		欠席
幹事	朝比奈 智	アトム 株式会社		○
委員	山内 正剛	国立研究開発法人 量子科学技術開発機構		欠席
委員	石川 高志	経済産業省 製造産業局 生活製品課		欠席
委員	三浦 玲	厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 安全課	○	
委員	古田 豊	一般財団法人 日本規格協会	○	
委員	黒川 裕介	JIS 登録認証機関協議会	○	
委員	種田 哲智	一般財団法人 カケンテストセンター		○
委員	木口 昌子	陸上貨物運送事業労働災害防止協会		○
委員	橋本 勝	建設業労働災害防止協会		○
委員	青木 泰	中央労働災害防止協会		○
委員	山津 健司	ダイヤゴム 株式会社		○
委員	古庭 裕樹	東レ・デュボン 株式会社	○	
委員	利岡 健人	株式会社 シモン		○
委員	鈴木 一裕	アゼアス 株式会社		○
委員	亀井 良太	ミドリ安全 株式会社		○
関係者	葛本 祥子	経済産業省 産業技術環境局 国際標準課	○	
関係者	辻 創	一般財団法人 カケンテストセンター		欠席
関係者	森下 哲樹	アトム 株式会社		○
関係者	野原由樹子	一般社団法人 日本防護服協議会		○
事務局	尾崎 克己	公益社団法人 日本保安用品協会		○

17 名

* 議題 : JIS T 8119 本文 経過報告及び決定事項説明

※資料 : 第1回~4回分科会検討事項対比表 (エクセル)

定刻5分遅れにて委員会を開催した。

今回は、委員変更もあった為、議事次第にない委員自己紹介をさせていただいた。

幹事により現状審議進徳状況を説明いただき、事前配布させていただいていた

現時点迄の本文を検討事項修正変更対比表（エクセル）において内容に対し

異議の確認をさせていただき異議なしとのご承諾を得た為、第4回分科会迄

の審議修正案の承諾となった。

審議進捗のペースが遅れているため、本委員会後すぐに分科会審議続行とさせて

いただいた。

以上

文責（公社）日本保安用品協会 尾崎

2023年11月24日

「JIS T 8119 機械的リスクに対する防護手袋」原案及び解説作成委員会
JIS T 8119 第3回本委員会 議事録

1. 日時 : 2023年10月31日(火) 16:00~17:00
2. 場所 : 公益社団法人 日本保安用品協会 4F 会議室
3. 出席予定者 (順不同、敬称略) :

区分	氏名	勤務先等	Web	会場
委員長	鮑 力民	信州大学		○
幹事	朝比奈 智	アトム 株式会社		○
委員	山内 正剛	国立研究開発法人 量子科学技術開発機構	○	
委員	石川 高志	経済産業省 製造産業局 生活製品課	○	
委員	三浦 玲	厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 安全課		欠席
委員	古田 豊	一般財団法人 日本規格協会	○	
委員	黒川 裕介	JIS 登録認証機関協議会		欠席
委員	種田 哲智	一般財団法人 カケンテストセンター		○
委員	木口 昌子	陸上貨物運送事業労働災害防止協会		○
委員	橋本 勝	建設業労働災害防止協会		○
委員	青木 泰	中央労働災害防止協会		欠席
委員	山津 健司	ダイヤゴム 株式会社		○
委員	古庭 裕樹	東レ・デュボン 株式会社	○	
委員	利岡 健人	株式会社 シモン		○
委員	鈴木 一裕	アゼアス 株式会社		○
委員	亀井 良太	ミドリ安全 株式会社		○
関係者	小川 佳子	経済産業省 産業技術環境局 国際標準課	○	
関係者	辻 創	一般財団法人 カケンテストセンター	○	
関係者	森下 哲樹	アトム 株式会社		○
関係者	野原由樹子	一般社団法人 日本防護服協議会		○
事務局	尾崎 克己	公益社団法人 日本保安用品協会		○

合計 18 名

* 議題 : JIS T 8119 本文 経過報告及び決定事項説明

※資料: JIS T 8119 第10回分科会本文・第1回~9回分科会検討事項対比表(エクセル)

定刻通り PM16：00 より開始となり委員長のご挨拶を経て、幹事からこの

原案についての説明及び主だった変更点を委員方々に報告した。

また、現原案は最後まで進んでいないこともご報告し、11月29日に

分科会メンバーにおいて最終確認をし最終原案は書面審議にてご承諾を

得ることをご報告し、ご承諾を得た。

現状本文について委員方々のご意見のなかで、T8052の引用について年度を

消す指摘と7.4表4.図11は、T8008と整合性をとることの指摘があった。

他について特にご意見なく現時点でのご承諾を得て閉会となった。

文責 (公社) 日本保安用品協会

尾崎

2023年5月1日

「JIS T 8119 機械的リスクに対する防護手袋」原案及び解説作成委員会
JIS T 8119 第4回分科会 議事録

1. 日時 : 2023年4月13日(木) 13:30~17:00
2. 場所 : 公益社団法人 日本保安用品協会 4F 会議室
3. 出席予定者 (順不同、敬称略) :

区分	氏名	勤務先等	Web	会場
委員長	鮑 力民	信州大学		○
幹事	朝比奈 智	アトム 株式会社		○
委員	山内 正剛	国立研究開発法人 量子科学技術開発機構		欠席
委員	種田 哲智	一般財団法人 カケンテストセンター		○
委員	木口 昌子	陸上貨物運送事業労働災害防止協会		○
委員	橋本 勝	建設業労働災害防止協会		欠席
委員	青木 泰	中央労働災害防止協会		欠席
委員	山津 健司	ダイヤゴム 株式会社		欠席
委員	古庭 裕樹	東レ・デュボン 株式会社	○	
委員	利岡 健人	株式会社 シモン		○
委員	鈴木 一裕	アゼアス 株式会社		○
委員	亀井 良太	ミドリ安全 株式会社		○
関係者	辻 創	一般財団法人 カケンテストセンター		○
関係者	森下 哲樹	アトム 株式会社		○
関係者	野原由樹子	一般社団法人 日本防護服協議会	○	
事務局	尾崎 克己	公益社団法人 日本保安用品協会		○

計 12 名

- 1) 議題
 - ・ T 8119 機械的リスクに対する防護手袋 原案継続審議・読み合わせ
- 2) 資料
 - ・ ISO : 23388 JIS T 8119 4.05 原案ドラフト

前回途中で審議中止となった6.1.5.1.1の試験片及びメタルインサート行から審議再開。

その前に分科会委員へ審議原案を再送付し、委員においてコメントが2名よりあったのでそのコメントに対して内容精査を行った。

6.1.5..3 迄審議となり、審議ペースがあがらなかった。

今後の進捗状況を加味して委員会の延長も考える予定となった。

※審議修正変更については、同送エクセル参照お願いいたします。

以上

文責 事務局 尾崎

2023年5月18日

「JIS T 8119 機械的リスクに対する防護手袋」原案及び解説作成委員会
JIS T 8119 第5回分科会 議事録

1. 日時 : 2023年5月10日(水) 13:30~17:00
2. 場所 : 公益社団法人 日本保安用品協会 4F 会議室
3. 出席予定者 (順不同、敬称略) :

区分	氏名	勤務先等	Web	会場
委員長	鮑 力民	信州大学		
幹事	朝比奈 智	アトム 株式会社		○
委員	山内 正剛	国立研究開発法人 量子科学技術開発機構		欠席
委員	種田 哲智	一般財団法人 カケンテストセンター		○
委員	木口 昌子	陸上貨物運送事業労働災害防止協会		○
委員	橋本 勝	建設業労働災害防止協会		○
委員	青木 泰	中央労働災害防止協会		○
委員	山津 健司	ダイヤゴム 株式会社		
委員	古庭 裕樹	東レ・デュボン 株式会社	○	
委員	利岡 健人	株式会社 シモン		○
委員	鈴木 一裕	アゼアス 株式会社		○
委員	亀井 良太	ミドリ安全 株式会社		○
関係者	辻 創	一般財団法人 カケンテストセンター		欠席
関係者	森下 哲樹	アトム 株式会社		○
関係者	野原由樹子	一般社団法人 日本防護服協議会		○
事務局	尾崎 克己	公益社団法人 日本保安用品協会		○

計 12 名

- 1) 議題
 - ・ T 8119 防護手袋一般要求事項及び試験方法原案継続審議
- 2) 資料
 - ・ JIS T 8119 原案ドラフト 4.23

前回、終了 6.15.3 から審議再開させていただいた。

橋本委員からいただいていた前回迄のコメントに対し、山内主査、辻関係者

が不在であったことから第 6 回で再検討させていただくこととなった。

今回も進捗ペースがあがらず記号説明部迄の審議となった。

※添付、エクセル検討事項対比表参照お願いいたします。

記号説明の用語解釈をカケンテストセンター様に依頼した。

次回第 6 回分科会は、6 月 12 日（月）とご案内をして終了した。

以上

文責 （公社）日本本用品協会 尾崎

2023年6月21日

「JIS T 8119 機械的リスクに対する防護手袋」原案及び解説作成委員会
JIS T 8119 第6回分科会 議事録

1. 日時 : 2023年6月12日(月) 13:30~17:00
2. 場所 : 公益社団法人 日本保安用品協会 4F 会議室
3. 出席予定者(順不同、敬称略):

区分	氏名	勤務先等	Web	会場
委員長	鮑 力民	信州大学		欠席
幹事	朝比奈 智	アトム 株式会社		○
委員	山内 正剛	国立研究開発法人 量子科学技術開発機構	○	
委員	種田 哲智	一般財団法人 カケンテストセンター		○
委員	木口 昌子	陸上貨物運送事業労働災害防止協会		○
委員	橋本 勝	建設業労働災害防止協会		○
委員	青木 泰	中央労働災害防止協会		○
委員	山津 健司	ダイヤゴム 株式会社		○
委員	古庭 裕樹	東レ・デュボン 株式会社	○	
委員	利岡 健人	株式会社 シモン		○
委員	鈴木 一裕	アゼアス 株式会社		○
委員	亀井 良太	ミドリ安全 株式会社		○
関係者	辻 創	一般財団法人 カケンテストセンター		○
関係者	森下 哲樹	アトム 株式会社		欠席
関係者	野原由樹子	一般社団法人 日本防護服協議会		○
事務局	尾崎 克己	公益社団法人 日本保安用品協会		○

計 14 名

- 1) 議題
 - ・ T 8119 防護手袋一般要求事項及び試験方法原案継続審議
- 2) 資料
 - ・ JIS T 8119 原案ドラフト 第5回終了分
 - ・ ISO 23388 : 2018

前回、コメントをいただいた橋本委員の検討案について幹事より、また最初に戻る検討になるとの事から最終分科会において修正検討を図ることとした。

6.2..2 の用語解釈についてカケンテストセンターより画像にて説明確認をされた。

6.2.3 から 6.2.6 迄の審議となり、6.2.6 3) 項は、OLFA の円形刃と同様に修正、また表 3 については、解釈で次回迄の検討案件（宿題）となった。

次回は、7 月 11 日（火）第 7 回分科会となるが、本文に対し今後委員会前の修正検討を事前にコアメンバーにて行って委員会に励んだらどうかと関係者より意見があった。

以上

文責 事務局 尾崎

2023年7月24日

「JIS T 8119 機械的リスクに対する防護手袋」原案及び解説作成委員会
JIS T 8119 第7回分科会 議事録

1. 日時 : 2023年7月11日(火) 13:30~17:00
2. 場所 : 公益社団法人 日本保安用品協会 4F 会議室
3. 出席予定者(順不同、敬称略):

区分	氏名	勤務先等	Web	会場
委員長	鮑 力民	信州大学		欠席
幹事	朝比奈 智	アトム 株式会社		○
委員	山内 正剛	国立研究開発法人 量子科学技術開発機構	○	
委員	種田 哲智	一般財団法人 カケンテストセンター		○
委員	木口 昌子	陸上貨物運送事業労働災害防止協会		○
委員	橋本 勝	建設業労働災害防止協会		○
委員	青木 泰	中央労働災害防止協会		欠席
委員	山津 健司	ダイヤゴム 株式会社		○
委員	古庭 裕樹	東レ・デュボン 株式会社		欠席
委員	利岡 健人	株式会社 シモン		○
委員	鈴木 一裕	アゼアス 株式会社		欠席
委員	亀井 良太	ミドリ安全 株式会社		○
関係者	辻 創	一般財団法人 カケンテストセンター		○
関係者	森下 哲樹	アトム 株式会社		○
関係者	野原由樹子	一般社団法人 日本防護服協議会		○
事務局	尾崎 克己	公益社団法人 日本保安用品協会		○

計 12 名

1) 議題

- ・ T 8119 防護手袋一般要求事項及び試験方法原案継続審議

2) 資料 ・ JIS T 8119 原案ドラフト HY2022320 ・ 対比表

- ・ ISO 23388 : 2018

前回終了の 6.2.8 試験方法より審議再開した。

課題案件試験片の最終指数 (I) について報告書に記載すべきか

カケンテストセンター様より説明があり (I) は記載することとなった。

今回の審議内容において現在同時進行中の JIS T 8052 改正版との整合性をとり、

また ISO13997 : 202X にも合わせた。

6.5.2 の図 9 迄の審議となった。

※内容については、添付エクセル対比表参照お願いいたします。

図 9 の記号説明ナットについては、次回迄表現をカケンテストセンター様に確認してい

ただく。

次回第 8 回分科会は 8 月 22 日 (火) とお伝えし終了となった。

以上

文責 (公社) 日本保安用品協会

尾崎

2023年9月4日

「JIS T 8119 機械的リスクに対する防護手袋」原案及び解説作成委員会
JIS T 8119 第8回分科会 議事録

1. 日時 : 2023年8月22日(火) 13:30~17:00
2. 場所 : 公益社団法人 日本保安用品協会 4F 会議室
3. 出席予定者(順不同、敬称略):

区分	氏名	勤務先等	Web	会場
委員長	鮑 力民	信州大学		○
幹事	朝比奈 智	アトム 株式会社		○
委員	山内 正剛	国立研究開発法人 量子科学技術開発機構	○	
委員	種田 哲智	一般財団法人 カケンテストセンター		○
委員	木口 昌子	陸上貨物運送事業労働災害防止協会		○
委員	橋本 勝	建設業労働災害防止協会		○
委員	青木 泰	中央労働災害防止協会		○
委員	山津 健司	ダイヤゴム 株式会社		○
委員	古庭 裕樹	東レ・デュボン 株式会社	○	
委員	利岡 健人	株式会社 シモン		○
委員	鈴木 一裕	アゼアス 株式会社		○
委員	亀井 良太	ミドリ安全 株式会社		欠席
関係者	辻 創	一般財団法人 カケンテストセンター		○
関係者	森下 哲樹	アトム 株式会社		○
関係者	野原由樹子	一般社団法人 日本防護服協議会		○
事務局	尾崎 克己	公益社団法人 日本保安用品協会		○

計 15 名

- 1) 議題
 - ・ T 8119 防護手袋一般要求事項及び試験方法原案継続審議
- 2) 資料
 - ・ 第8回分科会用 JIS T 8119 原案ドラフト
 - ・ 対比表 1~7 回
 - ・ ISO 23388 : 2018

鮑委員長が所用で欠席が続いていたが、今回ご出席の為委員長挨拶から
議事進行となった。

前回よりの継続審議となり、6.5.3 試験片から審議再開となった。

6.5.4 試験方法 c 箇条の手袋シリーズについて後日検討となった。

6.5.4. e 箇条についてクラス分け分類を統一することかまた性能レベル
の置き換えするかが要検討事項となった。

7.4 表 4 の表を縦横に変更することとした。

※修正変更添付エクセル参照お願いいたします。

7.4 迄、今回の審議となった。

次回、9月21(木)は、第3回本委員会を予定していたが、進捗が
遅れている為、第9回分科会にすることを委員の方々にご承諾を得た。

以上

文責 事務局 尾崎 克己

2023年9月21日

「JIS T 8119 機械的リスクに対する防護手袋」原案及び解説作成委員会
JIS T 8119 第9回分科会 議事録

1. 日時 : 2023年9月21日(木) 13:30~17:00
2. 場所 : 公益社団法人 日本保安用品協会 4F 会議室
3. 出席予定者(順不同、敬称略):

区分	氏名	勤務先等	Web	会場
委員長	鮑 力民	信州大学		○
幹事	朝比奈 智	アトム 株式会社		○
主査	山内 正剛	国立研究開発法人 量子科学技術開発機構		欠席
委員	種田 哲智	一般財団法人 カケンテストセンター		○
委員	木口 昌子	陸上貨物運送事業労働災害防止協会		欠席
委員	橋本 勝	建設業労働災害防止協会		○
委員	青木 泰	中央労働災害防止協会		○
委員	山津 健司	ダイヤゴム 株式会社		○
委員	古庭 裕樹	東レ・デュボン 株式会社	○	
委員	利岡 健人	株式会社 シモン		欠席
委員	鈴木 一裕	アゼアス 株式会社		欠席
委員	亀井 良太	ミドリ安全 株式会社		○
関係者	辻 創	一般財団法人 カケンテストセンター	○	
関係者	森下 哲樹	アトム 株式会社		○
関係者	野原由樹子	一般社団法人 日本防護服協議会		欠席
事務局	尾崎 克己	公益社団法人 日本保安用品協会		○

計 11 名

- 1) 議題
 - ・ T 8119 防護手袋一般要求事項及び試験方法原案継続審議
- 2) 資料
 - ・ 第9回分科会用 JIS T 8119 原案ドラフト・対比表
 - ・ ISO 23388 : 2018

定刻通りに開催され鮑委員長からご挨拶をいただきました。

今回、分科会を最後にするべく本文箇条 8 から継続審議となった。

附属書 C の C3 記号説明にて時間となり終了となったが、10 月 31 日（火）

に分科会を 13 時から 15 時 50 分まで行い、内容確認し、16 時より第 3 回

本委員会を行う運びで委員一同承諾した。

※検討内容は添付対比表ご参照お願いいたします。

文責 事務局 尾崎

2023年11月24日

「JIS T 8119 機械的リスクに対する防護手袋」原案及び解説作成委員会
JIS T 8119 第10回分科会 議事録

1. 日時 : 2023年10月31日(火) 13:00~15:50
2. 場所 : 公益社団法人 日本保安用品協会 4F 会議室
3. 出席予定者 (順不同、敬称略) :

区分	氏名	勤務先等	Web	会場
委員長	鮑 力民	信州大学		○
幹事	朝比奈 智	アトム 株式会社		○
主査	山内 正剛	国立研究開発法人 量子科学技術開発機構	○	
委員	種田 哲智	一般財団法人 カケンテストセンター		○
委員	木口 昌子	陸上貨物運送事業労働災害防止協会		○
委員	橋本 勝	建設業労働災害防止協会		○
委員	青木 泰	中央労働災害防止協会		欠席
委員	山津 健司	ダイヤゴム 株式会社		○
委員	古庭 裕樹	東レ・デュボン 株式会社	○	
委員	利岡 健人	株式会社 シモン		○
委員	鈴木 一裕	アゼアス 株式会社		○
委員	亀井 良太	ミドリ安全 株式会社		○
関係者	辻 創	一般財団法人 カケンテストセンター	○	
関係者	森下 哲樹	アトム 株式会社		○
関係者	野原由樹子	一般社団法人 日本防護服協議会		○
事務局	尾崎 克己	公益社団法人 日本保安用品協会		○

計 15 名

- 1) 議題
 - ・ T 8119 防護手袋一般要求事項及び試験方法原案継続審議
- 2) 資料
 - ・ 第10回分科会用 JIS T 8119 原案ドラフト・対比表
 - ・ ISO 23388 : 2018

今回は、PM13：00より開始し、16時からの本委員会迄できる限り審議することとして行った。

附属書Cの2.4から再開し、附属書Cの4.6までの審議となった。

※本文対比表参照お願いいたします。

途中ではあるが、本委委員会に現状での審議報告をご説明し、ご承諾いただき

終わらなかった部分に関しては11/29に一部分科会メンバーにおいて最終確認を

することとして分科会終了となった。

文責（公社）日本保安用品協会

尾崎

JIS T 8119 分科会 第1～10回検討事項対比表

項番・行	変更前	変更後	提案有無	確認
1	この規格は、要求事項、試験方法、標識、及び摩擦、ブレード切断、引裂き、穿孔、及び適用可能な場合には衝撃の機械的リスクから防護手袋に供給されるべき情報を指定する。 この規格は、ISO 21420に関連して使用されることが意図されている。 この規格で開発された試験方法は、アームプロテクターにも適用可能である。	この規格は、機械的リスク(摩擦、切削、引き裂き、突き刺し、または該当する場合には衝撃)に対する防護手袋の要求事項、試験方法、表示及び製造業者が防護手袋とともに提供する情報について規定する。 この規格は、JIS T 8008と合わせて用いる。 この規格で規定された試験方法は、アームプロテクターに適用してもよい。	2023/11/29確認済。	○
2			・引用規格を入れる。 ・カケンテストセンター種田様へ対応ISOを検討して頂く。	○
3	この規格で用いる主な用語及び定義は、次による。 この規格で用いる主な用語及び定義は、JIS X XXXXによる。 この規格で用いる主な用語及び定義は、次によるほか、JIS X XXXXによる。 【3つの定型文が展開されていますので不要な定型文を削除してください。】	この規格で用いる主な用語及び定義は、次による。		○
3.1	16の摩擦、すなわち、二つの外側駆動装置の16回転及びマルチンダール摩擦試験装置の内側駆動装置の15回転を含むリサージュ図をトレースする全ての並進摩擦運動の完了 注釈1 摩擦は、Martindale摩擦試験機の外側駆動部の1回転である(ISO 12947-1参照)。 (出典: ISO 12947-1:1998の3.2)。	摩擦サイクルは、合計16回の移動摩擦運動により1つのリサージュ図形を描くことで完成される。すなわちマルチンダール試験機に3つ並べて取り付けられている駆動回転体のうち両端の2つが16回転、中央の1つが15回転の運動をすることにより1つのサイクルが得られる。	カケンテストセンター様で検討	○
3.1 注釈	1回の摩擦とは～1回転を指す (この文章部削除)	1回の摩擦は、Martindale摩擦試験機の外側駆動部の1回転である(ISO12947-1参照)		○
3.2 タイトル	腕	腕(アーム)		○
3.3 タイトル	アーム保護装置	アームプロテクター		○
3.3	次の機械的リスク(摩擦、ブレード切断、引き裂き、及びパンクチャー)のうちの少なくとも1つに対する防護を提供する手袋又は衣服から分離した防護スリーブ	手袋及び衣服とは別の防護用腕カバーで、次の機械的リスク(摩擦、切削、引き裂き、突き刺し)のうちの少なくとも1つに対する防護を提供するもの。		○
3.4 タイトル	数層から作られた手袋	複数層から作られた手袋		○
3.4	複数層から作られた手袋	2層以上で構成された手袋		○
3.5	試験のための試料を準備した後に、互いに接続されていない材料の2つ以上の層から作られる手袋	試料の作製時に、試料を構成する材料が2層以上に分離する手袋	「試料」切削抵抗試験片との比較で用語検討	○
3.6	試験のための試料を調製した後に、一緒に接続される(例えば、接着される、縫合される、浸漬される、含浸される)材料の2つ以上の層から作製される手袋	試料の作製時に、分離しない(例接着、縫合、浸漬、含浸等)2つ以上の層から構成された手袋		○
3.7 タイトル	特定の保護を提供する手袋	特定の防護を有する手袋		○
3.7	手全体又は手の部のための改良された防護領域を提供するように設計された手袋 注釈1 例えば、手のひら保護スタイル、又は衝撃に対する保護である。	手全体又は手の一部の防護性能を向上させた手袋 注釈1 例えば、掌部防護又は衝撃防護である。		○
3.8 タイトル	手袋シリーズ	手袋シリーズ	そのままとする。	○
3.8	大きさ、長さ、左/右手、及び色だけが異なる手首線まで同じ手のひら材料をもつ単一手袋様式又は手袋タイプ	手首まで掌と同じ材料であり、大きさ、左右、又は色が異なる手袋	確認済	○
3.9	次の機械的リスク(摩擦、ブレード切断、引き裂き、及びパンクチャー)のうちの少なくとも1つに対する防護を提供する手袋	次の機械的リスク(摩擦、切削、引き裂き、及び突き刺し)のうちの少なくとも1つに対する防護性能を有する手袋		
4.1 第1段落	この規格による防護手袋は、まずISO21420の全ての適用要求事項を満たさなければならない。	この規格による防護手袋は、JIS T 8008:20××または、ISO21420において該当する要求事項を満たすことを前提としている。		
4.1 第2段落	全ての試験片は、分類の目的で様々な手袋の掌から採取しなければならない。	それぞれの試験片(試料)は、クラス分けの目的の為に異なる手袋の掌(手のひら)から採取しなければならない。		
4.1 第2段落	アームプロテクターについては、試験片は、保護が請求される領域から採取されなければならない。	試験片(試料)は、防護領域から採取されなければならない。		
4.1 第3段落	機械的リスクに対する防護手袋は、表2のISO13997:1999(例えばTDM)の切断試験の表1又は少なくともAの特性(摩擦、ブレード切断、引き裂き及び穿孔)のうち少なくとも、一つについて、1以上の性能レベルをもたなければならない。	機械的リスクに対する防護手袋は、表1の少なくとも1つの特性(摩擦、切削、引裂、突刺)の性能レベルが1以上又は、表2のJIS T 8052:2005又はISO13997:1999(例えばTDM)の切削抵抗試験について少なくともレベルA以上の性能を有するものとする。		
4.1 第4段落	穿孔に対する耐性の要求事項を満たす手袋は、皮下注射針などの鋭く尖ったオブジェクトに対する防護には適していない場合がある。	突刺抵抗性能を有する手袋であっても、皮下注射針などの鋭く尖った物体防護には適していない場合がある。		

項番・行	変更前	変更後	提案有無	確認
4.1 表1	6.1 耐摩耗性(摩擦回数)	6.1 耐摩擦性(摩擦回)		
4.1 表1	6.2 クーベ試験 ブレード切断抵抗(指数)	6.2 耐切削性 クーベテスト(試験)		
4.1 表1	6.5 衝撃あな開け強さ	6.5 耐突刺性		
4.1 表2 タイトル	表2 ISO13997でテストされた材料の性能レベル	JIS T 8052又はISO13997での性能レベル		
4.1 表2	6.3 カット抵抗	6.3 耐切削性		
4.1 注記2	6.2及び6.3試験方法で得られた性能レベルの間には相関がない	6.2及び6.3の試験において得られた性能のレベルには相関関係がない。		
4.1 注記3	計測の不確かさについては、附属書Bを参照。	計測の不確かさについては、付属書Bを参照。		
4.1 第5段落	必要に応じて	必要に応じて、防護手袋の追加部分(例えば特定の防護性能を有する手袋又は防護性能が低い部分)を試験し、その結果を取り扱い説明書で報告する。		
4.2 タイトル	追加保護(任意)	追加的防護性能(任意事項)		
4.2.1 一般	手袋は単層で作られていようと、幾つかの層(結合されていようと、結合されていないようである)で作られていようと、手袋が、次の箇条で定義される要求事項に適合する場合に、特別な保護を提供すると主張することが可能である。	手袋は、単層・複層(接着・非接着)を問わず4.2.2の要求事項に適合する場合に衝撃防護性能を有するといえる。		
4.2.2 タイトル	衝撃保護	衝撃防護性能保護		
4.2.2 第1段落	衝撃保護が主張されている各区域は、試験されなければならない。試験方法(試験片寸法)のため、指への衝撃に対する防御は、試験不可能である。	衝撃防護性能を有するとされる部位は、試験されなければならない。試験片寸法を確保できないため、指への衝撃防護試験については、試験は不可能である。		
4.2.2 第2段落	機械的リスクに対する保護手袋は、具体的な衝撃減衰(例えば、ナックルの衝撃防護、手のひら、手のひら)を与えるように設計、製造することが可能である。これらの手袋は、次の要求事項に従わなければならない。	機械的リスクに対する防護手袋において、特定の衝撃を減衰(例えば、ナックル、手の甲、掌部(手のひら)への衝撃緩和を有するように、設計、製造することが可能である。これらの手袋は、次の要求事項に従う。		
5 タイトル	試験採取及び調湿	試料採取及び調整		
5 第1段落 -	(23°C±2°C)	23°C±2°C		
5 第2段落	状態調節の時間は少なくとも24時間である。試験は、好ましくは、上記の周囲で行われる。	試料の調節時間は少なくとも24時間とする。試験は上記の環境下にする		
5 2)	5.2 試料の保存 :試験が別の場所で行われ、試験期間が、15分を超えない場合は、調整から取り出し	2)異なる環境下で試験を行う際に、試験時間が、15分以内の場合は、試料の調整環境から取り出し		
5 3)	5.3 xxxxx:特殊な適用が異なる環境での試験を必要とする場合、製造業者又はその権限のある代理人は、追加の試験を手配し、試験環境の完全な記述を含めた結果を製造業者が提供する責任を負う(箇条Bを参照)。	異なる環境下で特殊用途の試験が必要な場合、製造業者又は正規代理店は、追加試験を実施し、試験環境の詳細及び結果を製造業者が提供する情報に記載する。		
6.1 タイトル	耐きず性	耐摩耗性		
6.1.1 第1段落	材料の円形式試験片は、互いに角度単純な調和運動の結果であるリサーージュ図(摩耗サイクル)の形式のサイクル的平面運動で既知の圧力のもとで摩耗される。耐摩耗性は、破過が起こるのに必要な摩擦の数によって測定される。	試料の円形試験片は、互いに適切な角度で単純な調和運動を繰り返して描かれるリサーージュ図形(摩耗サイクル)の周期的な運動で規定圧で摩耗させる。耐摩耗性は、破過(穴あき)が起こるのに必要な摩耗回数を測定する。		
6.1.1 第1段落後	注記なし	注記 注記 リサーージュ図形とは円形から徐々に狭くなりだ円に変化し、それが直線になるまで続く。さらに、直線から反対回転になりだ円形として広がり、これが繰り返される。(リサーージュ図を挿入)		
6.1.2.1 タイトル	研磨剤	研磨紙		
6.1.2.1 注記1	好適な研磨剤は、標準化グループ、Klingspor PL31B, Grit 180(附属書A参照)によって試験されている。 ¹	標準化団体によって試験された好適な研磨紙剤は、標準化グループ、Klingspor PL31B, Grit 180である(附属書A参照)によって試験されている(附属書A参照)。		
6.1.2.1 注記2	現時点では、繊維標準材料を使用して利用可能である校正手順は1つだけである。他の標準材料に対するよりロバストな校正方法はまだ構築中である	現時点では、繊維標準材料を使用して利用可能である校正手順は1つだけである。他の標準材料に対するより安定したロバストな校正方法はまだ構築中である。		
6.1.2.2 第1段落	両面接着テープは、再現可能な結果を達成するために、試験の間に試料の接着を提供するために使用されなければならない。平均付着値は、最小0.20 N/mmとする。試験は、附属書Cに記載されている試験方法に従って、行わなければならない。	再現性のある結果を得るためには、試験中の試料の接着には両面テープを使用しなければならない。平均粘着力は、0.20 N/mm以上とする。試験は、附属書Cに記載されている試験方法に従って行う。		
6.1.2.2 注記1	粘着力が十分でないと、試料は試験中に移動し、このケースでは、摩耗ではなく引裂き現象が観察される。	粘着力が十分でないと、試料が試験中にずれてしまう。この場合、摩耗ではなく引裂きが起こることがある。		
6.1.2.2 注記2	好適な両面接着テープの例は、C.5に記載されている。代替テープは、附属書Cに定義された試験方法を使用して、適切性について検証することが可能である。	適切好適な両面接着テープの例は、C.5に記載されている。それ以外の代替テープを使用する場合は、附属書Cに定義された試験方法を使用して、適切性について検証することが可能である。		

項番・行	変更前	変更後	提案有無	確認
6.1.3 全文	ISO 12947-1にMartindale Wear and Abrasionとして記載されているタイプの摩耗機械が必要である。それは、次の要求事項を満たさなければならない。 試験片圧力(9.0±0.2) kPa	ISO 12947-1で規定するマーチンデール形摩耗試験機を用いる。にMartindale Wear and Abrasionとして記載されているタイプの摩耗機械が必要である。試験機それは、次の要求事項を満たさなければならない。 試験片圧力:(9.0 kPa±0.2) kPa		
6.1.4 第1段落	四つの試験片は、同じ手袋シリーズの四つの個々の手袋から採取される。手のひらの設計が不規則であるときは、試験片は、最も保護が期待される領域で行わなければならない(手のひら全体を覆わない補強材を取り除く)。	四つの試験片は、同じ手袋シリーズの四つの個々の手袋から採取する。手のひらの設計が不規則であるときは、試験片は、最も防護保護性が低い領域から採取する(手のひら全体を覆わない補強材を取り除く)。		
6.1.4 第2段落	試験片が幾つかの非結合層(例えば、幾つかの非結合層から作製された手袋)から作製される場合、試験は、各層上で行われる。試験片が結合層(例えば、幾つかの結合層から作製された手袋)から作製される場合、層が材料を損傷することなく分離され得る場合、試験は、各層に対して独立して実施されなければならない。そうでない場合には、試験領域に縫合部がないように注意しながら、全ての層について試験を実行しなければならない。	試験片が複数の非接着層で構成されている場合(例えば、複数の非接着層でできている手袋)、試験は、各層に対して行う。試験片が接着層で構成されている場合(例えば、複数の接着層でできている手袋)、接着層が材料を損傷することなく分離することができるなら、試験は各層に対して独立して実施する。そうでない場合には、試験領域に接合部(縫合部)を含まないように注意しながら、全層に対して試験を行う。		
6.1.5.1 タイトル	試験機マシンのセットアップ	試験機のセットアップ		
6.1.5.1.1 第1段落	正しい寸法、径(38.0±0.5)に4試験片切断する。両面粘着テープを用いて、少なくとも5分間、およそ10kgの重さで、試験片をメタルインサート上に注意深く、中心に固定する。試験片の緩み及び気泡の混入を防ぐ両面粘着テープを用いることによって、良好な接着性を得ることが可能である。試験片ホルダのリングを、この機械の基本にある取り付け板の所定の位置にセットする。	直径(38.0 mm±0.5) mmに合わせて4つの試験片を切断する。両面テープを用いて、少なくとも5分間、約10 kgの重さで、試験片をメタルインサート上に張力をかけずに中心に固定する。試験片の緩み及び気泡の混入を防ぐために両面テープを用いると適切な接着性を得ることができる。試験片ホルダのリングを試験機の所定の位置にセットする。		
6.1.5.1.1 1)	1)Klingspor PL31B, Grit 180は、KLINGSPOR Schleifsysteme GmbH & Co. KG, Hüttenstraße 36, D-35708 Haigerlによって供給される商品名である。この情報は、この規格の使用者の便宜のために提供されたものであり、ISOによる命名された製品の承認を構成するものではない。同等の製品は、それらが同じ結果をもたらすことを示すことが可能であるならば、使用することが可能である。	全て削除	別場所へ移動 6.1.2.1へ移動済	
6.1.5.1.1 第2段落	規格リングよりも厚い材料(例えば、1.2mmよりも厚い皮革)を試験するために、締付けリングの開口部の直径を増大させるのがよい(図1を参照)。	標準規格リングよりも厚い材料(例えば、1.2 mmよりも厚い皮革)を試験するためには、締付けリングの開口部の直径を増大大きくさせるのがよい(図1を参照)。		
6.1.5.1.1 図1タイトル	図1 - 厚い材料用の代替締付けリングの例	図1 - 厚い材料用の代替締付けリングの例		
6.1.5.1.1 第3段落	材料によっては、試験片と粘着テープとの間の最大限の接着を保証するために、より長い接触時間を必要とする場合がある。この処理が、試験中の材料の性能に影響を及ぼさないことを条件として、試験片と粘着テープとの間の接着性を改善するために、表面処理(例えば、毛羽の除去)を使用することが可能である。異なる接触時間(>5分)及び/又は表面処理が使用される場合、これを報告するのがよい。	材料によっては、試験片と両面テープとを十分に接着するために、より長時間の接着処理を必要とする場合がある。試験中の試験片の性能に影響を及ぼさないことを条件として、試験片と両面テープとの間の接着性を改善するために、表面処理(例えば、毛羽の除去)を施してもよい。異なる接着時間(5分以上)及び/又は表面処理を施す場合は、それらを報告するのが望ましい。		
6.1.5.1.1 第4段落	試験片とメタルインサートを含むリングが取り付けプレートにしっかりと保持されていることを確認しながら、ねじ山が交差しないように注意しながら、試験片ホルダの上部をリングにねじ留めする。ネジ止め作業を開始したら、両手を使って、取り付け板に組立品を押し付け続ける。	試験片及びメタルインサートを含むリングが取り付け板にしっかりと固定されていることを確認し、試験片ホルダの上部をリングに締め込む。締め込み作業時、両手を使用し、荷重をかけながら締め込む。		
6.1.5.1.1 第5段落	この手順は、通常、試験片がしわのない状態でホルダ内にしっかりと保持され、検査の準備ができていることを確認する。	この手順では、通常、試験片がしわのない状態でホルダ内に固定され、試験の準備ができていることを確認しておく。		
6.1.5.1.1 注記	注記 試験の間、試験片の動きを防止する十分に効果的な両面粘着テープを使用することが大切である(適切な両面粘着テープは、例えば、建築及び建築業界において見出すことが可能である。)。これは、附属書Cの利用者の便宜のためである。	注記 試験中、試験片のずれを防止するように両面テープを使用することが重要である(適切な両面テープは、建築業界用などがある)。附属書Cにある情報は、利用者の利便性のためである。		
6.1.5.2 全文	試料の性能は、試験片破過によって決定され、これは、指定された回数(摩耗回数)の摩耗摩擦、すなわち、に曝された後の試験片において視覚的に観察される低下である。 -織物では、二つの別々の糸が完全に切れ、穴が現れる; -編地では、1本の糸が完全に壊れて穴ができてしまう; -結合層において、摩耗から生じる全ての層が一緒になる第一の貫通孔が少なくとも1mmに等しい直径である場合; -上記以外の材料では、摩耗に起因する第一の穴が少なくとも1mmに等しい直径である場合である。	試料の性能は、指定の摩耗回数後に目視による観察で試験片の損傷(穴あき)によって決定する。 -織物では、2本以上の糸が完全に切れた時点で穴あきとする -編物では、1本の糸が完全に切れた時点で穴あきとする -接着層では、摩耗による全層貫通した直径1 mm以上の穴 -上記以外の材料では、摩耗による直径1 mm以上の穴		
6.1.5.3 第1段落	それぞれの試験は、新しい研磨剤を用いて行われる。試験を開始し、100回擦った後に試験片を確認する。ブレークスルーがない場合は、500回の摩擦に達するまで試験を続ける(性能レベル2)。ブレークスルーがない場合は、表1の次の性能レベルに達するまで試験を継続する。性能レベルごとに必要な摩擦回数で試験片を調べる。	試験ごとに新しい研磨剤を用いて試験を行う。試験を開始し、100回摩耗させた後に試験片を確認する。損傷がない場合は、500回の摩擦回数に達するまで試験を続ける(性能レベル2)。さらに損傷がない場合は、表1の上位の性能レベルに達するまで試験を継続する。性能レベルごとに必要な摩擦回数で試験を行う。		

項番・行	変更前	変更後	提案有無	確認
6.1.5.3 第2段落	指定された性能レベルで試験片を検査するたびに、試験片と研磨剤の両方を(例えば、清浄な圧縮空気によって)洗浄し、試験片ホルダを締め付けてから、装置に交換しなければならない。	指定の性能レベルで試験を行うごとに、試験片と研磨紙の両方を清掃する(例 清浄な空気等)。試験片ホルダの締め付けを確認し、装置に再設置する。		
6.1.5.3 第3段落	所与の性能レベルで試験片を検査するときにブレードスルーが見つかった場合、分類は先行する下位性能レベルにある。	指定の性能レベルで試験を行い、損傷が見られた場合、性能レベルは、下位のレベルに分類する		
6.1.5.3 第4段落	ブレードスルーが、一つの試験片のエッジの2 mm未満で起こる場合、又は引き裂きが起こる場合、この試験試験片は廃棄されなければならない。第2の試験において、少なくとも、一つの試験片が失敗した場合、両方の試験において廃棄されなかった試験片の最低値が記録される。	一つ以上の試験片において淵から2 mm未満で損傷(穴あき)が生じた場合、又は、引き裂きが生じた場合には、再試験を実施しなくてはならない。再試験においても、一つ以上の試験片で同様の結果が生じた場合、両試験において淵から2 mm未満の損傷(穴あき)、又は、引き裂きが生じなかった試験片の最低値を記録する。		
6.1.5.3 第5段落	試験片が幾つかの層から作られる場合(6.1.4. 第2の段落を参照)、試験の最終結果は、全ての層の結果の合計となる。	試験片が複数層から作られている場合(6.1.4. 第2段落を参照)、試験の最終結果は、全ての層の結果の合計となる。		
6.1.5.3 第6段落	報告書は、四つの個別の結果を示さなければならない。性能レベルは、四つの値のうちの最低値として定義される。	報告書は、四つの試験片の結果を示さなければならない。性能レベルは、四つの結果のうちの最低値による。		
6.1.6	試験報告書には、次の情報を記載する。 -発行年度を含むこの規格への参照; -この規格の箇条への参照 -試料の標準; -6.1.5に示した試験に従った個々の結果; -試験方法からの逸脱(特に、粘着テープとの異なる接触時間及び試験片の表面処理); -使用済み消耗品(研磨紙、粘着テープ)の標準; -試験片で観察されたあらゆる物理的な変化; -表1に記載の性能レベル。	試験報告書には、次の情報を記載する。 -この規格番号及び発効西暦年; -この規格の箇条番号 -試料の情報; -6.1.5に示した各試験片の結果; -試験方法からの逸脱(特に、両面テープとの異なる接触時間と表面処理情報); -消耗品(研磨紙、両面テープ)の情報; -試験片で観察されたあらゆる物理的な変化; -表1に記載の性能レベル。		
6.2 タイトル	ブレードカット抵抗	耐切削性(クープテスト)		
6.2.1	試験片は、指定された荷重のもとで交互運動で動く逆回転円形ブレードによって切断される。	試験片は、指定された荷重のもとで往復運動で動く逆回転する円形刃によって切断される。		
6.2.2 a)	クープ試験装置(図2、図3、及び図4の例を参照)は、次から構成する。 a)円形の回転するブレードに交互の水平方向の動きを与える試験台。水平方向の動きは50mmの長さで、ブレードはその動きとは逆方向に完全に360°回転する。結果として得られるブレードの正弦波切削速度は、(8±2) cm/sである;	クープ試験装置(図2、図3、及び図4の例を参照)は、次による。 a)回転する円形刃に水平方向の往復運動を与える試験台。水平方向の動きは50mmの長さで、刃はその動きとは逆方向に360°回転する。その結果、刃の正弦波切削速度は、(8±2) cm/sである;		
6.2.2 b)	b)(5±0.5)Nの力をもたらずブレードに加えらるる質量;	b)円形刃に加えらるる荷重は(5±0.5)Nとする;		
6.2.2 c)	c)直径(45±0.5) mm、厚さ(0.3±0.03) mm、全切削角30°~35°の円形ブレード(図3を参照)。ブレードは、ピッカース硬さ700~720のステンレス鋼とする;	c)直径(45±0.5) mm、厚さ(0.3±0.03) mm、全切削角30°~35°の円形刃(図4を参照)。刃は、ピッカース硬さ700~720のステンレス鋼とする;		
6.2.2 図2記号説明1	1 モーターと電子検出のコンパートメント 2 車輪と駆動ロッド 3 スライド式 4 ロッド 5 試験片装置 6 円形ブレード 7 歯付きラック 8 おもり支持板	1 モーターと電子検出部 2 回転部と駆動ロッド 3 スライド機構 4 ロッド 5 試験片取付部 6 円形刃 7 歯付きラック 8 台座		
6.2.2 図2記号説明2	9 カウンタ 10 供試品 11 絶縁支持体 12 導電性ゴム 13 アルミはく 14 ろ紙 15 上部部 a ブレードの交互運動。	9 カウンター 10 試験片 11 絶縁支持体 12 導電性ゴム 13 アルミはく 14 ろ紙 15 上部カバー a 刃の往復運動。		
6.2.2 図2タイトル	図2 - 防護手袋のブレード切断耐性をテストするための装置	図2 - 防護手袋の耐切削性試験装置		
6.2.2 図3記号説明	1 反り又は長手方向 2 よこ糸又は横方向	1 たて糸又は長手方向 2 よこ糸又は横方向		
6.2.2 図4タイトル	図4 - 円形ブレードの仕様	図4 - 円形刃の仕様		
6.2.2 図4注記	注記 直径45mmのブレードリフォール® RBIは、この試験に適している。2	注記 直径45mmのオルファ社製の円形刃RBIは、この試験に適している。		
6.2.2 d)~g)	d) 試験片が置かれる導電性ラバー(硬さ(80±3) IRHD)、例えばEPDMの支援; e) 図2に記載の試験片のためのクランプフレーム; f) カットスルーの瞬間を検知する自動システム; g) 1サイクルの1/10に校正されたサイクルカウンター。	d) 試験片が置かれる導電性ラバー(硬さ(80±3) IRHD)、例えばEPDMの支援。(図2の12) e) 図2に記載の試験片のためのクランプフレーム;(図2のX)。 f) カットスルーの瞬間を検知する自動システム。 g) 1サイクルの1/10に校正されたサイクルカウンター。		○

項番・行	変更前	変更後	提案有無	確認
6.2.3 第1段落	それぞれは、幅 60±6mm、長さ 100±10mm のストリップをバイアス(45° の角度)で切断したものである。幾つかの未結合層で作られた試験片のケースでは、完全な試験片は、全ての層で一緒に試験されなければならない。手のひらの設計が不規則であるときは、試験片は、最も保護が期待される手のひらの領域から採取しなければならない。それぞれは、幅 60±6mm、長さ 100±10mm のストリップをバイアス(45° の角度)で切断したものである。幾つかの未結合層で作られた試験片のケースでは、完全な試験片は、全ての層で一緒に試験されなければならない。手のひらの設計が不規則であるときは、試験片は、最も保護が期待される手のひらの領域から採取しなければならない。	それぞれの試験片は、幅 60 mm ± 6 mm、長さ 100 mm ± 10 mm で 45° の角度で切断したものである。複数の非接着層で作られた試験片のケースでは、完全な試験片は、全ての層が一緒に試験されなければならない。手のひらの設計が不規則であるときは、試験片は、最も防護性が低い領域から採取する。		
6.2.3 第2段落	二つの試験片は、二つの別個の手袋から採取されなければならない。	二つの試験片は、二つの別個の手袋から採取されなければならない。		
6.2.3 注2)	OLFA(登録商標)RB 45mm は、OLFA Corporation, Osaka, 537 Japan によって製造された製品の商標である。この情報は、この規格の使用者の便宜のために提供されたものであり、ISO による命名された製品の承認を構成するものではない。同等の製品は、それらが同じ結果をもたらすことを示すことが可能であるならば、使用することが可能である。	OLFA® RB 45 mmは、OLFA Corporation, Osaka, 537 Japanによって製造された製品の商標である。この情報は、この規格の使用者の便宜のために提供されたものである。同等の製品は、それらが同じ結果をもたらすことを示すことが可能であるならば、使用することが可能である。	6.1.2も同様に修正	
6.2.4タイトル	管理試験片	対照試験片		
6.2.5タイトル	なし	キャンバス		
6.2.5第1段落	キャンバスは、経糸及び緯糸が次の属性をもつ開放端光ファイバから紡績された織物としなければならない。	キャンバス は、オープンエンドで作られた紡績糸をたて経糸及びよこ緯糸に用いた織物とする。が次その仕様は次のとおりとする。		
6.2.5 キャンバス仕様	緯糸密度=9 糸/cm±4 糸/10 cm (EN 1049-2); リニアスワープ = 85 Tex ± 10 % (ISO 7211-5); 線形質量横糸=263 テックス±10% (ISO 7211-5); たて糸、構造及び撚り=2 プライ, S 370 t/m ±10% (ISO 1139, ISO 7211-4); よこ糸、構造及び撚り=3 プライ, S 181 t/m ±10% (ISO 1139, ISO 7211-4); 厚さ=1.0±0.1 mm (ISO 5084); 反り糸引張強さ=1 400 N(最小) (ISO 13934-1); よこ糸引張強さ=1 100 N(最小)	たて糸密度=28本/cm±5本/5 cm よこ糸密度=9本/cm±4本/10 cm たて糸織度 = 85 Tex ± 10 % よこ糸織度=263 Tex ± 10 % たて糸の構造及び撚り=双糸, S 370 t/m ± 10 % よこ糸の構造及び撚り=三子糸, S 181 t/m ± 10 % 厚さ=1.0 mm ± 0.1 mm たて糸方向の引張強さ=1 400 N以上 よこ糸方向の引張強さ=1 100 N以上		
6.2.6 第1段落	ラバー支板上に、(65±5)g/m ² 、厚さ 0.1mm 未満のペーパーシートで覆われた厚さ約 0.01mm のアルミニウム箔を置く。この薄板の目的は、試行中の試験片の変位を制限し、ある種の織物の銅ヤーンによる、又は薄い編物の組織の隙間による予期せぬカッター検出を回避することである。管理試験片は、クランプフレーム内のオイルの上に伸ばさずに配置される。	導電性ゴム上に、(65±5)g/m ² 、厚さ0.1mm未満の紙の上に重ねた厚さ約0.01mmのアルミニウム箔を置く。この紙の目的は、試験中の試験片のずれを防止し、ある種の織物に織り込まれた金属繊維による、又は薄い編物の組織の隙間による予期せぬカッター検出を回避することである。対照試験片は、クランプフレーム内のアルミニウム箔の上に伸ばさずに配置する。		
6.2.6 第2段落	クランプフレームは、表上に配置される。ブレードを保持しているアームは、制御試験片上に静かに下ろされる。	クランプフレームは、台上に配置する。円形刃を保持しているアームは、対照試験片上に静かに下ろす。		
6.2.6 第3段落	いずれかの試験の前に、ブレードの鋭さを次のようにチェックする。制御試験片を用いたカッターで、サイクル数(C)を記録する。サイクル数は、最初の試験系列では 0.8 と 1.4 の間であり、4 つおきの連続する試験系列では 0.8 と 2.0 の間である。	いずれかの試験の前に、円形刃の鋭さを次のようにチェックする。対照試験片を用いたカッターで、サイクル数(C)を記録する。サイクル数は、最初の試験系列では0.8・1.4の間に入らなければならない。四つおきの連続する試験系列では0.8・2.0の間に入らなければならない。		
6.2.6 第4段落	サイクル数が<0.8 である場合、ブレードの鋭さは、制御機器布の三つの層上で切削運動を実行することによって低減されなければならない。試験シーケンスごとにサイクル数が、2.0 より多い場合は、次のシーケンスでブレードを変更する。全ての試験の後(すなわち、五つの試験シーケンスごとに)、新しいブレードを使用して新しい試験を始動しなければならない。	サイクル数が0.8未満の場合、円形刃の鋭さは、対照試験片を3枚重ねた上で切削運動を行い、鋭さを低減する。試験系列ごとにサイクル数が、2.0を超える場合は、次の試験系列で円形刃を交換する。全ての試験の後(すなわち、五つの試験系列ごとに)、新しい円形刃を使用して新しい試験を始動しなければならない。		
6.2.6 第5段落	試験片は同じ試験を受け、サイクル数(T)が記録される。試験は、T が最大 60 サイクルに達したときに手動で停止される。	試験片は同じ試験を受け、サイクル数(T)が記録される。試験は、T が最大60サイクルに達したときに手動で停止する。		
6.2.6 第6段落	各試験について、次の順序に従って各試験片について、五つの試験を行わなければならない(出発点、試験片との接点の直後、試験片の極値の1つにしたほうがよい)。	各試験について、次の順序に従って5回の試験を行わなければならない。試験片との接点の直後、次の開始位置は試験片の端にそそえるのが望ましい。		
6.2.6 第6段落a)~c)	a) 管理試験片に関する試験; b) 試験片に関する試験; c) 管理試験片を試験する。	a) 対照試験片による試験 b) 試験片による試験 c) 対照試験片による試験		
6.2.6 第7段落	ブレードを材料に減衰させる場合、最初のシーケンスの後、テストされた試験片のいずれかでサイクル数 C _{n+1} が 3 時間 C _n より大きい場合は、6.3 に従った ISO 13997:1999 切断抵抗方式を実行する必要がある。この方式が切断リスクに対する保護のアセスメントの標準試験方法となる。	円形刃の鋭さが試験材料によって減衰する場合、すなわち、最初の試験系列の後、試験した試験片のいずれかでサイクル数C _{n+1} がC _n の3倍より大きい場合、6.3に従ったISO 13997:1999 切断抵抗試験を行う必要がある。ISO 13997:1999 切断抵抗試験が切断に対する防護の標準試験方法となる。		
6.2.6 第8段落	しかし、6.2 に対応する試験方法は、要求に応じて行うことが可能である。	しかし、6.2に規定する試験は、要求に応じて行うことが可能である。		

項番・行	変更前	変更後	提案有無	確認
6.2.6 注3)		OLFAの円形刃と同様に修正 キャンバスは、TENTHOREY DE LA PLAINE - 88510 ELOYES - FRANCE, Fabric Quality identification: n° 148611によって製造されている。この情報は、この規格の使用者の便宜のために提供されたものであり、ISOによる命名された製品の承認を構成するものではない。同等の製品は、それらが同じ結果をもたらすことを示すことが可能であるならば、使用することが可能である。	移動させる。6.2.5の表下へ	
6.2.7 最終段落	報告書には、二つの試料で得られた表(表3を参照)を含め、10の結果inと2つの計算された平均値Cnを示す。性能レベルは、二つの計算された指標値のうちの最も低いものとして定義される。	報告書には、表3に基づいて二つの試料で得られた10個の結果in及び平均値Cnを示す。性能レベルは、二つの計算された指標値のうちの最も低いものとして定義される。(1は報告書に記載する必要はないのか? 次回までの宿題)	7.11確認済。記載する。	○
6.2.8	発行年度を含むこの規格の規格番号及び箇条番号(例: JIS T 8119:202Xの6.2)	この規格番号及び発効西暦年		
6.2.8	試験をした試料の情報	試料の情報		
6.2.8		この規格の箇条番号		
6.3タイトル	耐カッタ工法(ISO13997)	切創抵抗試験(ISO13997)※JIS T8052改正版との整合性をとる	確認済	○
6.3.2 第1段落	手袋の掌から試験片を採取する。	手袋の掌部(手のひら)から試験片を採取する。		
6.3.2 第2段落	ISO 13997:1999の箇条5及び附属書Aに記載された手袋に関する規格が適用される。	ISO 13997:1999の箇条5に記載された手袋に関する規格が適用される。		
6.3.2 第3段落	五つの最終値[ISO 13997:1999の6.3.5 e)]は、手のひらの同じ試料で測定される。	削除		
6.3.3 第1段落	ISO 13997:1999の箇条7に従って	ISO 13997:202Xの箇条6の事項※ISO13997に準拠		
6.3.3 第2段落	使用済み消耗品(ブレード、ネオプレン)の標準	削除		
6.4 タイトル	引裂抵抗	耐引裂性		
6.4.2	低慣性力測定システムを装備したISO 7500-1に準拠した少なくともクラス2の引張試験機だけを使用しなければならない。	JIS B 7721:2018に適合した等級2以上の精度を有する引張試験機を使用しなければならない。	※低慣性力測定システムの呼び方が?となり、JIS原案では削除し、文頭を「JIS B 7721に適合した～」に変更	
6.4.3 第1段落 最終行	分類は、最高性能レベルをもつ層に基づく。	性能レベルは、最高性能レベルをもつ層に基づく。		
6.4.4	試験片の長手方向に平行な引っ張り方向を保証するように、少なくとも10 mm離れたジョーを用いて、各々、あらかじめ切断された規定されたストリップ(図6を参照)の少なくとも20 mmは引っ張り試験機にクランプされる。	試験片の引っ張り方向が、長辺と平行になるように10 mm以上離れた掴み具を用いて、あらかじめ切断した各々のストリップ(図6を参照)の20 mm以上を引っ張り試験機に固定する。		
6.4.5.1	引裂き力を、(100±10) mm/分の引張試験スピードでX-Y記録計で記録する。試験片は、完全に引き裂かれなければならない。場合によっては、引き裂きは、試験片の長手方向でなくてもよいことに注意する。	引裂き強さを、引張速度(100±10) mm/分で試験し、X-Y記録計で記録する。試験片は、完全に引き裂かれなければならない。引裂は、試験片の長手方向でない場合もあるので注意する。		
6.4.5.2	試験片が、75 Nを超える力で完全に引き裂かれていない場合、試験を停止させ、到達した最大限の力を記録することが可能である。	試験片が、75 Nを超えても完全に引き裂かれない場合、試験を終了してもよい。その場合は、到達した最大値を記録する。		
6.4.5.3	試験は、同一の手袋系列の四つの異なる手袋の各々から切り取られた一つの試験片に対して行われる。	試験片は、同じ手袋シリーズの四つの個々の手袋から採取し、一つの試験片毎に引裂試験を行う。		
6.4.5.4	カフスから指先まで手袋の向きに、二つの試験片を試験し、手のひらの幅方向に、二つの試験片を試験する(図7を参照)。	二つの試験片を手袋全長方向から採取し試験を行う。他の二つの試験片は、掌部(手のひら)横幅方向から採取し試験を行う(図7を参照)。		
6.5.4.5	それぞれの試験片の耐引裂性を、記録された最高の最高値とし、個々の値のうちの最低値をとることにによって分類を決定する。	各試験片の引裂き強さは、最大ピーク値を記録する。耐引裂性能レベルは、記録された四つの結果の最低値による。		
6.5.4.6 図a)	手袋の手のひら幅を横切って	掌部(手のひら)横幅方向		
6.5.4.6 図b)	手袋の方向に	全長方向		
6.4.6		後日訂正6.2.8に合わせる	修正済	○
6.5 タイトル	破裂抵抗	耐突刺性		
6.5.1	衝撃あな開け強さは、規定された寸法の鋼測定子が保持装置上に保持された試験片を穿孔するために加える力によって定義される。それは、薄い先端又はニードルによって及ぼされる穿孔と混同しないほうがよい。	耐突刺性は、治具に固定した試験片に規定寸法の鋼製試験錘を突き刺すことで穴が開く力で定義する。それは、鋭い先端又は針による穿孔と混同しないほうがよい。		
6.5.2	低慣性圧縮試験ジグ、ISO 7500-1に準拠したクラス2、0 Nから500 Nまでの力を測定する装置 -図8の正確な要求事項及び寸法に成形された、工具の中心に置かれた鋼測定子 -図9に示されているように、工具の軸線の中心に配置された試験片の保持装置	-JIS B 7721:2018の等級2に適合した0 Nから500 Nまでの力を測定する装置 -治具の中心に設置された鋼製試験錘の要求事項及び寸法は図8による -治具の軸線の中心に配置された試験片の固定装置は図9による		

項番・行	変更前	変更後	提案有無	確認
6.5.2 図8	図8ー測定子	図8ー 試験錘		
6.5.2 図9記号説明	締付スタッド	ナット(カケン様へ後日確認)	締付スタッドへ変更	○
6.5.2 図9タイトル	保持装置	固定装置		
6.5.3 試験片	40 mmの最小径をもつ円形試験片は、縫合部、補強材、又は余分な厚さがクランプ領域及び穿孔点の外部に位置するように取られる。幾つかの非結合層の場合、これらの層は一緒に試験される。手のひらが不規則に設計されている場合には、全ての領域を試験しなければならず、最終的な結果は、得られた最低値である。	掌部(手のひら)から最小径40mmの円形試験片を、縫合部、補強材、又は余分な厚さが固定領域及び開口部(20±0.05mm)に含まれないように採取する。複数の非接着層から構成されている場合、全層同時に試験する。掌部(手のひら)が不規則に設計されている場合には、全ての領域を試験しなければならず、最終的な結果は、得られた最低値とする。		
6.5.4 a)	外面をスタイラスペンに向けて、試験片を固定装置の中央にクランプする。	手袋の外側面を鋼製試験錘に向けて、試験片を固定装置の中央に固定する。		
6.5.4 b)	スタイラスを100 mm/分で試験片上に下に動かす。試料から測定して50ミリメートルのずれに達するまで続ける。試験片に穴があいていなくても、力の最大値を記録する。	鋼製試験錘を100 mm/minで試験片に向けて下降させる。鋼製試験錘が試験片と接触してから50mm移動した後も穴が開かない場合は試験を終了する。試験結果は力の最大値とする。		
6.5.4 c)	試験は、同一の手袋シリーズの四つの異なる手袋から、切り取った四つの試験片について行わなければならない。	試験は、同一の手袋シリーズの四つの異なる手袋から、採取した四つの試験片について行う。	後日検討	○
6.5.4 d)	d) 測定子のプロファイル及び測定値は、全ての試験について図8に準拠しなければならない。ほとんどの材料のためには、少なくとも500回の使用ごとに測定子を点検することが推奨されるが、測定子を傷つけるおそれのある硬くて研磨性の材料については、より頻繁に点検することが必要である。	d) 鋼製試験錘の形状及び寸法は、全ての試験について図8に準拠しなければならない。鋼製試験錘は、少なくとも500回の使用ごとに点検することが推奨されるが、鋼製試験錘を傷つけるおそれのある硬くて、研磨性を有する試験片を試験した場合は、より頻繁に点検することが必要である。	検討済	
6.5.4 e)	分類は、記録された最低値によって決定される。	性能レベルは、四つの測定値の最低値とする。		
6.5.5	試験報告書には、次の情報を記載する。 -発行年度を含むこの規格の箇条への参照 -試料の標準 -6.5.4で定義した、四つの測定値 -試験方法からの逸脱 -表1に記載の性能レベル	試験報告書には、次の情報を記載する。 -この規格番号及び発効西暦年並びに箇条番号 -試料の標準 -6.5.4に示した四つの試験片の測定値 -試験方法からの逸脱 -表1に記載の性能レベル		
6.6	ナックルについては、EN 13594:2015の6.9に従って、衝撃エネルギー5 Jで試験を実施する。 他の部(手の甲、手のひらなど)については、主張される防護区域の中心は、5 Jの衝撃エネルギーで、EN 13594:2015の6.9に従って試験されなければならない。四つの異なる手袋からの保護領域の中央における四つの影響を試験する。結果は、EN 13594:2015の6.9 h)に要求されるように与えられる。	拳については、EN 13594:2015の6.9に従い衝撃エネルギー5 Jで試験を実施する。 他の部(手の甲、手のひらなど)については、防護範囲の中央部分を5 Jの衝撃エネルギーで、EN 13594:2015の6.9に従って試験する。四つの異なる手袋を用い防護領域の中央部分の衝撃試験を行う。結果は、EN 13594:2015の6.9 h)に準ずる。		
7.1	防護手袋又はアーム保護装置のマーキングは、ISO 21420の適用箇条に従わなければならない。	防護手袋又はアームプロテクターの表示は、JIS T 8008:202X及びISO 21420に従う。		
7.2 第1段落と図記号	箇条4の要求事項を満たす手袋については、手袋の機械的性質は、機械的リスク、それに続くそれぞれの機械的試験のそれぞれの性能レベル(図11を参照)について、図記号(図10を参照)によって示されなければならない。 第1の数字は耐摩耗性に対応し、第2の数字はブレード切断抵抗性に対応し、第3の数字は引裂き抵抗性に対応し、第4の数字は衝撃あな開け強さに対応し、第5の数字(文字)はISO 13997:1999切断抵抗性に対応する(表1及び表2に示す)。	箇条4の要求事項を満たす手袋については、機械的リスクに対する防護手袋を示す図記号(図10参照)を表示し、その図記号と共に各機械的試験の性能レベルを表示する(図11参照)。 図11に示す性能レベルは、左から順に次のとおりに表示する(表1及び表2参照)。 耐摩耗性 耐切削性 耐引裂性 耐突刺性 耐切削性(JIS T 8052:202XISO 13997:2023)		
7.2 第2段落	6.2によるブレード切断抵抗試験が、6.3で定義されるブレードの鈍化を示すことが判明し、切断抵抗が主張されている場合、少なくともISO 13997:1999アルファベット順切断抵抗レベルがマークされなければならない。6.2による数値切断レベルは、ISO 13997:1999方法のアルファベットレベルによる試験の結果によって与えられるアルファベットレベルと並んで、表示において、任意に報告することが可能である。図記号と性能レベルの他の位置は、ISO 21420に従わなければならない。	6.2による耐切削性試験(ケープテスト)において、円形刃の鋭さが試験材料によって減衰する場合、6.3の耐切削性試験(JIS T 8052:202X)による結果をアルファベットで性能レベルとして表示する。6.2による数値性能レベルは、JIS T 8052:202Xの試験結果であるアルファベット性能レベルと併記してもよい。図記号と性能レベルの表示は、JIS T 8008:202X及びISO 21420に従う。		
7.3 タイトル	追加要求事項衝撃保護のマーキング	追加要求事項(衝撃防護)の表示		
7.3	4.2.1に示された要求事項が手袋によって満たされる場合、表示記号“P”は、五つの性能レベル数の後に追加される(図11及び表4の例を参照)。	4.2.1に示された要求事項を満たす手袋の場合、表示記号“P”を五つの性能レベルの後に追加する(図11及び表4の例を参照)。		
7.4 表4	表4ー図11に示した例の説明	表4ー図11 記載例の説明		
7.4 表4	ISO 23388	JIS T8119:202X		
7.4 図11	摩耗(6.1)レベル3 レベル3 レベル3	耐摩耗性(6.1) レベル3 レベル3 レベル3		
7.4 図11	繰きず(6.2) レベル4 試験が実行されていないか適用されていない レベル2	耐切削性(6.2) レベル4 試験未実施又は適用外 レベル2		
7.4 図11	裂け(6.4) レベル4 レベル1未達成 レベル1未達成	耐引裂性(6.4) レベル4 レベル1未達 レベル1未達		
7.4 図11	パンクチャ(6.5) レベル3 レベル3 レベル3	耐突刺性(6.5) レベル3 レベル3 レベル3		
8 タイトル	製造業者がユーザ通知で提供した内容	製造業者がユーザーに提供する情報		

項番・行	変更前	変更後	提案有無	確認
8 1段落	規格は、ISO 21420の適用箇条に準拠しなければならない。	提供する情報は、JIS T 8008:202X及びISO 21420:2020の適用箇条に準拠する。		
8 2段落	異なる環境下で実施される特殊な試験の詳細を記載する(5.3参照)。	異なる環境下で特殊な試験を実施した場合には、その詳細を記載する(5.3参照)。		
8 3段落	関連する場合には、2層以上の手袋については、全分類が必ずしも最外層の性能を反映していないことを警告しなければならない。	2層以上の手袋については、必ずしも最外層の性能レベルを示すものではない。これについては、必要に応じて、注意喚起を行う。		
8 4段落目	衝撃保護を主張する場合は、次の事項を記載しなければならない。	衝撃防護を目的としている場合は、次の事項を記載しなければならない。		
8 4段落目 —	保護を主張する領域	衝撃防護の領域		
8 4段落目 —	保護が指に適用されないことを警告する	衝撃防護が指に適用されないこと(6.6参照)		
8 5段落目	レベル1以上の引裂き性能(6.4)を達成し、示す機械的耐性手袋については、機械の移動部による巻き込みのリスクがある場合には、手袋を着用してはならない旨の警告を含めなければならない。	手袋が回転体に巻き込まれる恐れがある場合は、手袋は使用してはならない(安衛則第111条)。	ISO原文を変更	○
8 6段落目	切断抵抗試験(6.2)の間のくすみについては、結合試験の結果は、切断抵抗試験(6.3)が標準性能の結果である間にだけ示される。この文は、利用者通知に記載しなければならない。	耐切削性試験(6.2)で円形刃の鋭さが減衰する場合、クーブテストの結果は参考値とし、6.3の切創抵抗性試験の結果を基準性能とする。この内容はユーザーに提供する情報に明示しなければならない。		
附属書A タイトル	研磨剤	研磨紙		
A.1. タイトル	研磨剤の定義	研磨紙の定義		
A.1内容(1段落目)	研磨剤は、次の仕様を満たさなければならない。 -グリット: 180 -穀物タイプ:酸化アルミニウム -塗布密度:セミオープン -裏地:裏地は、最低坪量110 g/m ² ±5 %をもつ適切な品質の紙からなるものでなければならない -接着剤:接着剤は、その目的に適するものでなければならない -研磨剤:使用される砥粒は、その目的に適するものでなければならない。FEPA P規格当たりの粒子だけを使用する	研磨剤は、次の仕様を満たさなければならない。 -Grit: 180 -粒子タイプ: 酸化アルミニウム -塗布密度: セミオープン -基材: 最低質量110 g/m ² ±5 %をもつ適切な品質の紙からなる -接着剤: その目的に適するもの -研磨剤: その目的に適するもの。FEPA P規格の粒子を使用する		
A.1 2段落	研磨紙は、次の特性をもたなければならない。	研磨紙は、次の仕様を満たさなければならない。		
A.1 a)	破断強さは、次を下回ってはならない	破断強さは、次を下回ってはならない		
A.2. タイトル	研磨剤の承認基準	研磨紙の受け入れ基準		
A.2. 1段落目	綿キャンパス(6.2.5)を6.1.5に記載の方法で100回摩擦した後に試験するとき、質量損失は9 g/27 gでなければならない。	綿キャンパス(6.2.5)を6.1.5の方法で試験した時、100回摩擦後の綿キャンパスor研磨紙の質量減量は9mg~27mg でなければならない。		
附属書B 内容		書式変更 JIS T 8008に合わせる。	変更済	○
附属書C	規定	参考		
附属書C タイトル	この規格の6.1.2.2で使用した接着剤の妥当性確認試験	6.1.2.2接着剤の妥当性の確認試験		
附属書 C.1	摩耗試験(6.1)の間、試料が十分に固着していることが非常に大切である。 粘着テープの接着性能は必須である。 この試験方法はISO 11644に基づいている。	摩耗試験(6.1)の間、試料が十分に接着していることが非常に大切である。 両面テープの接着性能は必須である。 この試験方法はISO 11644に基づいている。		
附属書 C.2.1	C.2.1 次の特徴を組み込んだ引張試験機 a) 試験中の試験片に適した力域 b) 100mm/分のジョーの均一な分離速度 c) 接着プレートホルダ(C.2.3)とフックリンク(C.2.4)を固定するのに適した方法 d) 試験中に力-距離線図を記録するための用意	引張試験機 a) 試験中の試験片に適した荷重範囲 b) 引張速度は100mm/分の一定速度とする c) 接着プレートホルダ(C.2.3)とフックリンク(C.2.4)を固定するのに適した方法 d) 試験中に力-変位を記録する手段		
附属書 C.2.2	硬質ポリ塩化ビニル(PVC)片からなり、約70 mm × 20 mm × 3 mmの大きさであり、試験片が接着されているPVC板。高い赤外線(IR)吸収をもつPVCが好ましい。	PVC片 約70 mm × 20 mm × 3 mmの大きさの硬質ポリ塩化ビニル(PVC)片からなり、試験片が接着されている。		
附属書 C.2.3	引張試験機の下側クランプに、試験片が接着された接着プレートを保持するための適当な材料で作られた接着プレートホルダ(図C.1参照)。オプションとして、板ホルダの側面を通して、ねじで板をしっかりと保持することが可能である(図C.3を参照)。	接着プレートホルダ 引張試験機の下側クランプに試験片を接着した接着プレートを保持するのに適当な材料で作られたもの(図C.1参照)。オプションとして、接着プレートホルダの側面にねじでPVC片を固定することもできる(図C.3を参照)。		
附属書 C.2.4	引張試験機の上側クランプに試験片の自由端を取り付けるための、直径1mm~2mm、長さ200mm以上の鋼線製のフックリンク(図C.3参照)。フックリンクの長さは、剥離角度が常に90° に近いままであることを保証する。	フックリンク 引張試験機の上側クランプへ試験片の未接着部分を取り付けるために用い、直径1 mm~2 mm、長さ200 mm以上の鋼製ワイヤーとする(図C.3参照)。剥離角度は常に90° 前後を確保する。		
附属書 C.2.5	パンチ。フックリンク(C.2.4)を使用する場合は、標準ラバー試験片に径2mm~3mmの穴を開けるのに適している。	パンチ。フックリンク(C.2.4)を使用する場合は、標準ゴム試験片に径2 mm~3 mmの穴を開けるのに適したものの。		

項番・行	変更前	変更後	提案有無	確認
附属書 C.2.6	標準ゴム (ISO 4649:2010の附属書Bに準拠)、試験するゴムの寸法、100 mm ± 2 mm × 10 mm ± 1 mm。 ゴムは、1.5mmの厚さに分割されなければならない。試験された表面は、外側の表面である(より滑らかである)。この表面を石油エーテル(d = 0.65g/cm ³)で脱脂する。脱脂後、標準ラバーを2分間乾燥させ、粘着テープを粘着させた。	標準ゴム (ISO 4649:2017の附属書Bに準拠)、試験するゴムの寸法、100 mm ± 2 mm × 10 mm ± 1 mm。 ゴムの厚みは、1.5 mmに調整する。試験するゴムの表面は、より滑らかな面とする。この表面を石油エーテル(比重:d = 0.65 g/cm ³)で脱脂する。脱脂後、標準ゴムを2分間乾燥させ、両面テープで貼り付ける。		
附属書C.3 タイトル	試験片の作製	試験片の調製		
附属書C.3 第1段落	粘着テープは試験片である。	試験片は、両面テープとする。		
附属書C.3 第2段落	試験片及び標準ラバーは、試験に先立ち、ISO 23388に規定された標準雰囲気中で、少なくとも16時間コンディショニングされなければならない。	試験片及び標準ゴムは、試験に先立ち、筒条5の環境下で、少なくとも16時間は調整する。		
附属書C.3 第3段落	試験片ストリップ70mm ± 2mm × 10mm ± 1mmを塩ビ板(C.2.2を参照)に貼り付け、標準ラバーを貼り付ける(図C.2を参照)。	試験片は、70 mm ± 2 mm × 10 mm ± 1 mmをPVC片(C.2.2を参照)に貼り付け、標準ゴムを貼り付ける(図C.2を参照)。		
C.3 図C.2 タイトル	試験片の準備	試験片の調製		
C.3 図C.2 記号説明	1 PVC板 2 試験片帯 3 標準ラバー	1 PVC片 2 両面テープ 3 標準ラバー		
附属書C.3 第4段落	次に、塩ビ板を組立品の上に10kgの重さで置く。	次に、PVC片を上部とし、5分間±30秒間10 kgの錘を載せる。		
附属書C.3 第5段落	5分間±30秒間組立品におもりをつけた後、10kgのおもりを取り除き、すぐに試験を行う。	10 kgの錘を取り除き、すぐに試験を行う。		
附属書C.3 第6段落	2試験組立品を用意する。	調製した試験片は2個準備する。		
附属書C.4.1	ホルダ(C.2.3)を引張試験機下側クランプ(C.2.1)に固定する。	接着プレートホルダー(C.2.3)を引張試験機(C.2.1)の下側クランプに固定する。		
附属書C.4.2	調整済み試験片(PVCプレート/試験片/標準ラバー)をホルダーにスライドさせ、プレートの一方の端がホルダーの一方の端と同じ高さになるようにする。	調整済み試験片(PVC片/試験片/標準ゴム)をホルダーにスライドさせ、プレートとホルダーの端は水平にする。		
附属書C.4.3	引張試験機の上側クランプにあるフックリンク(C.2.4)の一方の端を取り付け、もう一方の端をその端の穴に引っかけて試験片に取り付ける(図C.3を参照)。	フックリンク(C.2.4)を引張試験機の上側クランプと試験片の穴に取り付ける(図C.3を参照)。		
図C.3	図の指摘あり	図差し替え	差し替え	第11回分科課で確認必要 済
図C.3タイトル	フックリンクシステムを使用した試験の試験片及びクランプの配置	フックリンクを使用した試験片及びクランプの配置		
附属書C.4.4	引張試験機をジョーの均一分離速度100 mm/minに設定し、標準ラバーの試験片30 mmから35 mmへの分離力-距離線図を記録する。	引張試験機をつかみの移動一定速度100 mm/minに設定する。試験片から標準ゴムが30 mm～35 mm剥がれる際の力距離線図を記録する。		
附属書C.4.5	この力は、標準ラバーがPVC板に対して約90°の角度で剥がれるように加えられる。 試験は、第2の試験片で行われる。	標準ゴムがPVC片に対して約90°の角度で剥がれるように力を加える。 この試験は、2回実施する。		
附属書C.4.6	図C.4に模式的に示されているそれぞれの力-距離図について、試験片の剥離進展中の平均力、すなわち接着力を求める。0.01 N/mm単位で四捨五入した、1mm当たりのニュートンで表されるこの接着値を記録する。	図C.4に模式的に示されているそれぞれの力-距離図について、試験片の剥離中の平均値、すなわち接着力を求める。0.01 N/mm単位で四捨五入した、1 mm当たりのニュートンで表されるこの接着値を記録する。	文章と図の整合性がとれない。1は距離。(X(横軸)は何を指すのかわからない。距離ではないか。	カケン種田さん、辻さんで提案して頂く。図。

14. 保護具展示への協力

14.1 第 72 回セメント安全衛生大会展示出展報告書

14.2 2023 危機管理展出展報告書

14.3 産業保健フォーラム IN TOKYO 2023
展示出展報告書

14.4 公益社団法人神奈川県産業資源循環協会
第 13 回安全衛生大会 展示出展報告書

14.1 一般社団法人日本セメント協会第72回セメント安全衛生大会 展示出展報告書

1. 日 時： 2023年6月8日(木) 14:00~16:20、6月9日(金) 9:20~15:15
2. 場 所： 東京証券会館ホール(東京証券会館8階)
3. 参加者： 6月8日:134名、6月9日:159名
4. 展示品： 化学防護服 各種
5. 協力会員会社： 川本産業株式会社、原田産業株式会社、東レ株式会社、アゼアス株式会社
6. 展示概要

日本保安用品協会から展示協力依頼があり、当協議会からは、化学防護服や熱中症予防対策品の展示を行いました。

大会に参加された皆様は、実際に保護具を使用しているユーザーの方や、その管理をされておられる方が多く、展示した最新の保護具を見学、着用いただくことが出来ました。また、日頃疑問に思われていることや、お困りごとについてもご相談いただきました。

ご協力いただいた会員会社の皆様、誠にありがとうございました。



(文責) 山田 彩

14.2 危機管理産業展(RISCON TOKYO)2023 展示出展報告書

1. 日 時： 2023 年 10 月 11 日(水)～13 日(金) 10 時 00 分～17 時 00 分
2. 場 所： 東京ビッグサイト西 1・2 ホール
3. 来場者： 14,771 名 (3 日間合計) 展示ブース来場者:約 100 名(3 日間合計)
4. 展示品： 化学防護服 各種
5. 協力会員会社： 原田産業株式会社、アゼアス株式会社
6. 展示概要

日本保安用品協会から展示協力依頼があり、2024 年 4 月に施行される「保護具着用管理責任者について」をテーマとして、当協議会からは化学防護服の展示を行いました。展示ブースへの来訪者は、3 日間で約 100 名の方々にお立ちよりいただき、無事閉場となりました。

ご協力いただいた会員会社の皆様、誠にありがとうございました。



(文責) 山田 彩

14.3 産業保健フォーラム IN TOKYO2023 展示出展報告書

1. 日 時： 2023 年 10 月 11 日（水） 10:20～16:00
2. 場 所： ティアラこうとう（東京都江東区）
3. 参加者： 600 人（例年の 2/3 におさえ密を回避）、展示ブース訪問者数：約 50 人
4. 展示品： 化学防護服、化学防護手袋 各種
5. 協力会員会社： ダイヤゴム株式会社、東レ株式会社、アゼアス株式会社
6. 展示概要

日本保安用品協会から展示協力依頼があり、当協議会からは、化学防護服や化学防護手袋の展示を行いました。

講演の前後等で、展示ホールでの健康・安全・衛生等労働に関する相談や測定、展示コーナー・ハラスメント対策コーナー等の見学いただきました。

来場者のなかには、事業所で実際に保護具を使用されている方もおられ、日頃の疑問事項等を質問いただきました。合わせて、正しい選択・装着・使用・管理を通じて展示保護具を理解いただくよう努めました。

また来年4月に施行される保護具着用管理責任者への関心も高く、責任者の役割や教育のあり方、実際の化学物質対策用保護具の使い方等の質問にお応えする展示となりました。

ご協力いただいた会員会社の皆様、誠にありがとうございました。



（文責）山田 彩

14.4 公益社団法人神奈川県産業資源循環協会 第13回安全衛生大会 展示出展報告書

1. 日 時： 2023年11月13日(月) 13:00~17:00
2. 場 所： 横浜情報文化センター 6階 情文ホール
3. 参加者： 同県内協会の会員、非会員各社の労働衛生責任者他 54名
4. 展示品： 使い切り粉じん防護服、各種化学防護服、難燃防護服 等
5. 協力会員会社： 原田産業株式会社、東レ株式会社、アゼアス株式会社
6. 展示概要

日本保安用品協会から展示協力依頼があり、当協議会からは、化学防護服や熱中症予防対策品の展示を行いました。

大会に参加された皆様は、実際に保護具を使用しているユーザーの方や、その管理をされておられる方が多く、展示した最新の保護具を見学、着用いただくことが出来ました。また、日頃疑問に思われていることや、お困りごとについてもご相談いただきました。

ご協力いただいた会員会社の皆様、誠にありがとうございました。



(文責) 山田 彩

**15. 一般社団法人日本防護服協議会
2024 年度 事業計画**

15. 一般社団法人日本防護服協議会 2024 年度事業計画

(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

2024年度は、2023年度に引き続き防護服に関する国際規格（ISO）原案に係る回答、団体規格を含め防護服に関する規格素案の作成を行う。

また新規事業として、JISが制定・改正された際における説明会等、防護服の普及に関する事業の実施について検討する。

今回のISO/TC 94/SC 13国際会議は、2024年9月にオランダのユトレヒトでの開催が予定されている。この会議をはじめとして、アドホックなWG/PG等の国際会議への参加を積極的に推進し、必要であれば出席する委員への協力を行う。

また、研究会、研修会、学術総会の開催、関連する学会等への協力等の各種活動を行い、その成果を年会報等に掲載し記録するとともに、外部への発信を行う。

作業部会活動は、ISOへの回答作業に重点を置く他、必要に応じ作業部会主催の研修会実施も推進する。

主な活動計画は、次のとおりである。

1 第 35 回 一般社団法人日本防護服協議会 2024 年度定時総会

日 時： 2024 年 6 月 25 日（火） 13：30～14：15

場 所： 台東区民会館/Web 開催(Microsoft Teams 利用)

議 題：

決議事項

- ◆ 第 1 号議案 2023 年度決算の承認
- ◆ 第 2 号議案 役員の改選

報告事項

- ◆ 2023 年度事業報告
- ◆ 2024 年度事業計画及び予算
- ◆ 入退会の報告
- ◆ ISO/TC 94/SC 13/WG 主査及び幹事の紹介
- ◆ 2023 年度及び 2024 年度 ISO 投票報告

幹 事： 鈴木氏

2 理事会

第 1 回

日 時： 2024 年 4 月 25 日（木） 13：00～14：45 *SC 13 国内審議分科委員会当日

場 所： アゼアス(株)/Web (Microsoft Teams)

議 題：

(1) 決議事項

- a) 役員（理事及び監事）候補者について
- b) 2023 年度事業報告（案）について
- c) 2024 年度事業計画（案）について
- d) 2023 年度会計報告（案）及び監査報告について
- e) 2024 年度予算（案）について
- f) 2024 年度定時総会（開催案内及び議題）について

(2) 審議及び報告事項

- a) 2024 年度研究会（講演テーマ及び演者）について
- b) 研修会について
- c) JIS 化計画について
- d) 理事長（代表理事）、業務執行理事 職務執行報告
 - 1) 入退会の報告
 - 2) 年会報目次について
 - 3) セイフティダイジェスト暑中見舞い広告について

第 2 回

日 時： 2024 年 6 月 25 日（火） 10：30～12：00 * 総会当日

場 所： 台東区民会館及び Web（Microsoft Teams）

議 題：

(1) 審議及び報告事項

- a) 2024 年度会計報告（案）
- b) 2024 年度定時総会、研究会について
- c) SC 13 国際会議 参加者について
- d) 令和 7 年度に実施すべき標準化テーマ等に関して
- e) 理事長（代表理事）、業務執行理事 職務執行報告
 - 1) 入退会の報告

第 3 回

日 時： 2024 年 9 月 25 日（水） 15：00～17：00

場 所： アゼアス株/Web（Microsoft Teams）

議 題：

(1) 審議及び報告事項

- a) 2024 年度会計報告（案）
- b) 研修会について
- c) 学術総会の開催場所、テーマ、演者について
- d) 理事長（代表理事）、業務執行理事 職務執行報告
 - 1) 入退会の報告

第4回

日時： 2024年11月28日(木) 13:00~14:45 *SC 13 国内審議分科委員会当日

場所： アゼアス(株)/Web (Microsoft Teams)

議題：

(1) 決議事項

- a) 学術総会について(参加費、謝金、懇親会、役割分担 等)

(2) 審議及び報告事項

- a) 2024年度会計報告(案)について
- b) 研修会報告
- c) 事業計画(案)について
- d) 学術総会について
- e) 理事長(代表理事)、業務執行理事 職務執行報告
 - 1) 入退会の報告
 - 2) セイフティダイジェスト賀詞広告について

第5回

日時： 2025年1月24日(金) 15:00~17:00

場所： アゼアス(株)/Web (Microsoft Teams)

議題：

(1) 決議事項

- a) 学術総会に関する最終確認(講師への謝金、交通費等)
- b) 2024年度主査・幹事の選任について

(2) 審議及び報告事項

- a) 2024年度事業報告(案)について
- b) 2025年度事業計画(案)について
- c) 2024年度会計報告(案)について
- d) 2025年度予算(案)について
- e) 2025年度研究会(講演テーマ、講師等)
- f) 2025年度研修会候補について
- g) 理事長(代表理事)、業務執行理事 職務執行報告

第6回

日時： 2025年3月26日(水) 15:00~17:00

場所： アゼアス(株)/Web (Microsoft Teams)

議題：

(1) 決議事項

- a) 2024年度定時総会について

(2) 審議及び報告事項

- a) 学術総会報告、次年度開催について
- b) 2024 年度事業報告（案）について
- c) 2025 年度事業計画（案）について
- d) 2024 年度会計報告（案）について
- e) 2025 年度予算（案）について
- f) 2025 年度研究会の講師・テーマについて
- g) 2025 年度研修会候補について
- h) 理事長（代表理事）、業務執行理事 職務執行報告

3 第 99 回研究会

日 時： 2024 年 6 月 25 日（火） 14：30～16：50 *総会当日
場 所： 台東区民会館/Web (Microsoft Teams)
演題及び演者：未定
テーマ：未定

4 研修会

日 時： 2024 年 9 月～10 月
場 所： 日帰り

5 第 22 回学術総会

日 時： 2025 年 2 月 26 日（水） 10：00～17：00
場 所： 浅草橋ヒューリックホール&カンファレンス（仮）
内 容： 外部の方にも公開する研究発表会

6 規格説明会

規格が発行された後に、説明会を行う。

7 ISO/TC 94/SC 13 国内審議分科委員会作業部会主査・幹事会議

第 1 回

日 時： 4 月 25 日（木） 15：00～17：00
場 所： アゼアス(株)/Web (Microsoft Teams)

議 題：

- ◆ ISO/TC 94/SC 13 国内審議分科委員 委員長及び委員の紹介
- ◆ 2023 年度及び 2024 年度国際規格原案回答状況報告
- ◆ 2023 年度報告 及び 2024 年度計画 WG 1
- ◆ 2023 年度報告 及び 2024 年度計画 WG 2
- ◆ 2023 年度報告 及び 2024 年度計画 WG 3

- ◆ 2023 年度報告 及び 2024 年度計画 WG 5
- ◆ 2023 年度報告 及び 2024 年度計画 WG 6
- ◆ 2023 年度報告 及び 2024 年度計画 WG 8
- ◆ SC 13 国際会議について

第 2 回

日 時： 2024 年 11 月 28 日（木） 15：00～17：00

場 所： アゼアス(株)/Web (Microsoft Teams)

議 題：

- ◆ 2024 年度第 1 回国内審議分科委員会議事録（案）の承認
- ◆ 2024 年度国際規格原案回答状況報告
- ◆ 2024 年度報告 WG 1
- ◆ 2024 年度報告 WG 2
- ◆ 2024 年度報告 WG 3
- ◆ 2024 年度報告 WG 5
- ◆ 2024 年度報告 WG 6
- ◆ 2024 年度報告 WG 8
- ◆ SC 13 国際会議について

8 ISO/TC 94/SC 13/WGs 作業部会活動

WG 1～WG 8

作業部会会議各WG、PG案件に対応し、随時開催する。

9 ISO国際会議への参加

ISO/TC 94/SC 13 オランダ/ユトレヒト会議

日時：2024年9月8日（日）～13日（金）

場所：オランダ/ユトレヒト

ISO/TC 94/SC 13/WG 1

日時：2024年4月22日（月）

場所：Web会議

ISO/TC 94/SC 13/WG 6

日時：2024年4月15日（月）

場所：Web会議

ISO/TC 94/SC 13/WG 6

日時：2024年5月7日（火）

場所：Web会議

ISO/TC 94/SC 13/WG 6

日時：2024年6月11日（火）

場所：Web会議

10 ISO/TC 94国内審議委員会への参加

第78回

日時：2024年7月4日（木）

場所：公益社団法人日本保安用品協会

第79回

日時：2024年9月

場所：公益社団法人日本保安用品協会

第80回

日時：2024年12月

場所：公益社団法人日本保安用品協会

第81回

日時：2025年3月

場所：公益社団法人日本保安用品協会

11 JIS原案作成への協力

審議案件があった場合、JIS改正原案作成に協力する。

12 保護具展示・体験デモへの協力

保護具展示・体験デモ協力依頼があった場合、必要に応じて協力する。

16. 一般社団法人日本防護服協議会 規程類一覧

- ・ 一般社団法人日本防護服協議会 定款
- ・ 一般社団法人日本防護服協議会 運用規程
- ・ 一般社団法人日本防護服協議会 作業部会等 運用細則
- ・ 一般社団法人日本防護服協議会 旅費規程
- ・ 一般社団法人日本防護服協議会 電子取引データの訂正
及び削除の防止に関する事務処理規程
- ・ 一般社団法人日本防護服協議会 慶弔規程

※詳細は、一般社団法人日本防護服協議会の
ホームページをご参照ください。

<https://www.pcja.or.jp/>

※一部規程は、会員専用ページログイン後に
閲覧可能です。